山梨県北巨摩郡高根町

藤林寺跡遺跡
八ツ牛遺跡
持井北遺跡
八ツ牛北遺跡
下風呂遺跡
米田遺跡
米田北遺跡

県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1997．3

高根町教育委員会
山梨県峡北土地改良事務所

山梨県北巨摩郡高根町

藤林寺跡遺跡
八ツ牛遺跡
持井北遺跡
八ツ牛北遺跡
下風呂遺跡
米田遺跡
米田北遺跡

県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1997．3

高根町教育委員会
山梨県峡北土地改良事務所

序　　文

八ヶ岳の豊かな自然に育まれた高根町は、広大な裾野の南に緩やかに傾斜した青空と水と緑の高原の町として今日まで発展しております。

この発展の基盤には永い歴史と人類のたゆまぬ努力の蓄積があり、その歴史も時代の推移とともに忘れさられた部分が多いと思われます。

当町では昭和53年から農林水産省から補助金をいただき農業基盤整備を行い、この事業の一環としてほ場整備事業を行ってまいりました。

これに伴い土地に埋もれた歴史・埋蔵文化財の調査が数多く行われ、大きな成果を上げております。

これらは、先人たちが大地に残してくれた歴史・文化のメッセージであり、昨日から明日へ向けての基礎資料となっております。

今回報告されるのは村山北割西工区から藤林寺跡遺跡・持井北遺跡・八ツ牛遺跡・八ツ牛北遺跡・米田遺跡・米田北遺跡、村山東割工区から下風呂遺跡の７遺跡で、調査された内容は縄文時代前期からで断続的ではありますが近世までの、先人の生活の知恵・営みなどの遺跡に触れることにより、私たちの住む高根町の歴史の一端が記録保存というかたちではありますが、それぞれについて記述されておりますので、御高覧いただき活用されることを願ってやみません。

最後になりましたが、この事業に御協力いただきました地元の方々をはじめ、山梨県峡北土地改良事業所・山梨県教育委員会学術文化課・山梨県埋蔵文化財センター等の関係各位に深く感謝申し上げます。

平成９年３月31日

高根町教育委員会
教育長　坂　本　基　可

例　　言

1．本書は、山梨県北巨摩郡高根町地内の埋蔵文化財の発掘調査報告である。報告する遺跡は、下記のとおりである。

1．藤林寺跡遺跡　昭和63年度調査　　2．八ッ牛遺跡　平成元年度調査

3．持井北遺跡　平成2年度調査　　4．八ッ牛北遺跡　平成2年度調査

5．下風呂遺跡　平成2年度調査　　6．米田遺跡　平成4年度調査

7．米田北遺跡　平成5年度調査

2．発掘調査は、高根町教育委員会が実施した。

3．発掘調査によって得られた出土遺物・記録図面及び写真等は、高根町教育委員会で保管している。

4．発掘調査組織

調査主体 …… 高根町教育委員会

5．発掘調査参加者（順不同・敬称略）

榎本　勝、植松　種三、川端下圭子、清水すみか、植松　幸子、原藤まさみ、浅川えみ子、白倉カツ子、原藤　栄、八巻　栄、八巻　久子、田中　恒子、植松志げ子、吉沢とみ子、中嶋　英子、浅川　浅江、赤岡　里子、浅川　春枝、浅川今朝美、浅川　花子、植松　啓子、植松　小菊、三澤ふみ江、仲嶋まゆみ、大柴　芳子、菊原　幸男、菊原すえ子、清水よ志み、新海　登子、窪田　金博、浅川　利一、清水　貞子、小林　昭子、中嶋　當子、高柳　静香、輿水　良教、清水まさ子、清水　島子、小林　文治、半田　初子、菊原はつよ、八巻　知子、日向たまの、田中　昭子、古屋　房子、永関富貴男、小宮山きよ、吉田加代子

6．遺物整理参加者（順不同・敬称略）

榎本　勝、高柳　静香、仲島まゆみ、川端下圭子、植松　梅子、白倉カツ子、原藤　栄、小池　澄子、原藤まさみ

凡　　例

1．遺構エレベーション・セクション図において、水平線横の数字は海抜高度（m）を示す。

2．縮尺は、各挿図ごとに示してある。

3．方位は、磁北を示している。

4．土器断面の墨塗は須恵器、斜線は灰袖陶器を示す。

目　　次

序　　文
例　言・凡　例
第Ⅰ章　調査状況 …… 1
　i　調査の経過 …… 1
　ii　周辺の地形 …… 1
　iii　周辺の地質 …… 2
　iv　遺跡の立地 …… 2
　v　周辺の遺跡 …… 2
　vi　調査の方法 …… 4
第Ⅱ章　藤林寺跡遺跡 …… 10
　i　遺跡の環境 …… 10
　ii　検出された遺構 …… 11
　iii　出土した遺物 …… 20
第Ⅲ章　八ツ牛遺跡 …… 24
　i　遺跡の環境 …… 24
　ii　検出された遺構 …… 25
　iii　出土した遺物 …… 31
第Ⅳ章　持井北遺跡 …… 36
　i　遺跡の環境 …… 36
　ii　検出された遺構 …… 37
　iii　出土した遺物 …… 37
第Ⅴ章　八ツ牛北遺跡 …… 42
　i　遺跡の環境 …… 42
　ii　検出された遺構 …… 43
　iii　出土した遺物 …… 46
第Ⅵ章　下風呂遺跡 …… 48
　i　遺跡の環境 …… 48
　ii　検出された遺構 …… 49
　iii　出土した遺物 …… 50
第Ⅶ章　米 田 遺 跡 …… 58
　i　遺跡の環境 …… 58
　ii　検出された遺構 …… 58
　iii　出土した遺物 …… 82
第Ⅷ章　米田北遺跡 …… 91
　i　遺跡の環境 …… 91
　ii　検出された遺構 …… 91
　iii　出土した遺物 …… 96

第Ⅰ章　調　査　状　況

i　調査の経過

高根町では、水田の有効利用・高効率化等を図るため昭和53年度より国の補助を得ながら農地の区画整理事業＝基盤整備事業を積極的に実施している。このことにより、山梨県峡北土地改良事務所及び町振興課・産業観光課より埋蔵文化財の有無についての問い合わせがあり、当教育委員会で確認調査を行った。確認された遺跡は、昭和63年度が藤林寺跡遺跡、平成元年度が八ツ牛遺跡、平成２年度が持井北遺跡・八ツ牛北遺跡、平成４年度が米田遺跡、平成５年度が米田北遺跡があることが判明し、記録保存を目的とした緊急発掘調査を当教育委員会が主体となり実施した。実施した遺跡の調査期間は、次のとおりである。

藤林寺跡遺跡	昭和63年９月10日～昭和63年12月25日
八ツ牛遺跡	平成元年11月１日～平成元年12月20日
下風呂遺跡	平成２年７月20日～平成２年８月31日
持井北遺跡	平成２年９月１日～平成２年９月11日
八ツ牛北遺跡	平成２年９月12日～平成２年９月30日
米田遺跡	平成４年９月１日～平成４年11月30日
米田北遺跡	平成５年８月１日～平成５年12月20日

ii　周辺の地形

高根町は、山梨県の北西部に県境として聳えている八ケ岳の南麓に広がる高原の町である。この山は、日本列島を東西に二分する大地溝帯上（フォッサマグナ）に噴火した火山性の山であり、噴出物の特性のため裾野は比較的なだらかな地形（台地状を呈する）であるが、町内東部は飯盛山火山群に属するため、この周辺はやや急峻である。

八ケ岳からつづくこの台地は、国道141号線の韮崎から小諸へ抜ける途中の弘法坂付近で合流する大門川と川俣川によって２つに区分することができ、北側は標高約1,000ｍ以上の亜高山帯に属し、南側は標高約600ｍから約900ｍの範囲で高根町の主要部を占め、基幹作物は水稲等を主としている。

町の東は、八ケ岳の赤岳を水源とし南流する川俣川・大門川（須玉川）によって浸食された比高差約100ｍを測る垂直に立った崖が20数km南北につづき、北は前述の南北に折り重なるように列になった八ケ岳連峰によって隔絶された地域となっている。唯一開けた西側も隣町である長坂町及び小淵沢町の西側を南流する釜無川（富士川）によって隔絶されているが、この両河川に挟まれた台地は、南北20数km、東西の最大幅10数kmを測り、台地上を流れる小河川は南流し、前述の両大河川に合流している。

iii　周辺の地質

八ケ岳は、本州を中央で二分する大地溝帯＝糸魚川静岡構造線上に噴火した火山群で、その生成時期は地質年代で第三紀末から第四紀の洪積世前期といわれ、形成している溶岩はいわゆる輝石安山岩類で標高1,000m以上に分布し、それ以下の広大な山麓の斜面は、熔岩の粉砕物や、噴火による堆積物からなる火山質腐植土の黒褐色をした表土が覆っている。

標準的な土層堆積状態は上から、黒色土（20〜40㎝）、ローム層（３〜４ｍ）、御岳山を起源とする細粒軽石層いわゆる鹿沼土（40〜60㎝）、白色系粘土層（10〜20㎝）、暗赤褐色礫粘土層（八ケ岳火砕泥流）となる。

iv　遺跡の立地

遺跡群は、県道長坂高根線の北側に所在する高根町役場の西側一帯が村山北割西工区である。

藤林寺跡遺跡は、標高約738ｍを測る水田中の未開墾地に所在した。当遺跡は、『甲斐国誌』の社記寺記によれば東蓮寺と表記され、現地に五輪塔の石材が散乱すると記入されており、当該地周辺で踏査を行ったところ水田の土手の石垣中より墓石の一部と思われる石材が見受けられたが、現地の小高い部分は水稲の苗床用の土取場となっており、一面に鹿沼土が露出していた。

八ツ牛・八ツ牛北遺跡は、標高約750ｍ前後を測り、八ケ岳山麓に数多くみられる浮島状に南北に延びる台地上から続く西側斜面にあり、１つの遺跡であり、調査年度が複数年度にわたったため便宜的に分けただけである。

持井北遺跡は、上記の八ツ牛遺跡と対峙する浮島状に南北に延びる標高約760ｍを測る台地の東斜面に所在した。

下風呂遺跡は、標高約700ｍ前後を測り、高根中学校のすぐ南の低位の微高地上に立地している。

米田・米田北遺跡は、八ツ牛・八ツ牛北遺跡と持井北遺跡が所在した尾根と尾根の間に挟まれた比較的広い沢の部分に深く舌状に南北に延びる標高約775ｍ前後を測る台地上に所在した。

v　周辺の遺跡

八ケ岳南麓の台地上には南流する小河川が数条あり、この小河川によって開析され、肥沃化された大地は古くから開拓されて現在にいたっている。村山北割西工区は持井・於小路・八ツ牛の三つの集落を指している。この地域は、周辺は小河川が南流するに従い水量が増えることにより、浸食が激しく遺跡の存在する台地は広いところもあれば、馬の背状にやせている場所もある。昭和37年に作成された県下の埋蔵文化財分布調査台帳によれば、高根町内では42ケ所の遺跡が記載され、昭和61年に高根町教育委員会が行った埋蔵文化財分布調査では142ケ所の遺跡が確認されている。この分布状況によれば、村山北割西工区一帯は遺跡が非常に濃い状態で確認されている。

これらの遺跡の多くは、縄文時代中期、平安時代、中世を中心としているが、昭和62年度に発掘調

査が行われた当町遺跡からは、縄文時代前期の遺物の散布のほかに中世の陶磁器が出土していることから、中世にはこの地域一帯を治めていた土豪の居住域を示す資料である。

以下にこの周辺で発掘調査及び踏査によって確認された遺跡について若干の説明をしてみたい。

「当町遺跡」は昭和62年に県営ほ場整備事業に伴う発掘調査が行われ、縄文時代前期の遺物、中世の陶磁器、近世の土壙墓４基が検出され、近世の葬送儀礼・墓の在り方を示す遺跡であると思われる。

「持井遺跡」は平成元年度に県営ほ場整備事業に伴う発掘調査が行われ、縄文時代中期の住居址１軒、埋甕２基、土壙11基（中世の土壙墓１、時期不明10)、時期不明の溝１条が検出され、中世の葬送儀礼・墓の在り方を示す遺跡である。

「於小路遺跡」は高根町村山北割3160番地外を中心に存在し、平安時代の土器が分布調査によって確認されている。

「権現の木遺跡」は高根町村山西割2784番地外を中心に存在し、縄文時代中期、平安時代、中世の土器が分布調査によって確認されている。

調査された周辺の遺跡は次の通りである。

１、米田・米田北遺跡－縄文前期・中期・中世・近世時代
２、八ツ牛・八ツ牛北遺跡－平安時代・中世
３、持井北遺跡－縄文前期
４、藤林寺跡遺跡－縄文中期・平安時代・中世
５、下風呂遺跡－縄文中期・後期
６、旭山墓跡－中世
７、持井遺跡－縄文中期・中世
８、西原遺跡－平安
９、当町遺跡－近世
10、旭東久保遺跡－平安時代
11、東久保遺跡－縄文中期・平安時代
12、社口遺跡－縄文中期・平安時代
13、川又坂上遺跡－縄文中期・後期・平安時代
14、次郎構遺跡－縄文中期
15、妻の神Ｂ遺跡－縄文後期
16、柳坪遺跡－縄文中期・弥生時代・平安時代
17、頭無遺跡－縄文中期
18、城下遺跡－平安時代
19、金生遺跡－縄文後期・晩期・中世
20、谷戸城址－中世
21、日影田遺跡－縄文中期

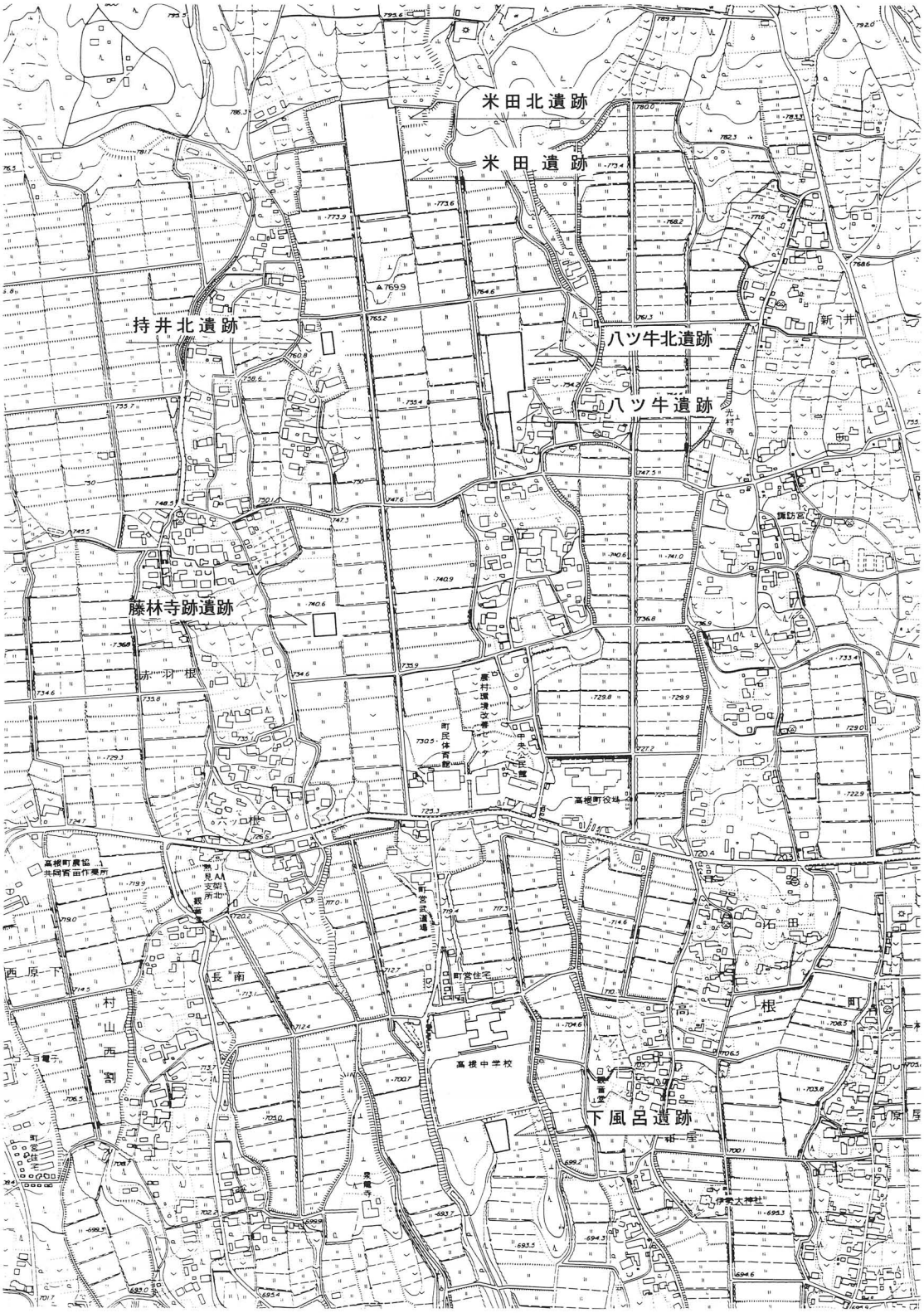
vi 調 査 方 法

調査対象面積は、年度によって工事実施面積が異なるが平均的には約５ha実施しているため、全体的な工程の土の切り盛りがあり、切り土される場所を中心に試掘調査を行い遺構の確認を行った。重機によって表土を除去し、遺構の確認及び掘り下げは人力によって行った。

遺構内に任意で10〜20ｍ四方のグリッドを設定し、その中を４等分してサブグリッドを設定して遺構の確認状況に合わせて調査を行った。

① 米田 米田北遺跡
② 八ッ牛 八ッ牛北遺跡
③ 持井北遺跡
④ 藤林寺跡遺跡
⑤ 下風呂遺跡
⑥ 旭山墓址
⑦ 持井遺跡
⑧ 西原遺跡
⑨ 当町遺跡
⑩ 旭東久保遺跡
⑪ 東久保遺跡
⑫ 社口遺跡
⑬ 川又坂上遺跡
⑭ 次郎構遺跡
⑮ 妻の神B遺跡
⑯ 柳坪遺跡
⑰ 頭無遺跡
⑱ 城下遺跡
⑲ 金生遺跡
⑳ 谷戸城址
㉑ 日影田遺跡

第1図　遺跡位置図（1／50,000）



第２図　調査遺跡位置図（１／5,000）

図版１　遺跡位置（１）

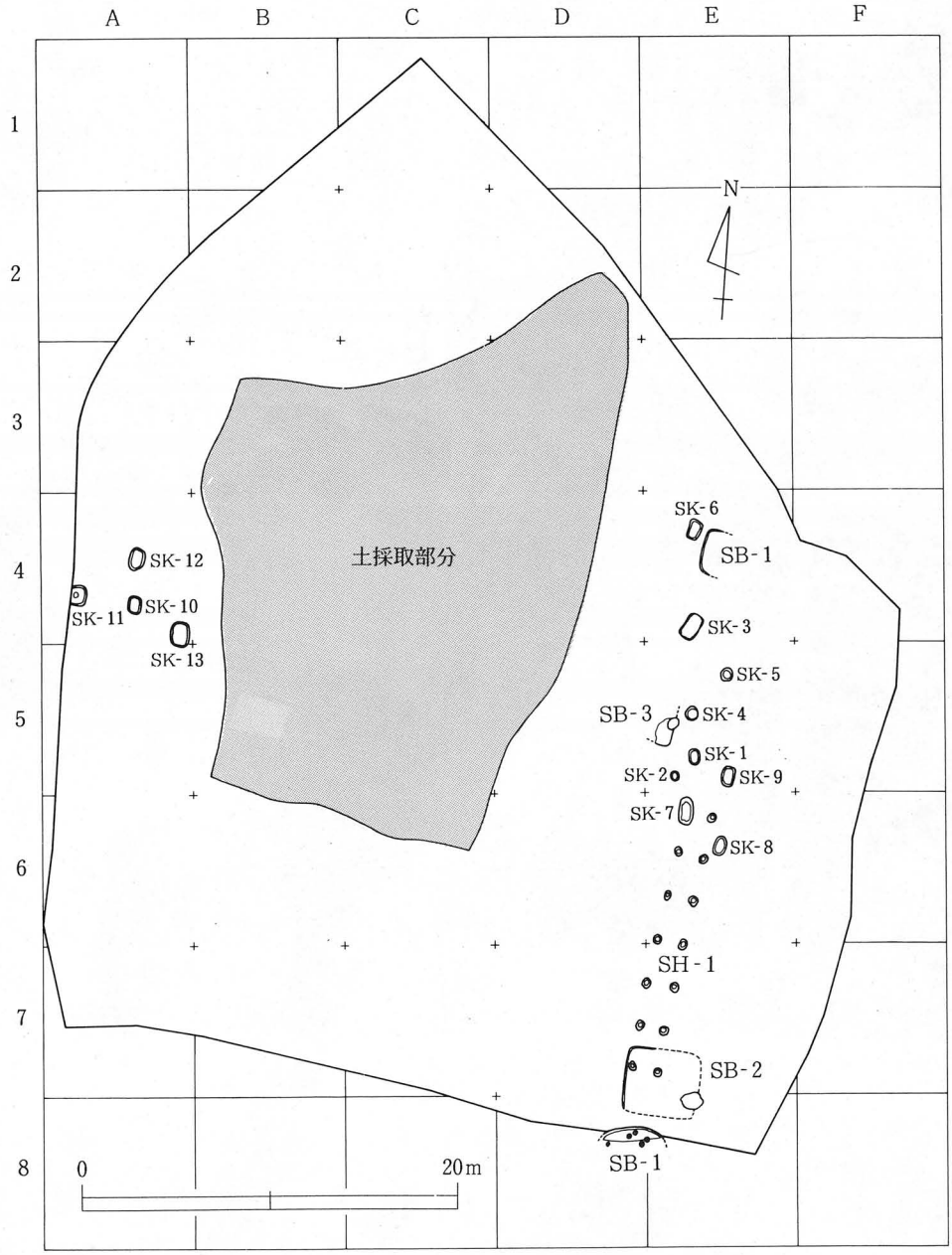
図版2　遺跡位置（2）

図版３　遺跡位置（３）

第Ⅱ章　藤林寺跡遺跡

i　遺跡の環境

本遺跡は、山梨県北巨摩郡高根町村山西割字赤羽根地内に所属し、標高約738ｍを測り、緩やかな尾根の東斜面に位置する。本遺跡は廃寺跡地であったので、農地化されず、浮島状に残された場所であった。周辺の水田化に伴い土取りが行われた。そのため、遺跡中央の高い部分は凹地状となり、東西に分割された結果になっていた。また、遺跡の東側は水田耕作のため遺構が破損し、南側は調査外のため遺構が切断されているが、本遺跡は南向きに舌状に延びていたと推測される。



第１図　藤林寺跡遺跡遺構分布図（１／400）

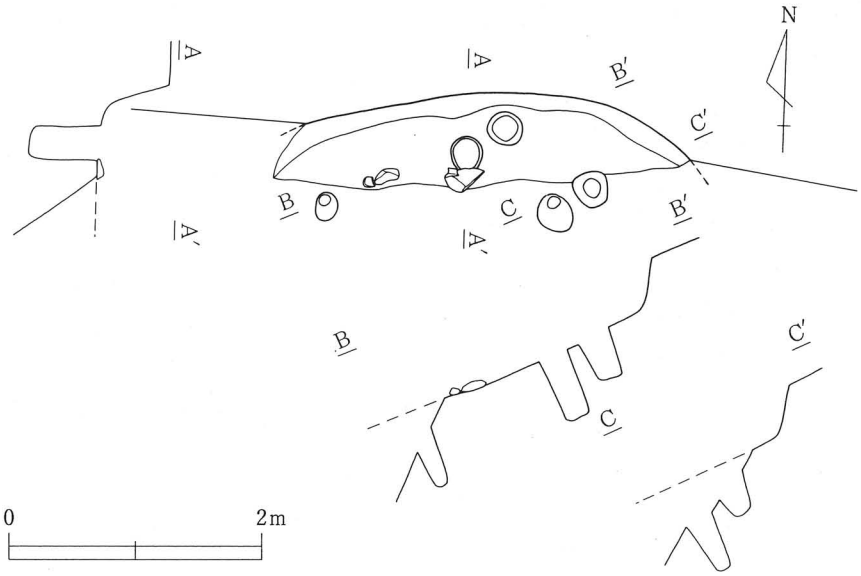
ii　検出された遺構

検出された遺構は、縄文時代中期の住居址１軒、平安時代の住居址３軒、掘建柱建物址１棟、中世の遺構と推測される土壙13基・配石遺構が検出された。

(1)　竪穴住居址

１号住居址（ＳＢ－１）第２図

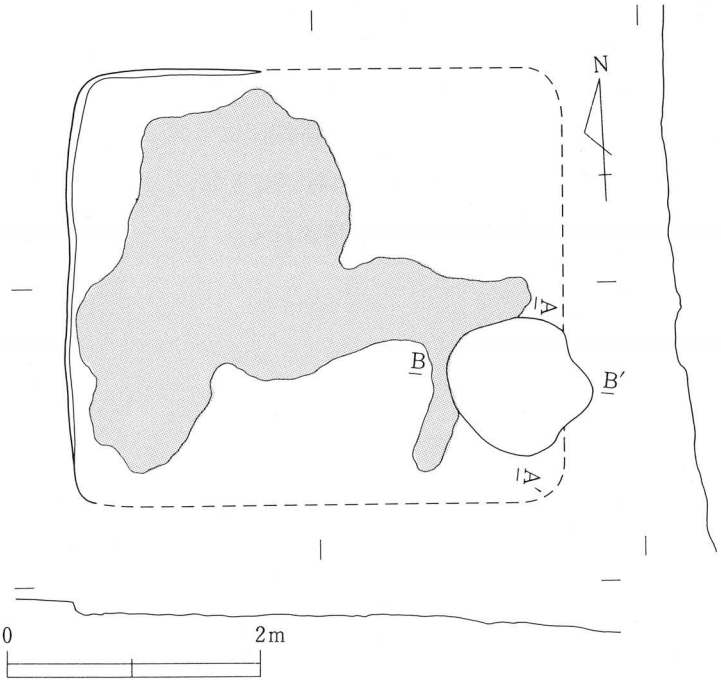
本遺跡の南端に位置し、調査以前に削除されていたため、全体は確認できないが、ほぼ円形と思われる。壁の高さ30㎝。



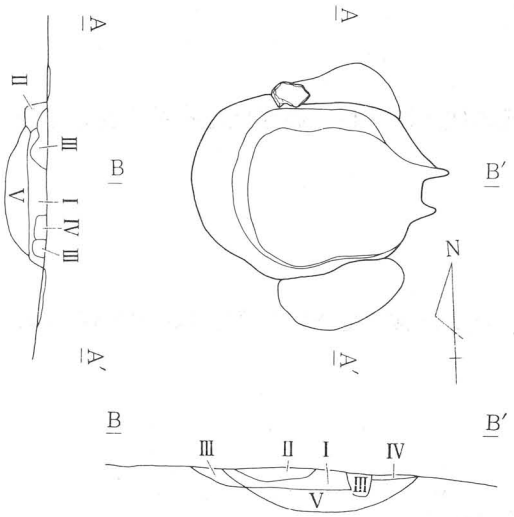
第２図　１号住居址実測図（１／60）

２号住居址（ＳＢ－２）第３図

本遺跡の東南隅に位置し、カマドと張床の存在によって、住居址であることを確認できる。平安時代の住居址と見られる。黒色土中より確認されたためプランの断定はできないが４ｍ前後の隅丸方形と思われる。カマドは東壁の南側よりに構築された石組カマドである。袖石は左に１個見られた。壁高は17㎝を測る。

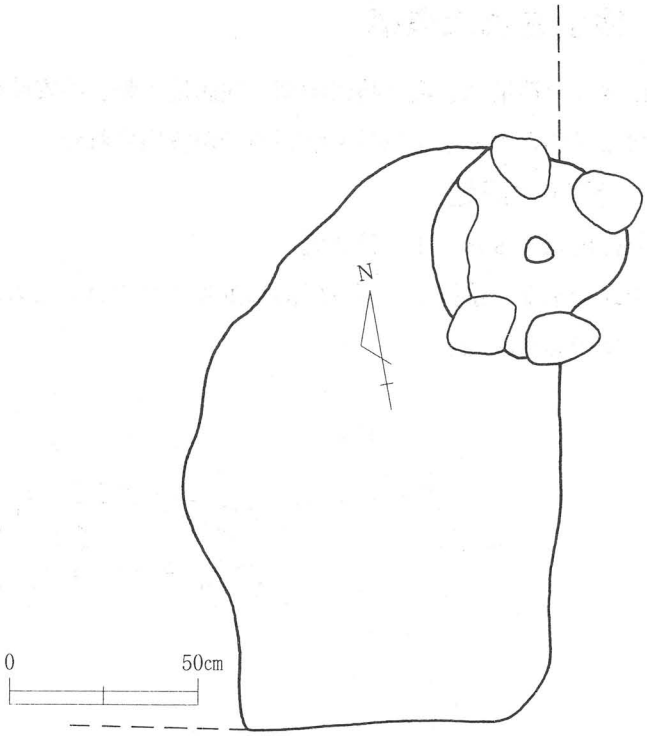


第３図　２号住居址実測図（１／60）



第４図　２号住居址カマド実測図(１／30)

第Ⅰ層（灰褐色土層）ローム粒を含む
第Ⅱ層（茶褐色土層）ローム粒を含む
第Ⅲ層（黒褐色土層）ローム粒を含む
第Ⅳ層（茶褐色土層）ローム粒を含む
第Ⅴ層（赤褐色土層）焼土層



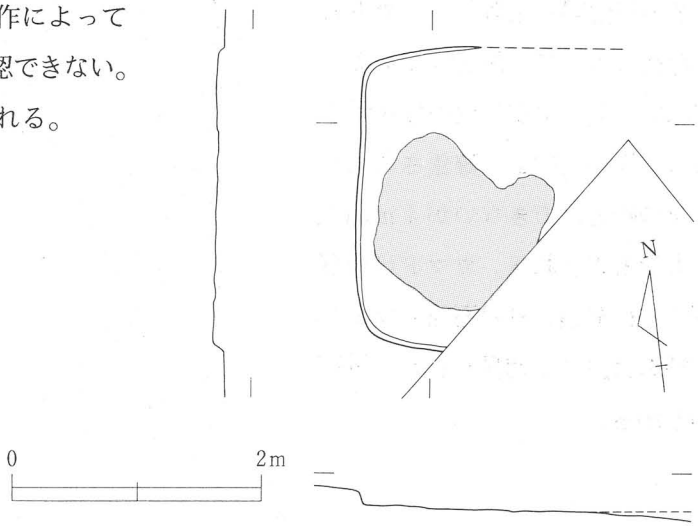
第５図　３号住居址カマド実測図（１／20）

３号住居址（ＳＢ－３）第５図

本遺跡の東端に位置し、張床とカマドの存在によって平安時代の住居址であることが確認できる。住居址は耕作等の破壊によって、遺存状態は悪く、周溝は確認できなかった。カマドの残存石はなく、４個の袖石跡、支脚石の穴が確認された。直径約52㎝の円形である。

４号住居址（ＳＢ－４）第６図

本遺跡の東端に位置し、張床の存在で確認できる。平安時代の住居址である。耕作によって住居址の東側は破損され、周溝は確認できない。約２ｍ40㎝四方の隅丸方形と推測される。

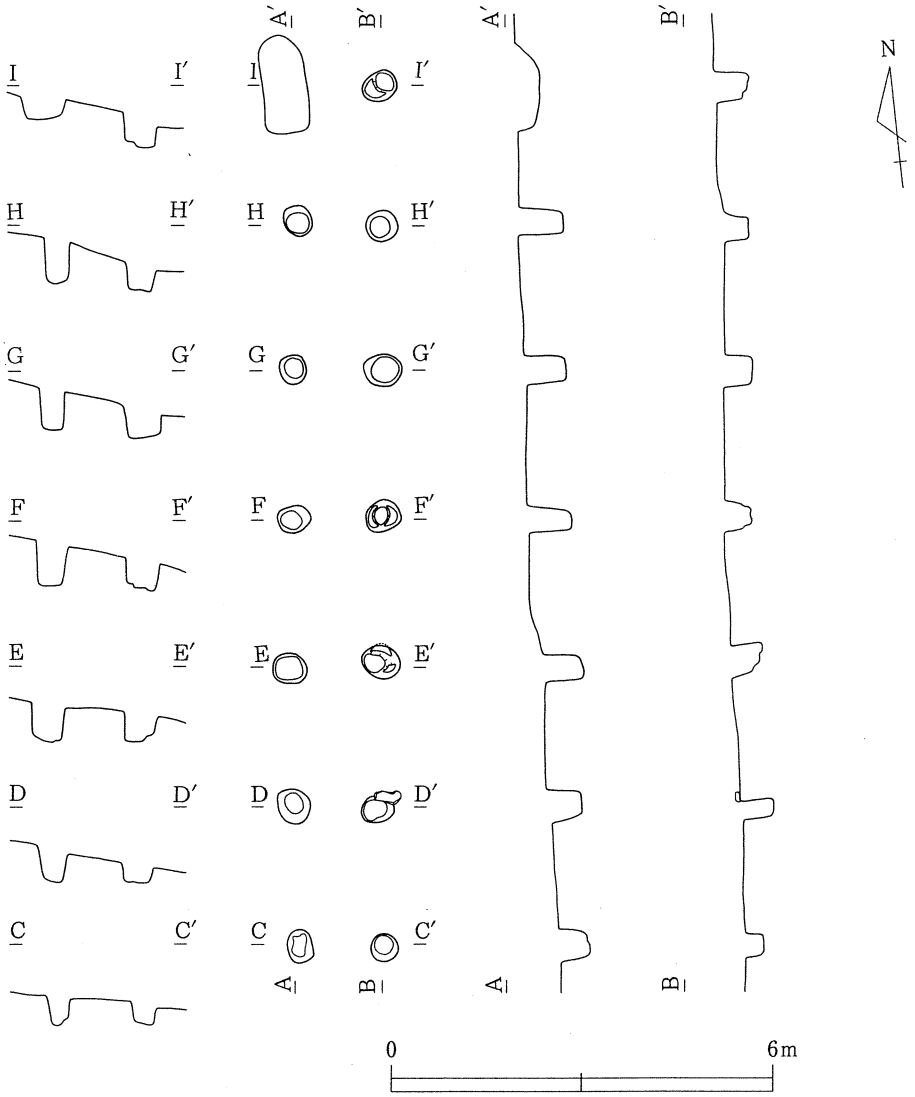


第６図　４号住居址実測図（１／60）

(2) 掘建柱建物址

1号掘建柱建物址（ＳＨ－１）第７図

本遺構は、遺跡の東辺に位置し、南北に１間（１ｍ80㎝）×９間（14ｍ）の掘建柱建物址である。柱穴は直径約52㎝、深さ24〜72㎝の円形である。東傾斜になっているため、柱穴は東側が浅くなっている。さらに東側は、沢の部分に入るため、黒色土の堆積が認められることにより、精査を行ったが柱穴は確認されなかった。



第７図　１号掘建柱建物址実測図（１／120）

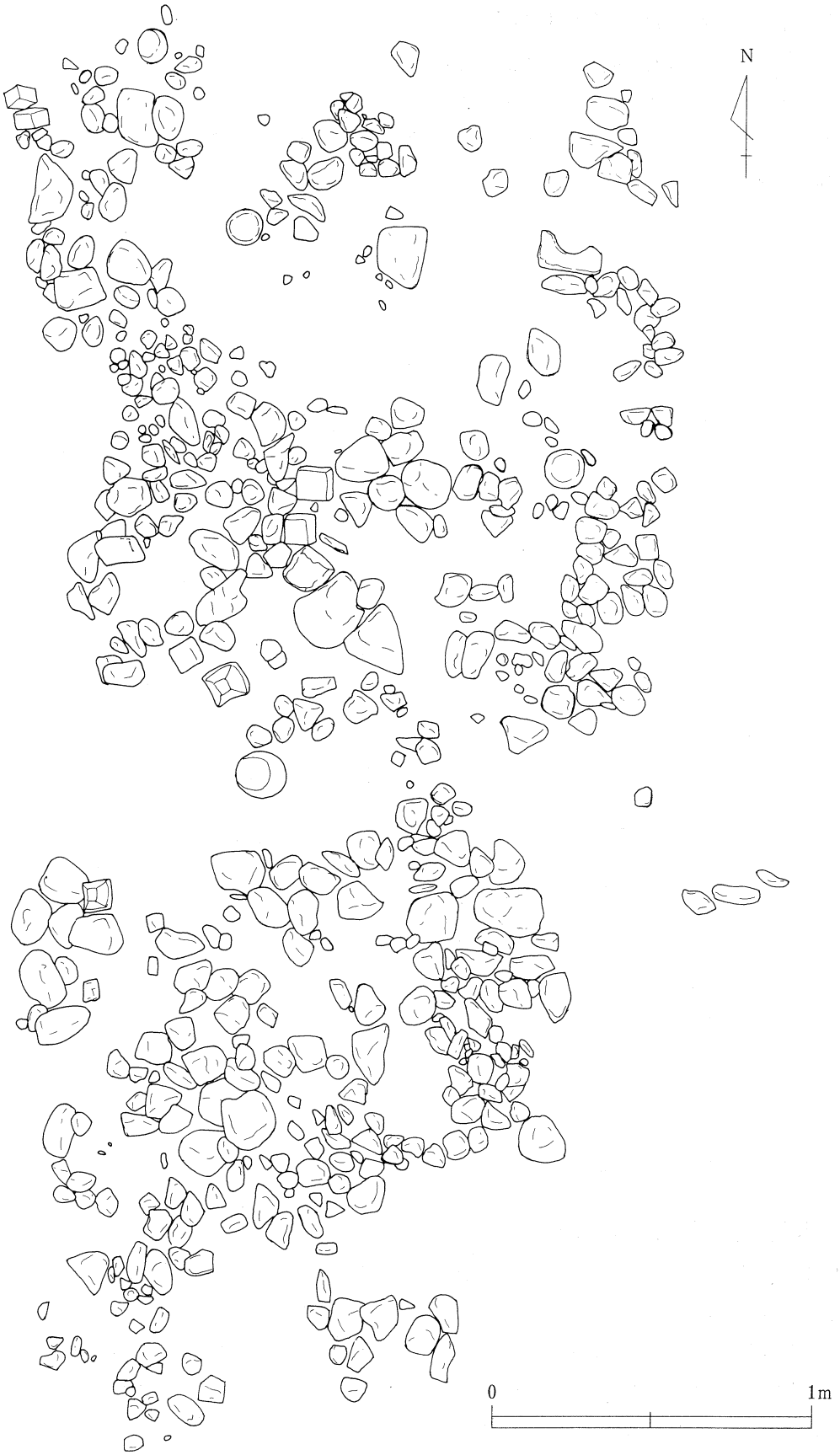
(3) 集石配石遺構　第８図

本遺跡の西辺のグリッド４－Ａの12号土壙を中心に、南北５ｍ、東西2.5ｍの範囲に、拳・人頭大の多数の石が配石されていた。２〜３の墓地群の存在を確認できる。遺構内から五輪塔が出土した。空輪・風輪の合体（13基）、火輪（６基）、水輪（12基）、地輪（18基）である。(図版 4・5・6参照)。

これらの配石は耕作による影響を受けてはいるものの、その状況により中世（南北朝期）の墓地あるいは墓域を示すものであろう。この規模は未確定ではあるが１ｍ四方前後であろう。

五輪塔の石材は、角礫疑炭岩と思われ、ほぼ同一規格で整形されていた。

五輪塔の計測結果は、次の表１の通りである。



第８図　集石配石遺構実測図（１／20）

藤林寺跡遺跡出土五輪塔計測表（表１）

（単位　cm）

遺物番号	法量 空輪 直径	空輪 高さ	空輪 くびれ径	空輪 くびれ高	風輪 直径	風輪 高さ	風輪 底径	総高	備考
S－5	13.6	103	9.3	2.0	12.6	5.5	7.5	17.8	
S－6	11.1	6.1	8.5	1.8	11.3	5.0	7.6	12.9	
S－7	12.1	6.7	9.0	1.8	11.4	4.7	8.5	1302	
S－20	12.4	8.0	10.9	1.0	11.5	5.2	7.2	14.2	
S－23	10.5	6.2	8.0	1.3	10.0	5.0	7.0	12.5	
S－24	9.1	7.0	7.5	1.5	9.8	3.5	4.5	12.0	
S－25	11.7	5.9	9.0	2.0	10.7	5.0	6.8	12.9	
S－26	10.4	5.6	8.5	1.3	9.4	4.2	5.8	11.1	
S－29	12.5	7.8	10.4	1.7	12.0	6.3	9.2	15.8	
S－34	11.0	6.0	8.8	1.5	10.4	4.5	7.1	12.0	
S－35	10.7	5.1	8.1	2.0	9.4	5.0	7.5	12.1	
S－36	14.7	10.3	12.2	1.6	13.4	6.8	10.9	18.7	
S－37	12.7	6.4	8.7	2.0	11.8	6.0	6.7	14.4	上部欠損

遺物番号	火輪 上辺	中辺	下辺	屋根高	軒高	屋根反り 右	屋根反り 左	屋根傾斜 右	屋根傾斜 左	軒反り 右	軒反り 左	総高	備考
S－1	8.2	17.9	18.8	6.0	4.0	39.5°	41.0°	0.8	0.8	6.0°	5.0°	10.0	
S－3	7.8	22.2	23.2	10.7	3.6	53.0°	48.5°	0.9	1.1	11.5°	11.0°	14.3	
S－38	11.7	32.6	35.5	18.6	5.0	49.0°	52.5°	2.7	2.0	9.5°	5.0°	23.6	
S－39	11.4	35.3	35.8	20.7	7.9	59.0°	55.5°	0.6	0.5	12.0°	15.0°	28.6	
S－49	8.4	18.5	15.4	8.3	3.0	47.0°	48.0°	0.8	0.7	0°	0°	11.3	
S－50	8.1	20.7	19.3	9.4	4.5	53.5°	54.0°	1.3	2.6	27°	26°	13.9	

遺物番号	水輪 上径	中径	底径	高さ 右	高さ 左	張出し度 右	張出し度 左	地輪 横	地輪 高さ 右	地輪 高さ 左	凹		備考
S－2	21.6	32.7	24.4	18.8	18.7	4.2	4.9				4.4	4.5	
S－4								16.9 14.9	11.0	10.8			
S－8								17.0 15.0	10.8	10.8			
S－9								18.0 15.7	11.5	10.7			
S－10	14.0	17.2	13.5	9.5	9.5	1.9	1.5				1.2	1.0	
S－11	16.1	20.7	17.8	9.6	8.9	1.7	1.4				0.8	0.5	
S－12	16.7	22.0	17.5	13.1	13.0	2.2	2.4				2.3	2.6	
S－13	20.1	24.8	19.3	14.7	15.4	2.2	2.6				1.2	0.7	
S－14(1)								21.1 17.8	13.7	12.7			
S－14(2)								19.9 17.7	13.2	13.0			
S－15								17.1 16.6	14.3	12.8			
S－16	16.1	21.1	15.5	11.6	12.7	20	30				1.9	1.7	
S－17													欠損している
S－19	10.7	19.3	10.5	12.4	12.4	4.5	4.0				0.7	0.8	
S－21								18.4 17.5	11.3	11.7			
S－22	13.3	16.4	13.5	7.2	7.0	1.3	1.4				0.9	0.5	
S－27								18.6 16.4	10.9	10.7			
S－28								16.3 16.4	14.9	14.9			墓石の礎石？
S－30	15.0	18.1	14.0	11.6	11.2	1.3	1.8				0.6	0.7	
S－31	15.3	19.7	14.3	11.3	11.3	2.4	2.0				1.6	0.8	
S－32	14.0	23.5	15.9	16.9	16.9	3.1	4.5					0.7	上部欠損の為推定
S－33		29.9	19.7										〃
S－40								20.2 18.5	14.0	14.5			
S－41								24.0 24.0	17.0	17.0			凹上5.0　下1.0
S－42								40.0 40.3	15.9	16.1			凹上3.0　下5.2
S－43								30.9	22.2	20.3			欠損の為実測不可
S－44								25.0	17.8	19.7			〃
S－45								22.3 21.6	18.5	18.0			
S－46								18.7 18.7	16.6	14.4			
S－47								18.3 18.3	12.1	12.0			凹下15
S－48								26.5 28.0	17.6	16.5			

(4) 土　　壙

1号土壙（ＳＫ－１）第９図

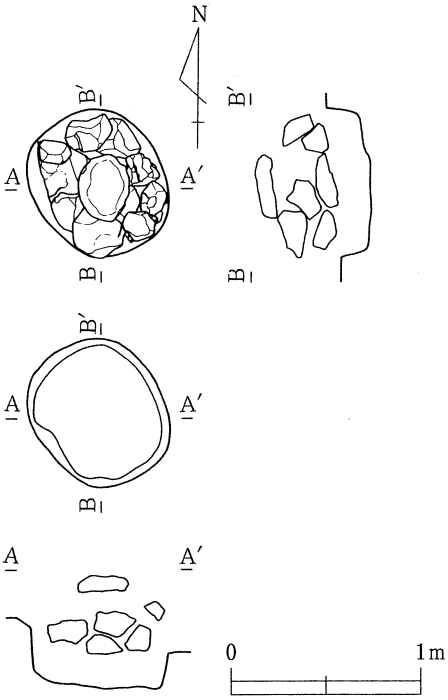
位置グリッドＥ－５。形状－楕円形、長径78cm・短径68cm・深さ20cm。集石あり。出土物－北宋銭６枚。このことにより墓壙と思われる。

2号土壙（ＳＫ－２）第11図

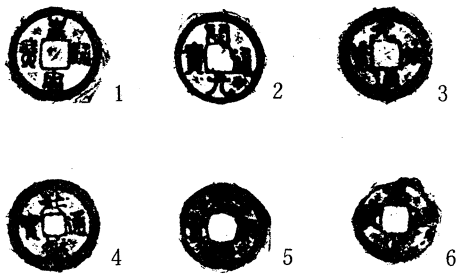
位置－グリッド（Ｅ－５）。形状－楕円形。長径54cm・短径48cm・深さ20cm。銭１枚が出土。

3号土壙（ＳＫ－３）第12図

位置－グリッドＥ－４。形状－隅丸方形、長軸１ｍ30cm・短軸86cm・深さ46cm。集石あり。

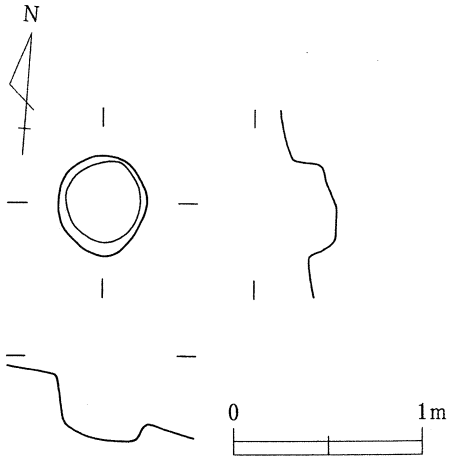


第９図　１号土壙実測図（１／40）

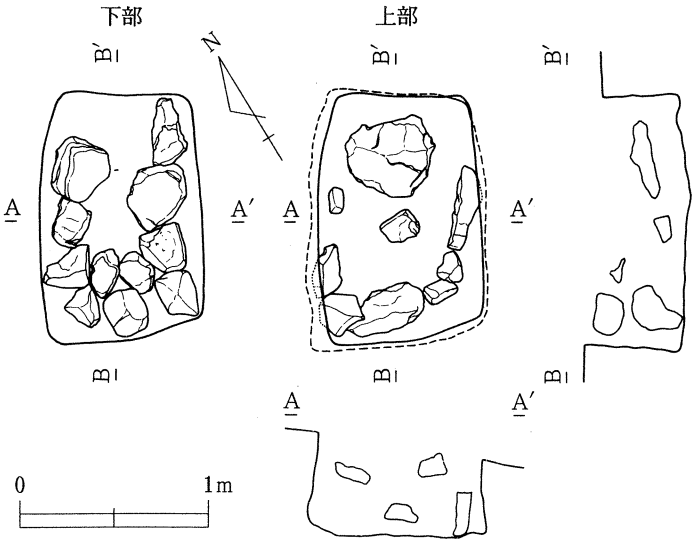


第10図　１号土壙出土古銭拓影（１／２）

１．皇宋通寶(1039年)北宋　２．開元通寶(621年)唐
３．元祐通寶(1093年)北宋　４．洪徳通寶(1470年)安南
５．元祐通寶(1093年)北宋　６．不　詳



第11図　２号土壙実測図（１／40）



第12図　３号土壙実測図（１／40）

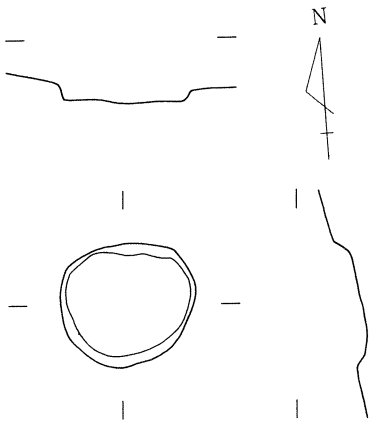
４号土壙（ＳＫ－４）第13図

位置－グリッドＥ－５。形状－円形、直径70㎝・深さ20㎝。１部破損あり。集石３個あり。

５号土壙（ＳＫ－５）第14図

位置－グリッドＥ－５。形状－ほぼ円形、直径68㎝・深さ８㎝を測る。

第13図　４号土壙実測図（１／40）



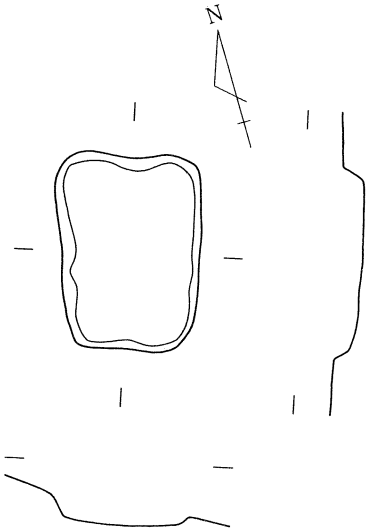
第14図　５号土壙実測図（１／40）

６号土壙（ＳＫ－６）第15図

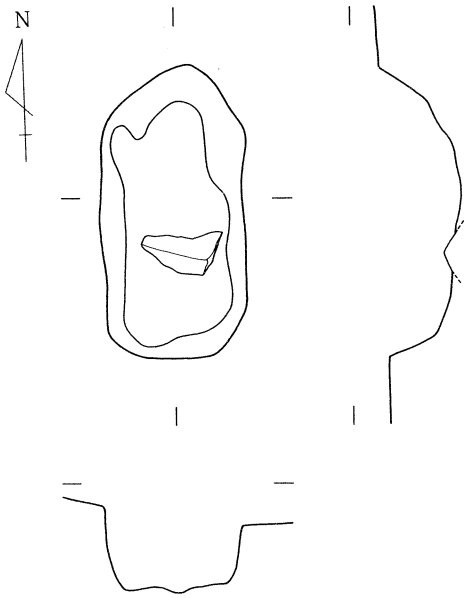
位置－グリッドＥ－４。形状－隅丸方形、長軸１ｍ40㎝・短軸74㎝・深さ12㎝を測る。

７号土壙（ＳＫ－７）第16図

位置－グリッドＥ－６。形状－楕円形、長径１ｍ56㎝・短径76㎝・深さ40㎝。集石１個あり。



第15図　６号土壙実測図（１／40）



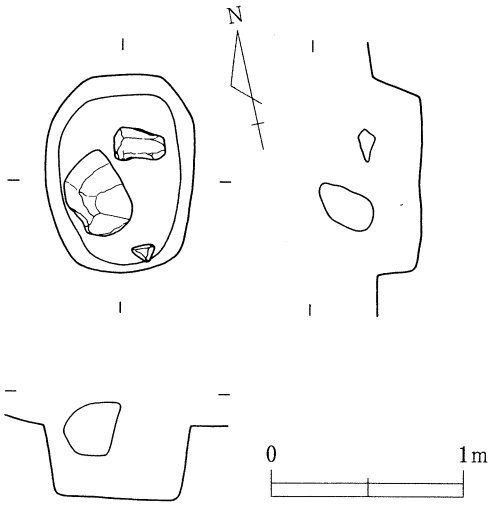
第16図　７号土壙実測図（１／40）

8号土壙（ＳＢ－８）第17図

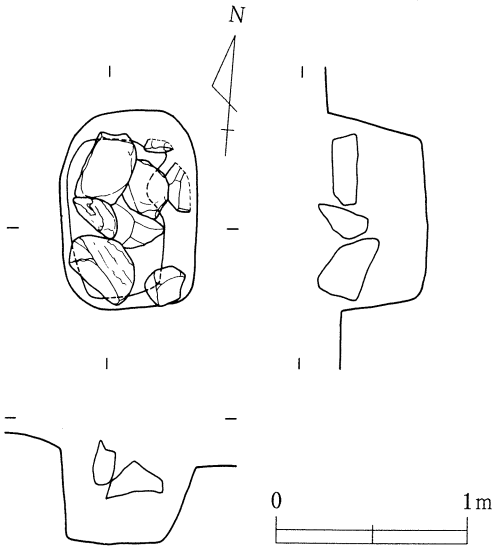
位置－グリッドＥ－６。形状－楕円形、長軸１ｍ16㎝・短軸78㎝・深さ40㎝。集石３個あり。

9号土壙（ＳＫ－９）第18図

位置－グリッドＥ－６。形状－隅丸方形、長軸１ｍ４㎝・短軸74㎝・深さ48㎝。集石あり。



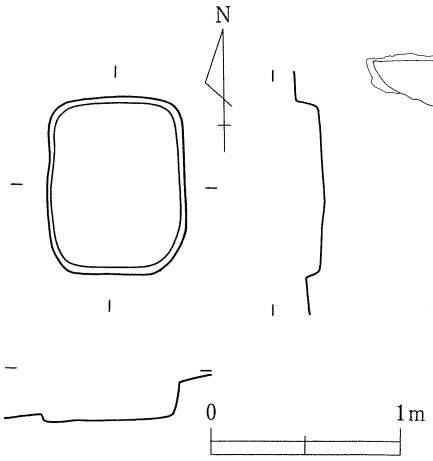
第17図　８号土壙実測図（１／40）



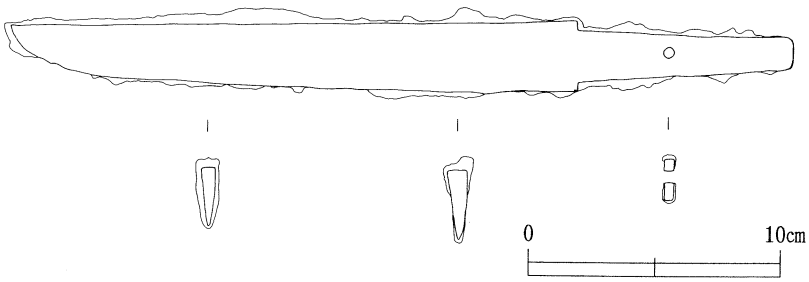
第18図　９号土壙実測図（１／40）

第10号土壙（ＳＫ－10）第19図

位置－グリッドＡ－４。形状－隅丸方形、長径92㎝・短径72㎝・深さ６～27㎝。出土物－短刀。



第19図　10号土壙実測図(１／40)



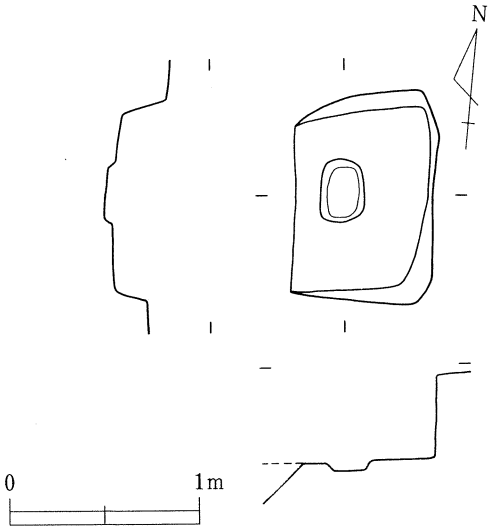
第20図　10号土壙出土鉄製品実測図（１／３）

11号土壙（ＳＫ－11）第21図

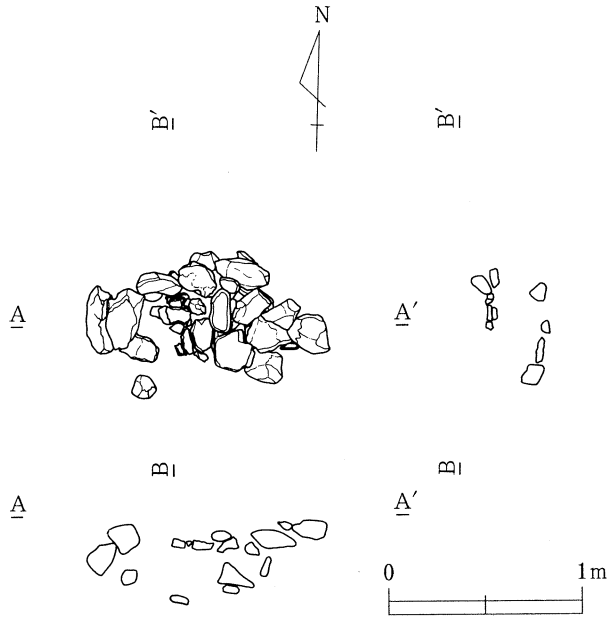
位置－グリッドＡ－４。形状－隅丸方形、南北１ｍ10㎝。西側は破損している。

12号土壙（ＳＫ－12）第22、23図

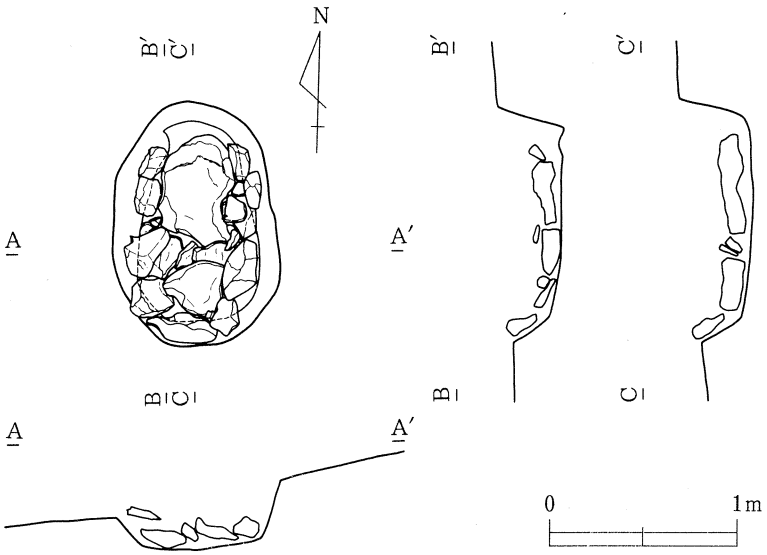
位置－グリッドＡ－４。形状－楕円形、長径１ｍ30㎝・短径90㎝・深さ22～44㎝。集石あり。12号土壙上部に集石遺構（第８図）が存在し、焼土・焼石・骨片が確認された。この場所で火葬がなされ、骨を土壙に埋葬し、この上に五輪塔を建立したものと推測される。



第21図　11号土壙実測図（１／40）



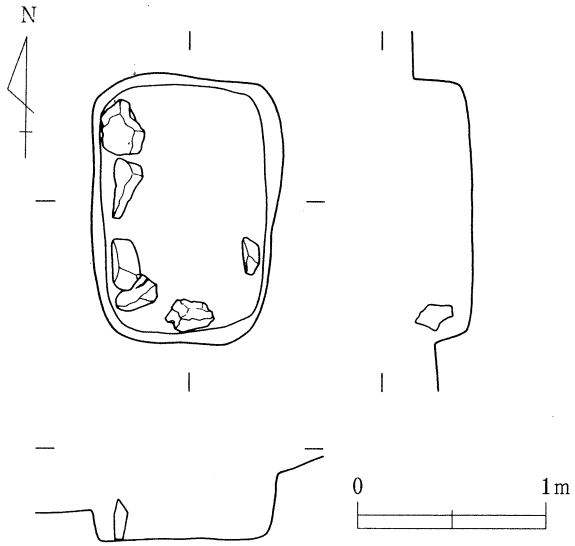
第22図　12号土壙上部構造実測図（１）（１／40）



第23図　12号土壙下部構造実測図（２）（１／40）

13号土壙（ＳＫ－12）第24図

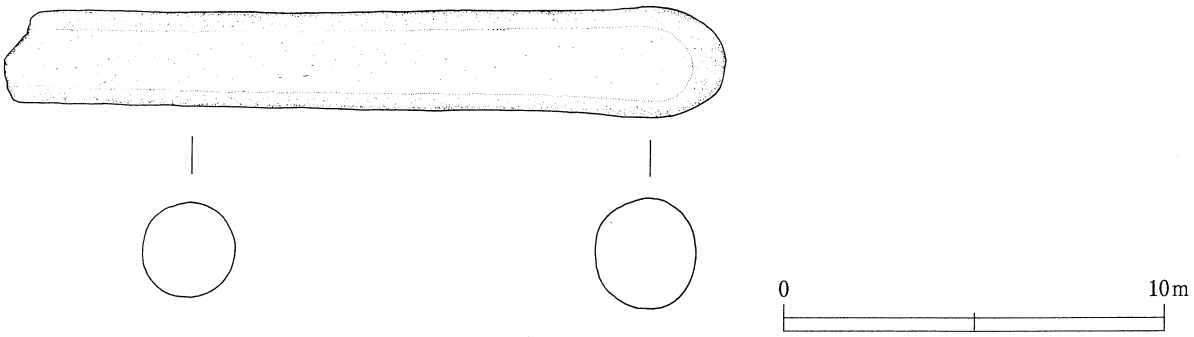
位置－グリッドＡ－４。形状－隅丸長方形、長軸２ｍ50㎝・短軸88㎝・深さ18～34㎝。集石あり。



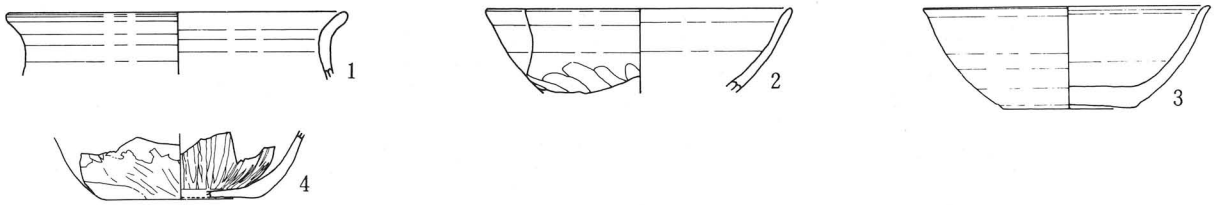
第24図　13号土壙実測図（１／40）

iii　出土した遺物

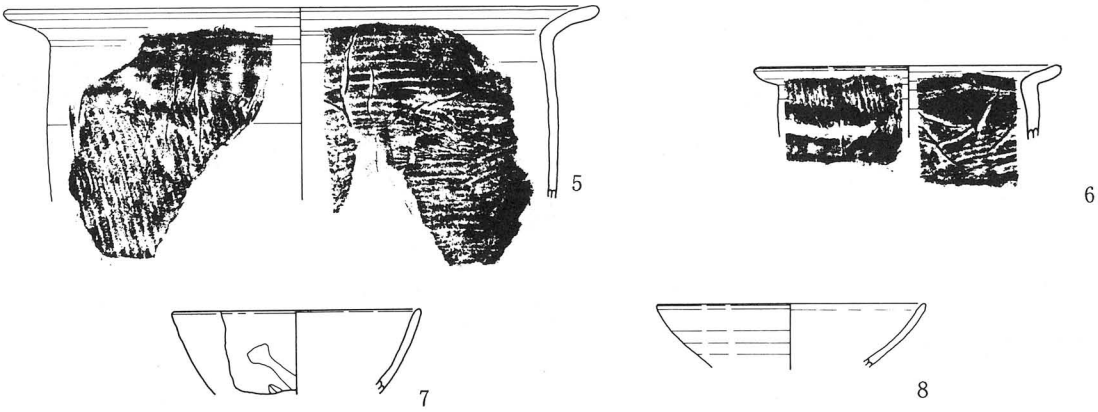
出土した遺物は縄文時代の土器片・石鏃が覆土中より、また１号住居址より小型石棒が出土した。また、平安時代の土師器・須恵器（土器所見表参照）、中世の集石配石遺構から五輪塔、土壙より土師器・北宋銭・短刀、近世の陶磁器・キセルなどが出土した。



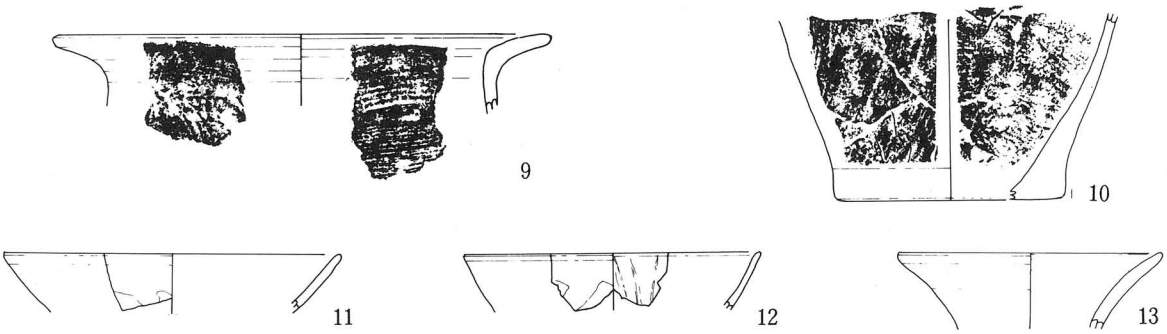
第25図　１号住居址出土小型石棒実測図（１／23）



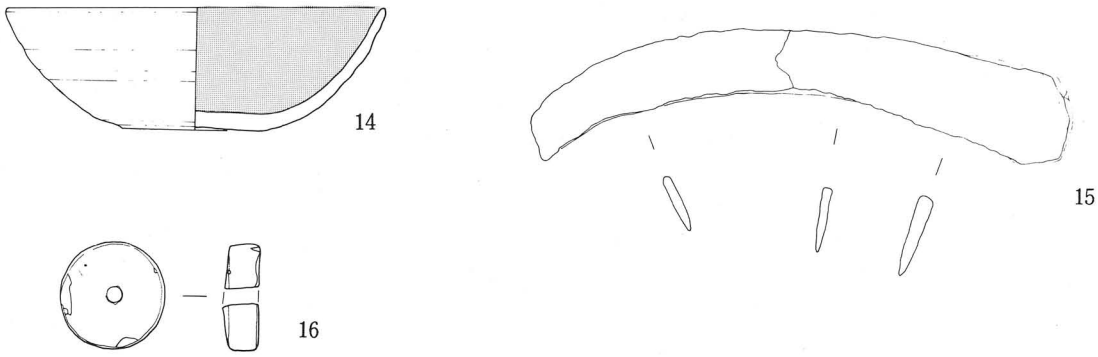
第26図　2号住居址出土土器実測図（1／3）



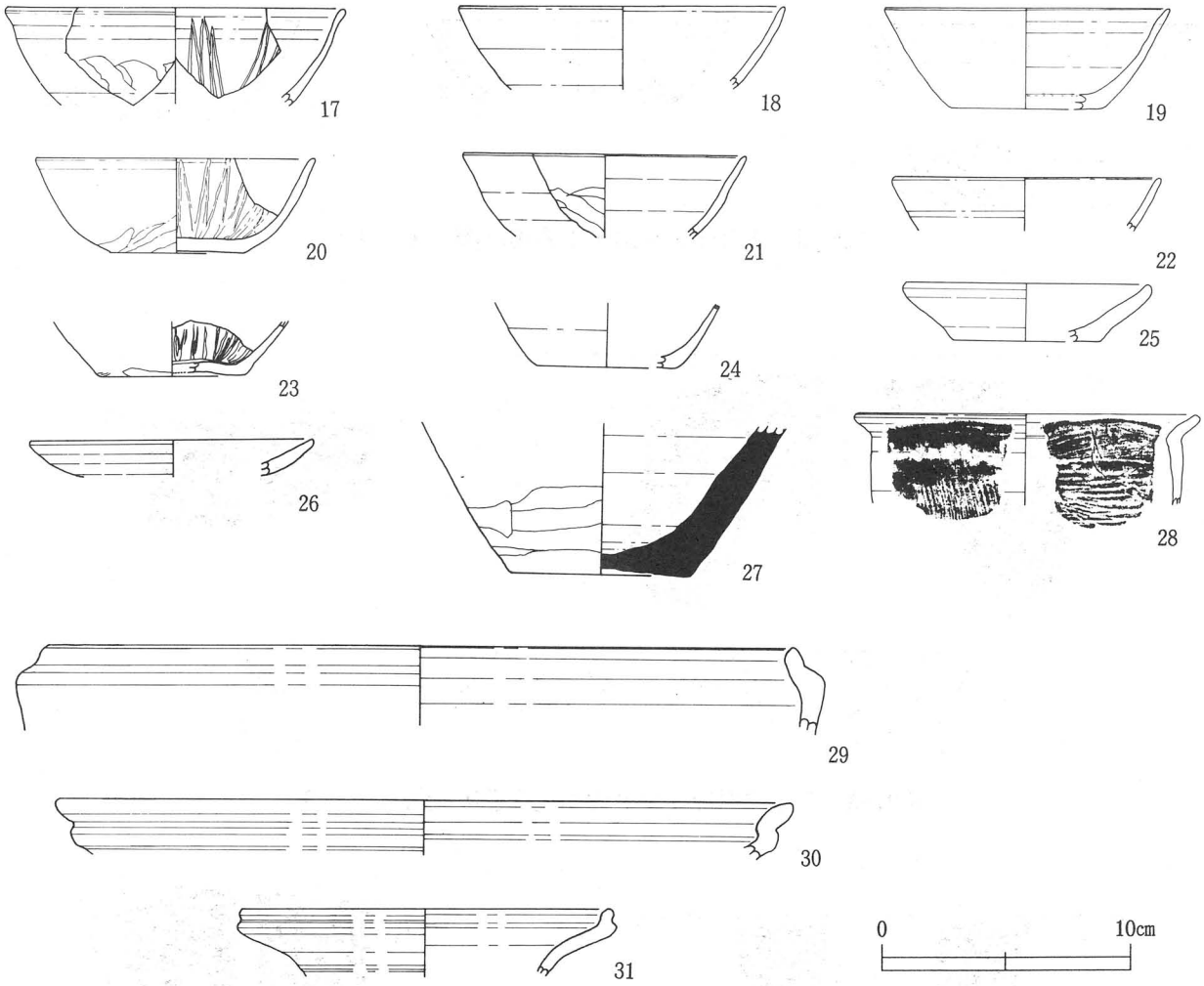
第27図　2号住居址カマド内出土土器実測図（1／3）



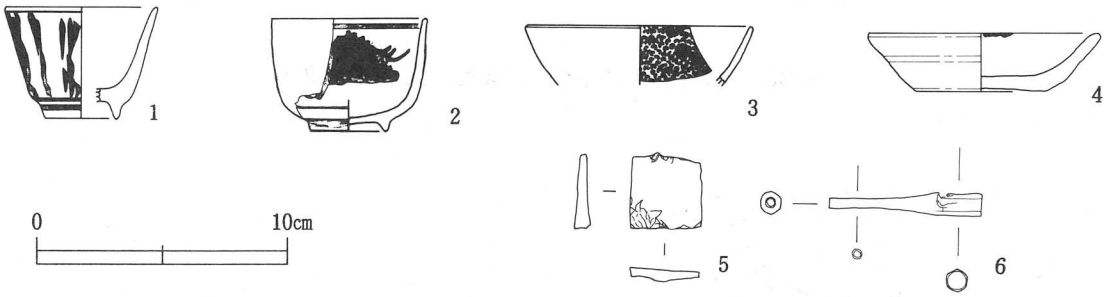
第28図　3号住居址出土土器実測図（1／3）



第29図　4号住居址出土土器・鉄器(鎌)・紡錘車実測図（1／3）



第30図　遺構外出土土器実測図（１／３）



第31図　遺構外出土土器実測図（近世）（１／３）

土器所見表（表２）

図面番号	種類	器形	法量				整形方法					
			口径	器高	底径	口縁	胴部		底部		色・調	
							外	内	外	内	外	内
2号住居址												
1	土師	甕	13.6	2.7	－	外反	輪積み 縦方向ハケ目	輪積み 横方向ハケ目			茶褐色	茶褐色
2	土師	杯	12.2	3.4	－	外傾	ロクロ横ナデ 1／3ヘラ削り	ロクロ横ナデ			茶褐色	茶褐色
3	土師	杯	11.4	4.1	5.4	外傾	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	回転糸切り	ロクロ横ナデ	(黄)茶褐色	(黄)茶褐色
4	土師	杯	－	2.7	6.0	－	ロクロ横ナデ 1／2ヘラ削り	ロクロ横ナデ			茶褐色	茶褐色
5	土師	甕	23.6	7.7	－	外反	輪積み 縦方向ハケ目	横輪積み 横方向ハケ目			茶褐色	茶褐色
6	土師	甕	10.2	3.0	－	外反	輪積み 縦方向ハケ目	輪積み 横方向ハケ目			茶褐色	茶褐色
7	土師	杯	10.0	3.3	－	外傾	ロクロ横ナデ 1／2ヘラ削り				茶褐色	茶褐色
8	土師	杯	10.6	2.6	－	外傾	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ			茶褐色	茶褐色
3号住居址												
9	土師	甕	19.8	3.2	－	外反	輪積み 縦方向ハケ目	輪積み 横方向ハケ目			黒華燭	黒褐色
10	土師	甕	－	7.4	8.4	外傾	ロクロ横ナデ 縦方向ハケ目	ロクロ横ナデ 横方向ハケ目	回転糸切り	ロクロ整形	暗褐色	暗褐色
11	土師	杯	13.4	2.4	－	外傾	ロクロ横ナデ 1／3ヘラ削り	ロクロ横ナデ			茶褐色	茶褐色
12	土師	杯	11.8	2.3	－	外傾	ロクロ横ナデ 2／3ヘラ削り	ロクロ横ナデ			茶褐色	茶褐色
13	土師	壷	10.6	3.0	－	外傾	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ			暗黄褐色	黄褐色
4号住居址												
14	土師	杯	15.4	4.8	7.0	外傾	ロクロ横ナデ	ヘラ磨き	回転糸切り	ロクロ横ナデ	暗褐色	黒色
遺構外												
17	土師	杯	13.8	4.0	－	外傾	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ 1／2ヘラ削り			茶褐色	茶褐色
18	土師	杯	13.2	3.4	－	外傾	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ			黄褐色	黄褐色
19	土師	杯	11.6	4.1	6.0	外傾	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	回転糸切り	ロクロ整形	茶褐色	茶褐色
20	土師	杯	11.4	3.9	5.6	外傾	ロクロ横ナデ 1／4ヘラ削り	ロクロ横ナデ	ヘラ削り後 ヘラ削り	ロクロ横ナデ	茶褐色	茶褐色
21	土師	杯	11.4	3.4	－	外傾	ロクロ横ナデ 2／3ヘラ削り	ロクロ横ナデ	回転糸切り	ロクロ横ナデ	茶褐色	茶褐色
22	土師	杯	10.8	2.2	－	外傾	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ			茶褐色	茶褐色
23	土師	杯	－	2.2	5.8	外傾	ロクロ横ナデ 1／4ヘラ削り	ロクロ横ナデ	回転糸切り	ロクロ横ナデ		
24	土師	杯	－	2.7	5.6	外傾	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	回転糸切り	ロクロ横ナデ	茶褐色	茶褐色
25	土師	杯	10.0	2.4	6.0	外傾	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	回転糸切り	ロクロ横ナデ	茶褐色	茶褐色
26	土師	杯	11.4	1.5	－	－	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ			茶褐色	茶褐色
27	須恵	甕	－	6.1	7.2		ロクロ横ナデ ヘラ整形	ロクロ横ナデ	ヘラ整形	ヘラ整形	灰白色	青白色
28	土師	甕	14.0	3.7	－	外反	輪積み 縦方向ハケ目	輪積み 横方向ハケ目				
29	－	浅鉢	30.4	3.5	－	－	輪積み横ナデ	輪積み横ナデ			灰褐色	灰褐色
30	－	浅鉢	30.0	2.4	－	－	輪積み横ナデ	輪積み横ナデ			灰褐色	黄褐色
31	陶器	壷	15.0	2.8	－	－	輪積み横ナデ	輪積み横ナデ			暗褐色	赤褐色

第Ⅱ章　八ッ牛遺跡

i　遺跡の環境

本遺跡は山梨県北巨摩郡高根町村山北割字八ッ牛地内に所在し、標高755mを測り、緩やかな尾根の南西斜面に位置する。遺構は耕作により破損され、遺存状態はあまり良くなく、十分な調査はできなかった。柱穴が多数検出され、2軒以上の平安時代以降の掘建柱建物址の存在が推測される。本遺跡周辺に、応仁元年（1467）の六地蔵幢、板碑の残欠、日向山光村寺開基（天正8年）の日向大和守昌時の屋敷跡があり、掘建柱建物址群との関連性が考えられる。

第1図　八ッ牛遺跡遺構分布図（1／250）

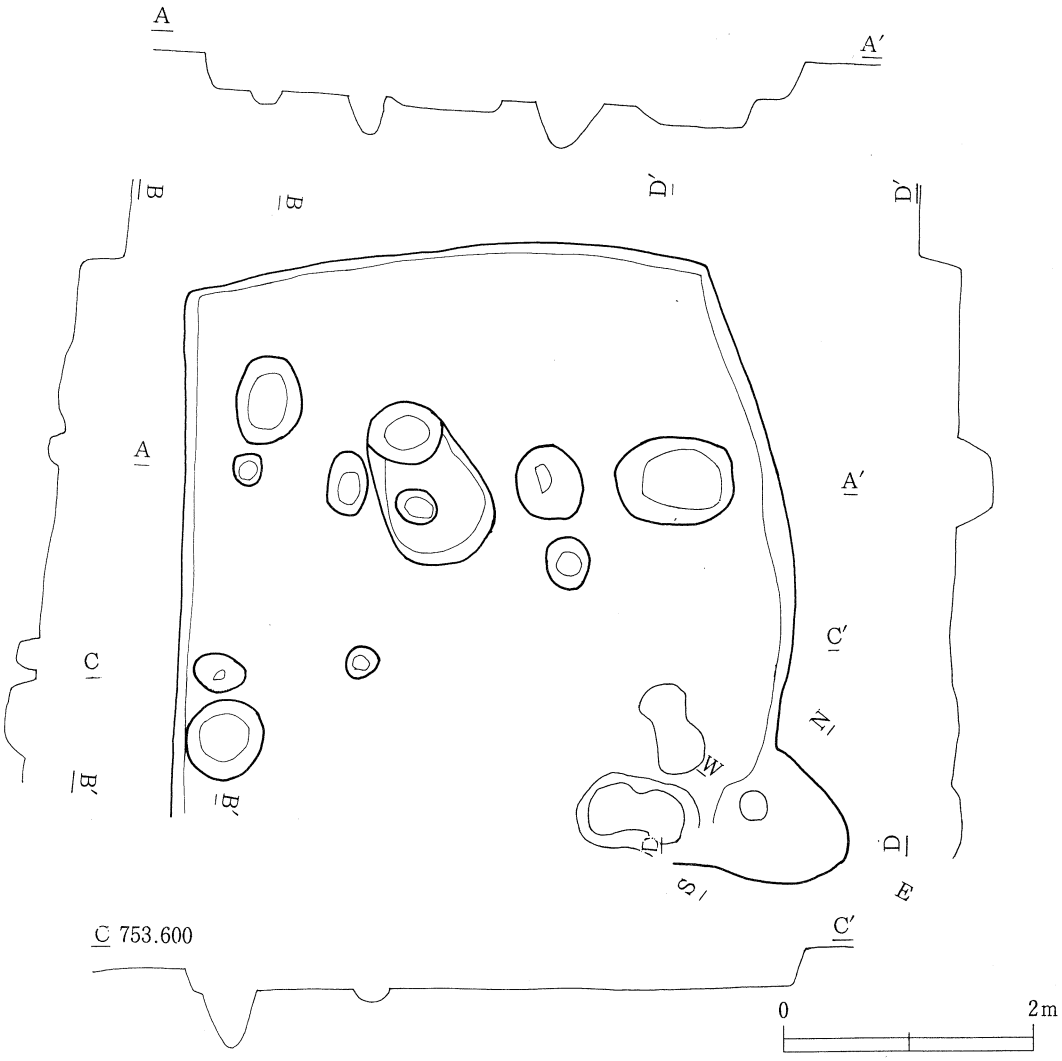
ii　検出された遺構

検出された遺構は、平安時代の住居址が３軒、時期不明の土壙９基である。掘建柱建物址については、２軒の掘建柱建物址を示した。遺跡内で他に土壙と見られる遺構もあるが、７基の土壙について報告する。３号土壙のみ集石があった。

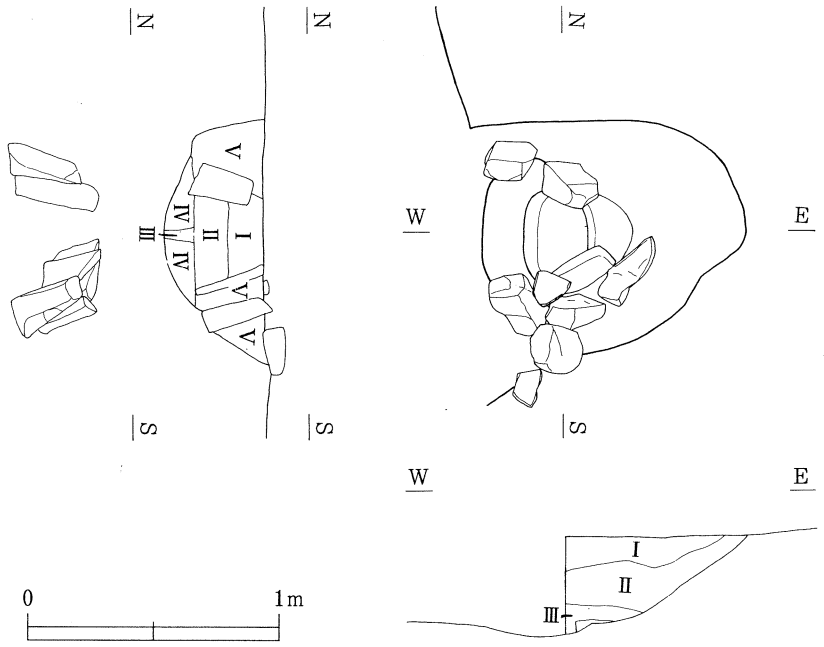
(1)　竪穴住居址

１号住居址（ＳＢ－１）第２図

本遺跡の東南の調査区域の境（グリッドＣ－４）に位置し、住居址の南壁は調査区域外で確認できなかった。残存の壁で周壁を見ると、１辺４ｍ80㎝の変形の隅丸方形で、北壁15㎝、東壁30㎝、西壁30㎝を測る。南東隅にカマドがあり、左袖石が２個、右袖石が３個の石組カマドである。地表面からの遺構確認面が浅いにもかかわらず、カマドは比較的保存状態は良好である。全長１ｍ８㎝・幅１ｍ13㎝を測る。



第２図　１号住居址実測図（１／60）



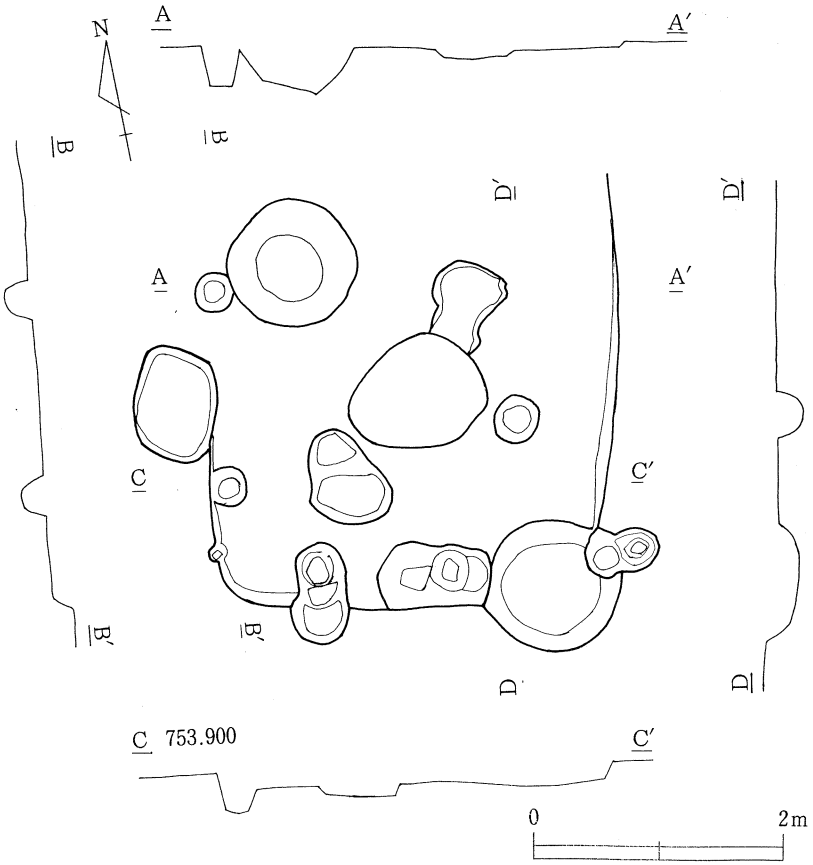
第Ⅰ号　茶褐色土層（焼土粒を若干含む）粘性なく、しまりなし
第Ⅱ号　茶褐色土層（焼土ブロックを含む）粘性なく、しまりなし
第Ⅲ号　茶褐色土層（焼土を含まない）粘性なく、しまりなし
第Ⅳ号　赤褐色土層（焼土層）
第Ⅴ号　黒褐色土層（焼土粒を含む）粘性あり、しまりあり（カマドの袖部分）

第３図　１号住居址カマド実測図（１／30）

２号住居址（ＳＢ－２）

第４図

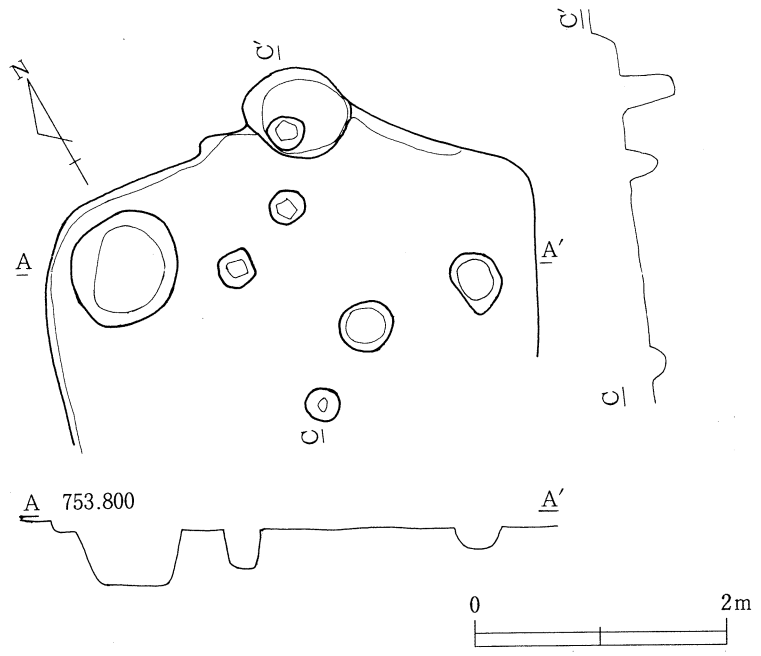
本遺跡の中央東より（グリッドＣ－３）に位置し、住居址の北壁は破損されていたが、形状は隅丸方形と推測される。東西３ｍ21㎝を測る。カマドは東南隅に推定されるが、傾斜地であったり、耕作や土壙のより破損され、保存状態は悪い。中央部に浅い掘り込みがある。



第４図　２号住居址実測図（１／60）

3号住居址（ＳＢ－３）第５図

本遺跡の東南隅（グリッドＤ－４）に位置し、住居址の南壁は調査区域外にあり、確認できなかった。東西３ｍ90㎝を測る。東壁の掘込みは確認できなかった。またカマドも調査区域外のため確認できなかった。



第５図　３号住居址実測図（１／60）

(2)　堀建柱建物址

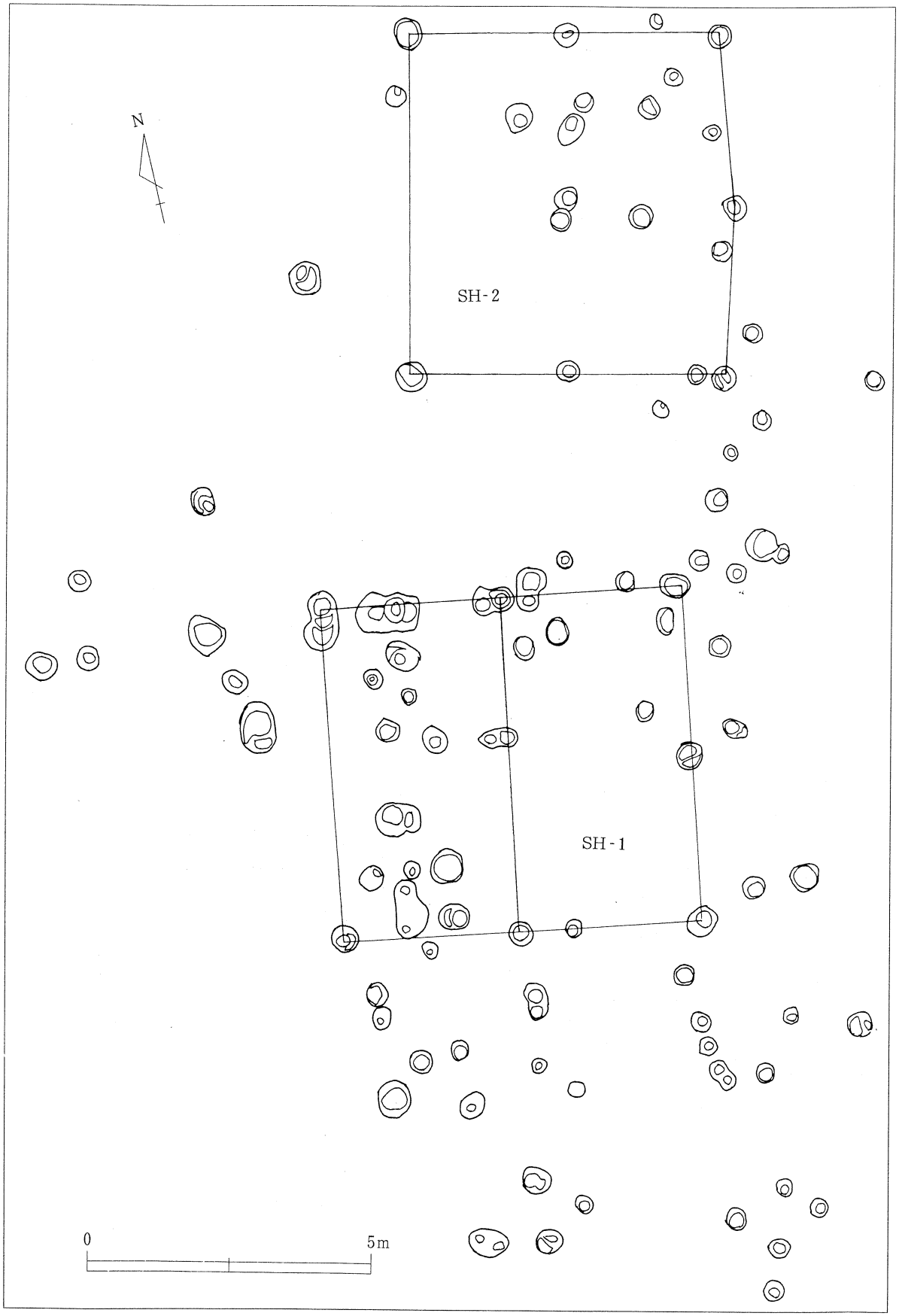
本遺跡内に多数の柱穴が検出された。その柱穴の配列から数軒の掘建柱建物址を推測できるが、その中で推定できる２軒の掘建柱建物址を図示した。いずれも推定であり、断定されたものではない。検出された柱穴群は100本を数え、複数の建物や建替が行なわれたと思われる。出土遺物等より、15世紀以降の所産と思われる。

１号掘建柱建物址（ＳＨ－１）第６図

東西２間（２ｍ97㎝）、南北２間（３ｍ３㎝）

２号掘建柱建物址（ＳＨ－２）（第６図）

東西２間（２ｍ83㎝）、南北２間（３ｍ13㎝）



第６図　掘建柱建物址推定模式図（１／100）

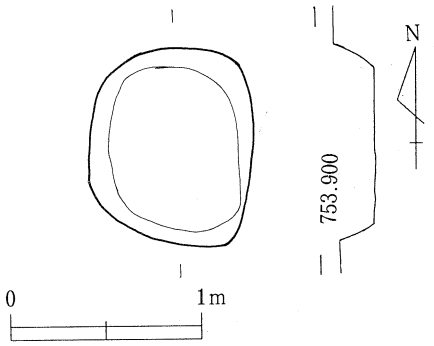
(3) 土　　壙

1号土壙（ＳＫ－１）第７図

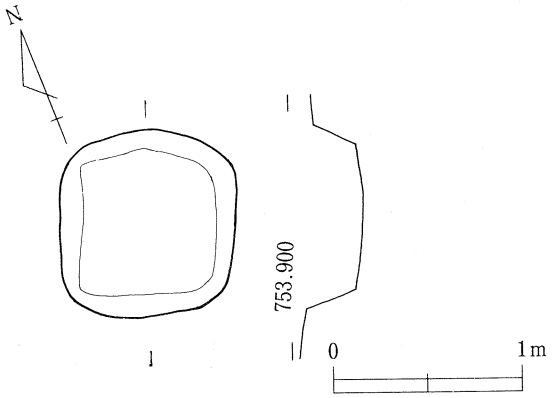
位置－グリッドＤ－４。形状－楕円形、長径１ｍ４㎝・短径86㎝・深さ28㎝を測る。

2号土壙（ＳＫ－２）第８図

位置－グリッドＤ－３。形状－楕円形、長径１ｍ・短径・深さ26㎝を測る。



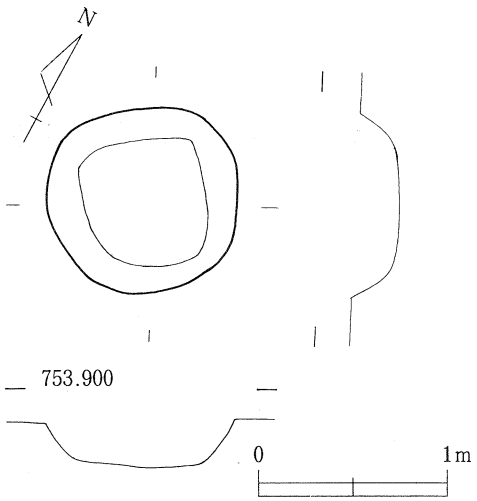
第７図　１号土壙実測図（１／40）



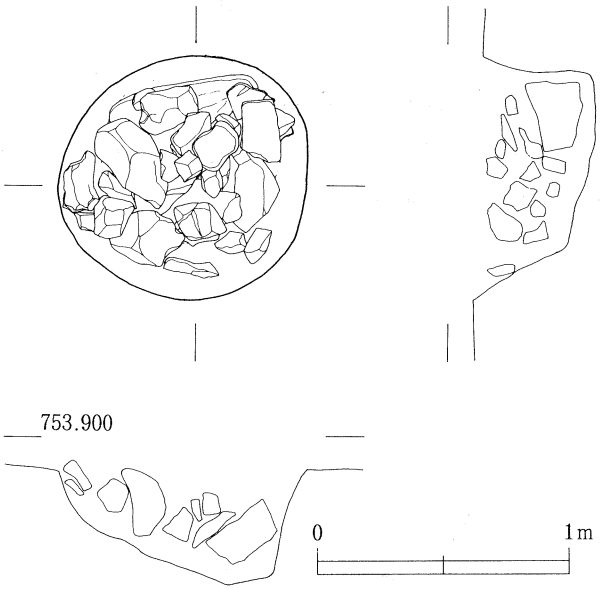
第８図　２号土壙実測図（１／40）

3号土壙（ＳＫ－３）第９、10図

位置－グリッドＣ－３。形状－円形、直径98㎝、深さ46㎝を測る。



第９図　３号土壙実測図（１／40）



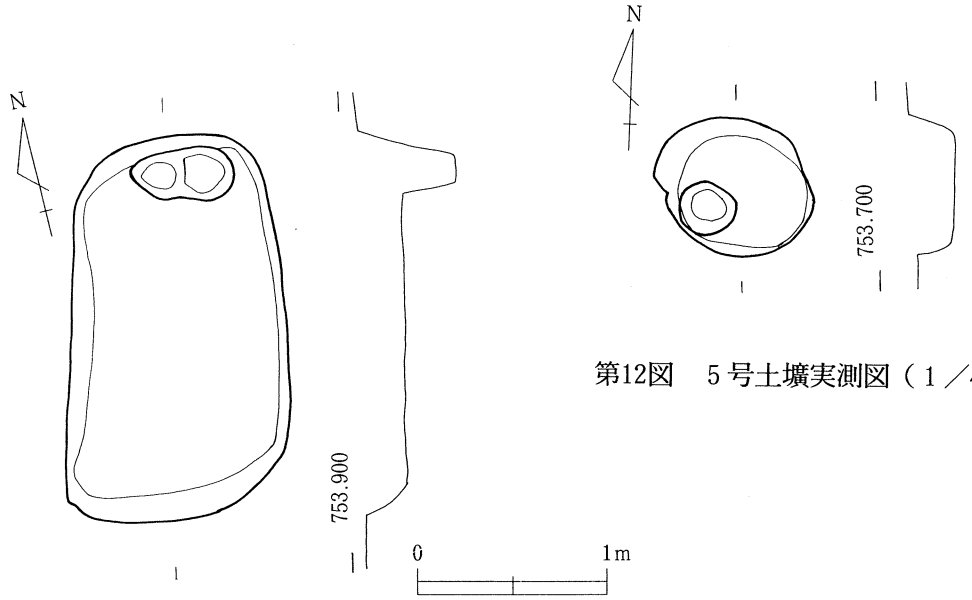
第10図　３号土壙微細実測図（１／30）

4号土壙（ＳＫ－４）第11図

位置グリッドＣ－４。形状－隅丸方形、長径２ｍ12cm・短径１ｍ12cm・深さ22cmを測る。

5号土壙（ＳＫ－５）第12図

位置－グリッドＤ－４（３号住居址内)。形状－楕円形、長径86cm・短径72cm・深さ26cm。土壙内に円形の直径28cmのピットがある。



第12図　５号土壙実測図（１／40）

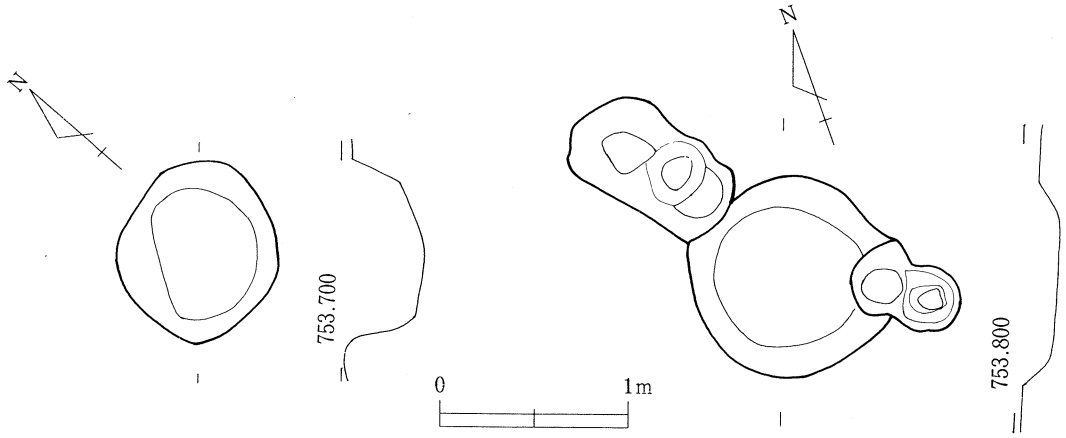
第11図　４号土壙実測図（１／40）

6号土壙（ＳＫ－６）第13図

位置－グリッドＤ－４（３号住居址内)。形状－楕円形、長径98cm・短径86cm・深さ38cmを測る。

7号土壙（ＳＫ－７）第14図

位置－グリッドＣ－３。形状－楕円形、長径１ｍ10cm・短径１ｍ４cm・深さ14cm。２号住居址内にあり、カマドに接する。



第13図　６号土壙実測図（１／40）

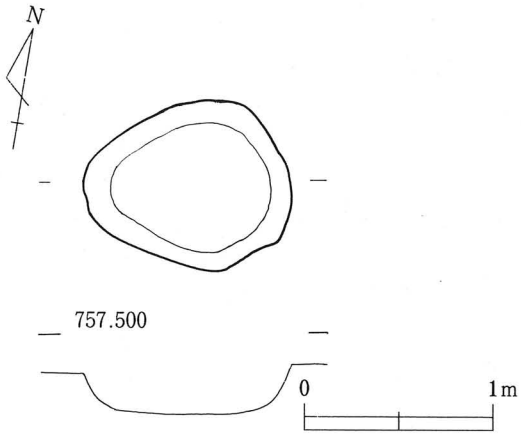
第14図　７号土壙実測図（１／40）

8号土壙（ＳＫ－８）第15図

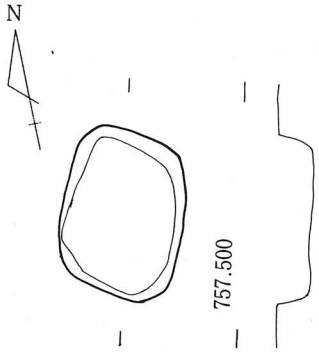
位置－グリッドＣ－３（３号住居址内）。形状－楕円形、長径１ｍ10㎝・短径90㎝・深さ26㎝を測る。

9号土壙（ＳＫ－９）第16図

位置－グリッドＣ－３。３号住居址西壁に接する。形状－円形、直径１ｍ２㎝・深さ18㎝を測る。



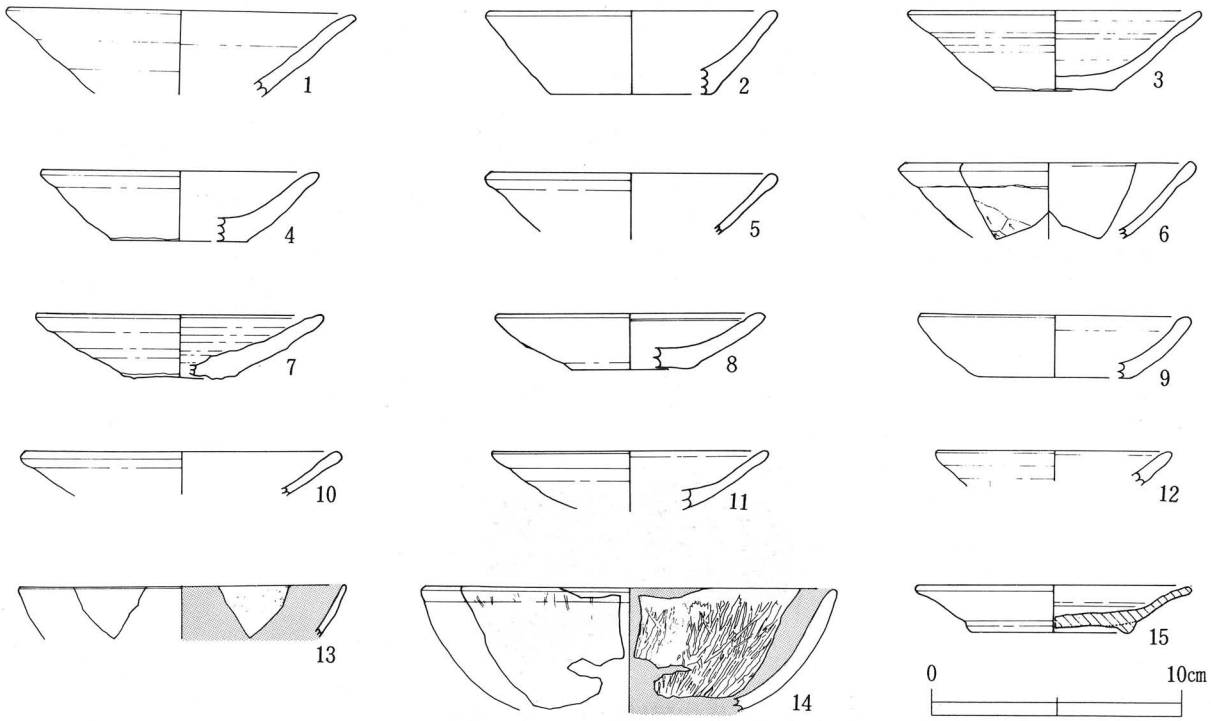
第15図　８号土壙実測図（１／40）



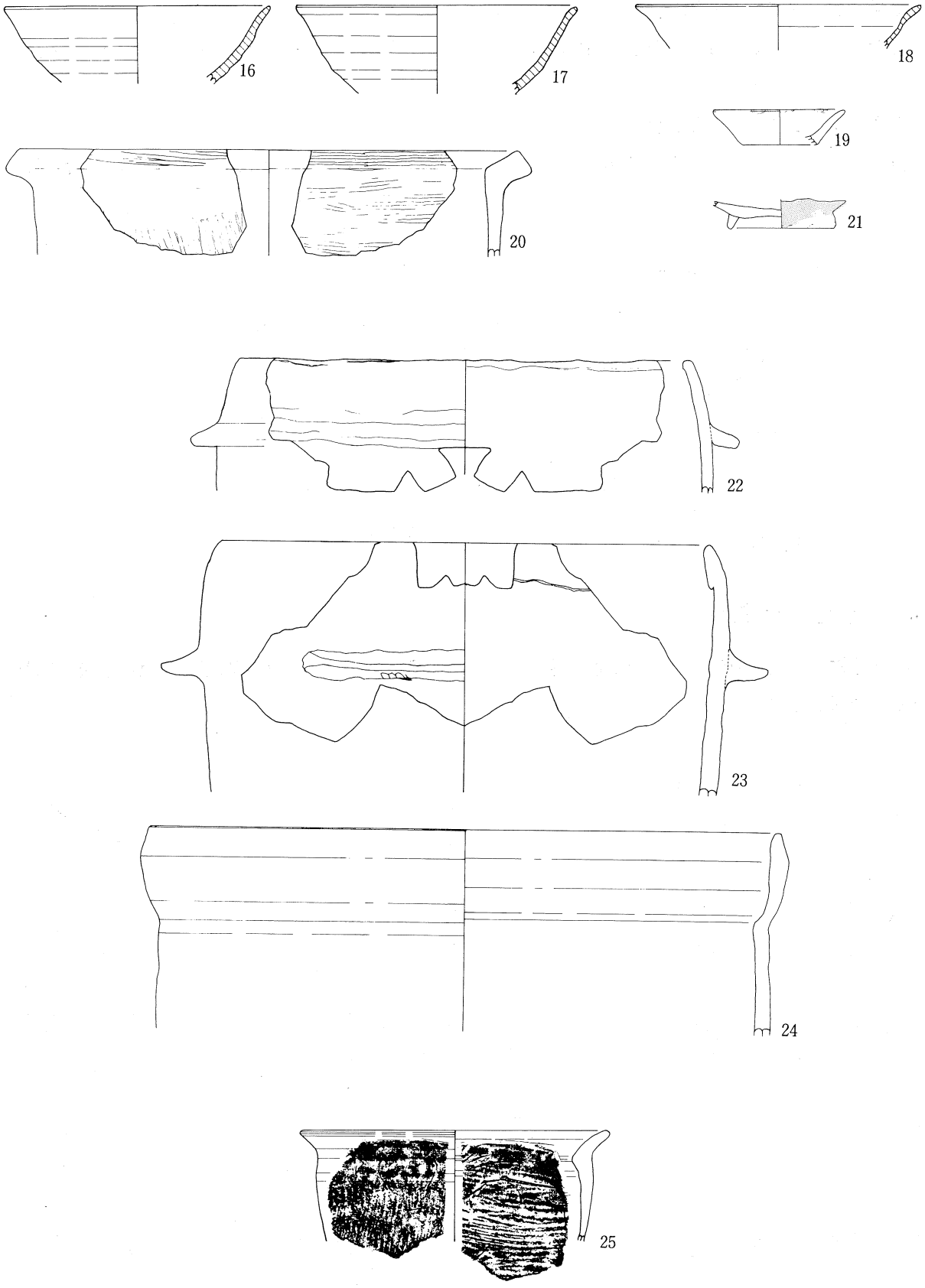
第16図　９号土壙実測図（１／40）

iii　出土した遺物

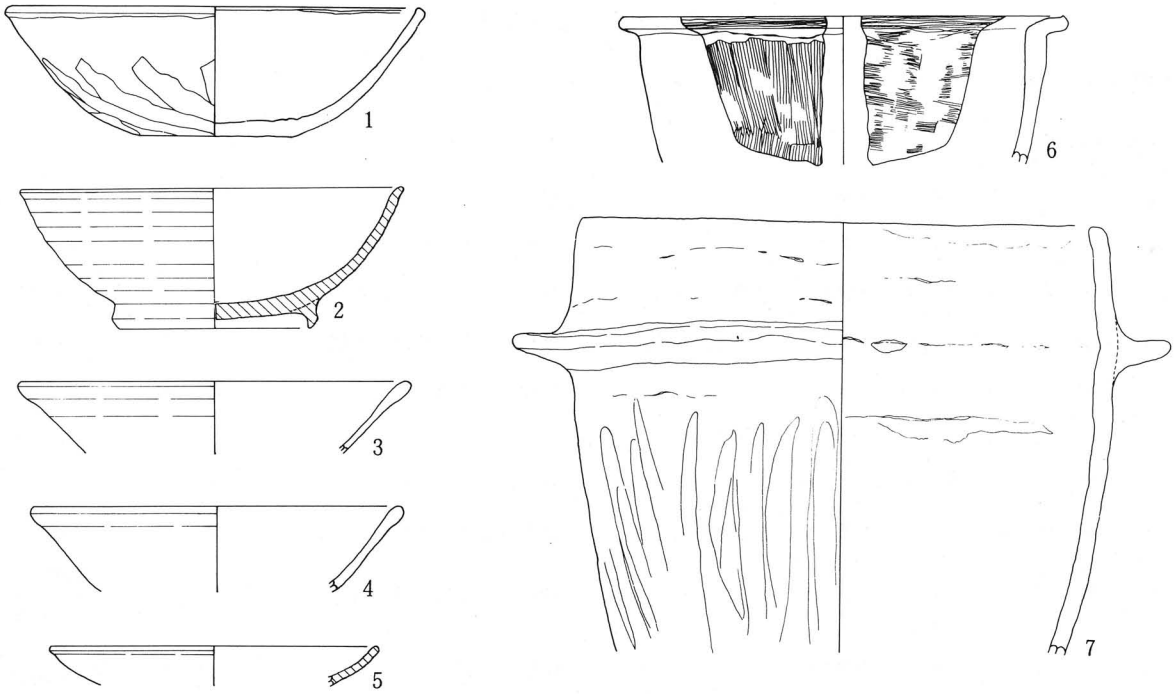
出土遺物は、縄文時代の若干の土器、平安時代の土師器・内黒土器・灰釉陶器・中世の羽釜・内耳土器・砥石などがある。



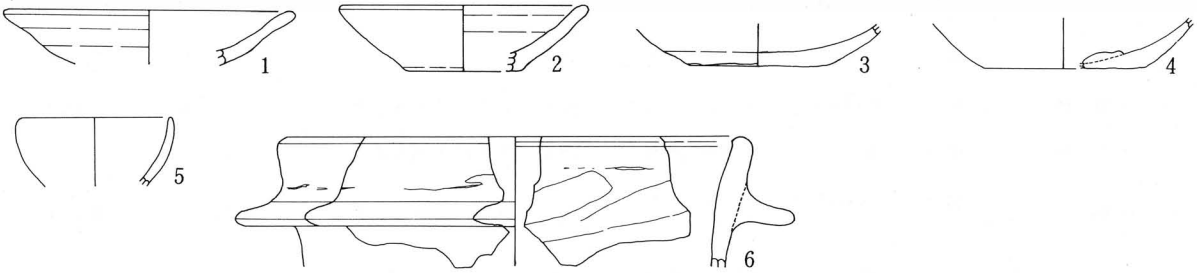
第17図　１号住居址出土土器実測図（１）（１／３）



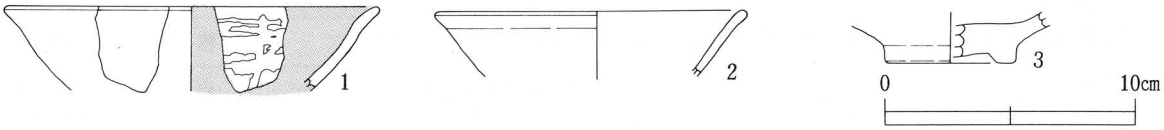
第18図　1号住居址出土土器実測図（2）



第19図　2号住居址出土土器実測図（1／3）



第20図　3号住居址出土土器実測図（1／3）



第21図　3号土壙、遺構外出土土器実測図（1－3号土壙、2・3－遺構外）（1／3）

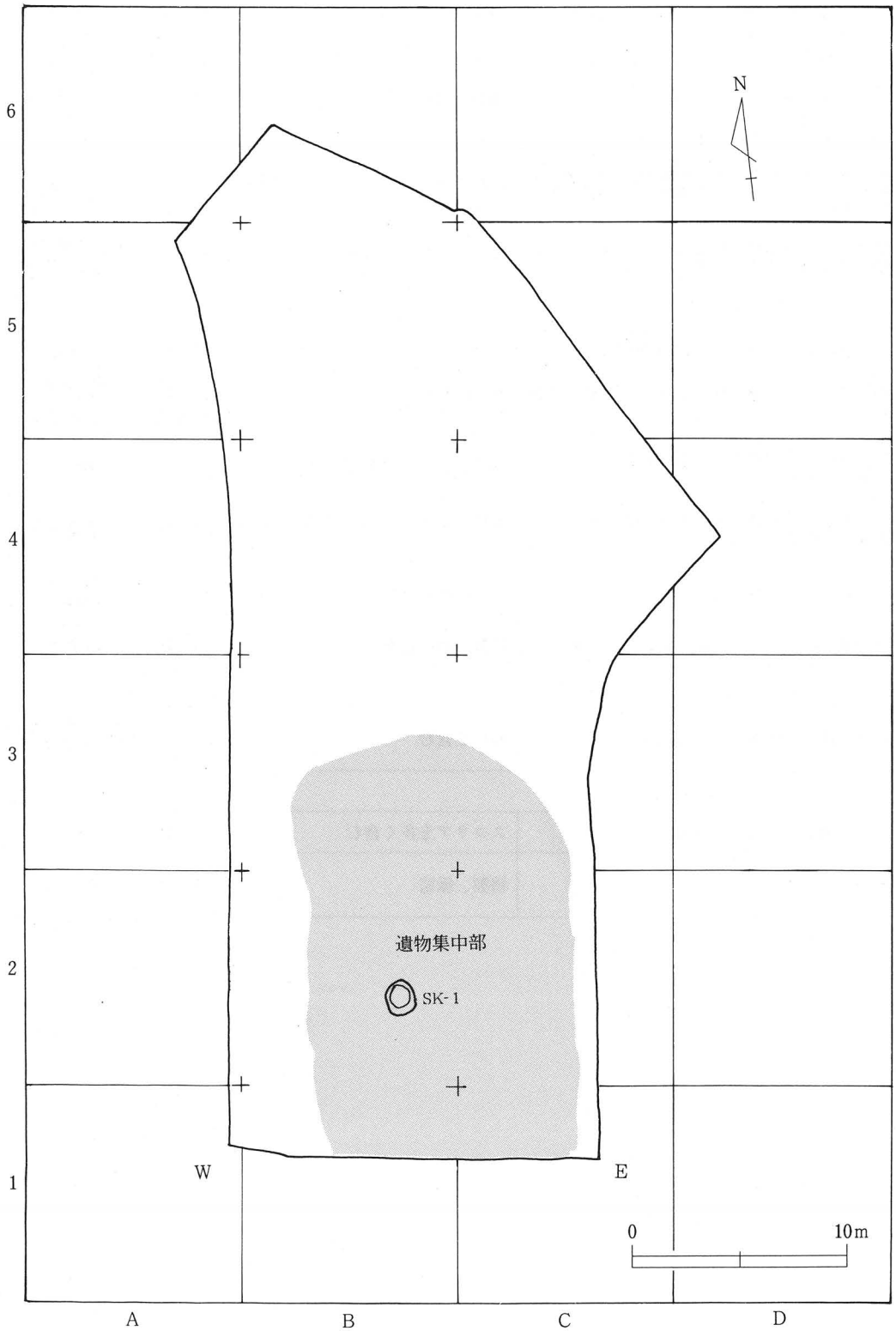
八ツ牛遺跡出土土器所見表（表１）

図面番号	種類	器形	整　　形	胎　　土	焼　成	色　調
１号住居址						
1	土師	杯	内、外面ロクロ横ナデ	精製、スコリアを含む	軟　質	黄褐色
2	土師	杯	内、外面ロクロ横ナデ	砂粒、小石を含みやや粗い	良　好	黄褐色
3	土師	杯	内、外面ロクロ横ナデ、底部回転糸切り	精製、スコリアを含む	軟　質	黄褐色
4	土師	杯	内、外面ロクロ横ナデ、底部回転糸切り	砂粒、小石を含みやや粗い	軟　質	黒褐色
5	土師	杯	内、外面ロクロ横ナデ	砂粒を多く含む	良　好	明褐色
6	土師	杯	内、外面ロクロ横ナデ、後胴部下半ヘラ削り	砂粒、スコリアを含む	良　好	白褐色
7	土師	杯	内、外面ロクロ横ナデ、底部会員回転糸切り	金雲母を多く含む	良　好	明褐色
8	土師	杯	内、外面ロクロ横ナデ、底部回転糸切り	金雲母を多く含む	良　好	明褐色
9	土師	皿	内、外面ロクロ横ナデ	砂粒、金雲母を多く含む	良　好	白褐色 一部赤褐色 と黒灰色
10	土師	皿	内、外面ロクロ横ナデ	砂粒、金雲母を多く含む	良　好	外、明褐色 内、白褐色
11	土師	皿	内、外面ロクロ横ナデ	微砂粒、スコリア若干含む	良　好	明褐色
12	土師	杯	内、外面ロクロ横ナデ	金雲母を多く含む	良　好	黄褐色
13	土師 （内黒土器）		内、横方向のヘラ磨き、外、ロクロ横ナデ	砂粒、スコリアを多く含む 外口縁部より約１㎝黒色	良　好	内、内　黒 他、白褐色
14	土師	内 黒碗	内面縦方向の磨き（暗文） 外面縦方向のナデ（棒状工具）	砂粒、小石、金雲母を多く含み やや粗い	良　好	内、黒　色 外、黒褐色
15	灰袖	皿	ロクロ横ナデ、後付高台、内・外面自然袖付	緻密	良　好	明灰色
16	灰袖	杯	ロクロ横ナデ、後付高台、内・外面自然袖付	緻密、若干の小石を含む	良　好	灰白色
17	灰袖	杯	ロクロ横ナデ、後付高台、内・外面自然袖付	緻密、若干の小石を含む	良　好	灰白色
18	灰袖	杯	ロクロ横ナデ、後付高台、内面みこみ部に自然袖	緻密、若干の小石を含む	良　好	明白色
19	土師	皿	内、外面ロクロ横ナデ、内外面口縁部に煤付着	砂粒、スコリア、若干の金雲母を多く含む	良　好 剥落あり	白褐色
20	土師		外面・胴部縦刷毛、口唇部横刷毛 内面・胴部、口唇部横刷毛	砂粒、金雲母を含む	良　好	暗褐色
21	土師 （内黒土器）	皿	内、外面ロクロ横ナデ、後付高台 （台部の二次利用）	砂粒、スコリアを含む	良　好	内、黒　色 外、白褐色
22	土師	羽釜	内、外面ナデ整形、鍔部指頭圧痕あり	砂粒、スコリアを含む	軟　質	暗褐色
24	土師	内耳	ロクロ	砂粒を多く含む	良　好	明灰褐色
23	土師	釜	内、外面ナデ整形、把手に一部篦状工具による圧痕あり	砂粒、小石を含みやや粗い	良　好	白褐色
25	土師	羽釜	外面鍔部上部縦方向の指ナデ、鍔部後付の際の爪痕あり、内面粗いナデ整形	砂粒を多く含みやや粗い	良　好	暗白褐色

図面番号	種類	器形	整形	胎土	焼成	色調
2号住居址						
1	土師	杯	ロクロ横ナデ、外面ヘラ削り、底部糸切り後篦削り	精製、スコリアを多く含む	良好	暗褐色
2	灰袖	杯	ロクロ横ナデ、付高台、内・外面自然袖	緻密、若干の小石を含む	良好	灰褐色
3	土師	杯	ロクロ横ナデ	砂粒、スコリアを含む	良好	茶褐色
4	土師	杯	ロクロ横ナデ	精製、微砂粒含む	良好	灰褐色
5	灰袖	皿	ロクロ横ナデ、内・外面自然袖	緻密	良好	白灰色
6	土師		外面縦方向の刷毛整形、内面横方向の細かい刷毛（ナデ？）整形、口縁部内外面横方向の刷毛整形	砂粒を多く含み若干の金雲母も含む	良好	赤褐色
7	土師	羽釜	輪積み、外面指整形後縦方向のナデ、内面指整形後縦方向のナデ（刷毛？）	砂粒、小石を含み粗い	良好	外、明黄褐色 内、暗褐色
3号住居址						
1	土師	皿	内、外面ロクロ横ナデ、内外面口縁部に	スコリアを含む	軟質	明褐色
2	土師	皿	内、外面ロクロ横ナデ、底部回転糸切り手捏ね	微砂粒を多く含む 砂粒を多く含む	良好 良好 （やや軟質）	明黄褐色 白褐色 （一部灰袖色）
3	土師	杯	内、外面ロクロ横ナデ、底部回転糸切り内面剥落あり	砂粒、スコリアを多く含む	良好	黒灰色
4	土師	杯	内、外面ロクロ横ナデ、底部回転糸切り内面に塊付着	砂粒、若干のスコリアを多く含む	良好	明褐色
5	陶製	小型碗	ロクロ、全面に施袖	若干の砂粒を含む	良好	明褐色 （袖色）
6	土師	羽釜	内面横方向の（ヘラ？）、外面ロクロ横ナデ	精製、微砂粒を含む	良好	暗褐色
土壙（ＳＫ－３）						
1	土師	杯	ロクロ横ナデ内面、縦横の磨き	砂粒を含む	良好	内、黒色 外、暗黄褐色
遺構外						
2	土師	杯	ロクロ横ナデ、内面剥落多し	スコリアを多く含む	良好	明褐色
3	青磁	碗	削り高台	精製、緻密	良好	青灰色

第Ⅳ章　持井北遺跡

i　遺跡の環境



第１図　持井北遺跡遺構分布図（1／300）

本遺跡は、山梨県北巨摩郡高根町村山北割字持井地内に所在し、標高約761ｍを測る。地形が南傾斜する尾根の東端に位置する。平成元年発掘調査した持井遺跡の北方約750ｍにある。

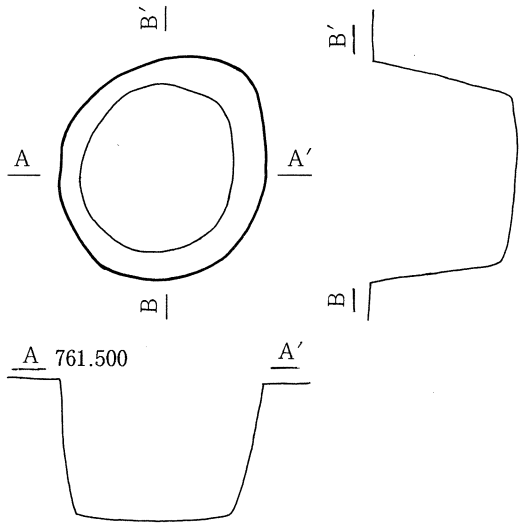
ii　検出された遺構

検出された遺構は、耕作により土が掘り動かされており、出土遺物により縄文時代前期の土壙１基のみであった。

(1)　土　　壙

１号土壙（ＳＫ－１）第２図

本遺跡内での土壙１基のみである。位置－グリッドＢ－２。形状－楕円形、長径58㎝・短径53㎝・深さ38㎝を測る。



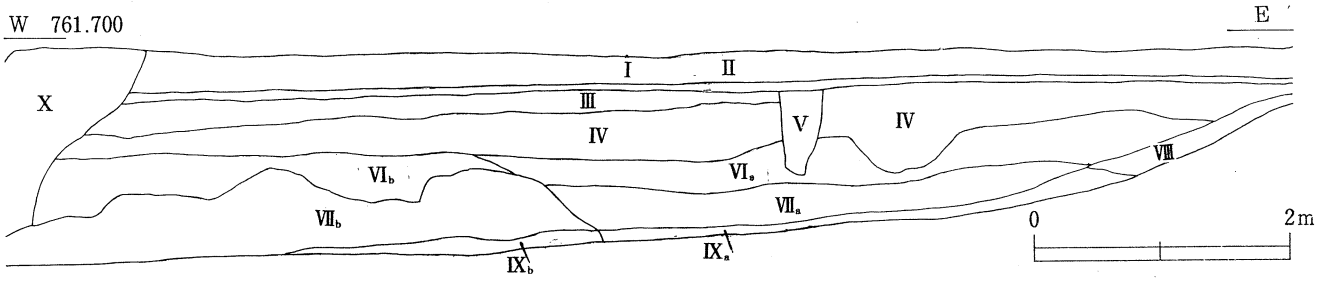
第２図　１号土壙（1／40）

南壁セクション

本遺跡調査区の南壁に、基本土層を把握するためにトレンチを行い、調査を実施した。

土層説明

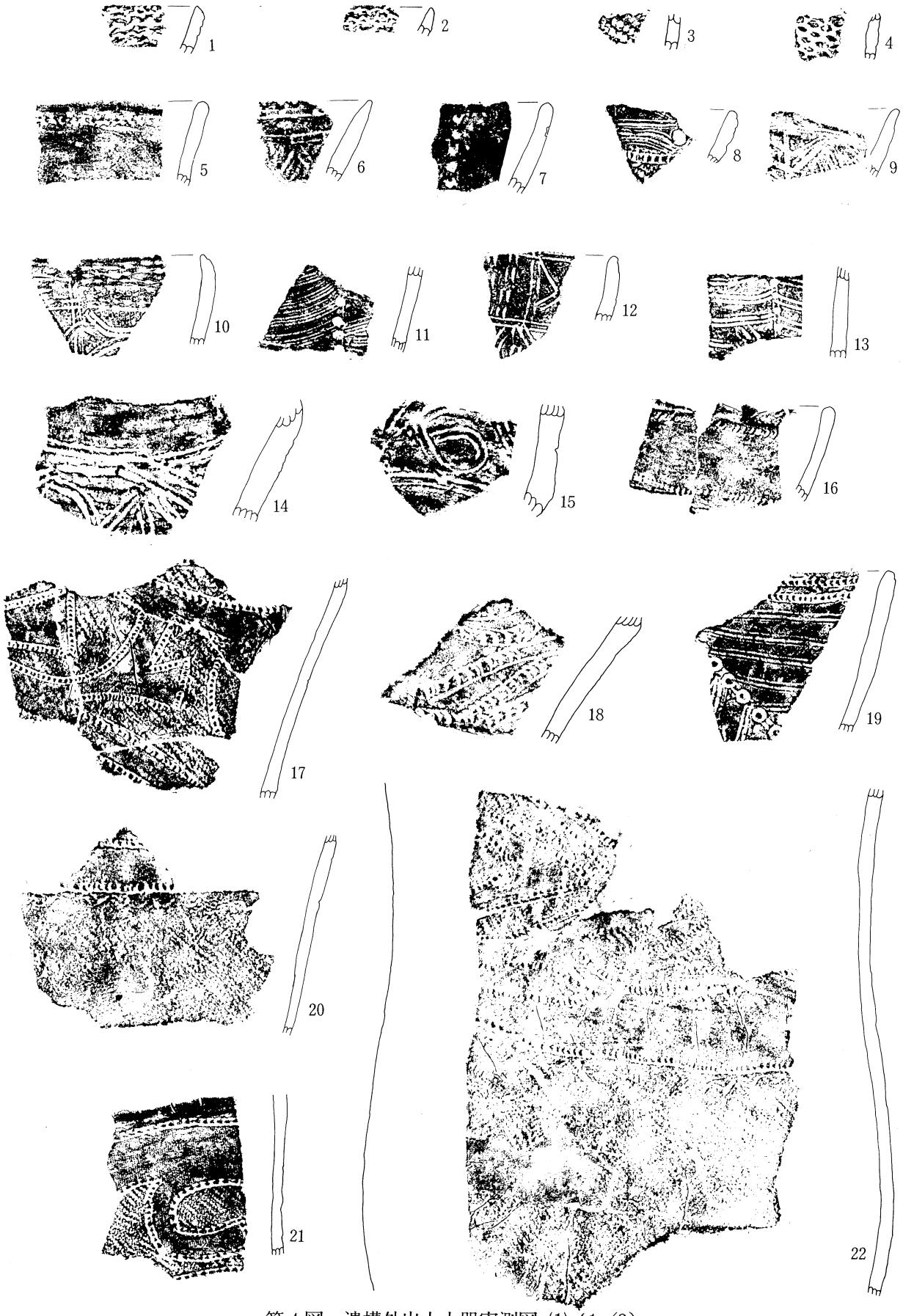
Ⅰ層　耕作土
Ⅱ層　不透水層（水田床土）
Ⅲ層　黄褐色土層、粘性弱、しまりあり（ローム粒子を含む）
Ⅳ層　茶褐色土層、粘性弱、しまりあり（ローム粒子、カーボンを含む）
Ⅴ層　黄褐色土層、粘性弱、しまり弱（ローム粒、カーボン、焼土粒子を含む）
Ⅵa層　暗褐色土層、粘性ややあり、しまりあり（ローム粒子、若干のカーボンを含む）
Ⅵb層　暗褐色土層、粘性ややあり、しまりあり（ローム粒子、若干のカーボン、拳大の礫を含む）
Ⅶa層　黒色土層、粘性あり、しまりあり（ローム粒子を含む）
Ⅶb層　黒色土層、粘性あり、しまりあり（ローム粒子、大小の礫を多量に含む）、礫層
Ⅷ層　暗黄褐色土層、ローム層
Ⅸa層　灰褐色土層、粘性強、はりあり
Ⅸb層　灰褐色土層、粘性強、はりあり（小礫を含む）
Ⅹ層　埋土（水田畔土）、どて



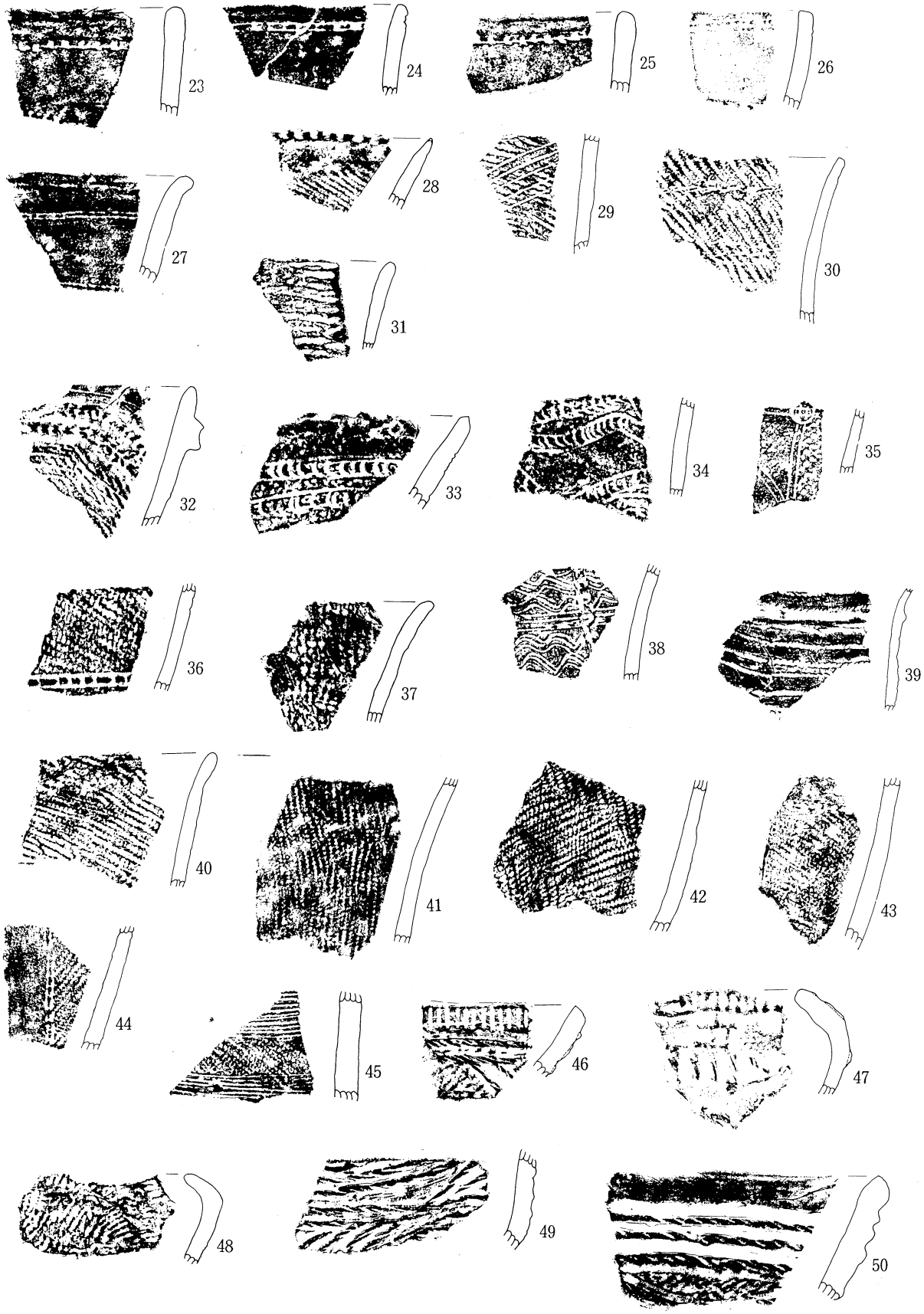
第３図　発掘区南壁セクション図（1／60）

iii　出土した遺物

出土遺物は、遺物包含層が比較的厚く、縄文時代前期後葉の諸磯式の土器を主として、縄文時代早期の押型文土器（第４図１～４）、石鏃・石匙・磨製石斧（第６図）が出土し、平安時代の土師・内黒土器（第７図）などがある。

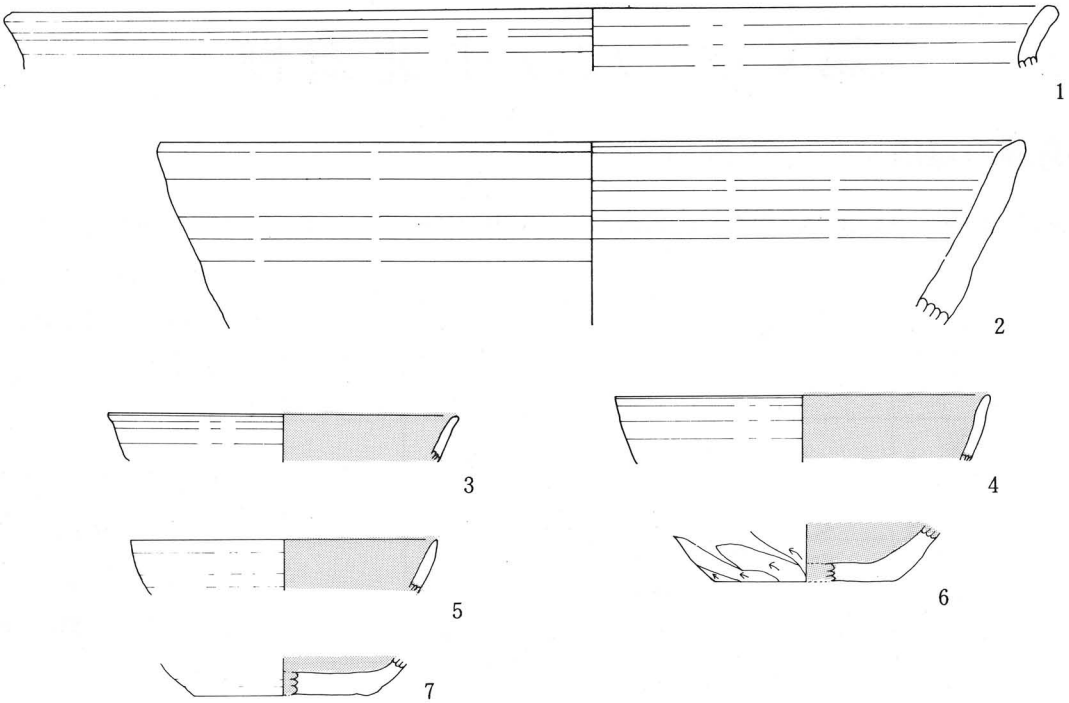


第４図　遺構外出土土器実測図 (1) (1／3)



第５図　遺構外出土土器実測図 (2) (1／3)

第６図　遺構外出土石器実測図（1／3）

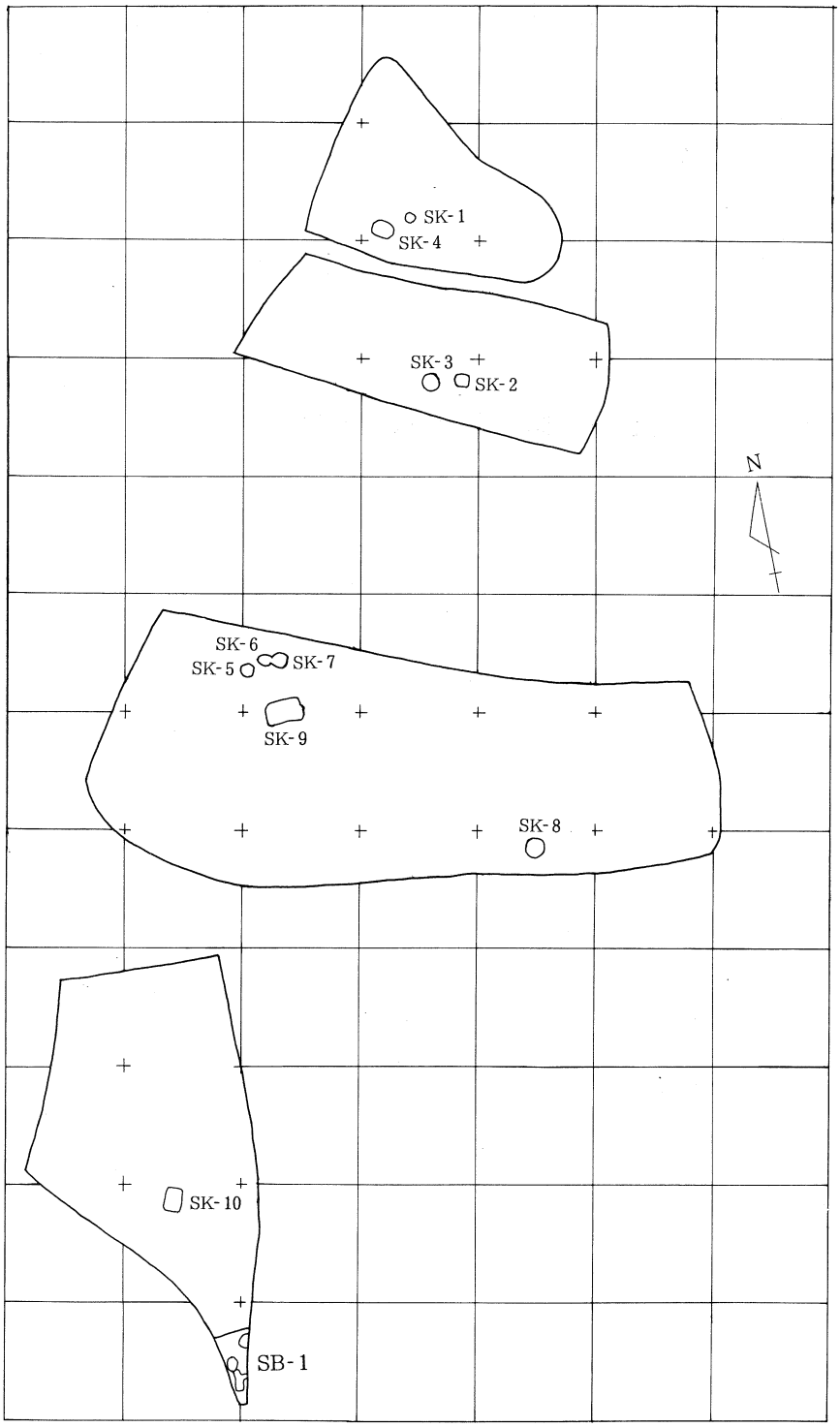


第７図　遺構外出土土器実測図（平安時代）（1／3）

第V章　八ッ牛北遺跡

i　遺跡の環境

本遺跡は、山梨県北巨摩郡高根町村山北割字八ッ牛地内に所在し、標高約760mを測る。地形は、緩やかに南に傾斜する尾根上の南西斜面に位置する。八ッ牛遺跡の北側に隣接し、同じ尾根上にある。調査年度が異なるため別の遺跡となっているが、連続した同一の遺跡である。



第1図　八ッ牛北遺跡遺構分布図

ii　検出された遺構

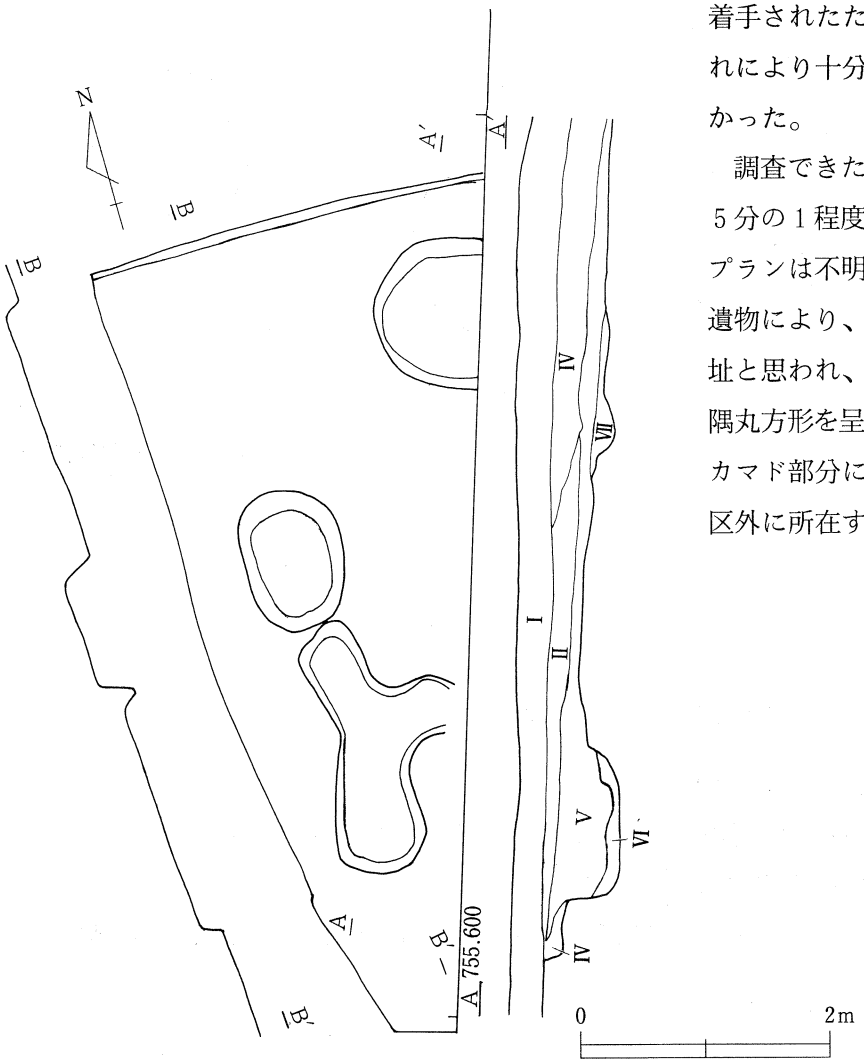
検出された遺構は、平安時代の住居址１軒、土壙は10基、この中で１号土壙に集石があり、８号土壙は井戸状の遺構であった。

(1)　竪穴住居址

１号住居址（ＳＢ－１）第２図

本遺構は南端（グリッドＥ－１）に位置し、本遺跡調査の前年度に圃場整備のため先に水路工事を着手されたため、住居址はこれにより十分な調査はできなかった。

調査できたのは全体のほぼ５分の１程度であった。平面プランは不明であるが、出土遺物により、平安時代の住居址と思われ、１辺５ｍ前後の隅丸方形を呈すると思われる。カマド部分については、調査区外に所在する。



第２図　１号住居址及びセクション図（1／60）

土層説明

Ⅰ層　耕作土（黒褐色土層）、しまりなく、粘性ややあり
Ⅱ層　暗黄褐色土層、しまりややあり、粘性ややあり（不透水層）
Ⅲ層　黒褐色土層、　〃　、　〃　（　〃　）
Ⅳ層　〃　、　〃　、　〃　（ロームブロックを含む）
Ⅴ層　〃　、　〃　、　〃　（ローム粒を含む）
Ⅵ層　〃　、　〃　、　〃　（炭化物を含む）
Ⅶ層　黄黒褐色土層、しまりなし、粘性なし（焼土、炭化物を含む）

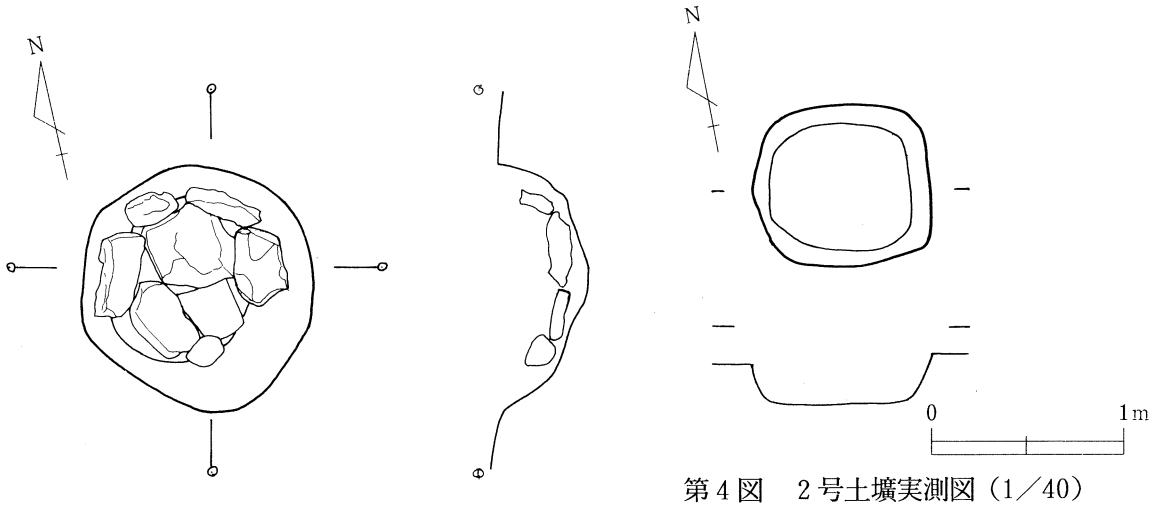
(2) 土　　壙

1号土壙（ＳＫ－１）第3図

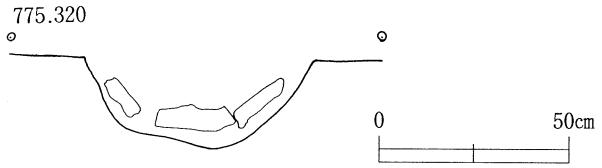
位置－グリッドＤ－11。形状－楕円形、長径66cm・短径62cm・深さ24cmを測る。石の大きさは拳、人頭大のものである。

2号土壙（ＳＫ－２）第4図

位置－グリッドＤ－９。形状－楕円形、長径94cm・短径86cm・深さ22cmを測る。



第４図　２号土壙実測図（1／40）



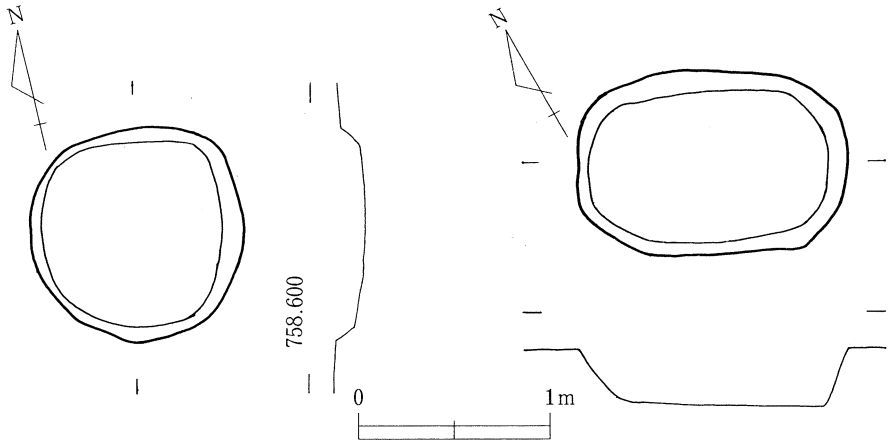
第３図　１号土壙実測図（1／20）

3号土壙（ＳＫ－３）第5図

位置－グリッドＤ－９。形状－円形、直径１ｍ12cm・深さ14cmを測る。

4号土壙（ＳＫ－４）第6図

位置－グリッドＤ－11。形状－楕円形、長径１ｍ42cm・短径24cm・深さ24cmを測る。



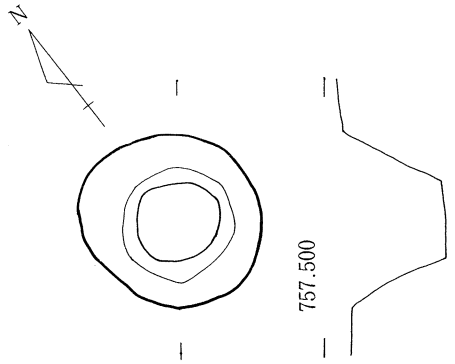
第５図　３号土壙実測図（1／40）　　第６図　４号土壙実測図（1／40）

5号土壙（ＳＫ－５）第７図

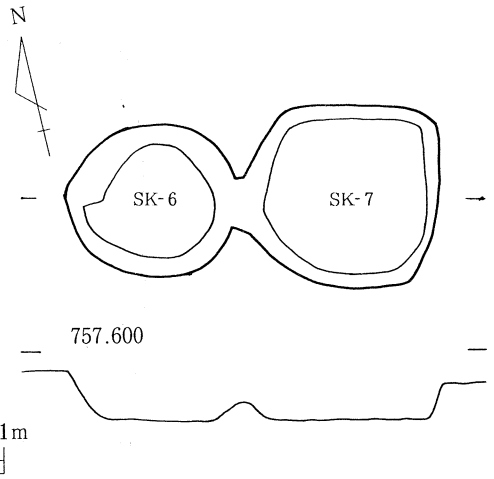
位置－グリッドＣ－７。形状－楕円形、長径１ｍ・短径90㎝・深さ52㎝を測る。

６・７号土壙（ＳＫ－６・ＳＫ－７）第８図

位置－グリッドＣ－７。両土壙は結合していた。６号土壙の形状－円形、直径92㎝・深さ24㎝。７号土壙の形状－楕円形、長径１ｍ４㎝・短径96㎝・深さ30㎝を測る。



第７図　５号土壙実測図（1／40）



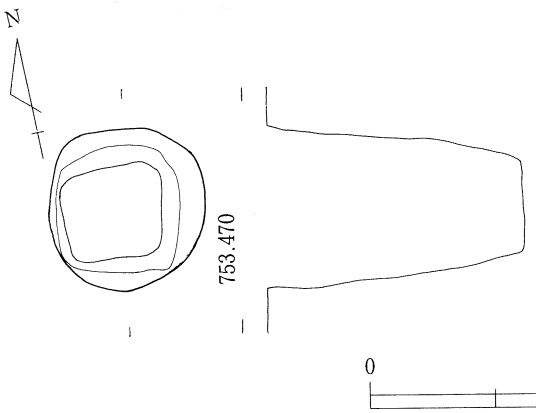
第８図　６号・７号土壙実測図（1／40）

８号土壙（ＳＫ－８）第９図

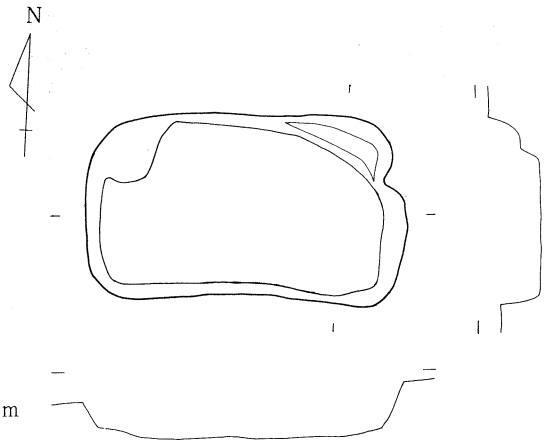
位置－グリッドＥ－５。形状－楕円形、長径１ｍ30㎝・短径１ｍ24㎝・深さ２ｍ20㎝。これは、井戸状の遺構と推測される。

９号土壙（ＳＫ－９）第10図

位置－グリッドＣ－９、Ｃ－７にまたがる。形状－隅丸方形、長径２ｍ54㎝・短径1ｍ44㎝・深さ38㎝を測る。



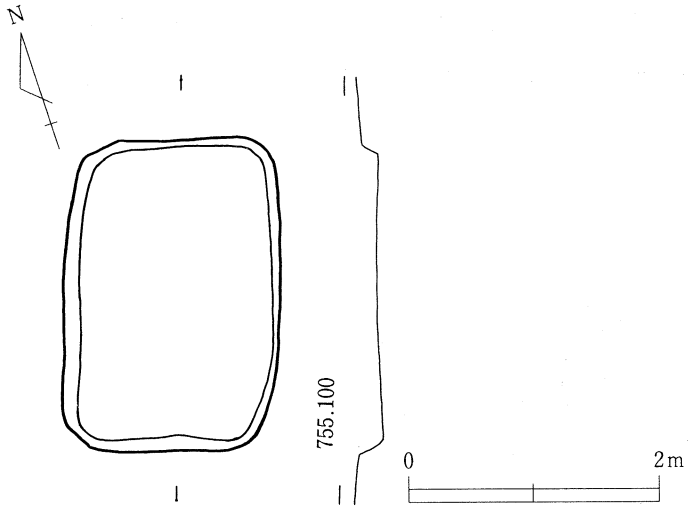
第９図　８号土壙実測図（1／60）



第10図　９号土壙実測図（1／60）

10号土壙（ＳＫ－10）第11図

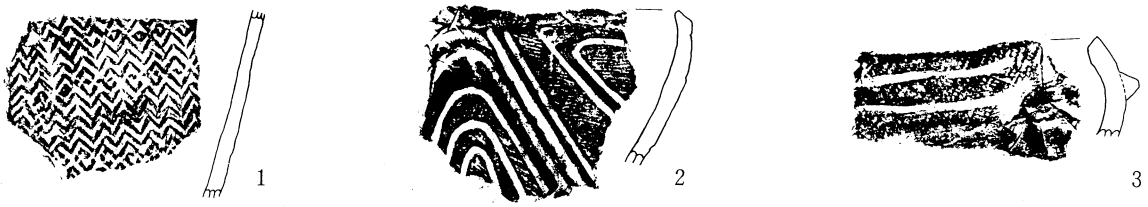
位置－グリッドＢ－２。形状－隅丸方形、長径１ｍ72㎝・短径１ｍ72㎝・深さ８㎝を測る。



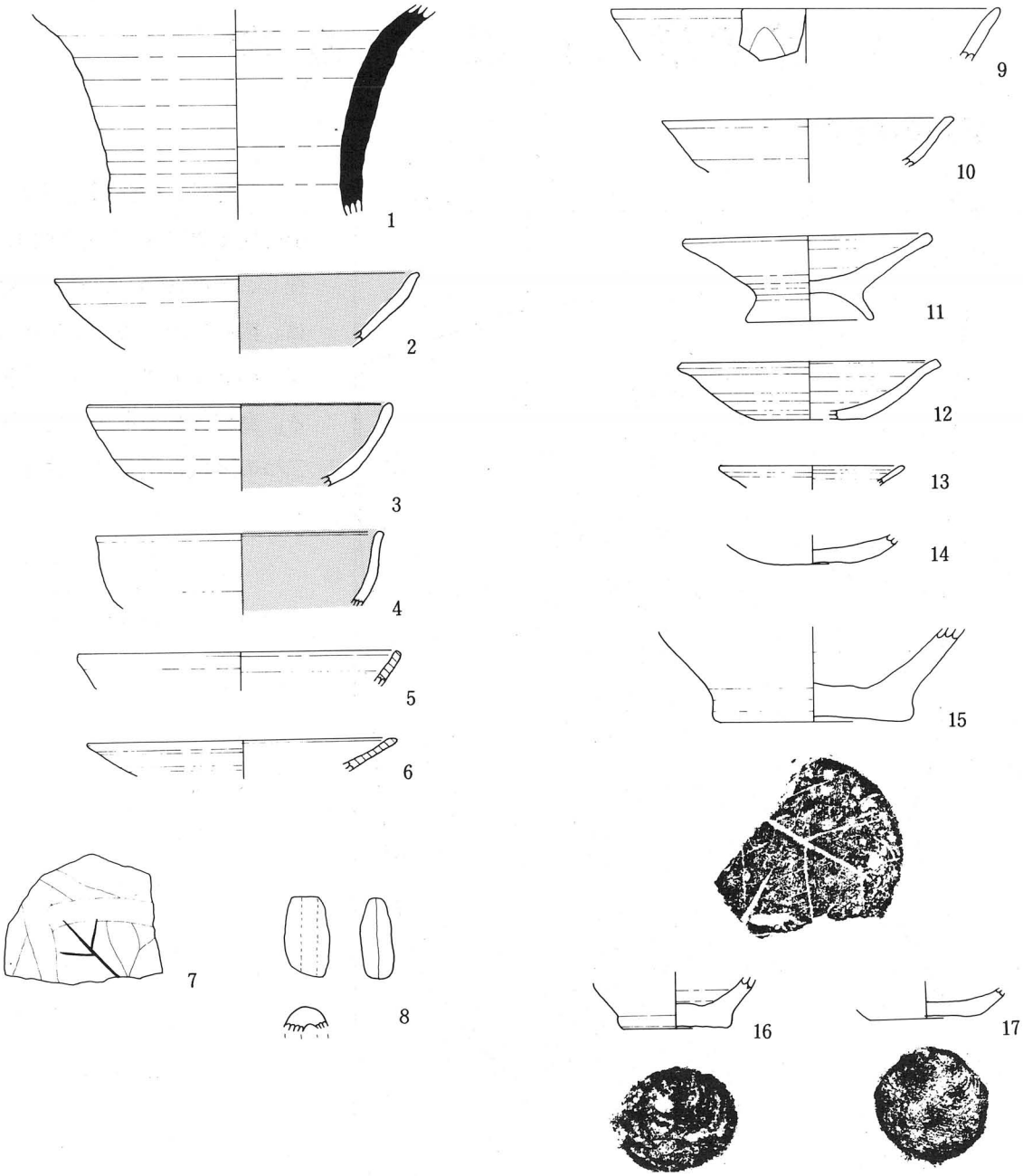
第11図　10号土壙実測図（1／60）

iii　出土した遺物

出土した遺物は、縄文時代前期の押型文土器（第12図１）縄文時代後期（第12図２）、縄文時代晩期（第12図３）、平安時代の土師器（第13図９～14）内黒土器（第13図２・３・４）、須恵器（第13図１）、灰釉陶器（第13図５・６）、土錘（第13図８）などが出土した。



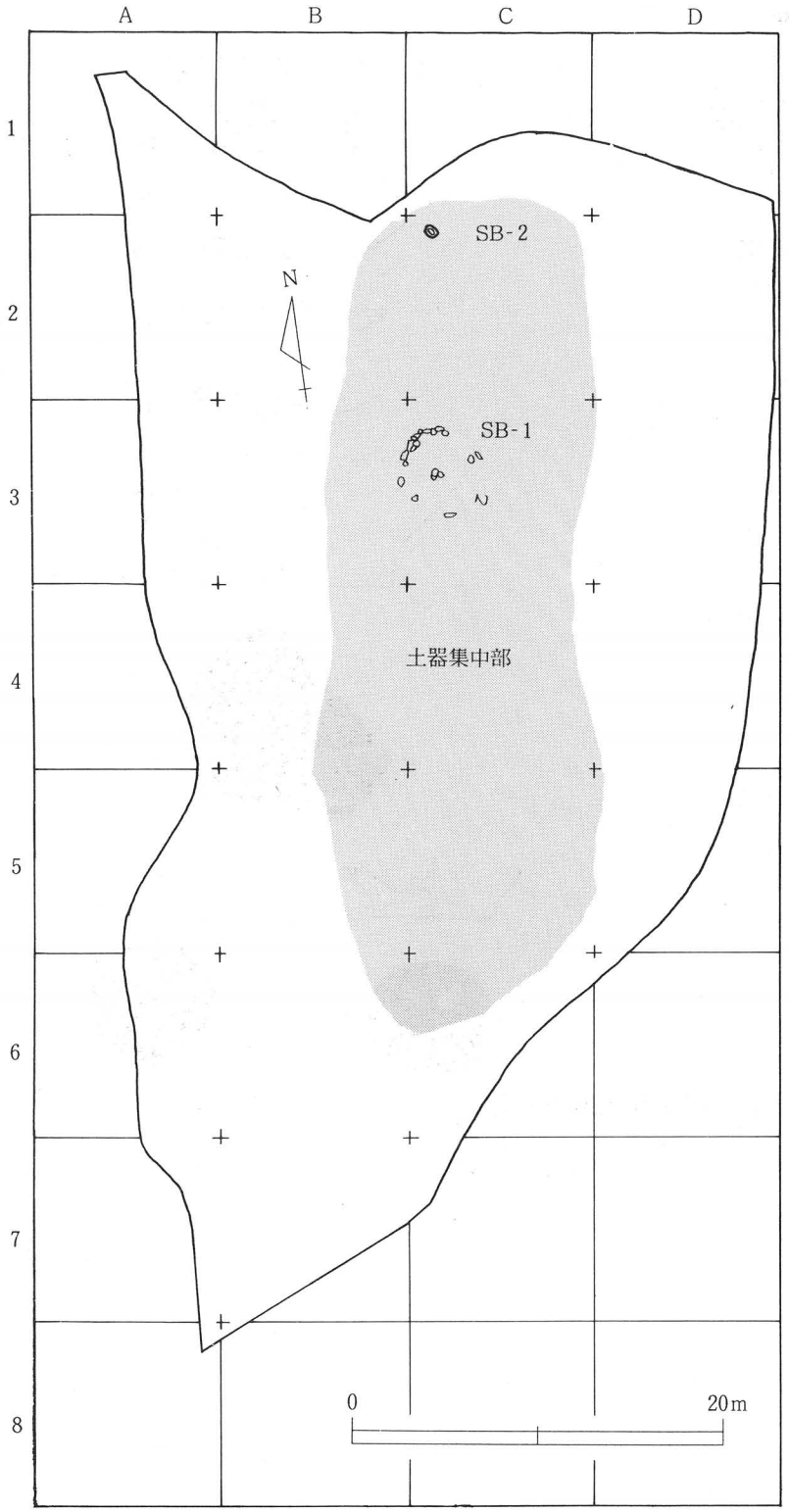
第12図　遺構外出土土器実測図（1／3）



第13図　遺構外出土遺物実測図（1／3）

第Ⅵ章　下風呂遺跡

i　遺跡の環境



第１図　下風呂遺跡遺構分布図（1／400）

本遺跡は、山梨県北巨摩郡高根町村山東割字下風呂地内に所在し、標高700ｍを測る。地形は、南に傾斜するやせ尾根の東斜面の沢に近接する所に位置する。高根中学校前の道路南下の二つの尾根に挟まれた窪地である。

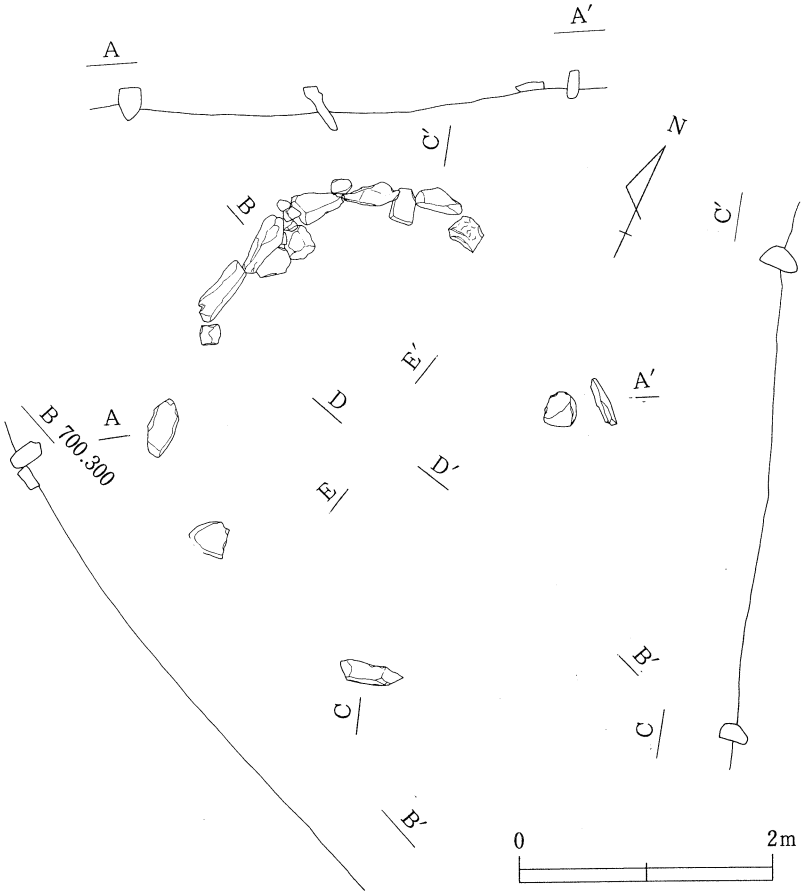
ii　検出された遺構

検出された遺構は、縄文時代後期の住居址２軒のみで、炉により確認された。

(1)　竪穴住居址

１号住居址　第２図

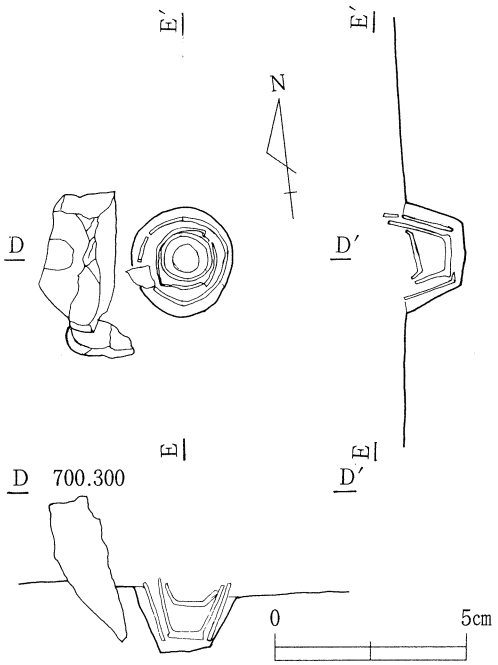
２号住居址の北（グリッドＣ－３）に位置する。２号住居址と同様に掘り下げて、最下層面に至ったが、柱穴は確認できなかった。楕円形の石囲いの住居址で、長径３ｍ96㎝・短径３ｍ68㎝を測る。住居址はほぼ中央に石囲い埋甕炉が出土した。形状は円形、直径30㎝・深さ16㎝を測り、三つ重ねになって三個の土器が埋め込まれていた。縄文時代中期後葉と推測され、当町最初の出土事例である。



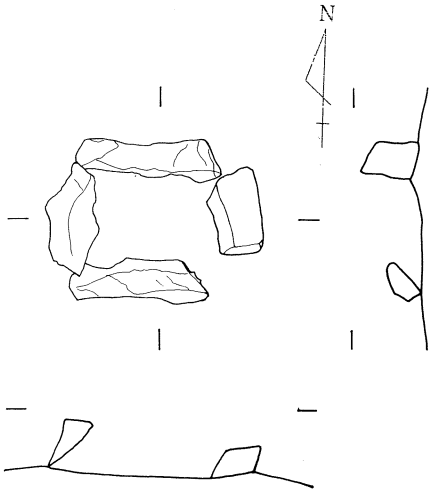
第２図　１号住居址実測図（1／60）

２号住居址

本遺跡の北側（グリッドＣ－２）に位置する表土をはがしながら遺物を回収し、遺物包含層（黒色土）を掘り下げて行くと、石囲い炉が検出されたため住居址と確認した。精査を行ったが柱穴は確認できなかった。石囲い炉は、東西55㎝・南北40㎝を測る。調査中において、炉として判定できなかったため、炉内覆土を全部除去したため、炉内の状況は不明であるが、炉自体の構築はしっかりつくられていた。



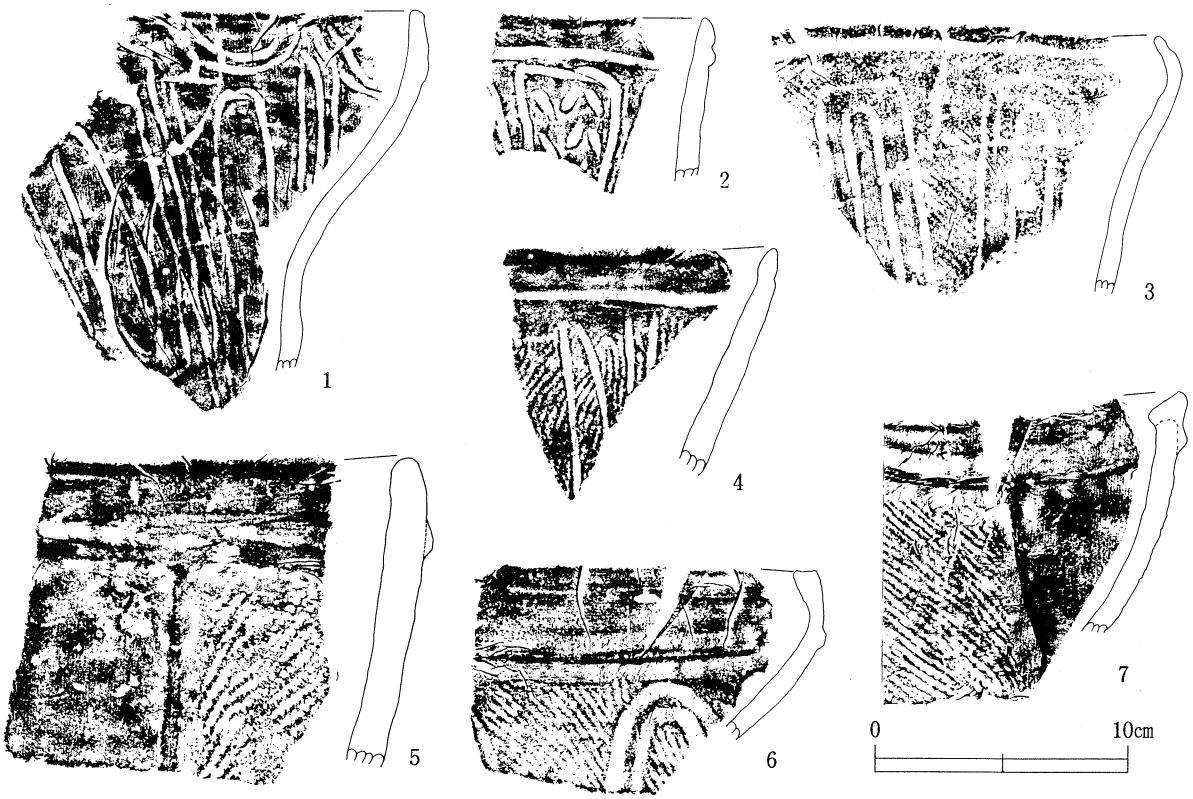
第３図　１号住居址石囲い埋甕炉実測図（1／20）



第４図　２号住居址石囲い炉実測図（1／20）

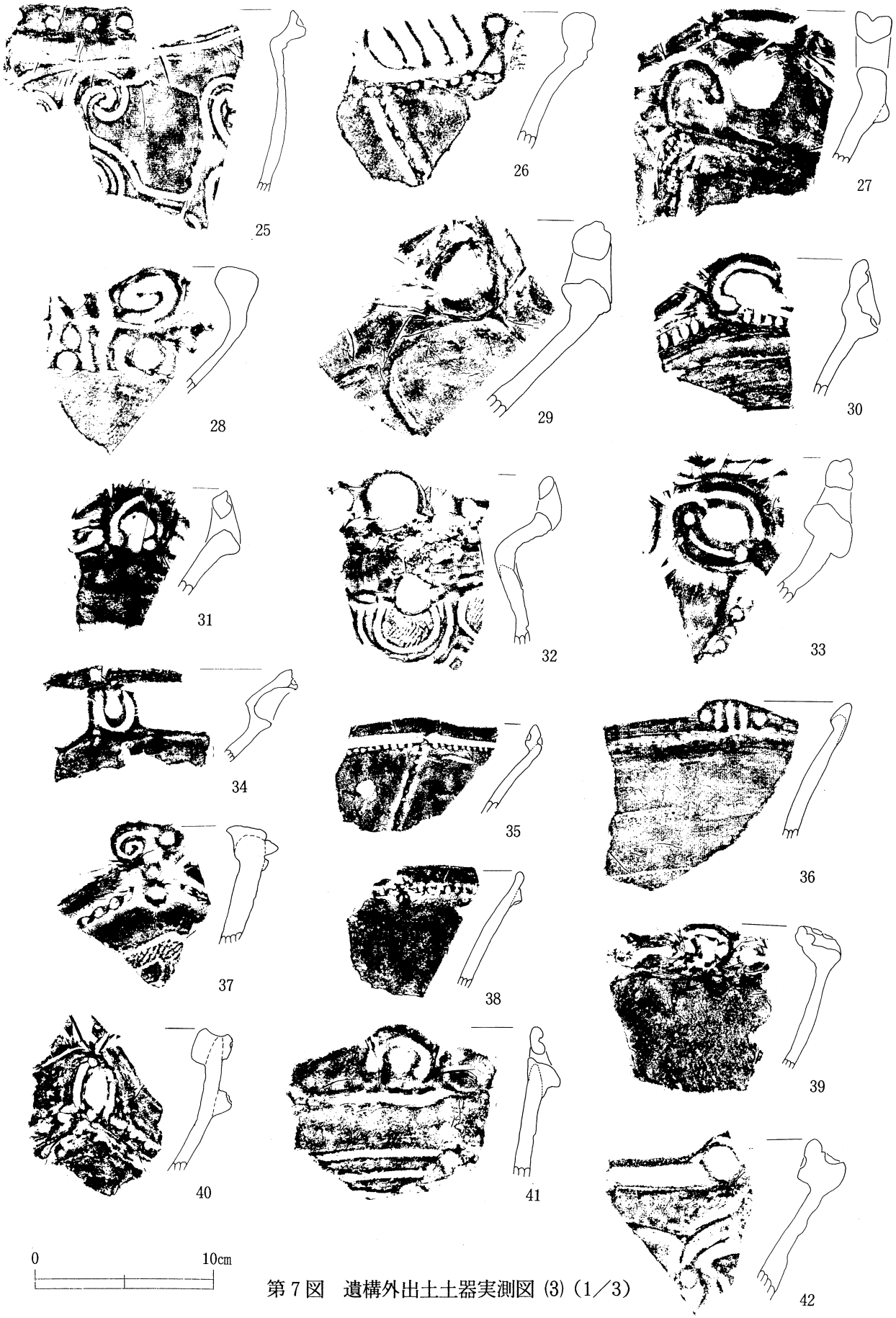
iii　出土した遺物

出土遺物は、遺物包含層が比較的厚く、縄文時代中期最終末から後期中葉にかけての土器（第５図～10図）、網代底土器（第11図）土偶（破片、第12図）、石鏃・石斧（第13図）、石棒（図版２）などが多量に出土した。平安時代の土師、須恵器など数点、また銭（１枚）が出土した。



第５図　遺構外出土土器実測図 (1)（1／3）

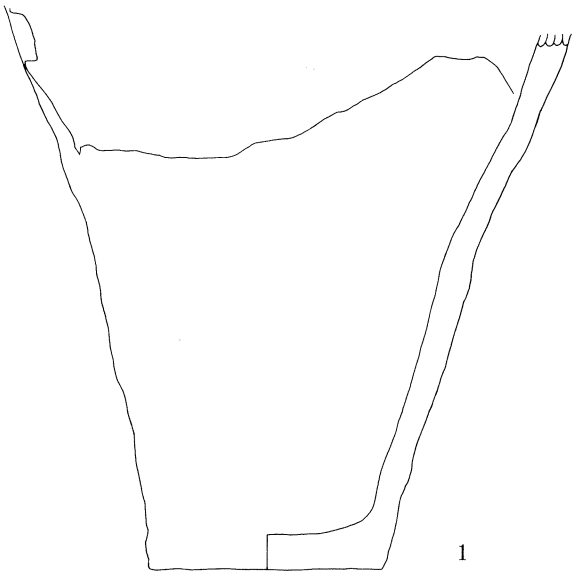
第６図　遺構外出土土器実測図 (2) (1／3)

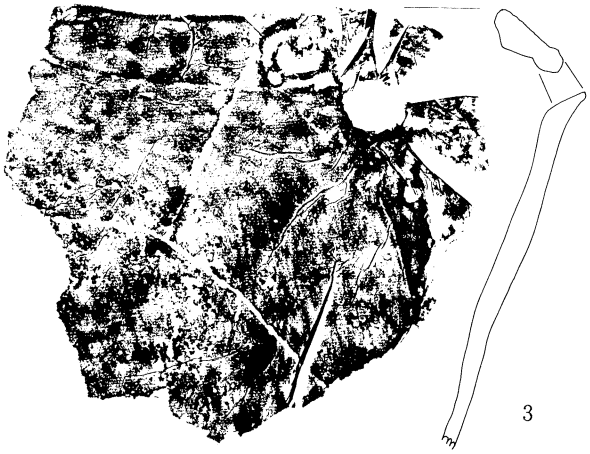


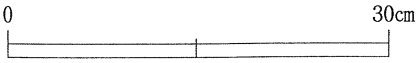
第７図　遺構外出土土器実測図 (3) (1／3)

第８図　遺構外出土土器実測図 (4)（1／3）

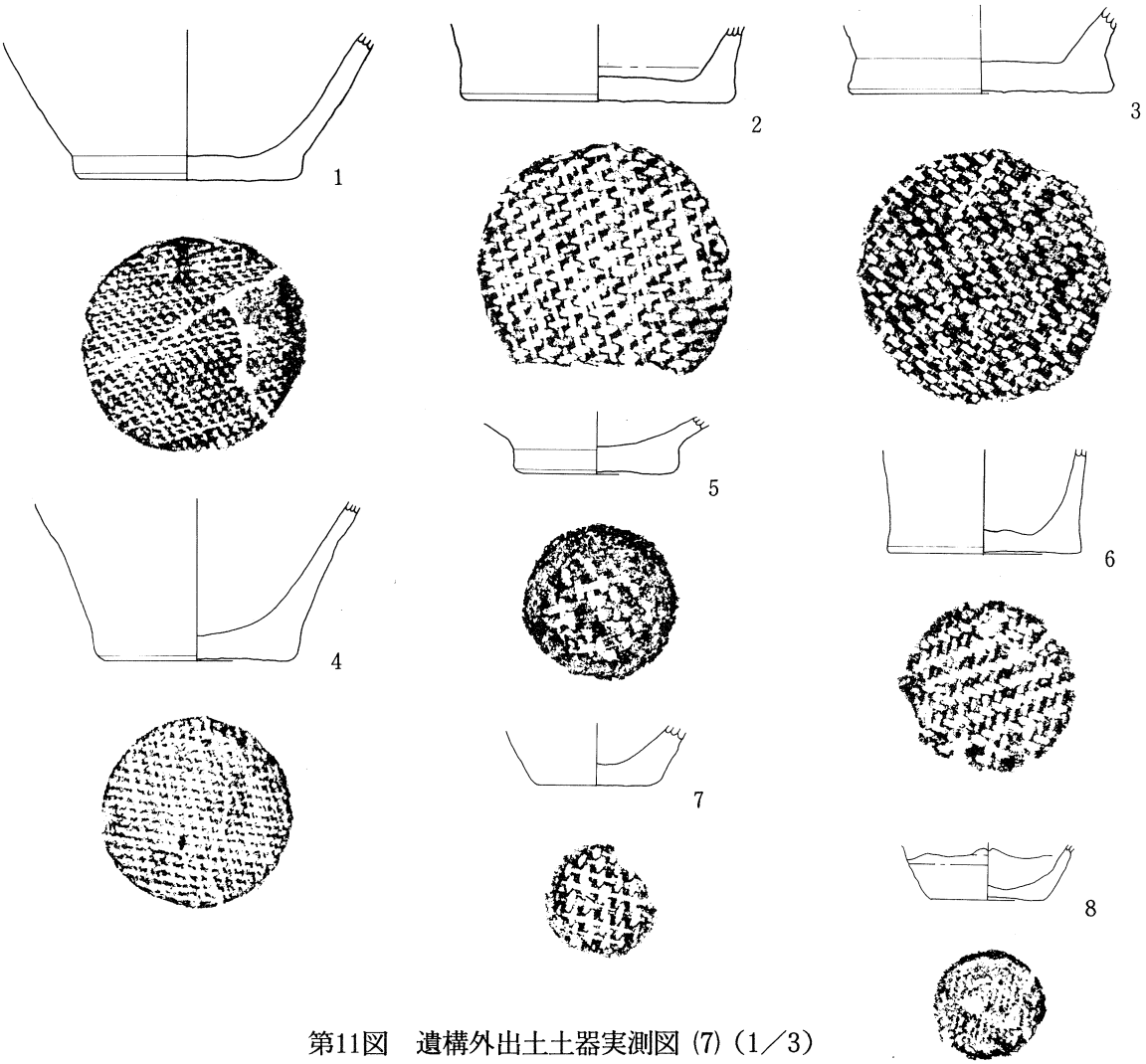
第９図　遺構外出土土器実測図 (5) (1／6)



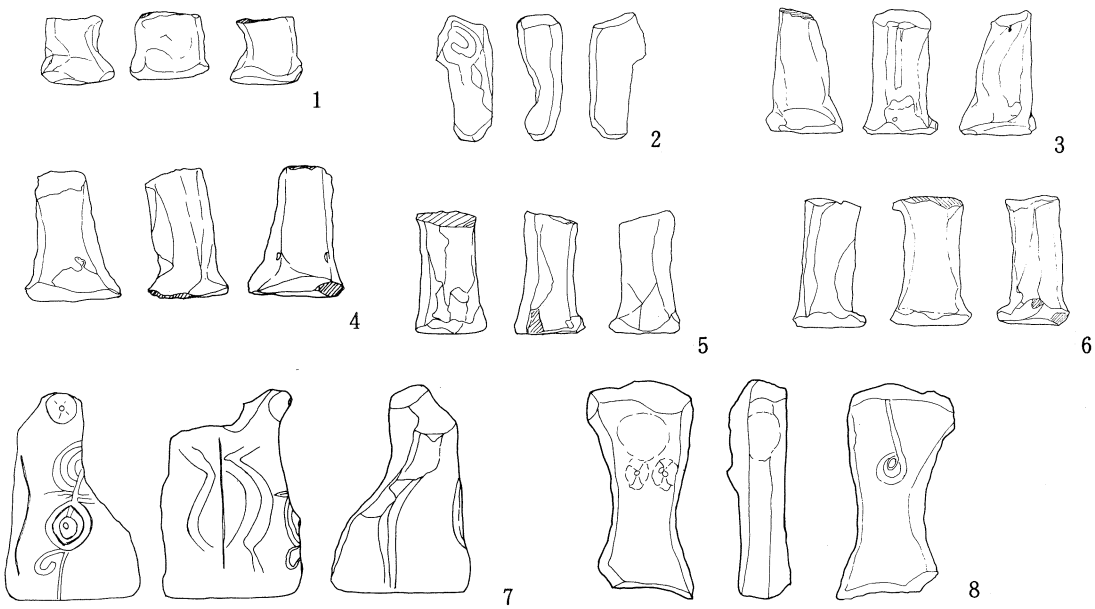




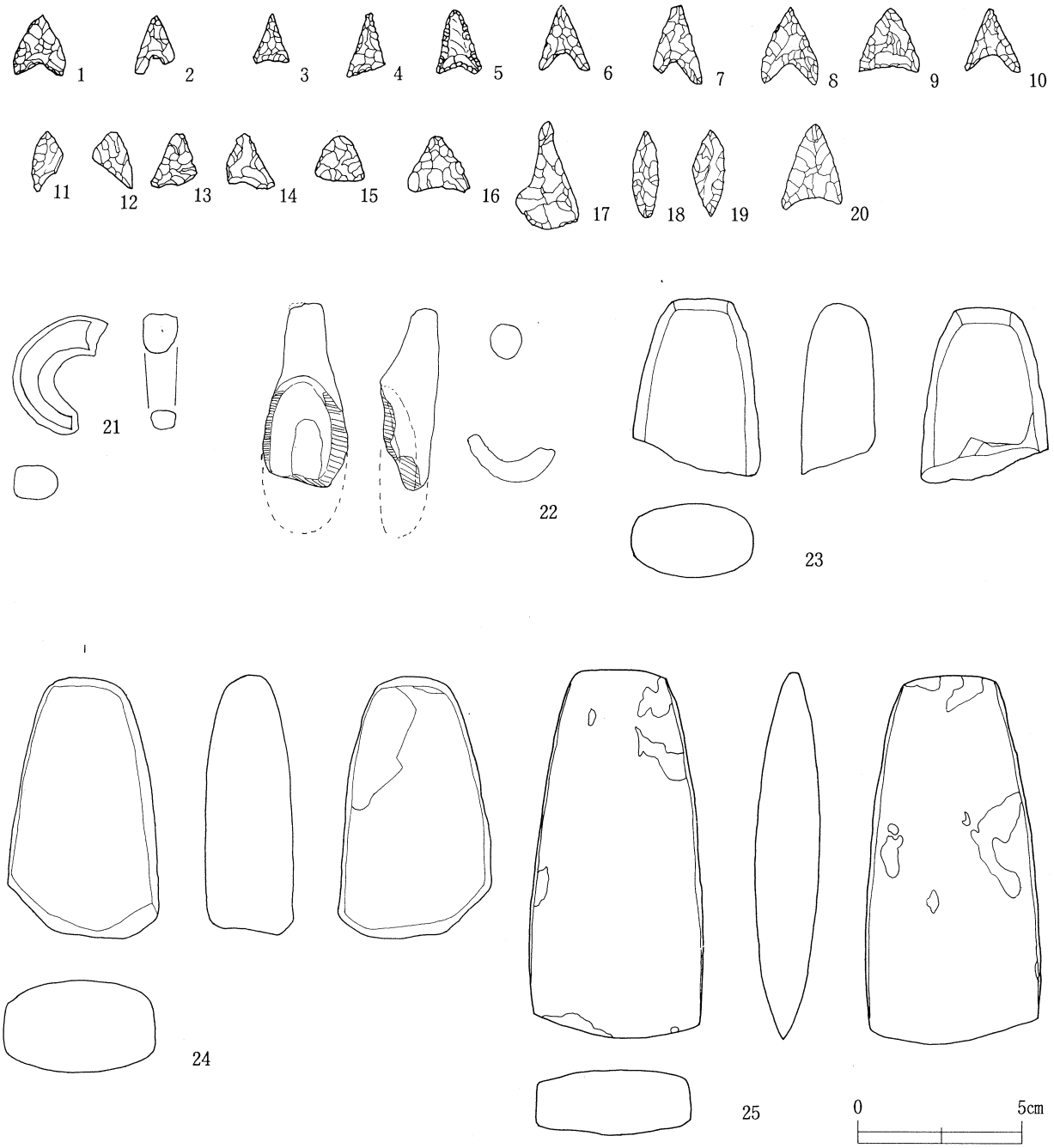
第10図　遺構外出土土器実測図 (6) (1／6)



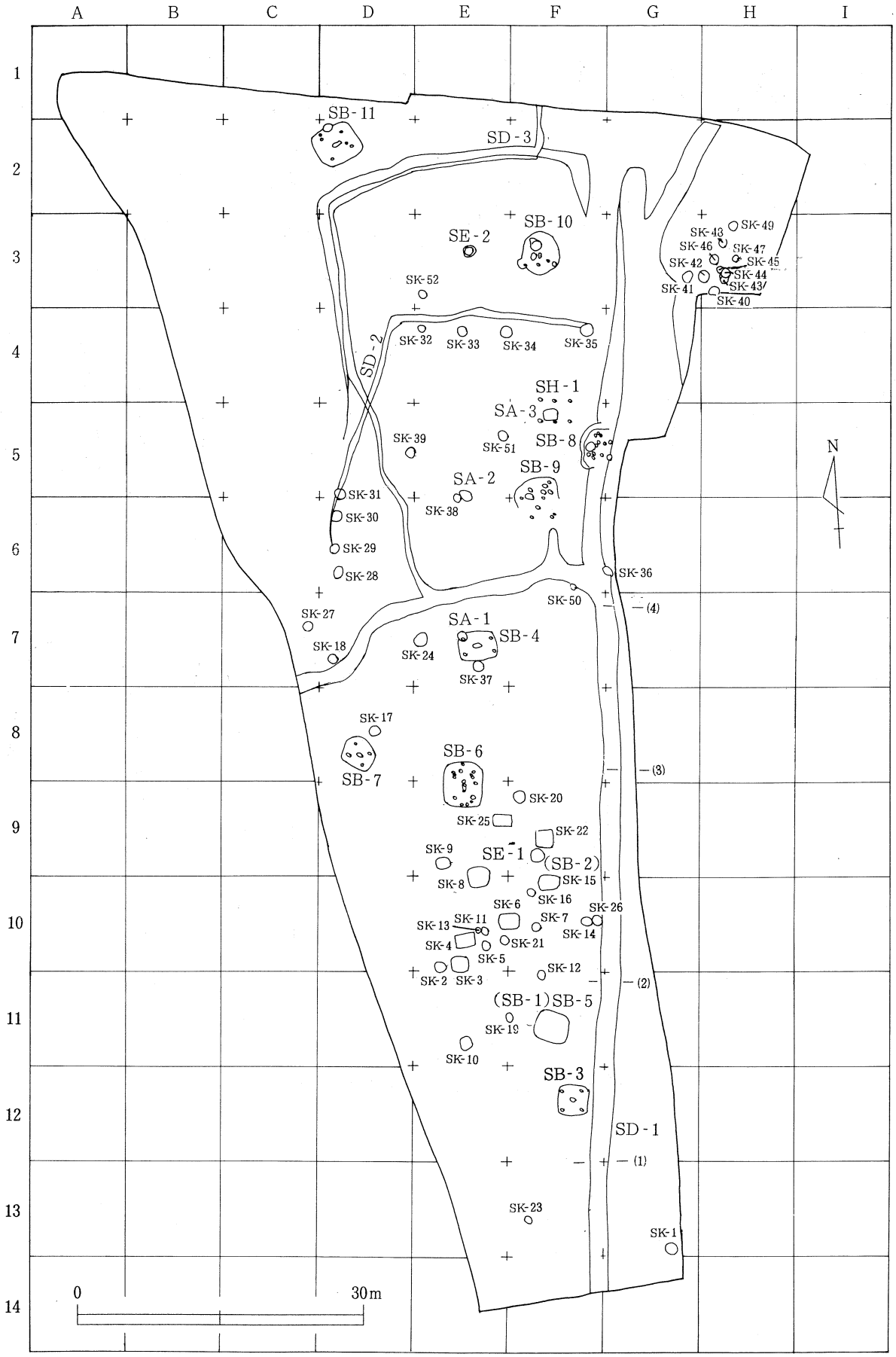
第11図　遺構外出土土器実測図 (7) (1／3)



第12図　遺構外出土土偶実測図 (1／3)



第13図　遺構外出土遺物実測図（1／2）



第１図　米田遺跡遺構分布図（１／600）

第Ⅶ章　米　田　遺　跡

i　遺跡の環境

本遺跡は、山梨県北巨摩郡高根町村山北割字米田地内に所在し、標高775ｍを測る。地形はゆるやかに南傾斜する尾根上に位置する。平成５年調査の米田遺跡の南に接する。縄文時代から近世に渡る遺跡である。

ii　検出された遺構

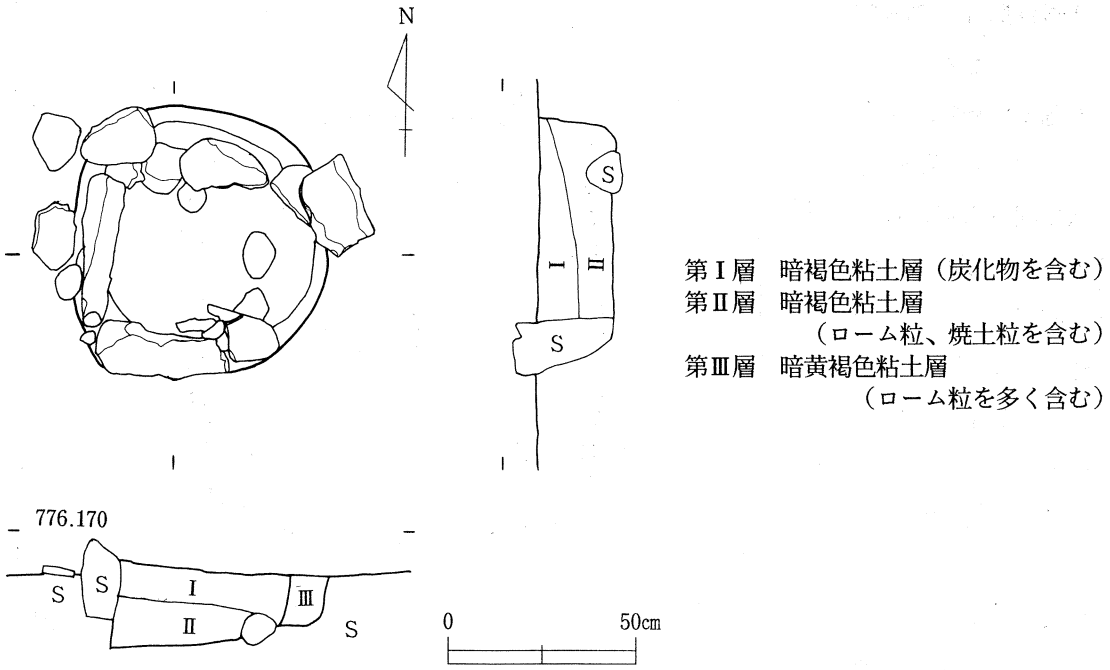
検出された遺構は、縄文時代前期の住居址10軒（その内炉１基）、縄文中期の住居址１軒、縄文時代の土壙５基、中世以降の土壙45基、近世の井戸２基・溝３条・掘建柱建物址１棟である。

(1)　竪穴住居址

住居址は、南北に延びる比較的やせた尾根上に点在し、縄文時代前期の住居址10軒、縄文時代中期の住居址１軒の計12軒を検出している。縄文時代中期の１号住居址、以下２号～11号までは縄文時代前期の住居址である。以下に、ここに説明する。

１号住居址（ＳＢ－１）第２図

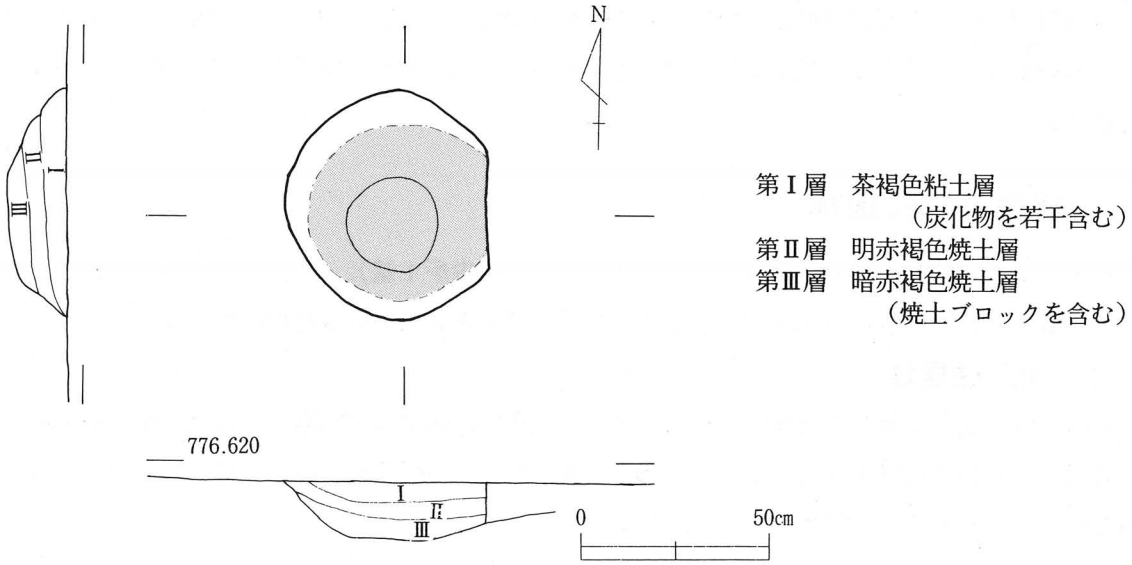
本遺跡の南側（グリッドＦ－11）に位置する。炉の存在により確認したが、柱穴は存在しないため、屋外炉としての可能性がある。炉は、全長74cm・幅78cm・深さ20cm・炉石15個。



第２図　１号住居址石囲い炉実測図（１／20）

2号住居址（ＳＢ－２）第３図

本遺跡のやや中央側（グリッドＦ－９）に位置する。焼土の残存によって炉とした。しかし、精査を行ったが柱穴は検出されなかったため、屋外炉の可能性がある。形状は楕円形、長径64㎝・短径54㎝を測る。



第３図　２号住居址炉実測図（１／20）

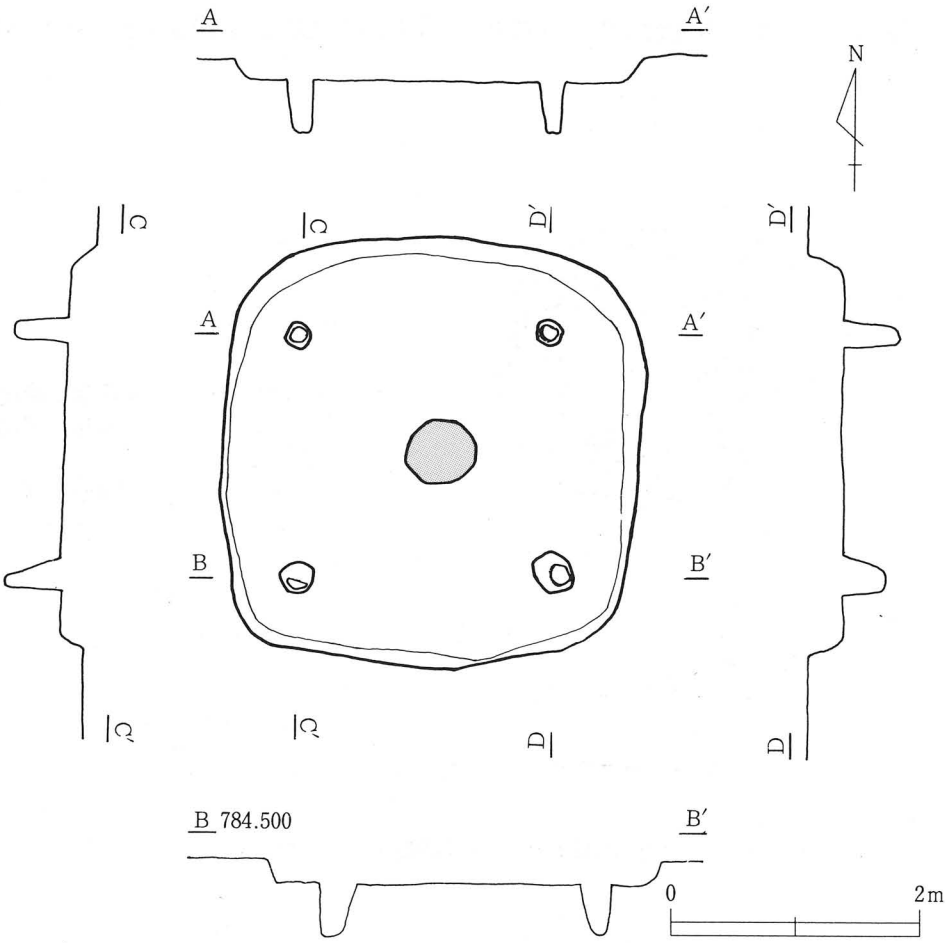
３号住居址　第４図
（ＳＢ－３）

本遺跡の南側（グリッドＦ－12）に位置する。形状は隅丸方形、長軸３ｍ40㎝・短軸３ｍ28㎝を測る。

柱穴は４本検出され、いずれも主柱穴である。

床面はローム面を平坦に整形し比較的硬くしまっていた。

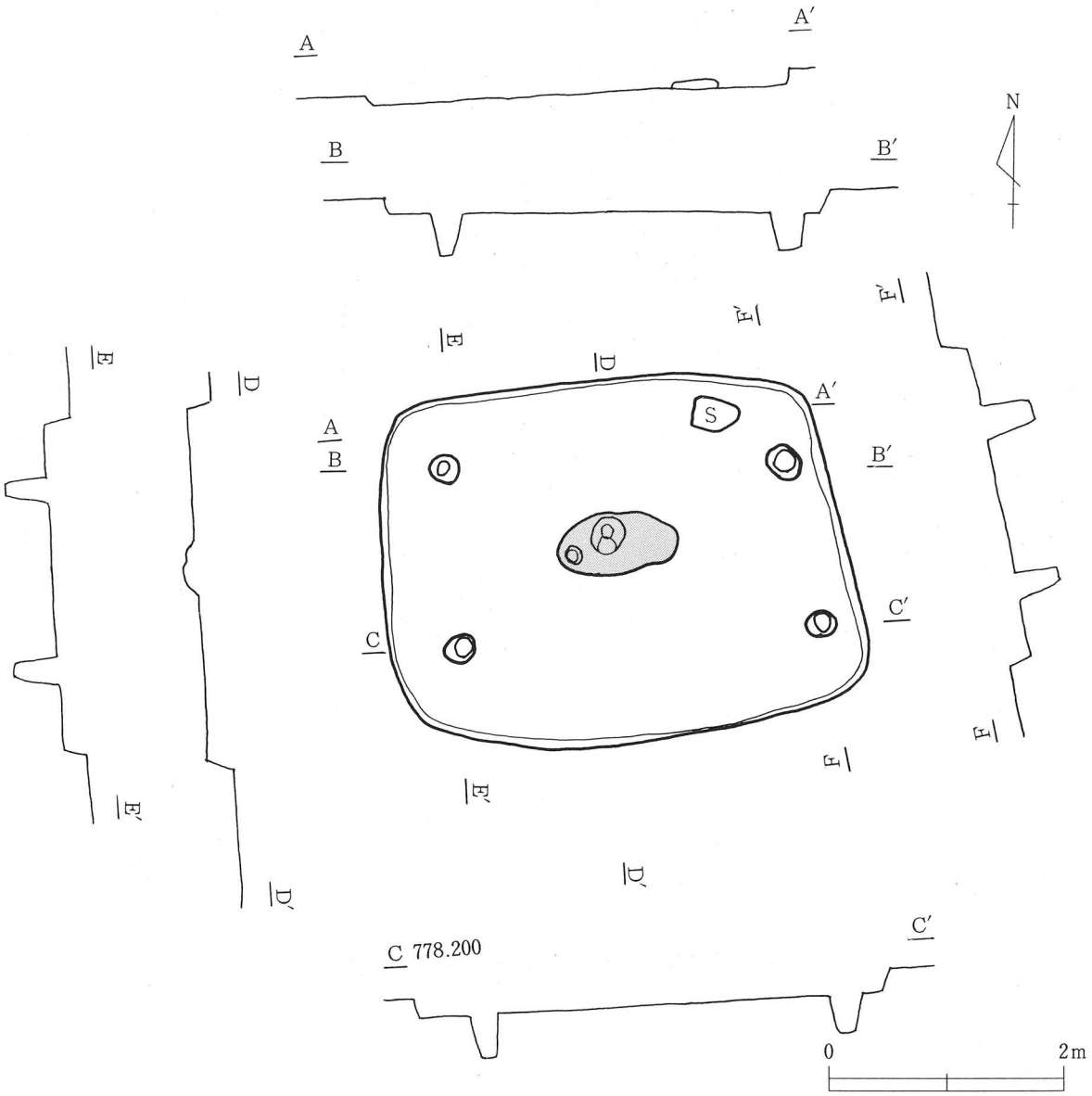
炉は住居内のほぼ中央部にあり、焼土の残存状況は良好であった。



第４図　３号住居址実測図（１／60）

4号住居址（ＳＢ－４）第４図

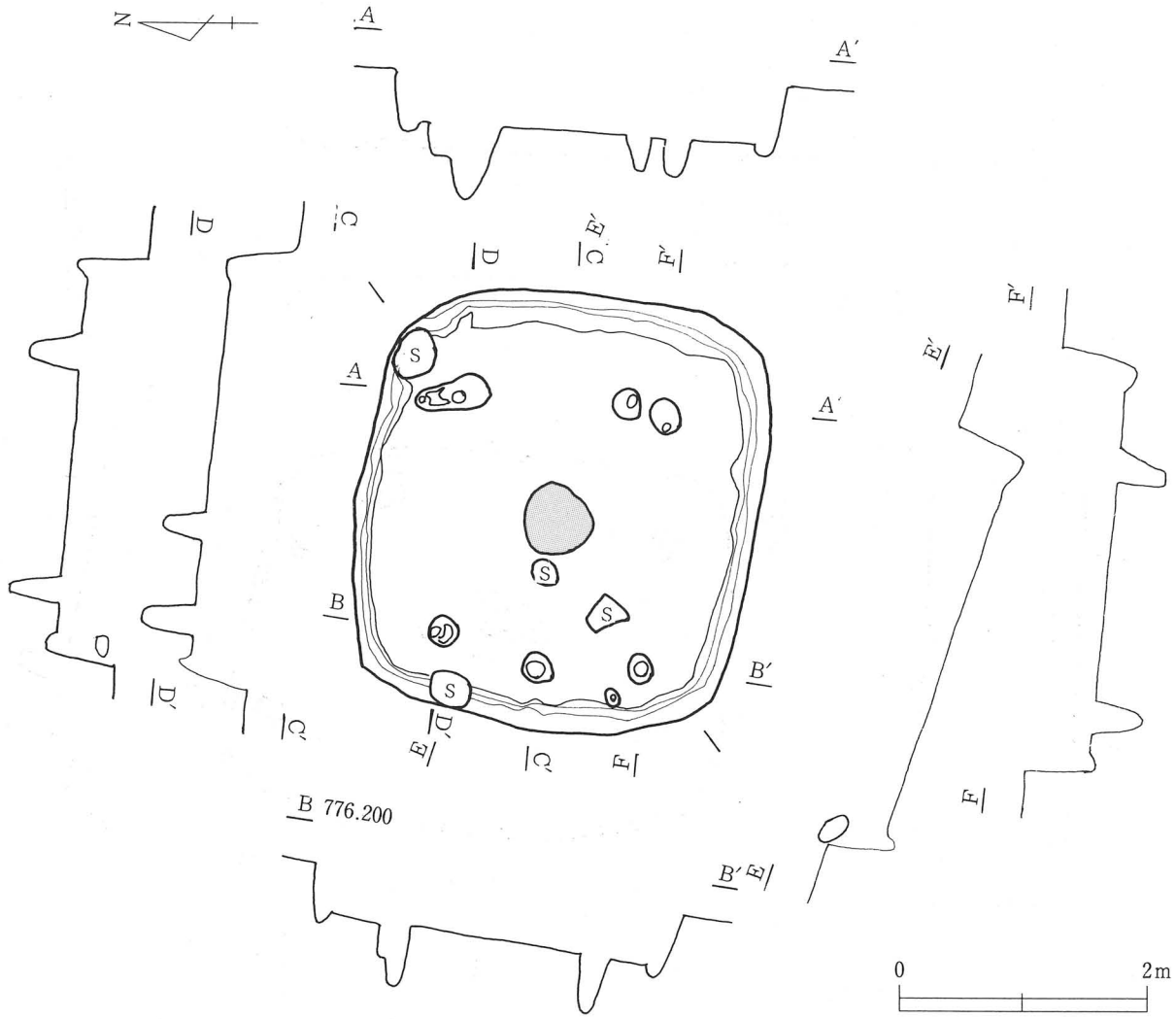
本遺跡の中央部（グリッドＥ－７）に位置する。形状は隅丸長方形をていし、長軸３ｍ92cm・短軸３ｍ12cm・壁高24cmを測る。４本の柱穴は比較的壁側より検出されている。



第５図　４号住居址実測図（１／60）

5号住居址（ＳＢ－５）第６図

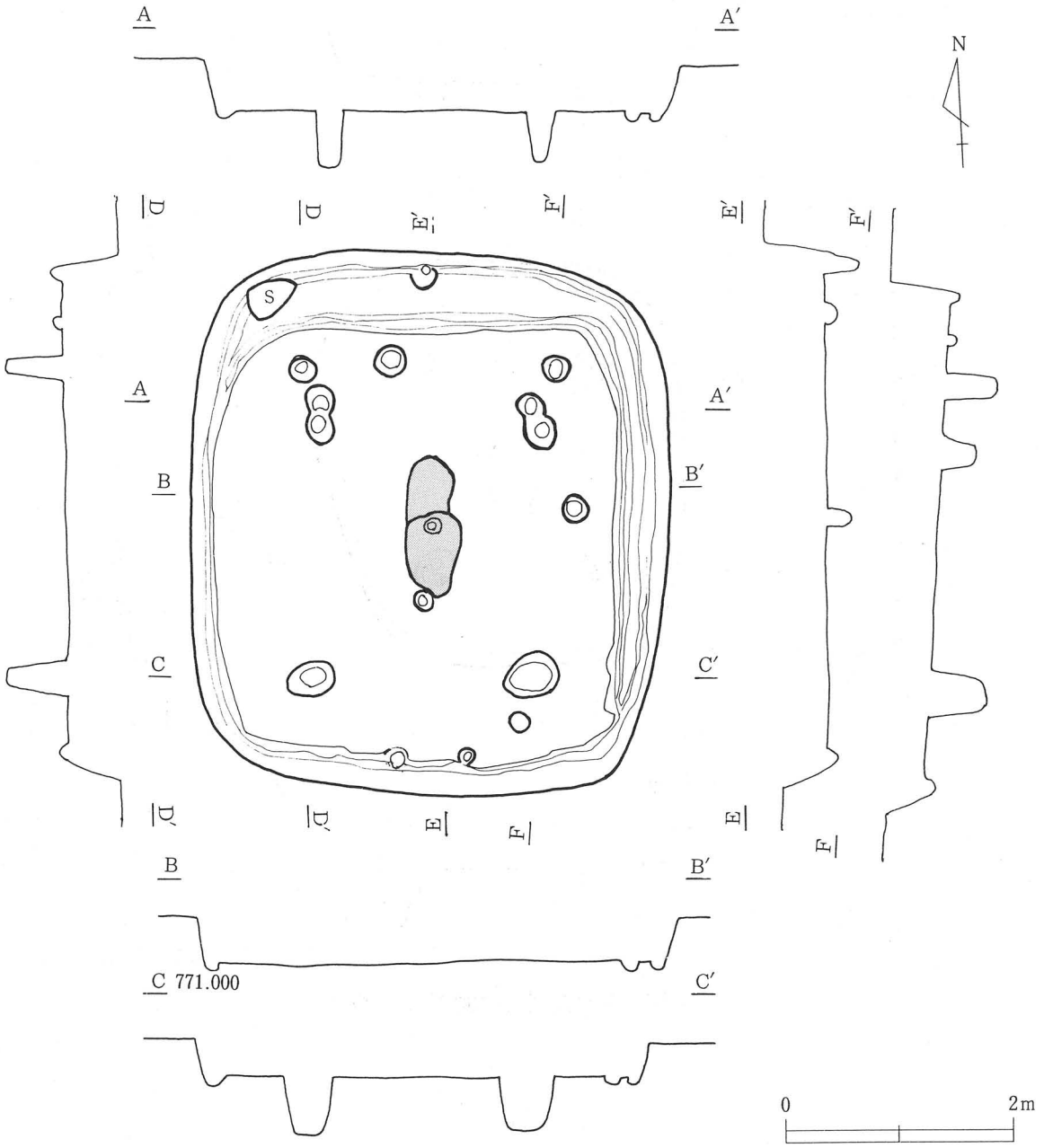
本遺跡の南側（グリッドＦ－12）に位置する。形状は隅丸方形、長軸４ｍ80㎝・短軸４ｍ20㎝・壁高57㎝を測る。柱穴は７本検出されており、外側の４本が主柱穴であり、周溝は全周する。



第６図　５号住居址実測図（１／60）

6号住居址（ＳＢ－６）第７図

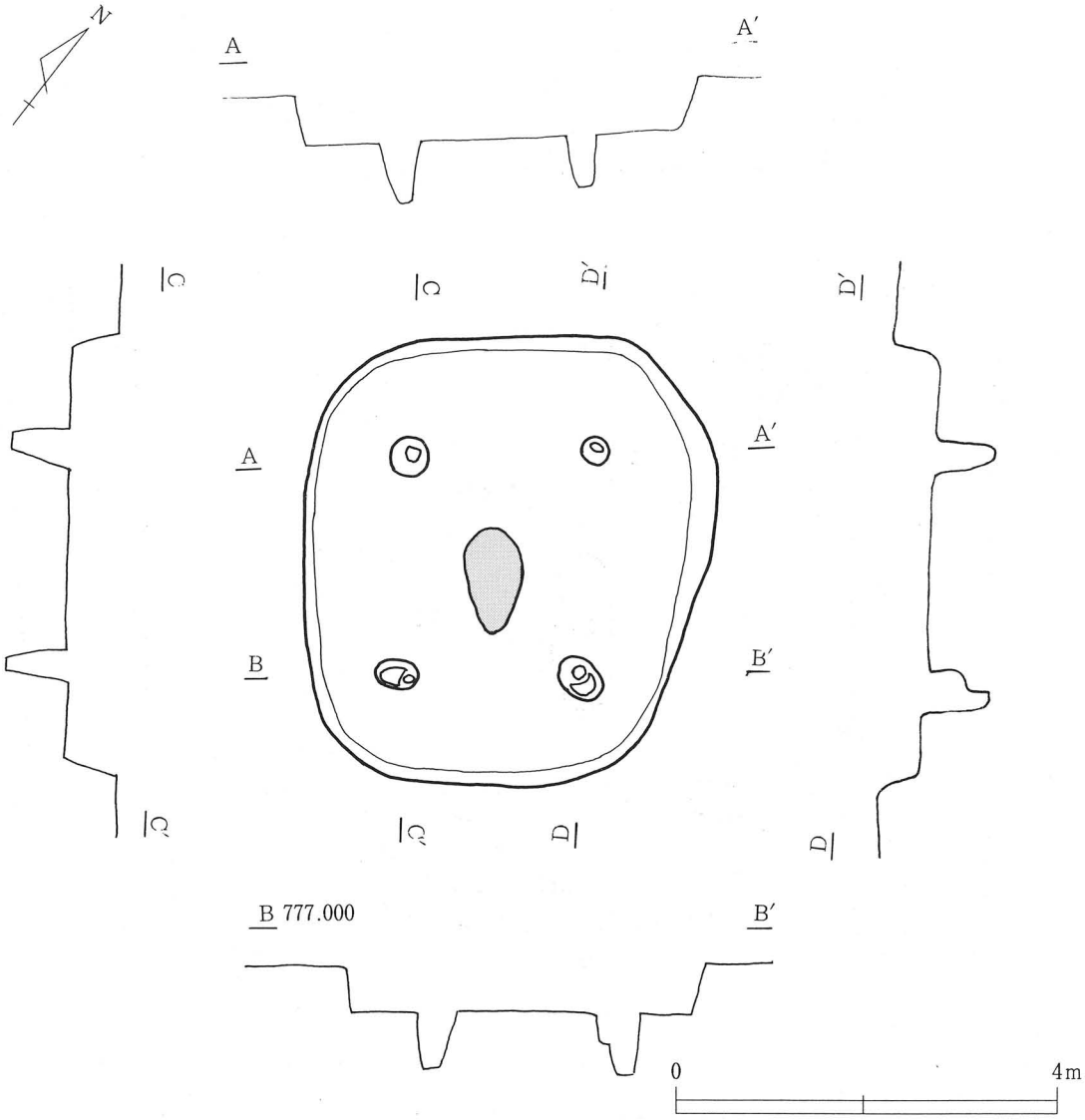
本遺跡の中央部（グリットＥ－８・９）に位置する。形状は隅丸方形、長軸４ｍ80㎝・短軸４ｍ20㎝・壁高47㎝を測る。柱穴及び周溝により北側に３度の立て替え拡張したことが確認でき、南壁中央付近の小柱穴２本は出入口の柱穴と思われる。



第７図　６号住居址実測図（１／60）

7号住居址（ＳＢ－７）第8図

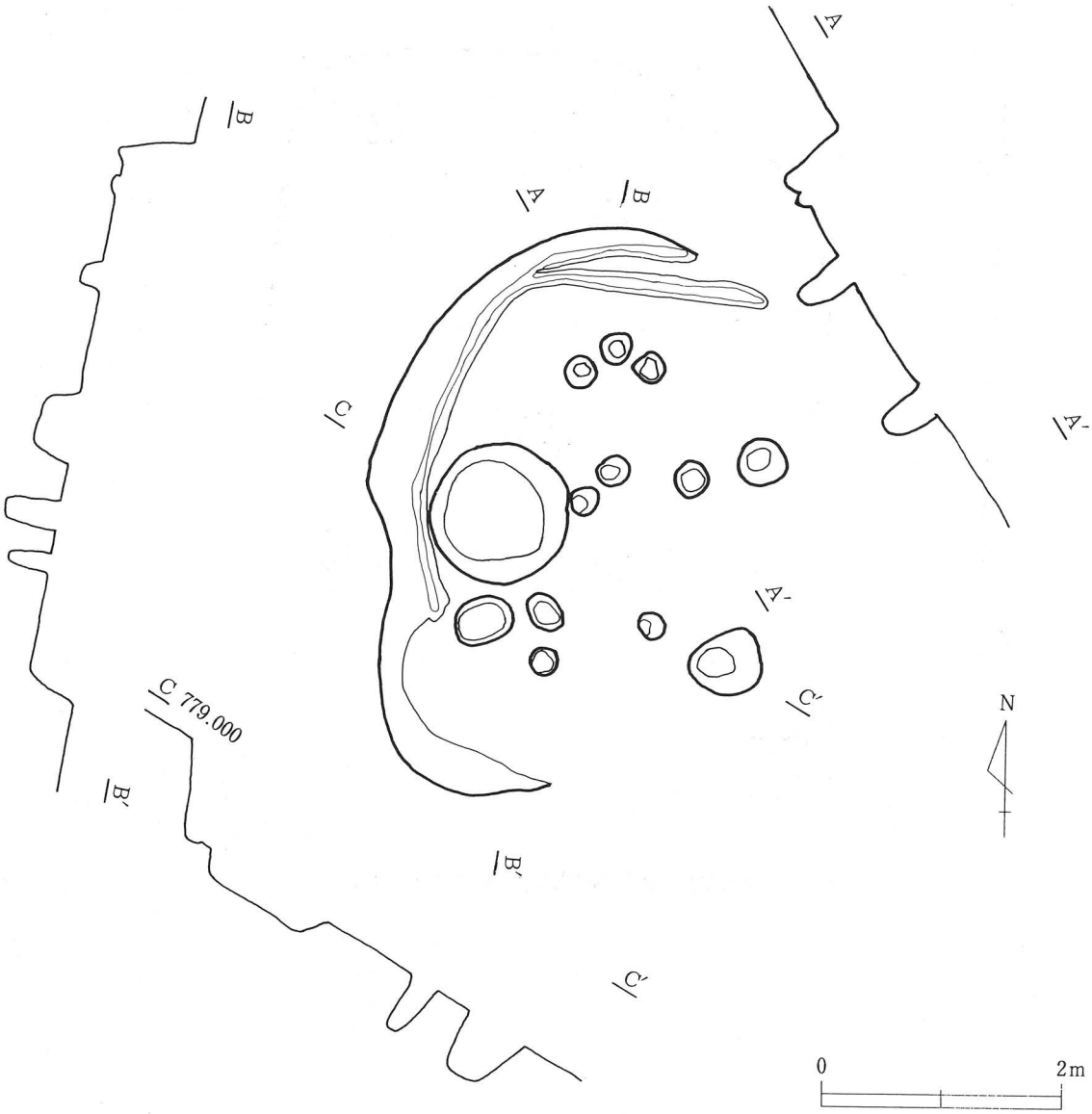
本遺構の西端（グリッドＤ－８）に位置する。形状は、隅丸方形、長軸３ｍ56㎝・短軸３ｍ20㎝を測る。４本柱の柱穴及び地焼炉があり、周溝は確認されなかった。



第８図　７号住居址実測図（１／80）

8号住居址（ＳＢ－８）第９図

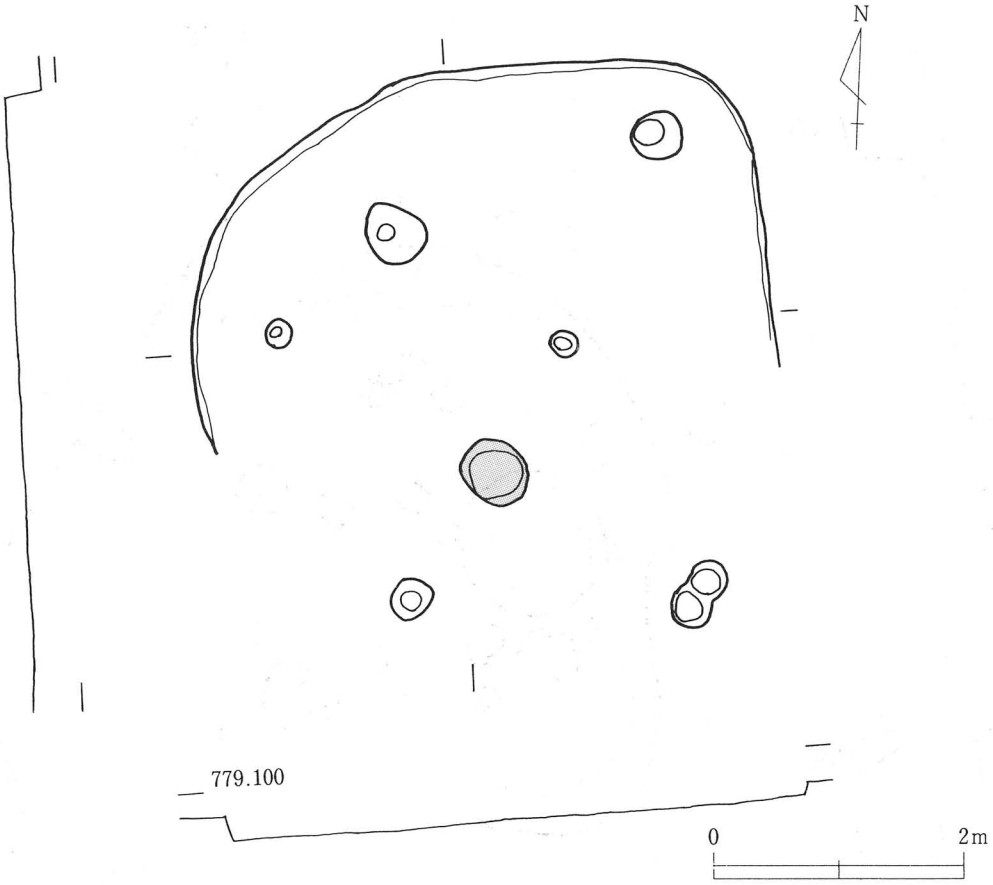
本遺構は東側の南北に延びる比較的幅広の溝（グリッドＦ－５）に位置する。ほぼ半分が削り取られており、プランは不確定ではあるが、一辺4.8ｍの隅丸方形を呈すると思われる。西側の壁高72㎝を測る。



第９図　８号住居址実測図（１／60）

９号住居址（ＳＢ－９）第10図

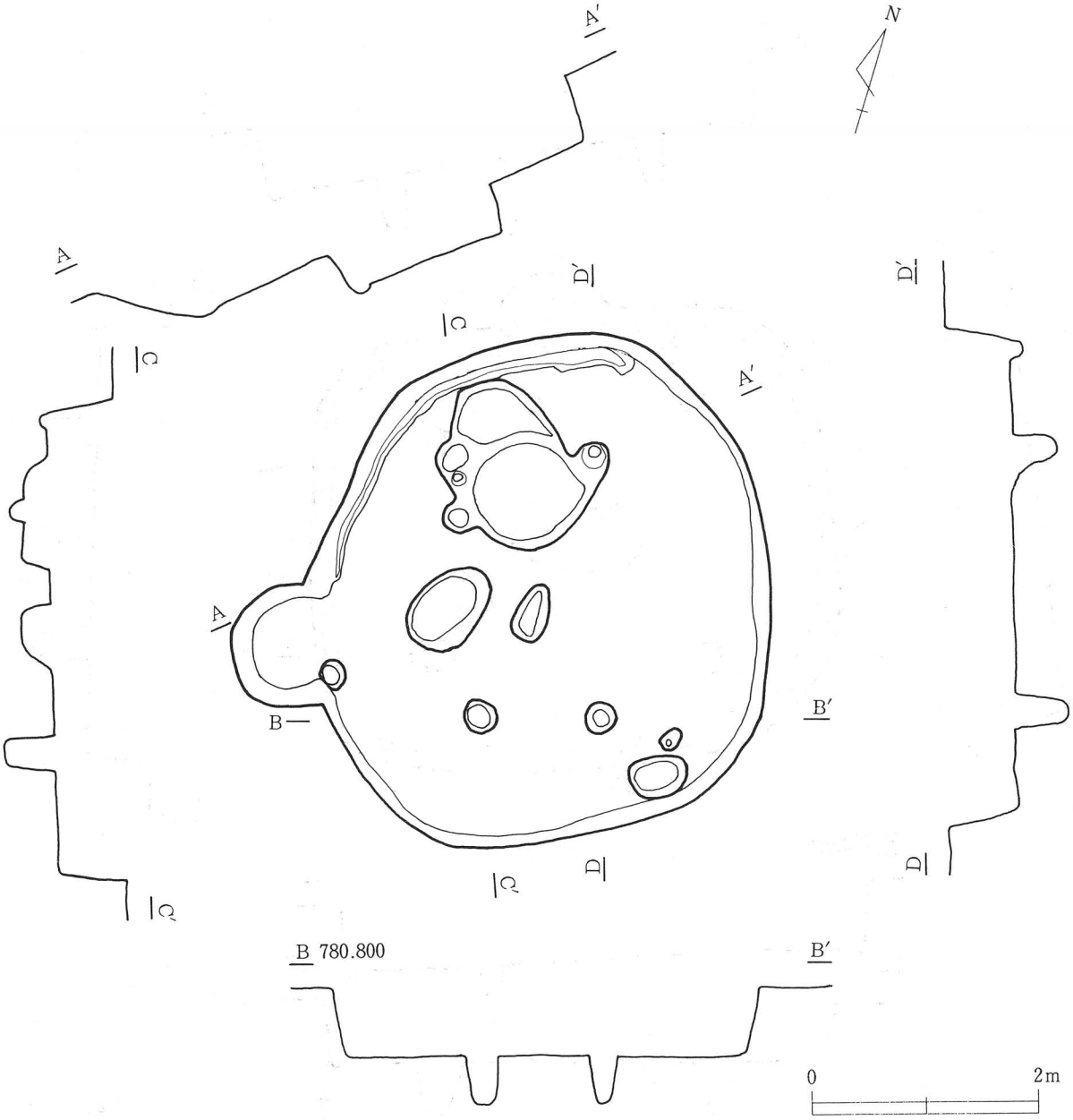
本遺跡の中央部の溝（ＳＤ－２）の北側（グリッドＦ－５）に位置する。形状は、住居址の南側が破損していたが、隅丸方形と推測され、１辺４ｍ60㎝を測る。掘込みが浅い。地床炉が確認された。



第10図　９号住居址実測図（１／60）

10号住居址（ＳＢ－10）第11図

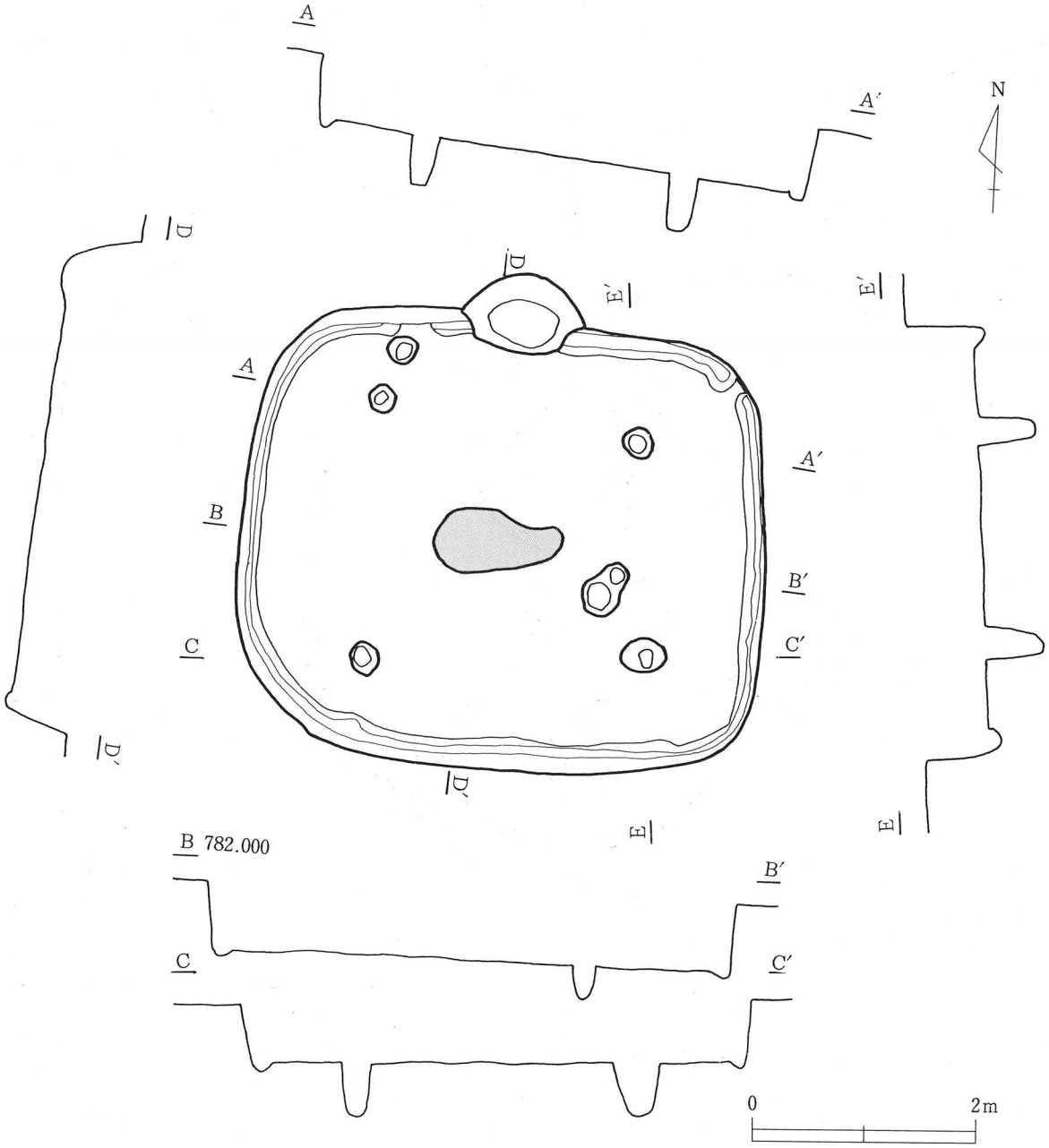
本遺跡の北側（グリッドＦ－３）に位置する。形状は、楕円形、長軸４ｍ44㎝・短軸４ｍ80㎝・壁高46㎝。住居址の南西の位置の土壙によって壁が切断されていた。住居と土壙の掘り込み面のレベルが同じで、住居の一部と推測される。住居址内に近世の柱穴が確認された。



第11図　10号住居址実測図（１／60）

11号住居址（ＳＢ－11）第12図

本遺跡の北端（グリッドＤ－２）に位置する。形状は、隅丸方形、長軸４ｍ64㎝・短軸４ｍ４㎝・壁高42㎝を測る。柱穴は６本検出されているが、主柱穴は４本と思われる。北壁中央に北に掘り込みが見られるが掘り込まれた深さの違いにより、時代差が推測される。

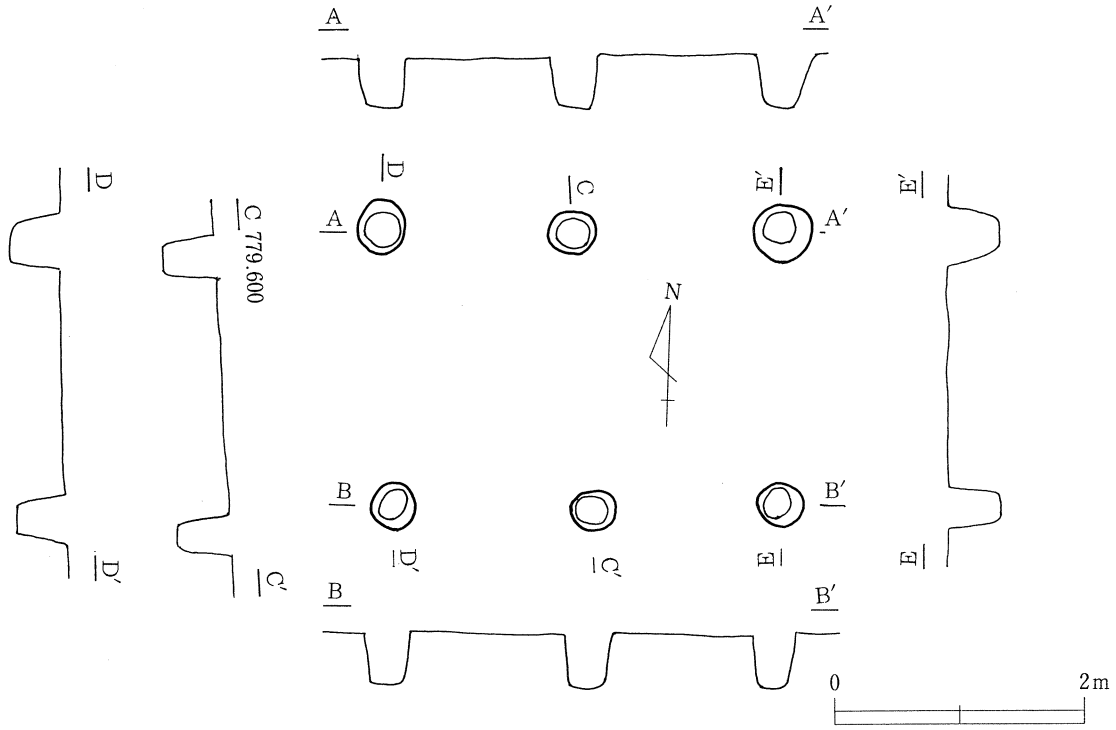


第12図　11号住居址実測図（１／60）

(2) 掘建柱建物址（ＳＨ－１）第13図

１号掘建柱建物址

本遺跡の８号住居址の西側（グリッドＦ－５）に位置する。南北１間（２ｍ64㎝）、東西２間（３ｍ40㎝）、柱間寸法は梁（１ｍ48㎝～１ｍ60㎝）、桁（２ｍ20㎝）、柱穴は円形で、32㎝～44㎝を測る。



第13図　１号掘建柱建物址実測図（１／60）

(3) 土　　壙

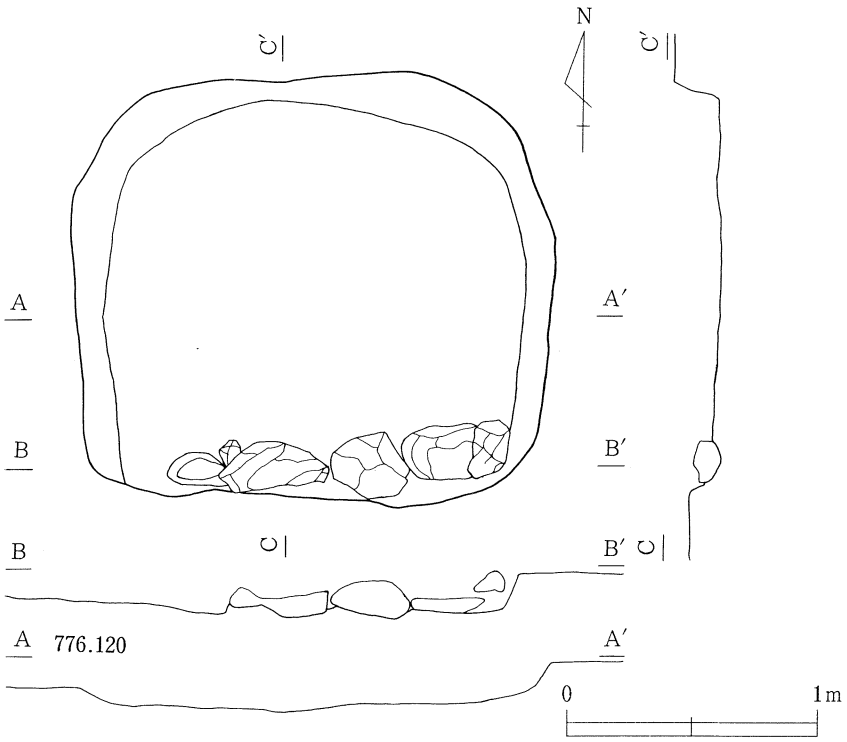
本遺跡内において、52基検出された。①南側の土壙群（ＳＫ－１～25）、②北東隅の土壙群（ＳＫ－40～49）、③溝（ＳＤ－２）沿いの土壙群（ＳＫ－35～28）の３群に分割できる。とくに②の土壙群の集約性、③の土壙群の溝は沿う形の配列に特徴がある。集石された土壙についてのみ報告する。

３、４、６、15、22号土壙には、共通する特徴がある。それは、土壙の形状もさることながら、土壙内の１辺あるいは２辺に石積が見られることである。この石積は、ほぼ同位置の平べったい川原石を用いていることであり、遺構の残存状況にもよるが、１段～３段確認することができる。このような状況から、用途としては水利に伴う水溜と思われるが、これに接続する水路が確認されないこと、覆土中より水の流入による土砂の堆積がみられないこと、石積が全周しないことなどにより他の目的のために構築されたものであろう。

遺構内より具体的な年代を示す遺物が出土していないが、石積の状況より中世以降と思われる。

3号土壙（ＳＫ－３）第14図

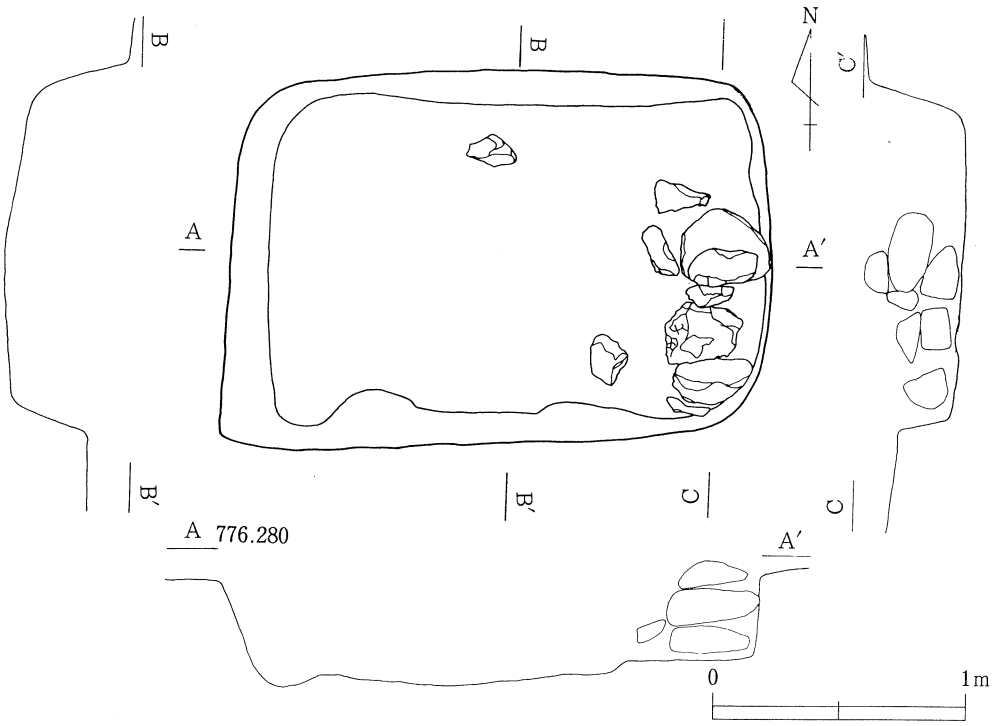
位置－グリッドＥ－10。形状－長方形、長軸１ｍ87㎝・短軸１ｍ65㎝・深さ18㎝を測る。



第14図　３号土壙実測図（１／30）

4号土壙（ＳＫ－４）第15図

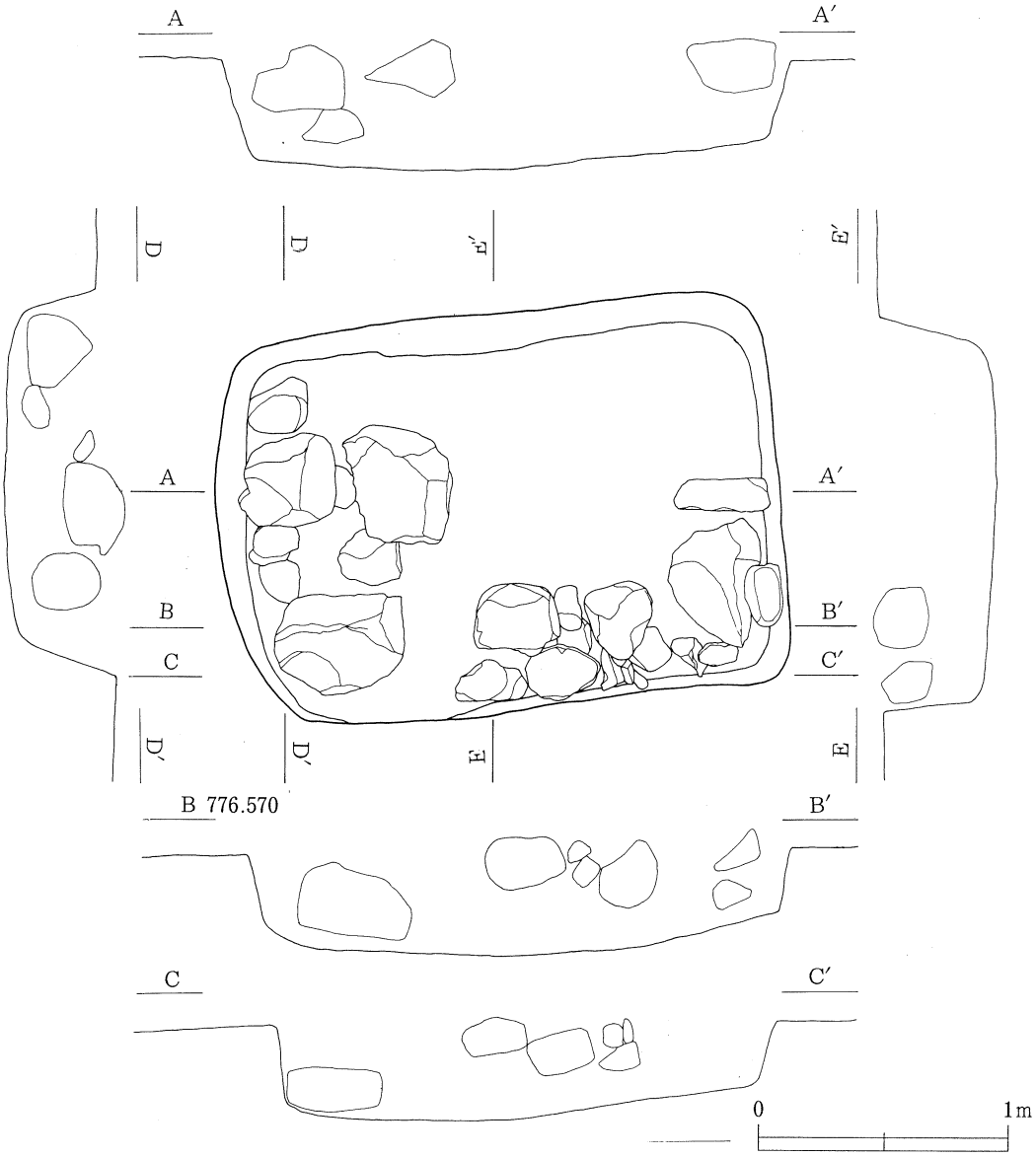
位置－グリッドＥ－10。形状－楕円形、長径２ｍ15㎝・短径１ｍ49㎝・深さ43㎝を測る。



第15図　４号土壙実測図（１／30）

6号土壙（ＳＫ－６）第16図

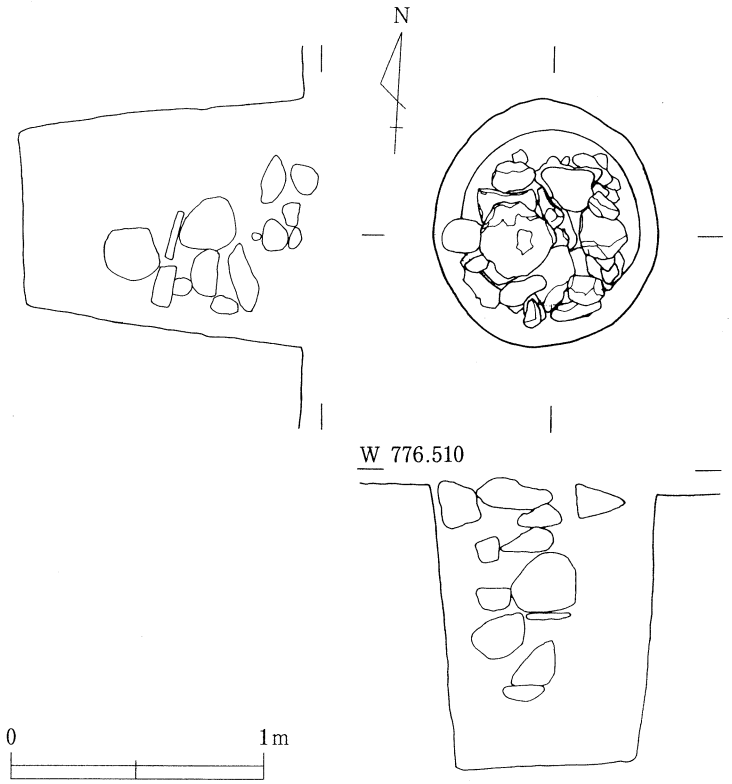
位置－グリッドＥ－10。形状一隅丸方形、長径２ｍ30㎝・深さ１ｍ6㎝、深さ43ｍを測る。



第16図　６号土壙実測図（１／30）

７号土壙（ＳＫ－７）第17図

位置－グリッドＦ－10。形状－円形、直径0.9ｍ・深さ１ｍ８㎝を測る。

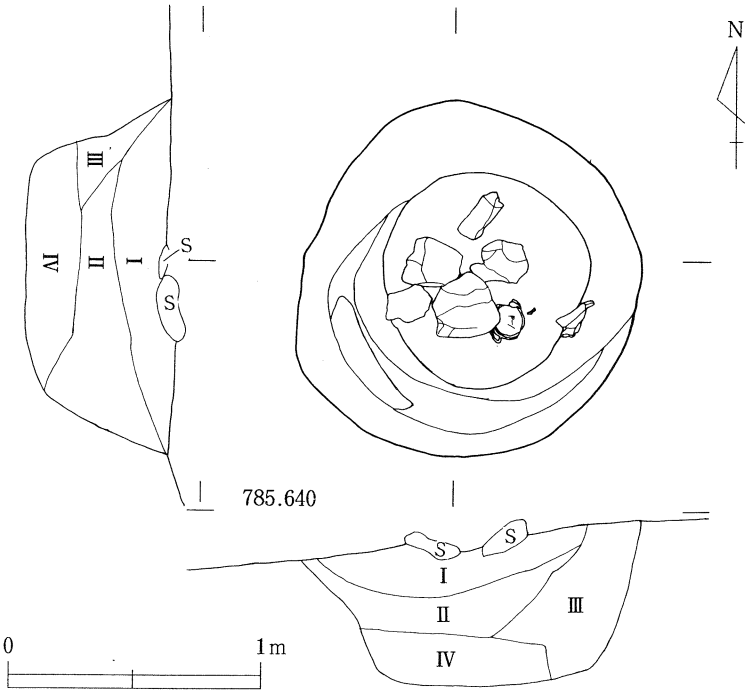


第17図　７号土壙実測図（１／30）

10号土壙（ＳＫ－10）第18図

位置－グリッドＦ－10。形状－楕円形、長径1.4ｍ・短径1.3ｍ・深さ0.6ｍを測る。

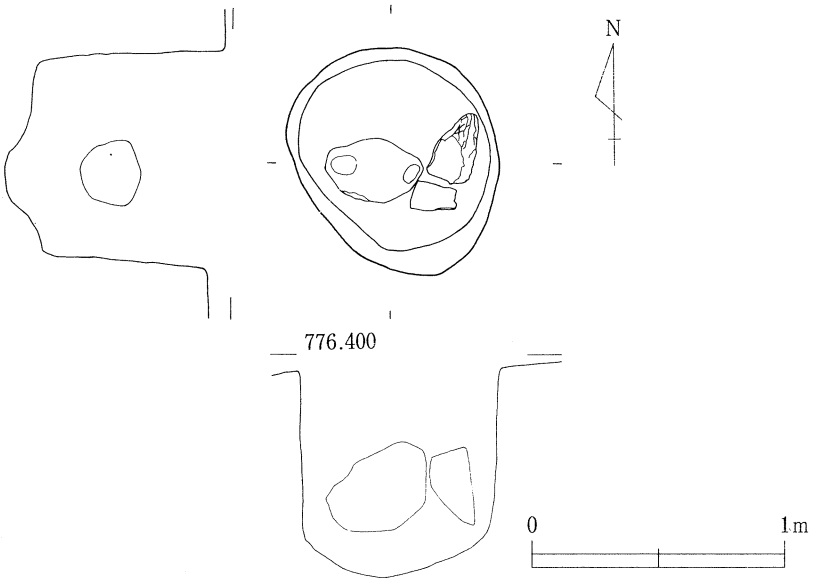
第Ⅰ層　暗褐色粘土層
（粘性なし、しまりあり）
第Ⅱ層　暗黄褐色粘土層
（粘性なし、しまりあり）
第Ⅲ層　黄褐色粘層
（粘性なし、しまりあり）
第Ⅳ層　黒褐色粘土層
（粘性なし、しまりあり）



第18図　10号土壙実測図（１／30）

11号土壙（ＳＫ－11）第19図

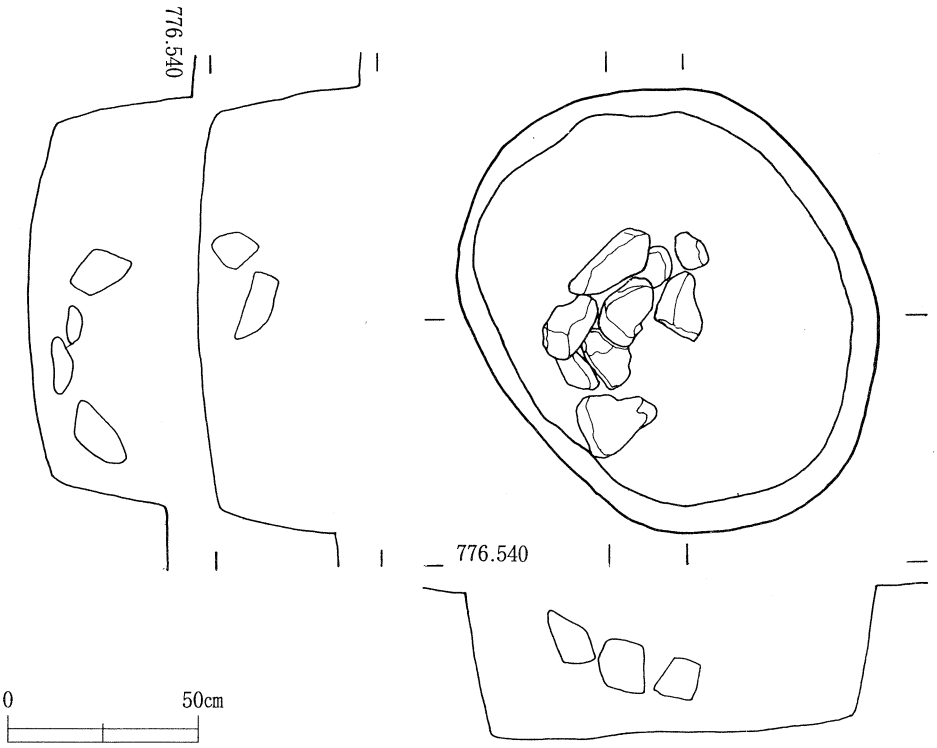
位置－グリッドＥ－10。形状－楕円形、長径95㎝・短径79㎝・深さ85㎝を測る。



第19図　11号土壙実測図（１／30）

14号土壙（ＳＫ－14）第20図

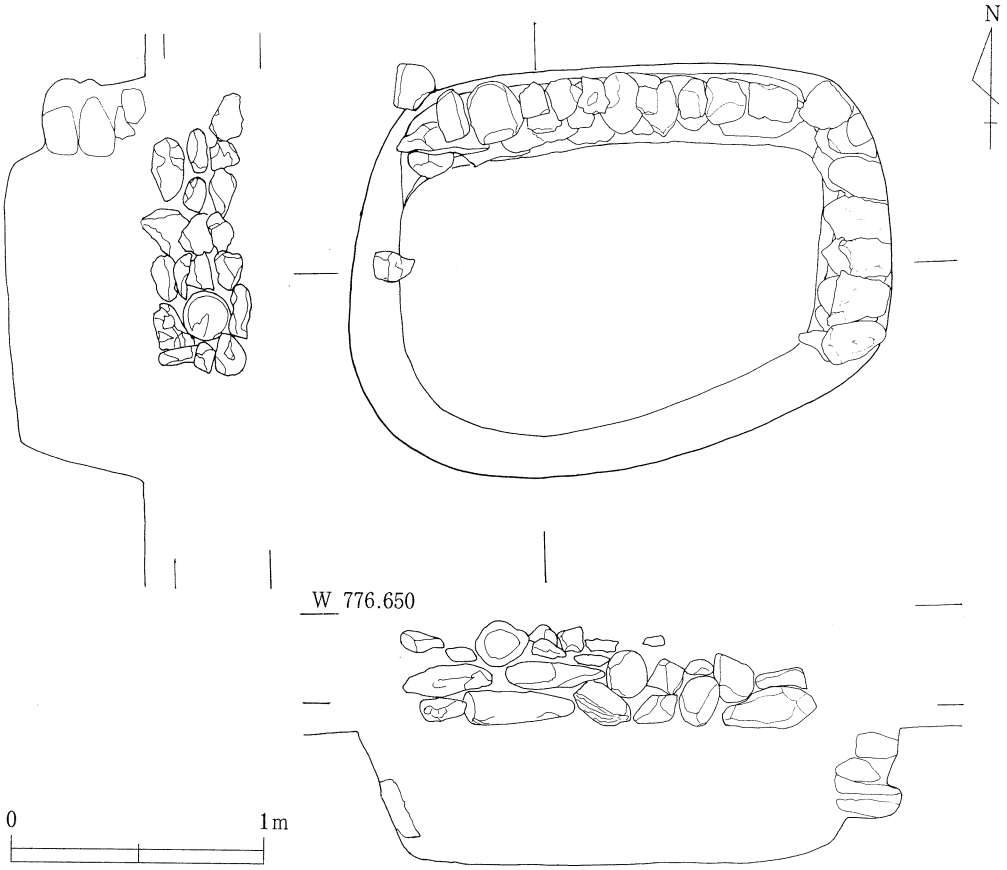
位置－グリッドＥ－14。形状－楕円形、長形１ｍ23㎝・短形１ｍ６㎝・深さ39㎝。集石あり。



第20図　14号土壙実測図（１／20）

15号土壙（ＳＫ－15）第21図

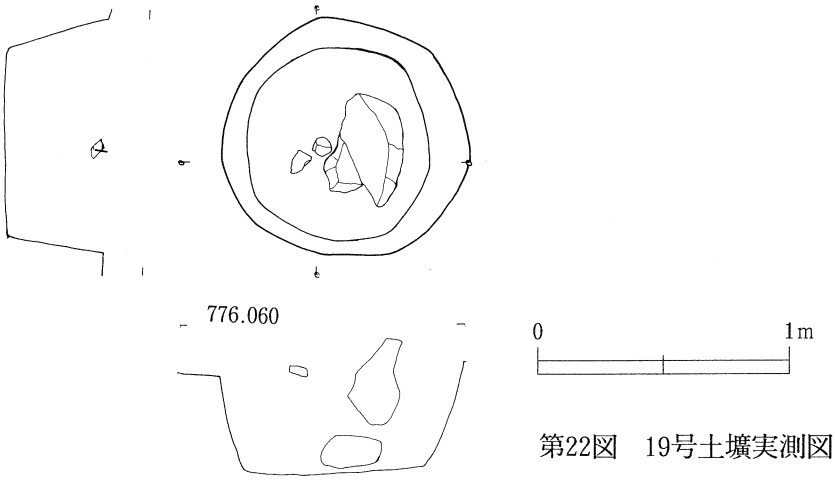
位置－グリッドＦ－10。形状－楕円形、長径２ｍ13㎝・短径１ｍ63㎝・深さ50㎝。北壁、東壁に石積が残存していた。周壁の石積は湿気を防止するためで、これに屋根をかけ、貯蔵庫につかわれたものと推測される。



第21図　15号土壙実測図（１／30）

19号土壙（ＳＫ－19）第22図

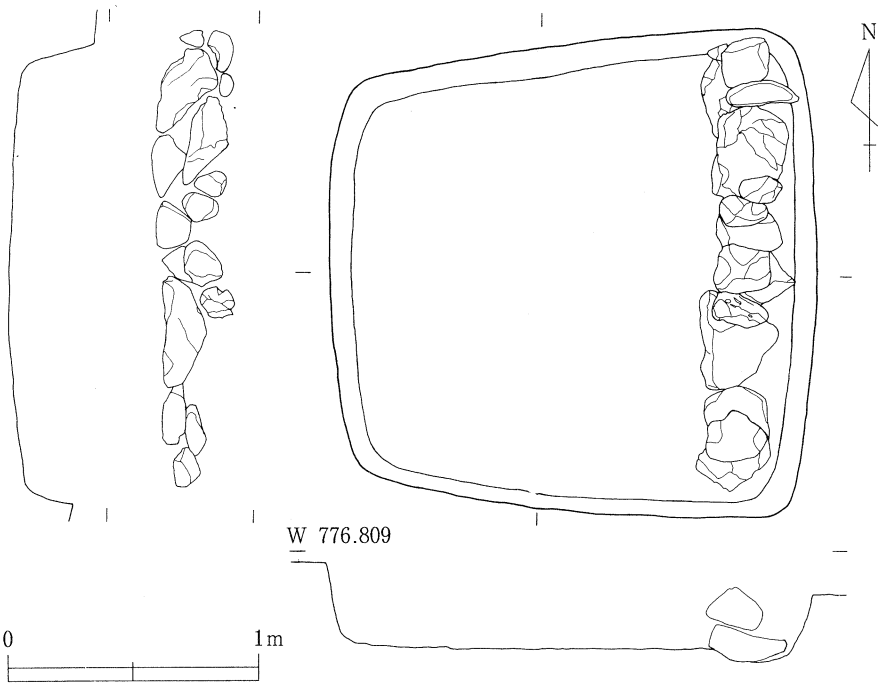
位置－グリッドＦ－11。形状－ほぼ円形、長径98㎝・短径95㎝・深さ40㎝を測る。



第22図　19号土壙実測図（１／30）

22号土壙（ＳＫ－22）第23図

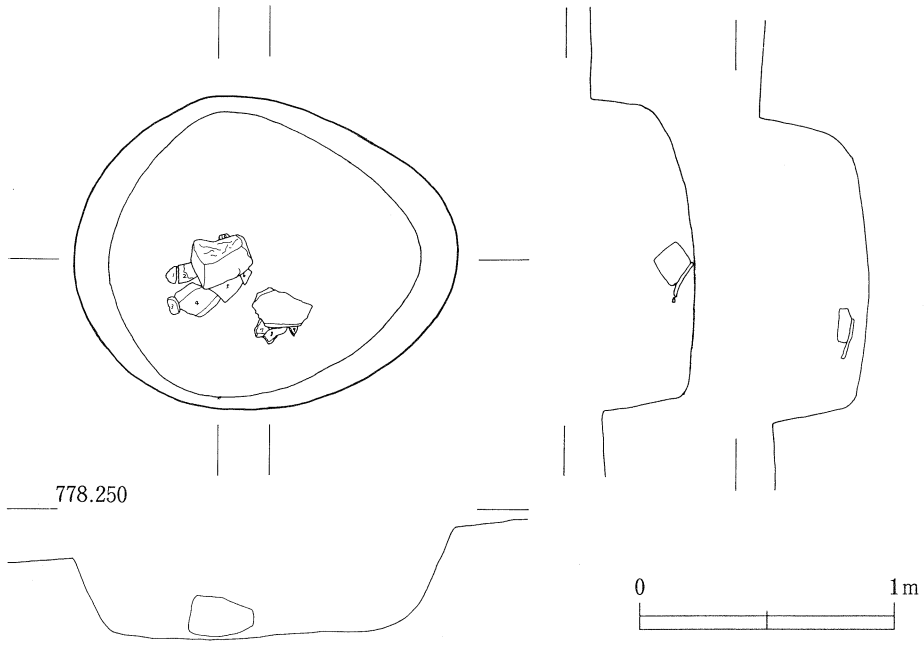
位置－グリッドＦ－９。形状－隅丸方形、長径１ｍ93㎝・短径ｍ84㎝・深さ35㎝。15号土壙と同様に、東壁に石積が存在していた。



第23図　22号土壙実測図（１／30）

24号土壙（ＳＫ－24）第24図

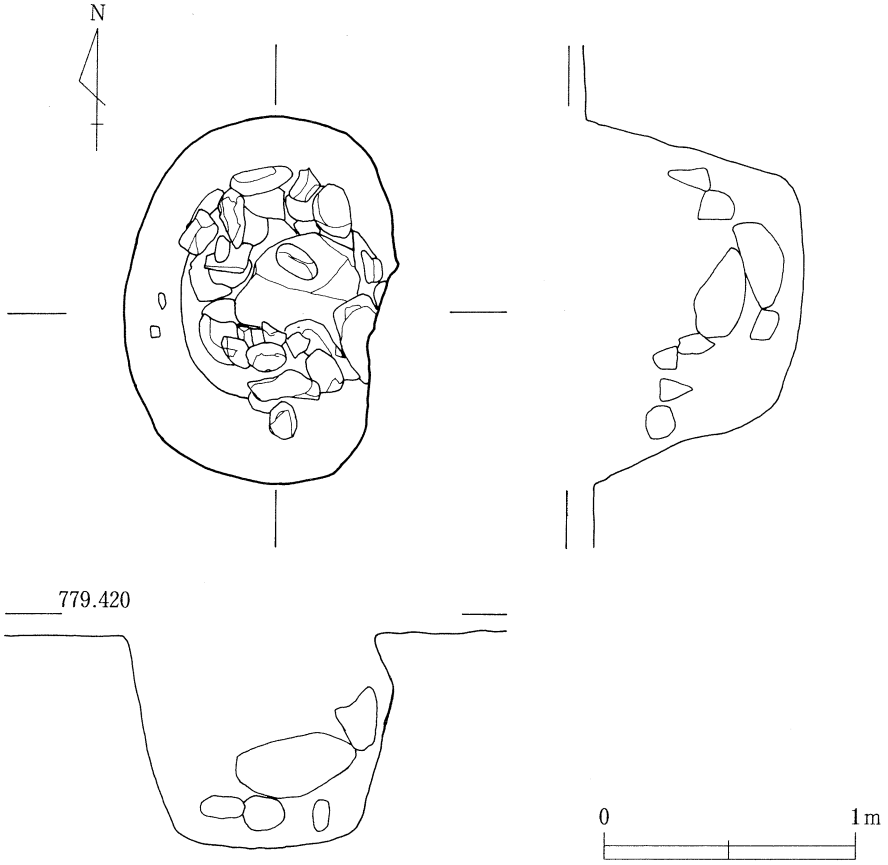
位置－グリッドＥ－７。形状－楕円形、長径１ｍ52㎝・短径１ｍ26㎝・深さ32㎝を測る。



第24図　24号土壙実測図（１／30）

38号土壙（ＳＫ－38）第25図

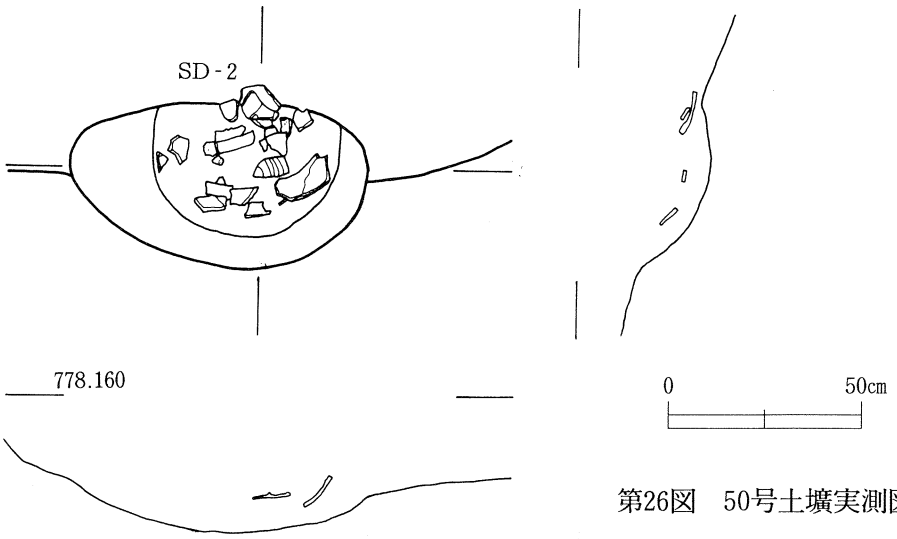
位置－グリッドＥ－５・６。形状－楕円形、長径97㎝・短径70㎝・深さ52㎝を測る。



第25図　38号土壙実測図（１／30）

50号土壙（ＳＫ－50）第26図

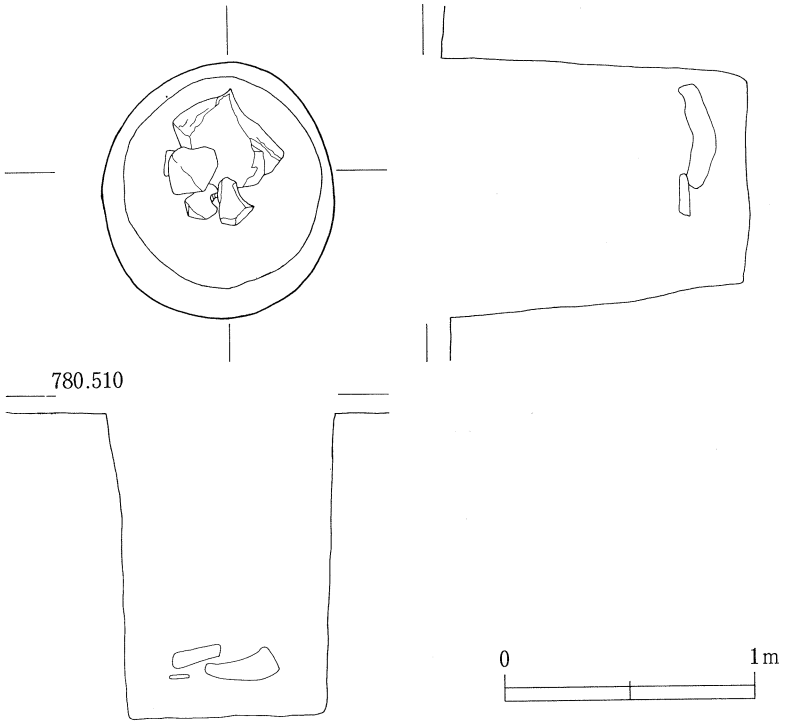
位置－グリッドＦ－６。形状－溝（ＳＤ－２）に傾斜しながら接し、東側の部分が溝（ＳＤ－２）により破損していた。南北78㎝。



第26図　50号土壙実測図(１／20)

52号土壙（ＳＫ－52）第27図

位置－グリッドＥ－３。形状－楕円形、長径１ｍ２㎝・短径91㎝・深さ１ｍ22㎝を測る。



第27図　52号土壙実測図（１／30）

(4)　集 石 土 壙

本遺跡内において、３基検出された。

１号集石土壙（ＳＡ－１）第28図

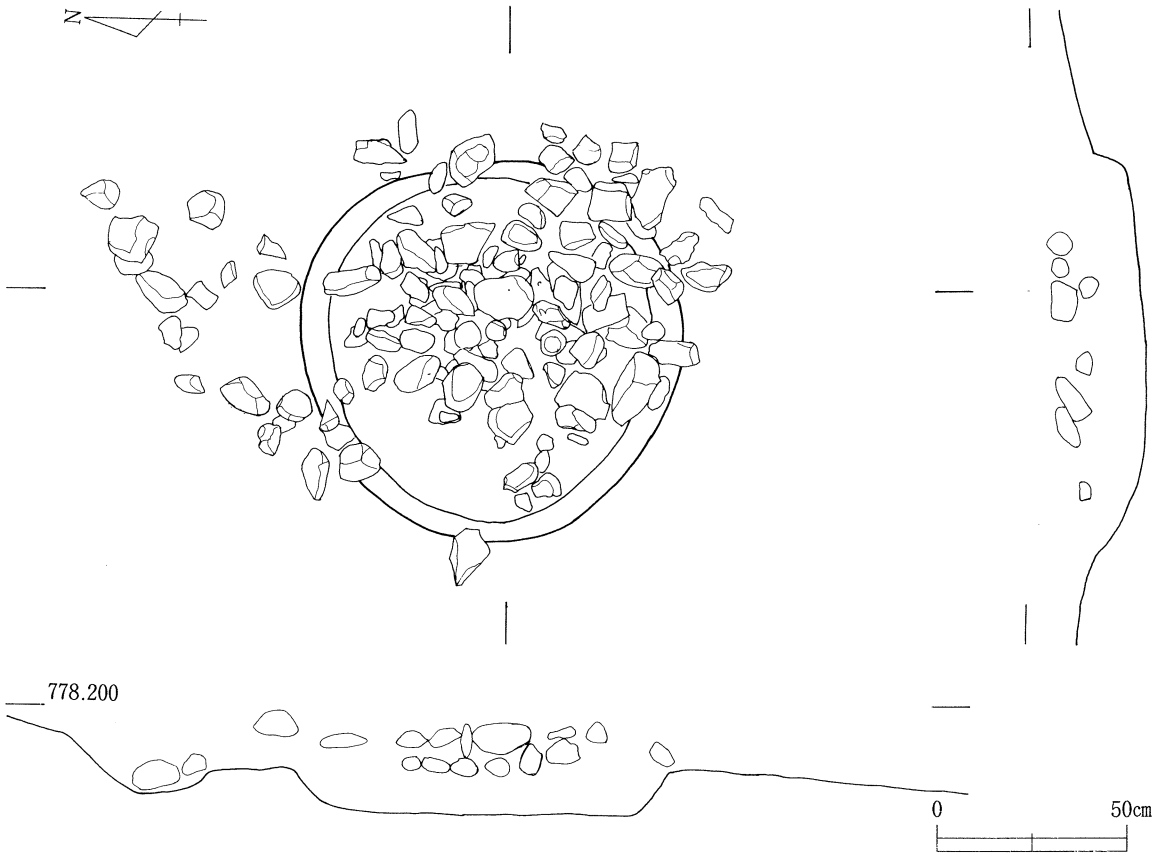
位置－グリッドＥ－７。形状－円形、直径１ｍ・深さ13㎝。縄文時代前期中葉。

２号集石土壙（ＳＡ－２）第29図

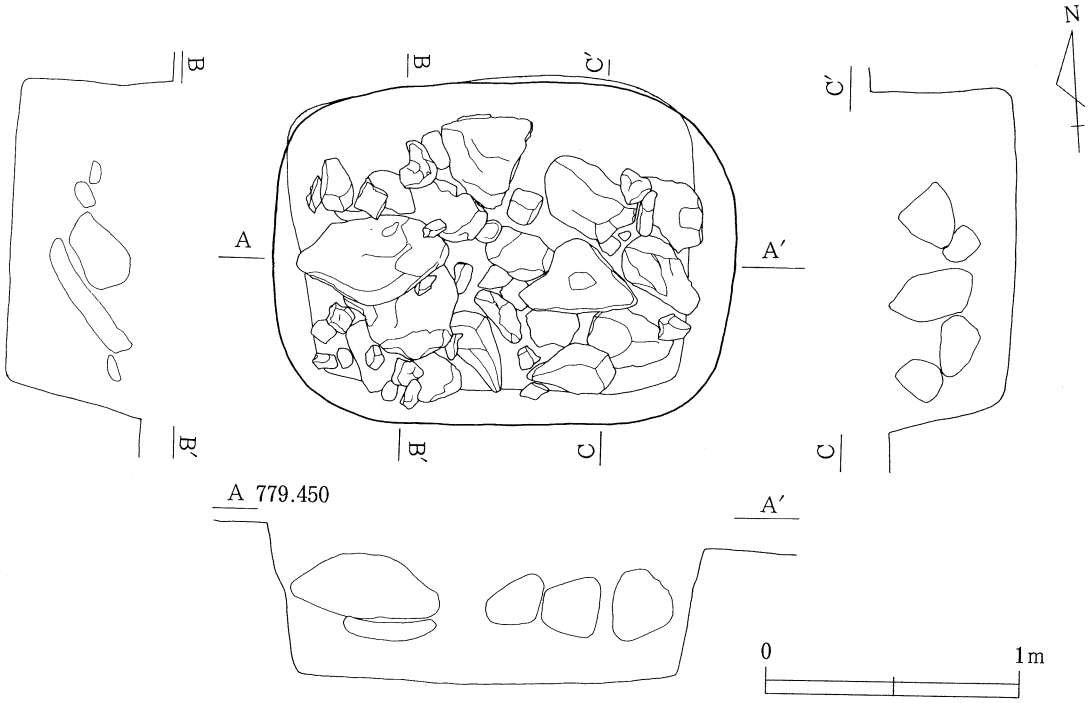
位置－グリッドＥ－５。形状－直径１ｍ80㎝の円形内に、円状に配石され、掘込みの浅い土壙である。

３号集石土壙（ＳＡ－３）第30図

位置－グリッドＦ－５。形状－隅丸方形、長径１ｍ83㎝・短径１ｍ31㎝・深さ61㎝。中世以降の時代。



第28図　1号集石土壙実測図（1／20）



第29図　2号集石土壙実測図（1／30）

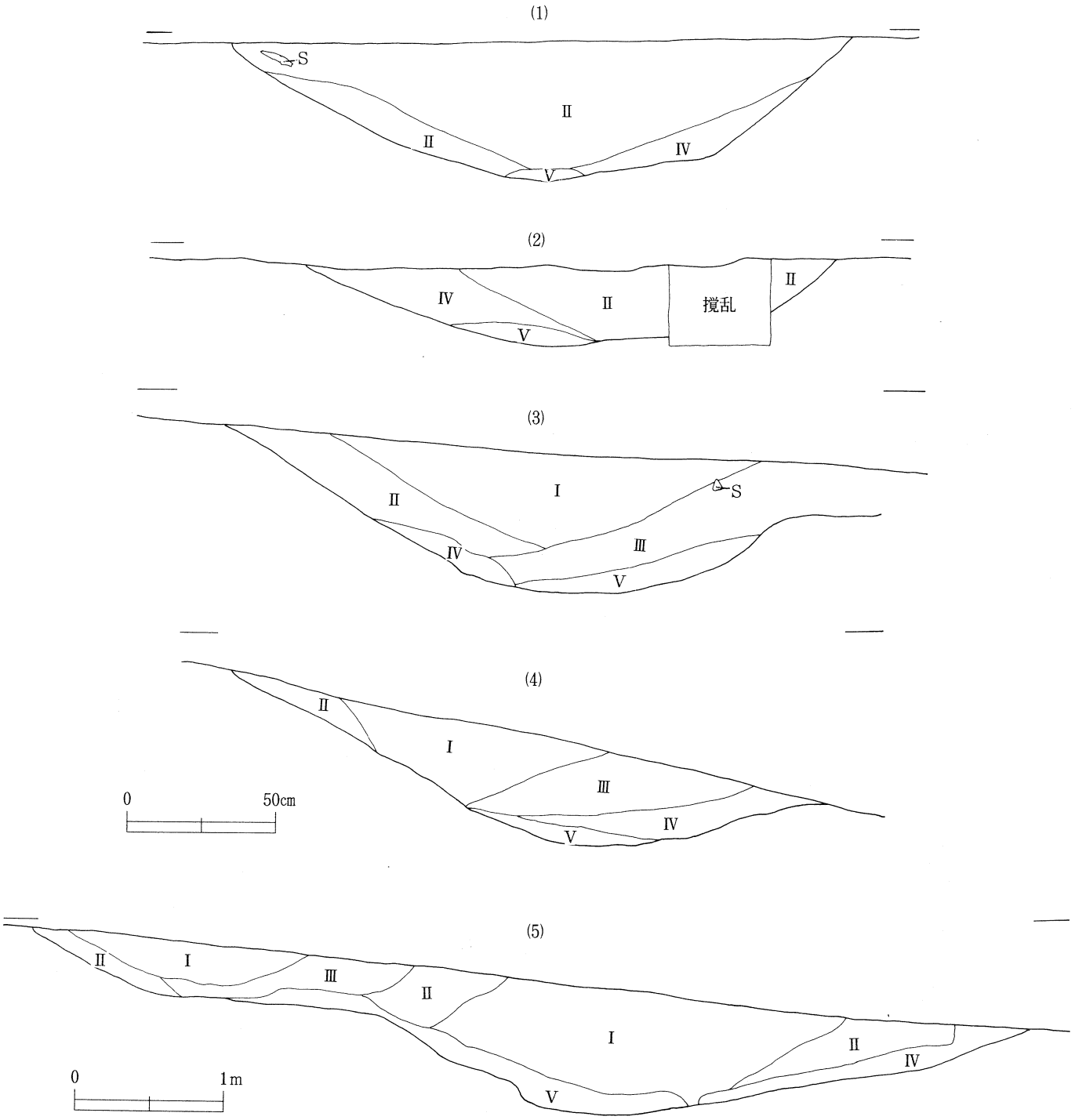
第30図　3号集石土壙実測図（1／20）

(5)　溝

本遺跡内において、4条の溝（第2図参照)がある。南北に走る溝（ＳＤ－１）について、１ｍ50cm～２ｍの幅を測り、道路に推測される。溝は北進して発掘区外にもどり、消滅していた。しかし、本遺跡は米田北遺跡と接しているため、米田北遺跡へと延びていたと推測される。本遺跡の中央部東西に走る溝（ＳＤ－２)、北側にＬ字形の溝（ＳＤ－３・ＳＤ－４）が確認された。

本遺跡内において、4条の溝（第2図参照）が検出され、遺跡内東側の南北に走る溝（ＳＤ－１）は、幅1.5ｍ～2ｍを測り、その規模・状況により道路と思われる。中央付近において東西に分岐しているが同様であろう。

ＳＤ－２については水路と思われる。ＳＤ－３はＬ字状に比較的広範囲に平らにするために削り取られた部分に周溝状に走っている。この部分は近世以降の住居があった場所であり、掘建柱建物址に伴う柱穴群が存在する。



第31図　溝（ＳＤ－１）セクション図（(1)〜(4) 1／20・(5) 1／40）

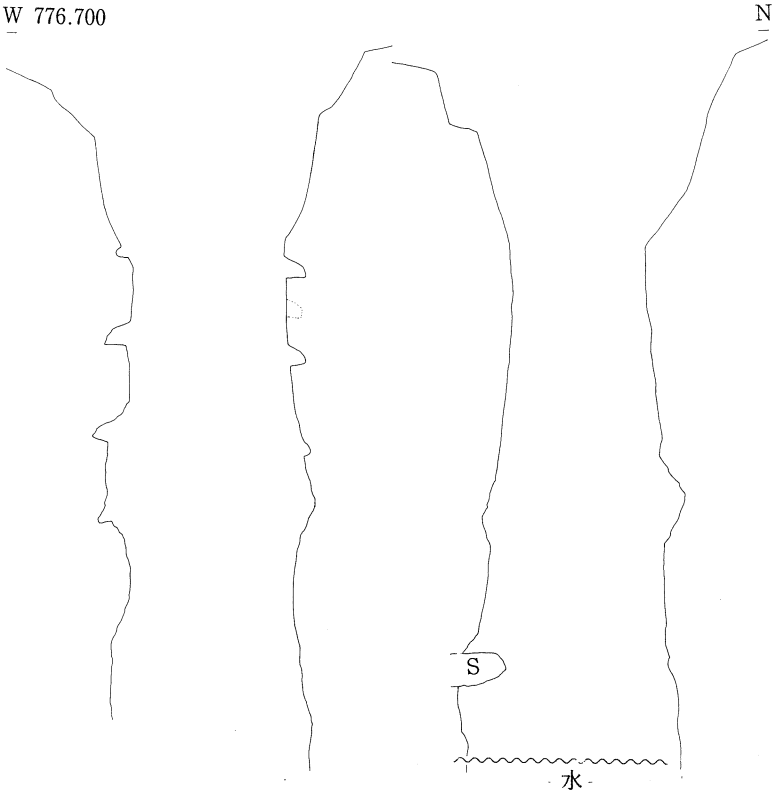
(6) 井　　戸

本遺跡内に、２基の井戸がある。

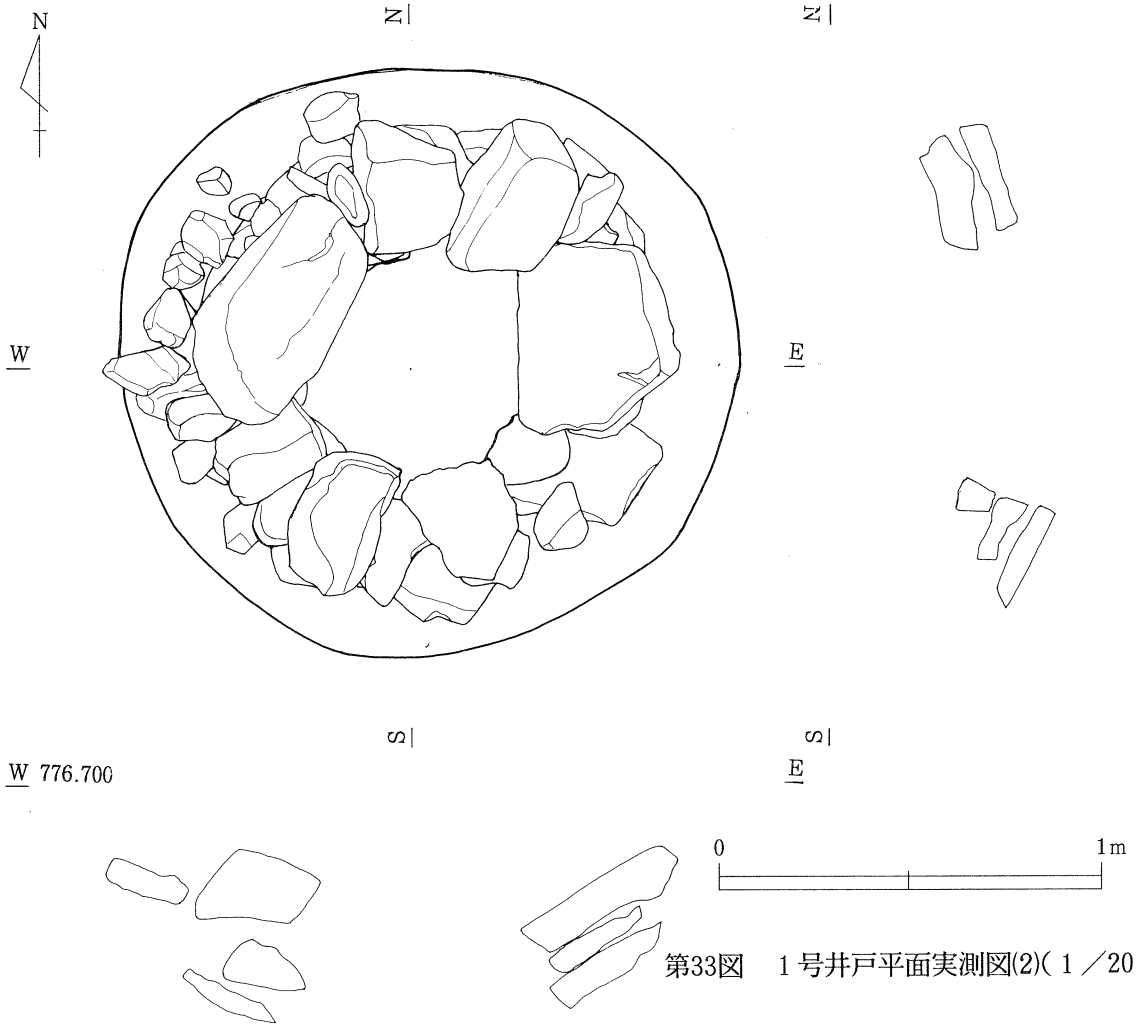
１号井戸（ＳＥ－１）

第32図

位置－グリッドＦ－９。形状－円形、直径１ｍ55cm・深さ（水面まで）３ｍ80cm。石組の井戸で、埋め戻されて閉塞されていた。手足を掛ける側穴があった。



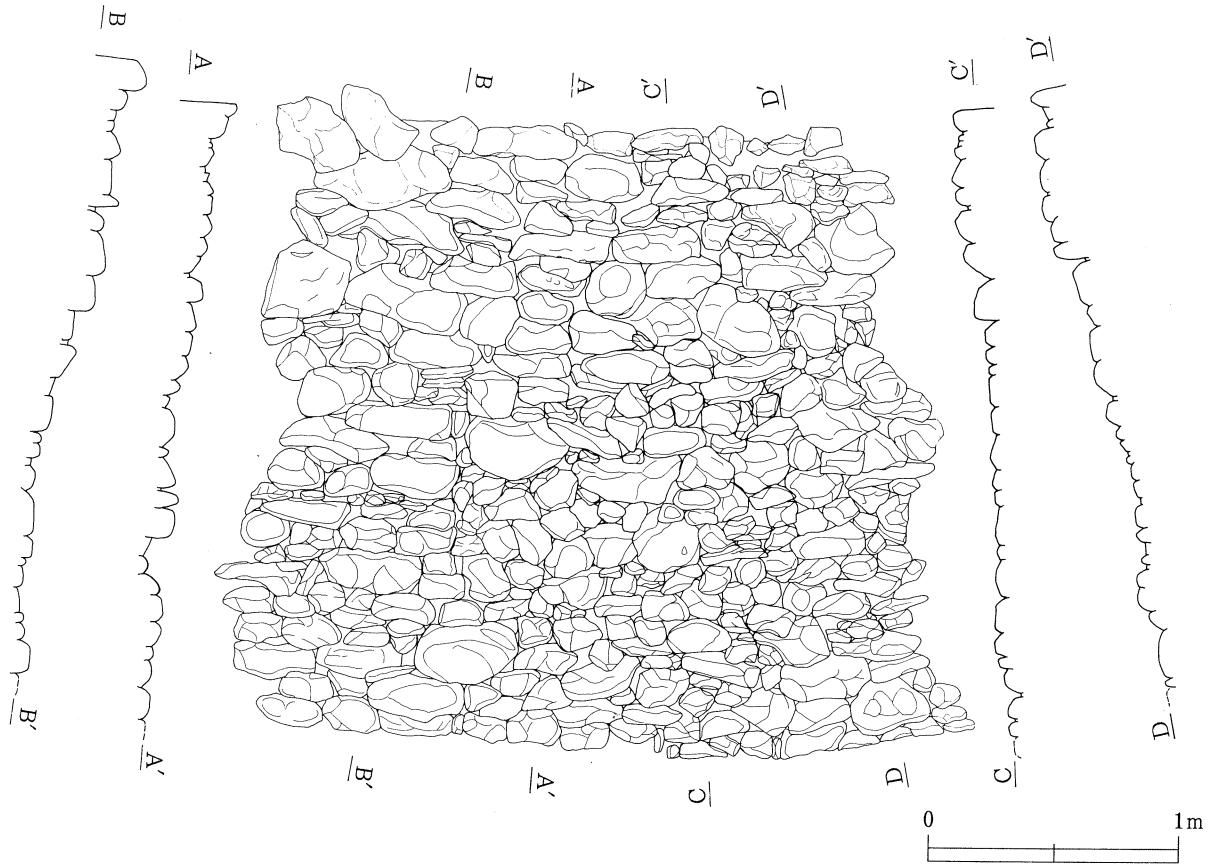
第32図　１号井戸垂直実測図(1)（１／40）



第33図　１号井戸平面実測図(2)（１／20）

2号井戸（ＳＥ－２）第34図

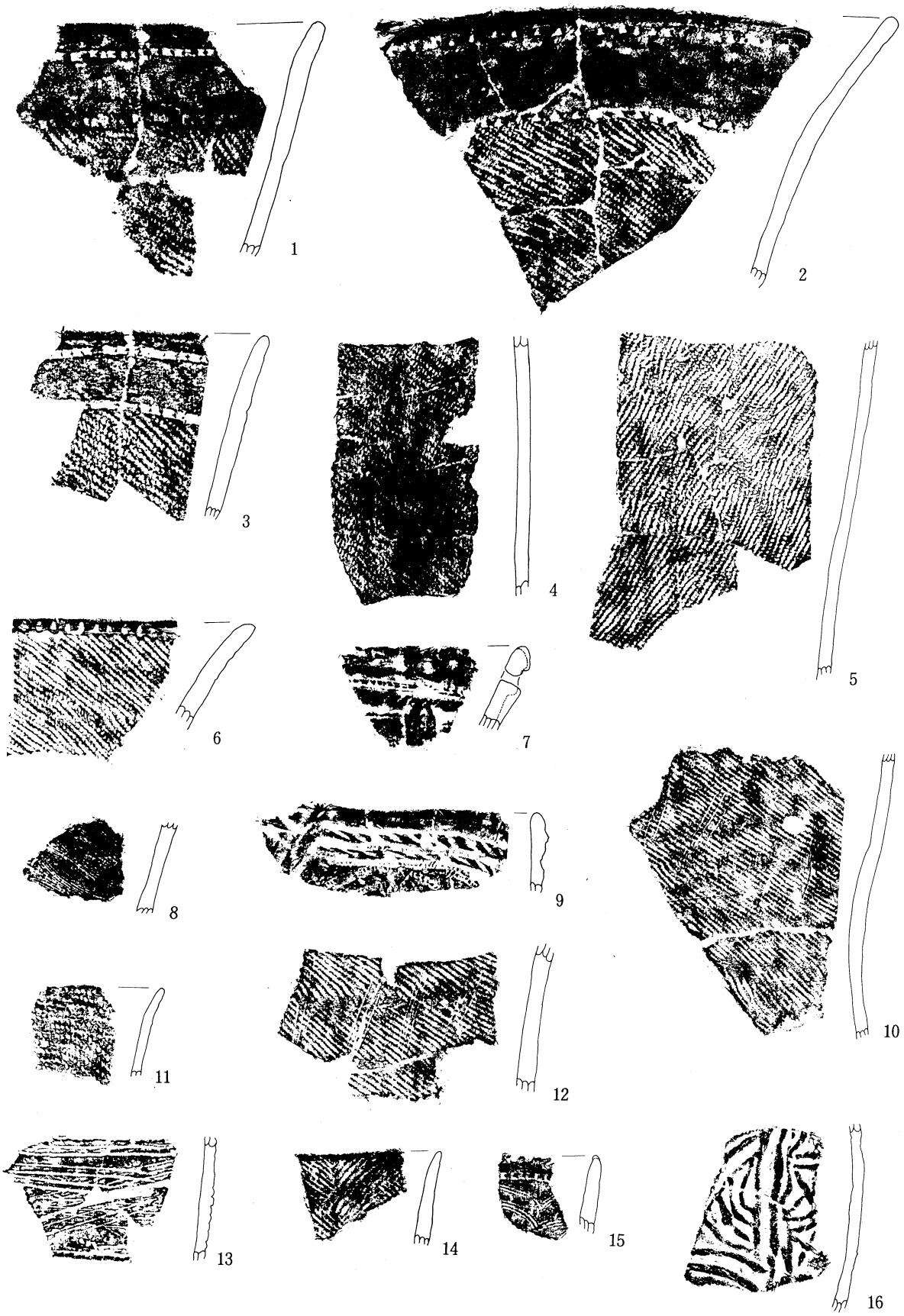
位置－グリッド－Ｅ－３。形状－円形、直径0.6ｍ、石積みによる円筒状の井戸枠である。井戸開口部に蓋石として閉塞石があったが、埋め戻されず、井戸の中に水は確認されなかった。



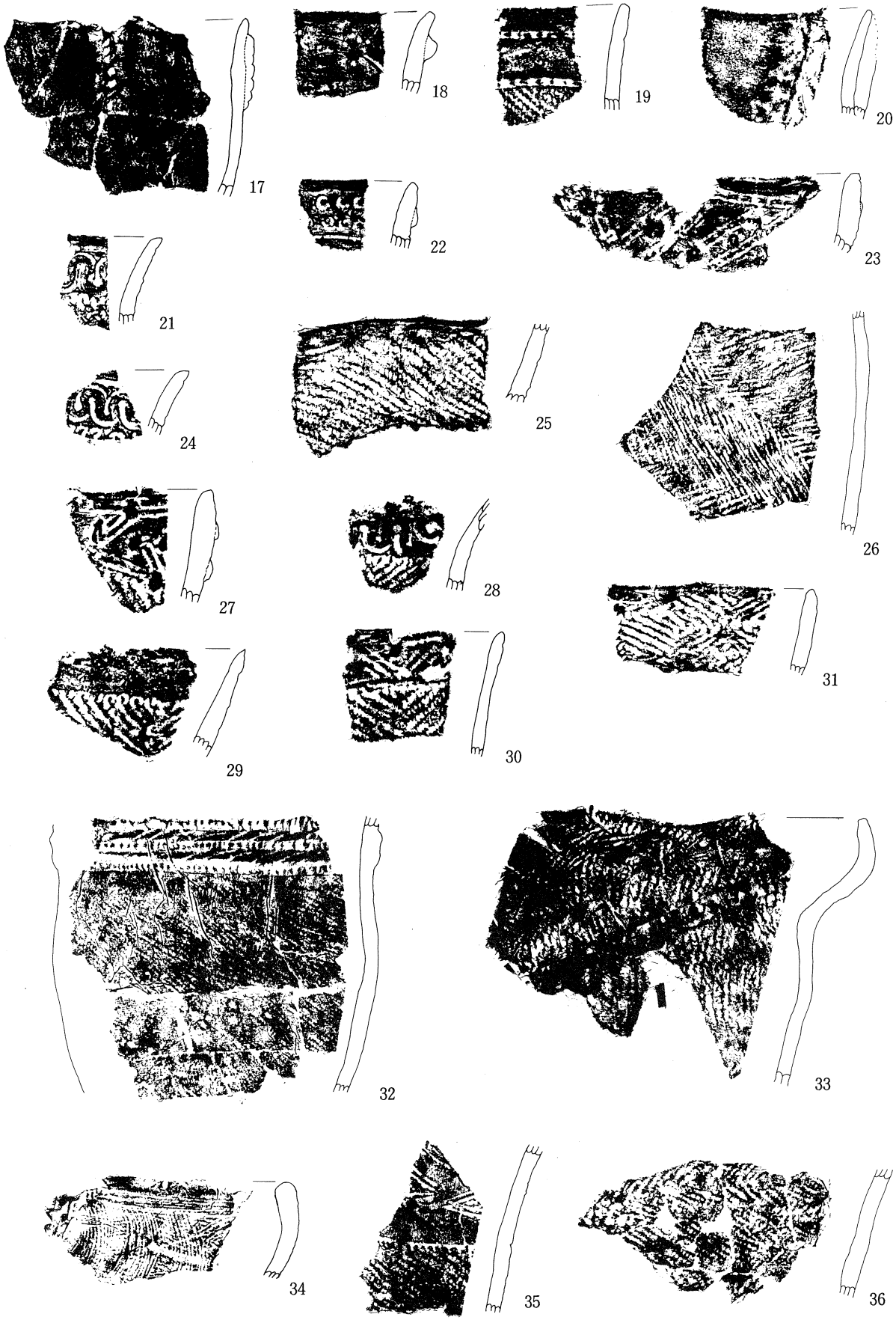
第34図　2号井戸展開・断面実測図（１／30）

iii　出土した遺物

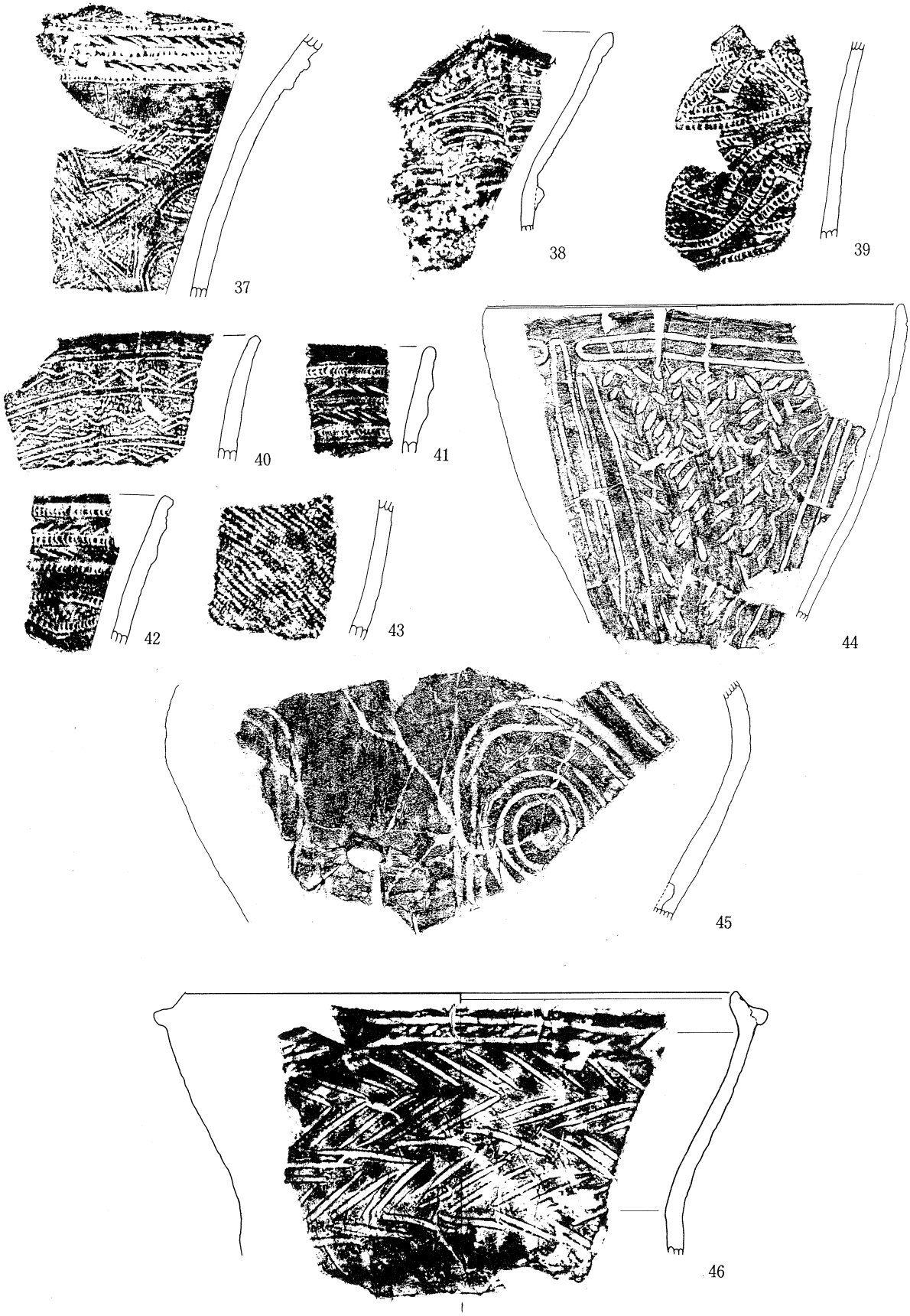
出土遺物は、縄文時代中期の土器（第35、36、37図）、石鏃、石匙、磨製・打製石斧（第38図）等が出土した。中世では内耳土器が、３号住居址・土壙において（第39図１～６）、井戸において（第40図３・４・８・９）、遺構外で（第41図１・２・５・６）出土した。近世では陶磁器（第39図２、第40図１・２・５・６、第41図３・４）、（第40図７）がある。



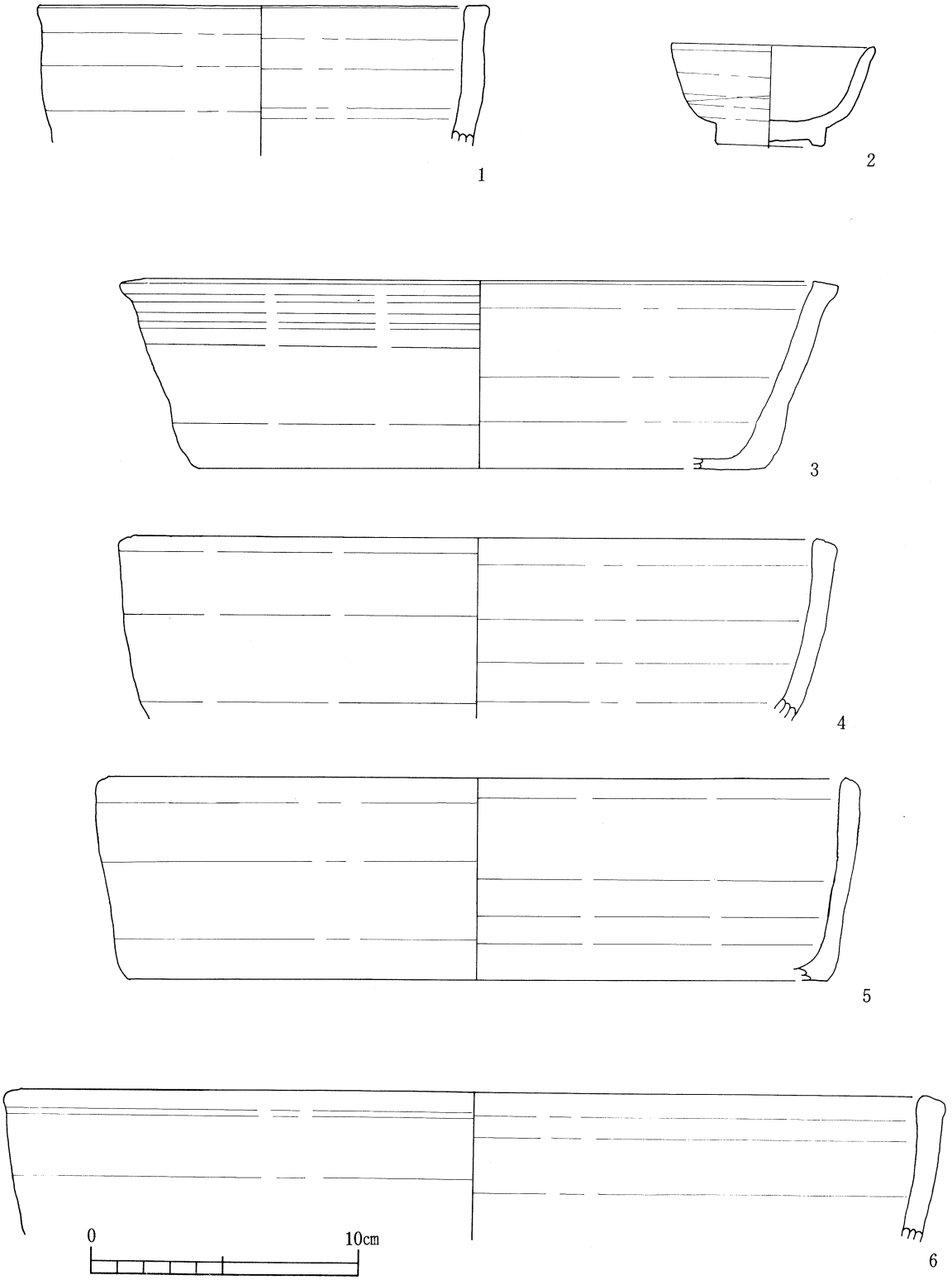
第35図　出土土器実測図（１）（SB9－1～9、SB8－10～14、SB3－15•16）（１／３）



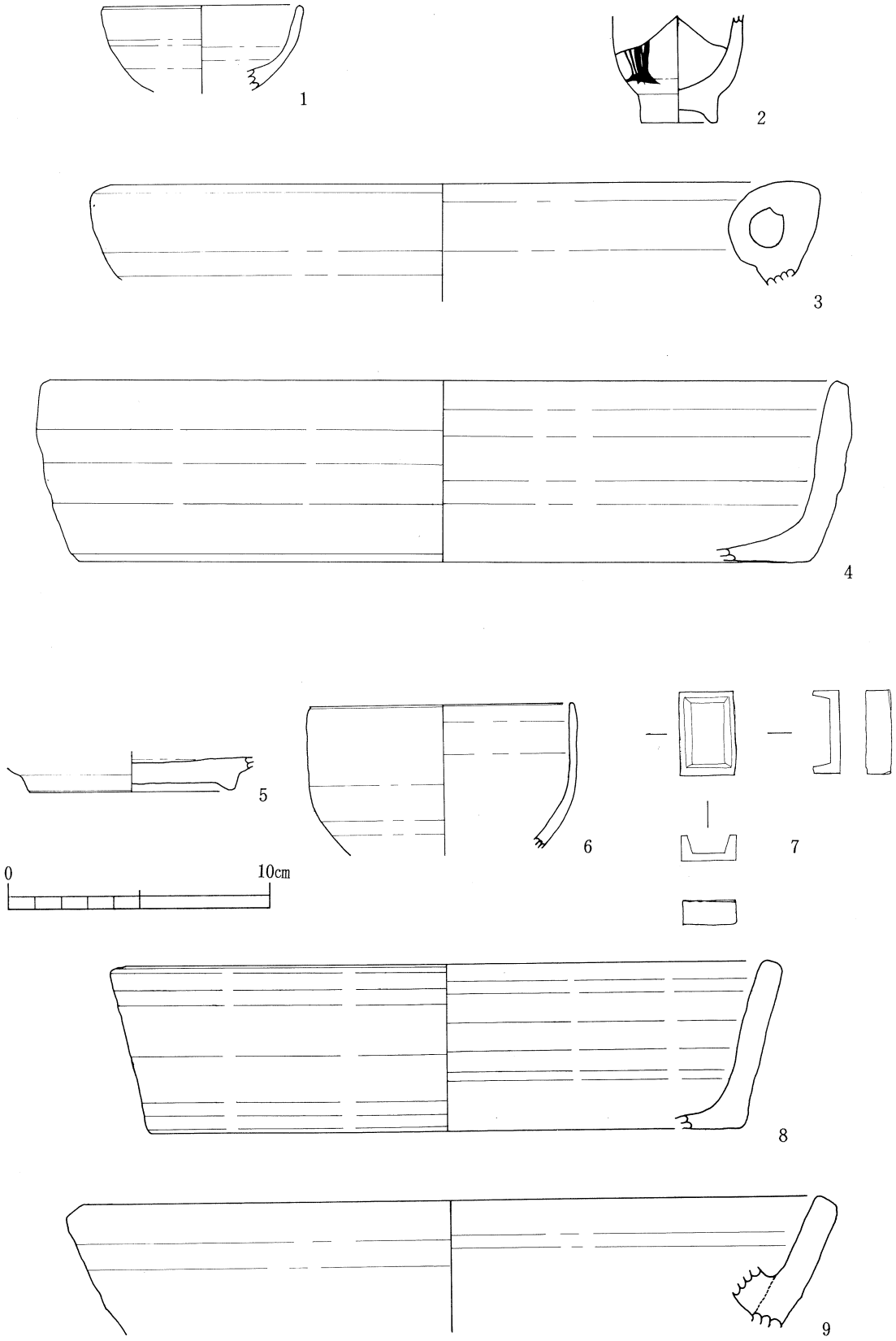
第36図　出土土器実測図（２）（SB3－17、SB4－26、SB6－18•20•22、SB5－19•31、SB7－21•24•25•28、SB10－23•27•29•30、SK10－36、SK37－33、SK50－32•35）（１／３）



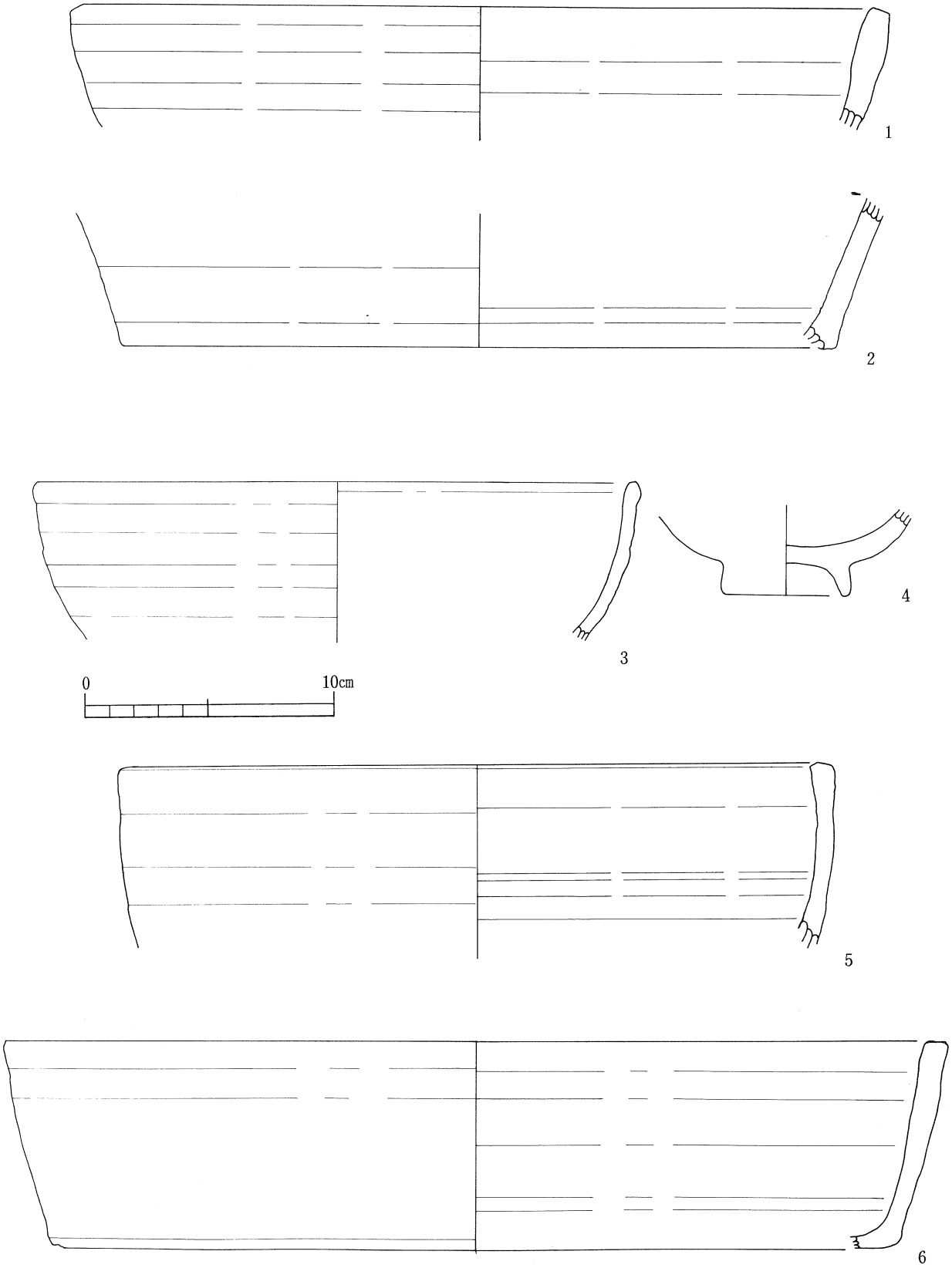
第37図　出土土器実測図（３）（37～43は1／3、44、45、46は1／6）
（SK1-46、SK50-32・37・38、SB5-45、SB9－44、遺構外-39・40・41・42・43）



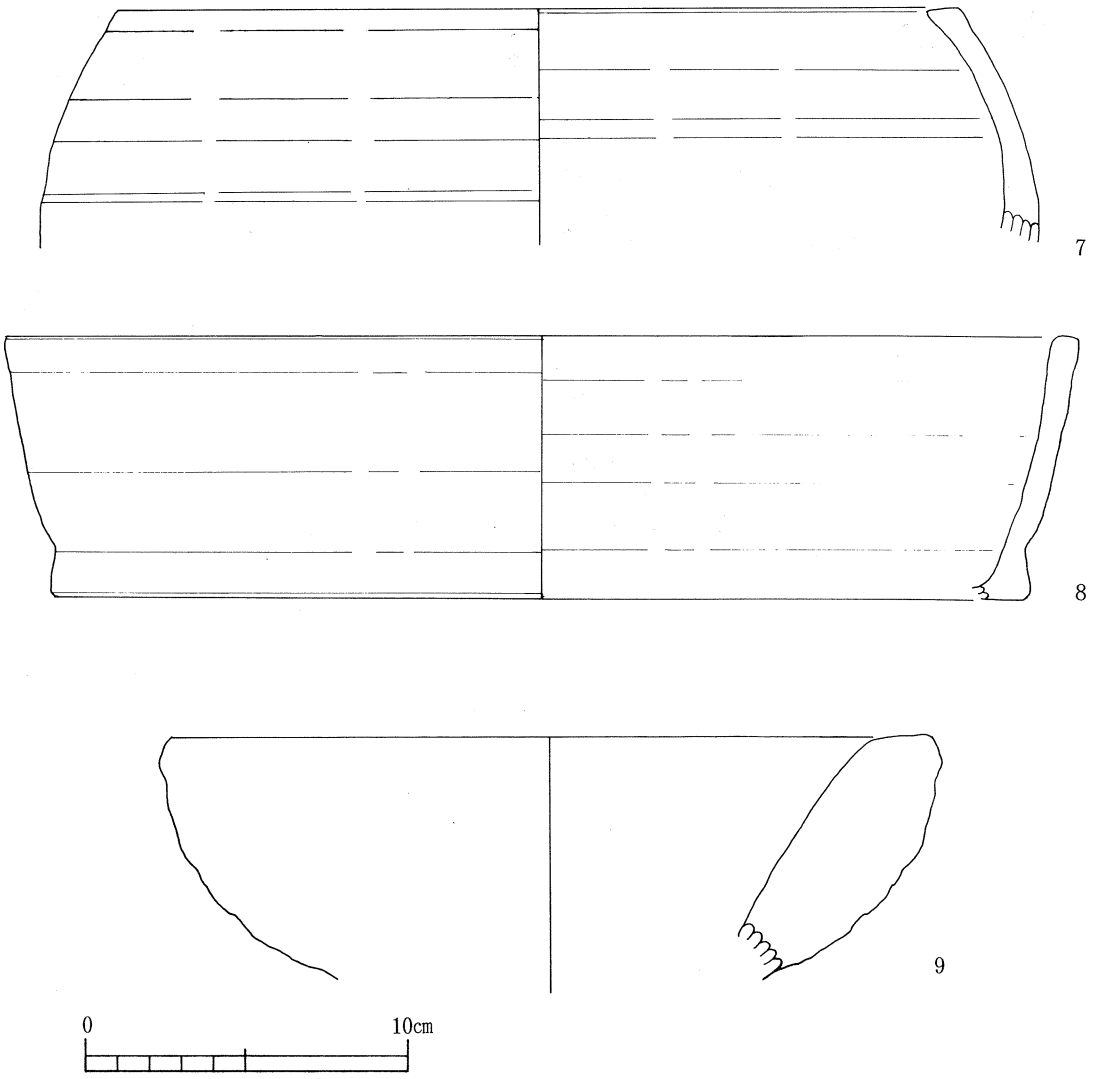
第38図　3号住(1)、11号(2)・15号(3〜5)・26号(6)土壙出土土器実測図



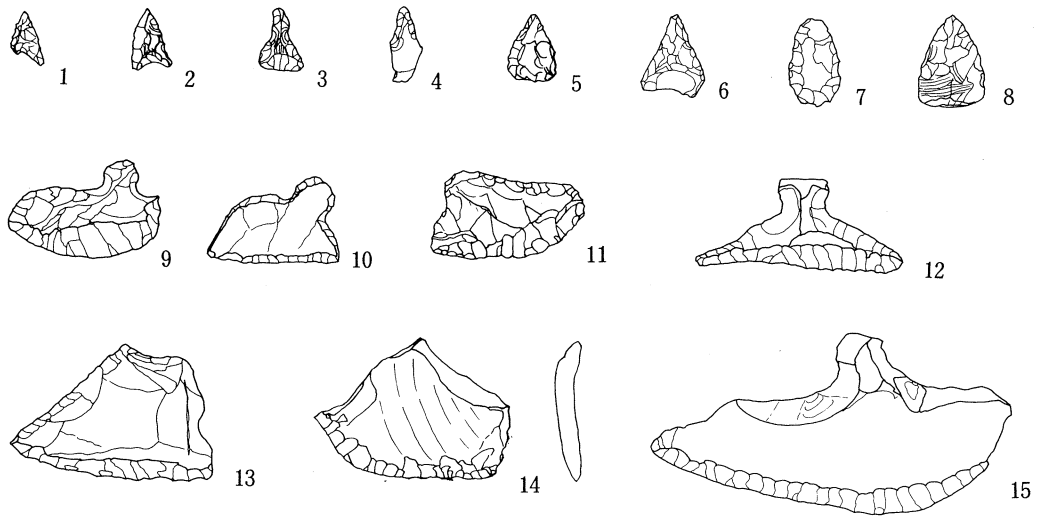
第39図　1号（1〜4）、2号（5〜9）井戸出土土器実測図



第40図　遺構外出土土器実測図（１）



第41図　遺構外出土土器実測図（２）

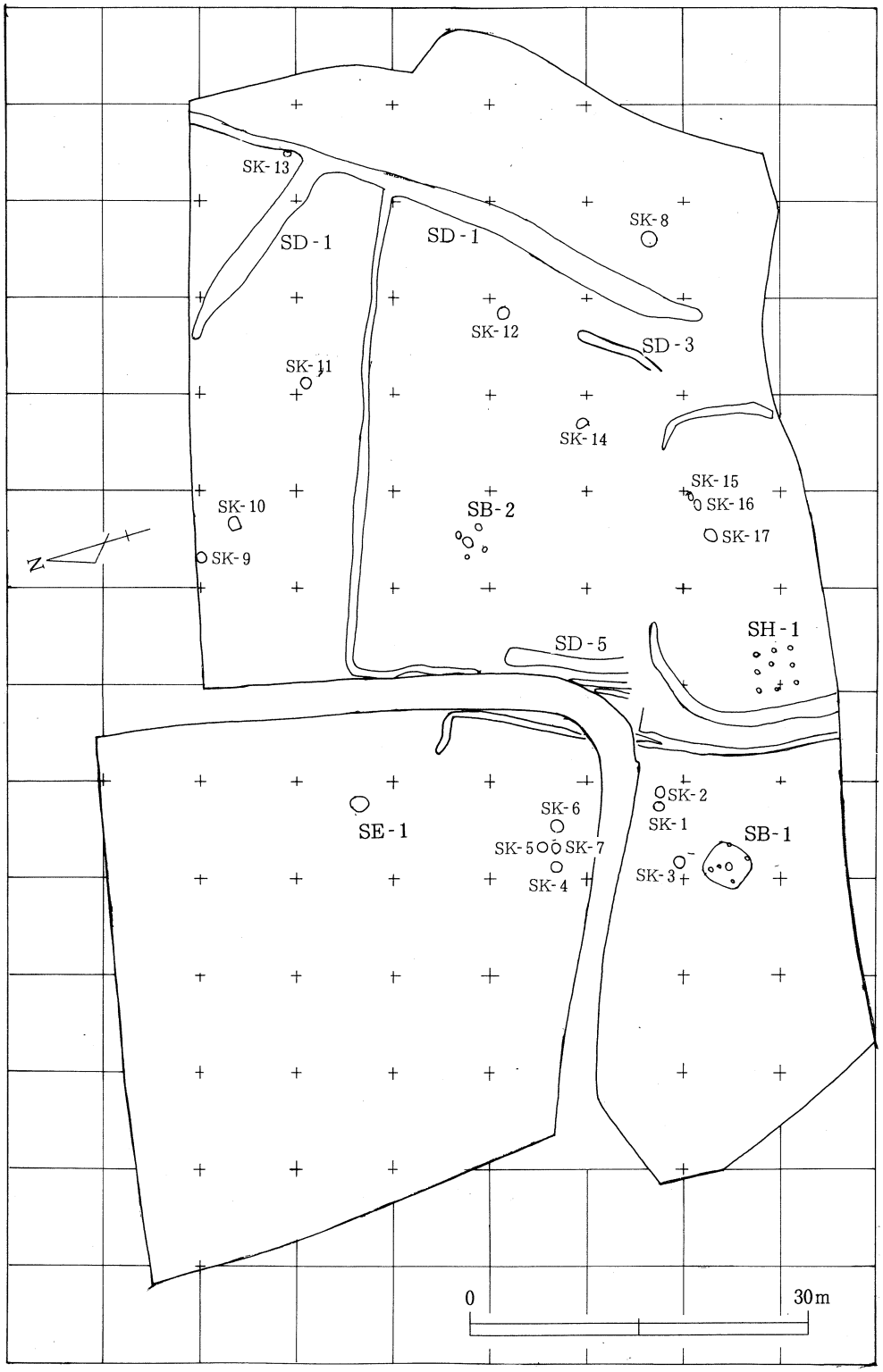


第42図　出土石鏃、石匙実測図（１／２）
（SB5-10、SB9-1•13、SB8-9、SB9-6•11、SB10-10、SK2-4•7、SK3-3、遺構外-2•5•8•14•15）

第43図　出土石斧、瑛状耳飾り実測図（１／３）
（SB4－7、SB8－1、SK1－5、SK13－3、SK37－8、遺構外－2•4•6•9•10•11）

第Ⅷ章　米田北遺跡

i　遺跡の環境



本遺跡は、山梨県北巨摩郡高根町村山北割字米田地内に所在し、標高785ｍを測る。地形が南傾斜する尾根上に位置する。平成４年度調査の米田遺跡の北側に接して位置する。両遺跡は一体のものである。

第１図　米田北遺跡遺構分布図（1／600）

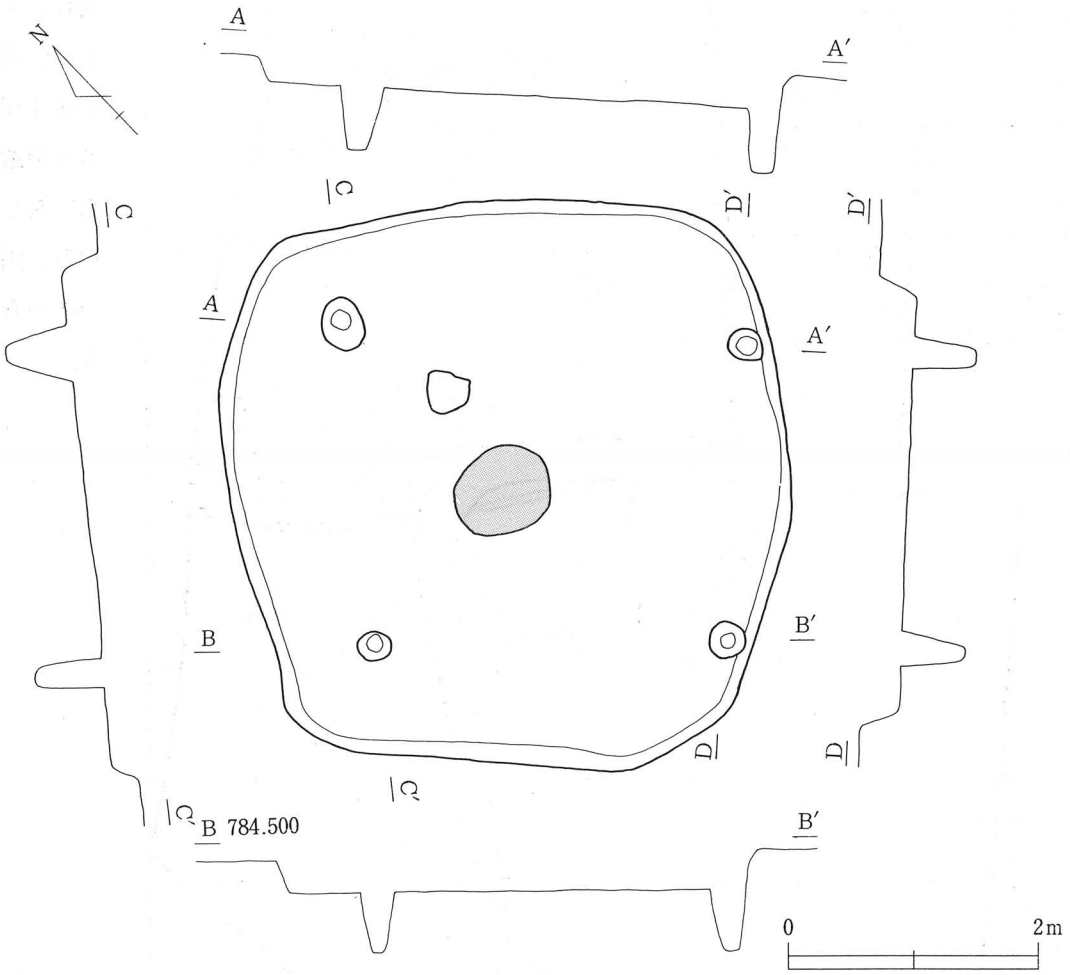
ii　検出された遺構

検出された遺構は、縄文時代前期後葉の住居址１軒、縄文時代中期の住居址１軒、掘建柱建物址、集石土壙１基、土壙墓１基、時期不明の土壙11基、近世の溝10条・井戸１基が検出された。

(1)　竪穴住居址

１号住居址（ＳＢ－１）第２図

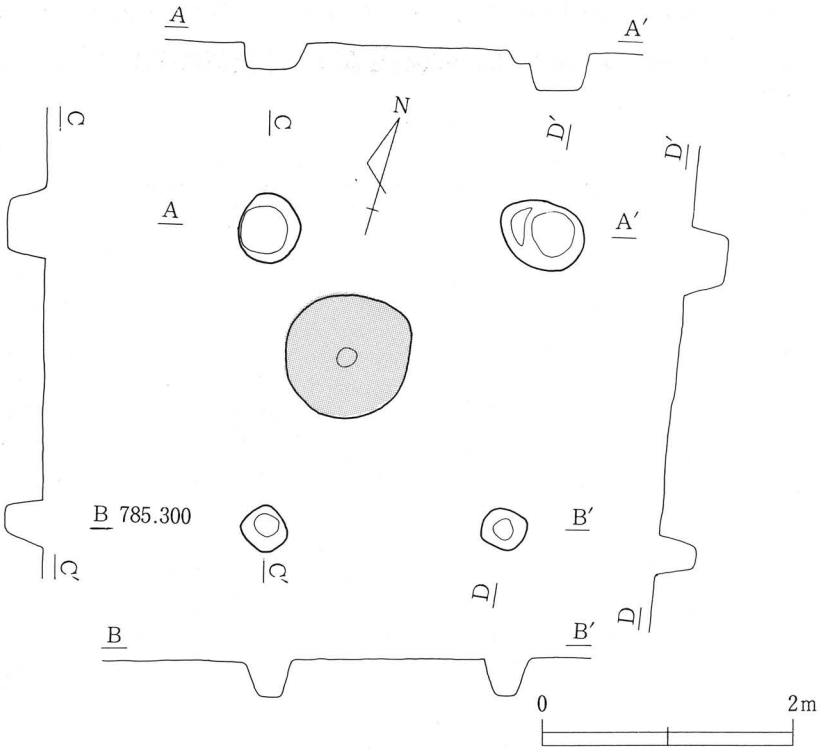
本遺跡内の西側（グリッドＦ－２）に位置する。形状は、４ｍ50㎝四方の隅丸方形で、深さ30㎝を測る。４本の柱穴があり、炉石がなく、中央部に地床炉が確認された。縄文時代前期後葉と推定される。石鏃１個（第10図１）が出土した。



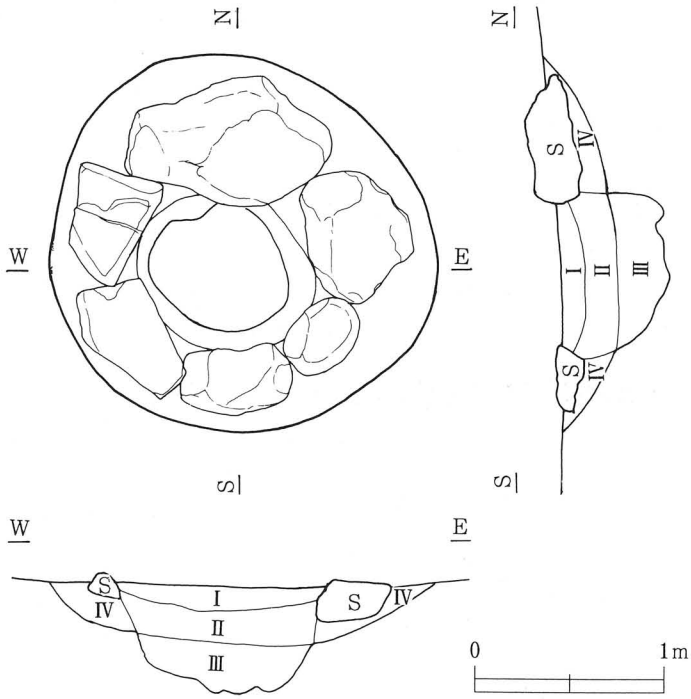
第２図　１号住居址実測図（1／60）

２号住居址（ＳＢ－２）第３図

本遺跡内の中央部（グリッドＩ－５）に位置し、南北１間・東西１間、柱間寸法は梁１ｍ24㎝・桁１ｍ90㎝と２ｍ30㎝を測る。柱穴は、楕円形で直径32㎝～70㎝を測る。住居址中央に石囲い炉があり、炉石は横にした状態で出土した。形状は円形、直径１ｍを測る。縄文時代中期と推定される。



第３図　２号住居址実測図（1／60）



土層説明

Ⅰ層　黒褐色土層、粘性ややあり、しまり弱

Ⅱ層　暗褐色土層、粘性あり、しまりややあり（焼土粒子を含む）

Ⅲ層　暗褐色土層、粘性しまりややあり（焼土粒子、ロームブロックを含む）

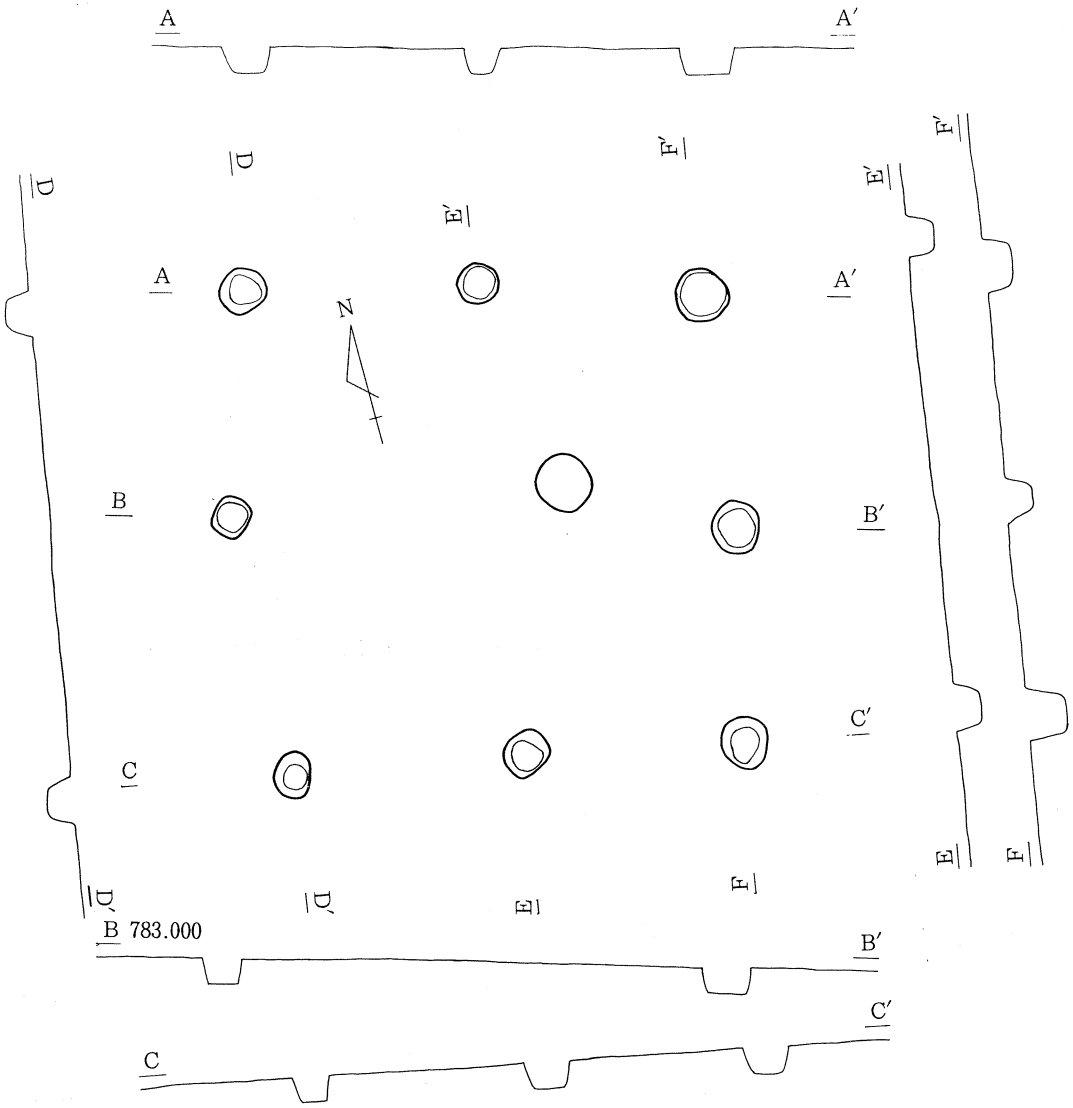
Ⅳ層　黄褐色粘質土層、粘性あり、しまりややあり

第４図　２号住居址炉実測図（1／40）

(2) 掘建柱建物址

1号掘建柱建物址（ＳＨ－１）第５図

本遺跡内の南側（グリッドＨ－１・２）に位置し、南北２間（４ｍ～４ｍ28㎝）・東西２間（４ｍ～４ｍ40㎝）、柱間寸法は梁（１ｍ74㎝～１ｍ90㎝）・桁（１ｍ70㎝～２ｍ10㎝）、柱穴はほぼ円形、直径30㎝～40㎝・深さ20㎝～30㎝を測る。中央部に窪んでいる穴があり、焼土は確認されなかった。



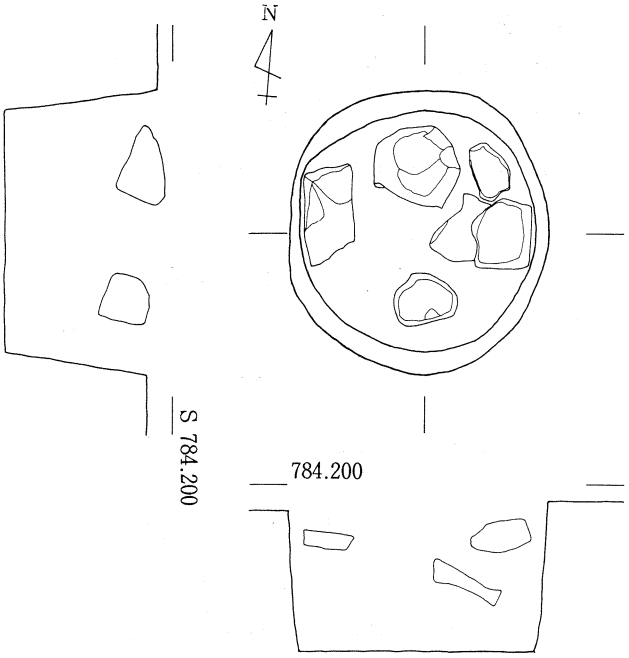
第５図　１号掘建柱建物址実測図（1／60）

(3) 土　　壙

本遺跡内において、土壙は17基検出された。1号土壙、2号土壙、3号土壙から寛永通宝各5～6枚が出土し土壙墓と推測され、8号土壙は集石土壙であった。他の土壙（第2図参照）は出土遺物がなく、時代不明であった。

1号土壙（SK－1）第6図

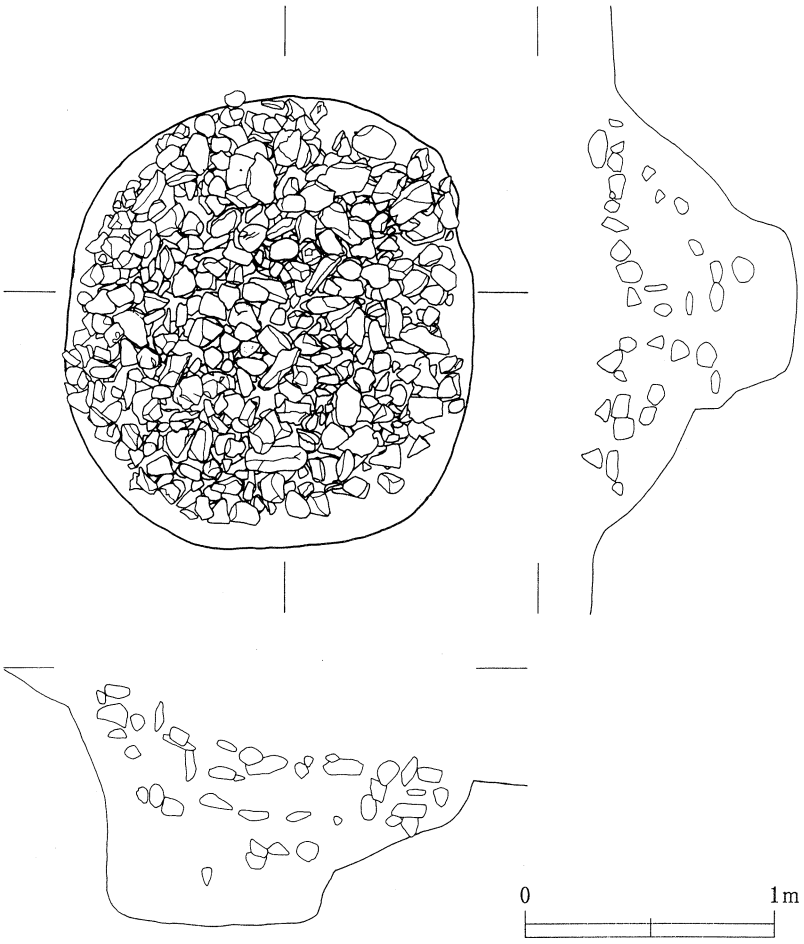
位置－グリッドE－3。形状－楕円形、長径1m80cm・短径80cm・深さ50cm。骨片、銭5枚が出土した。土壙墓と推測される。



第6図　1号土壙実測図（1／20）

8号土壙（SK－8）第7図

位置－グリッドL－3。形状－楕円形、長径1m80cm・短径1m60cm・深さ75cm。握り拳大ほどの石が幾層に積み重ねられた集石土壙である。低部は黒色土であった。時期不明である。仮定するに、幾層の石がろ過装置の役割を意味し、使った水、使い残しの水を捨てた場所と考えられ、水を浄化し元に返して、再び豊かな水に恵まれることを祈る信仰によると見られる。



第7図　8号土壙実測図（1／30）

(4) 井　　戸

1号井戸（ＳＨ－１）第８図

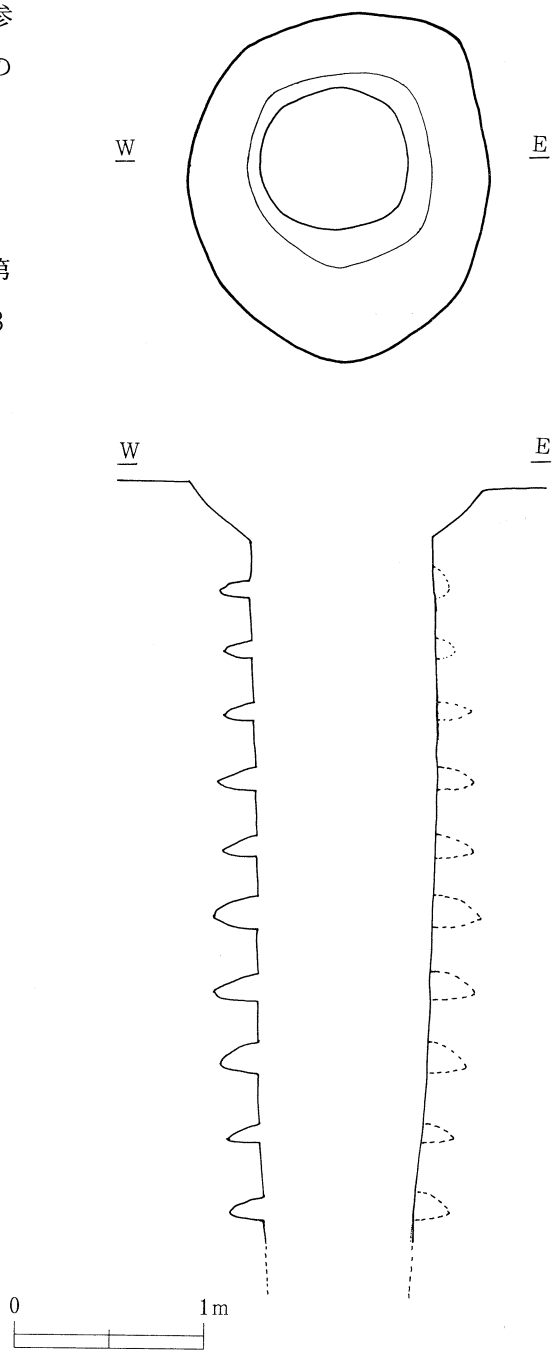
位置－グリッドＦ－６。形状－楕円形、長径１ｍ84㎝・短径１ｍ58㎝・深さ（水面まで）４ｍを測る。手足を踏み入れる側穴が約24㎝間隔であった。

(5) 溝

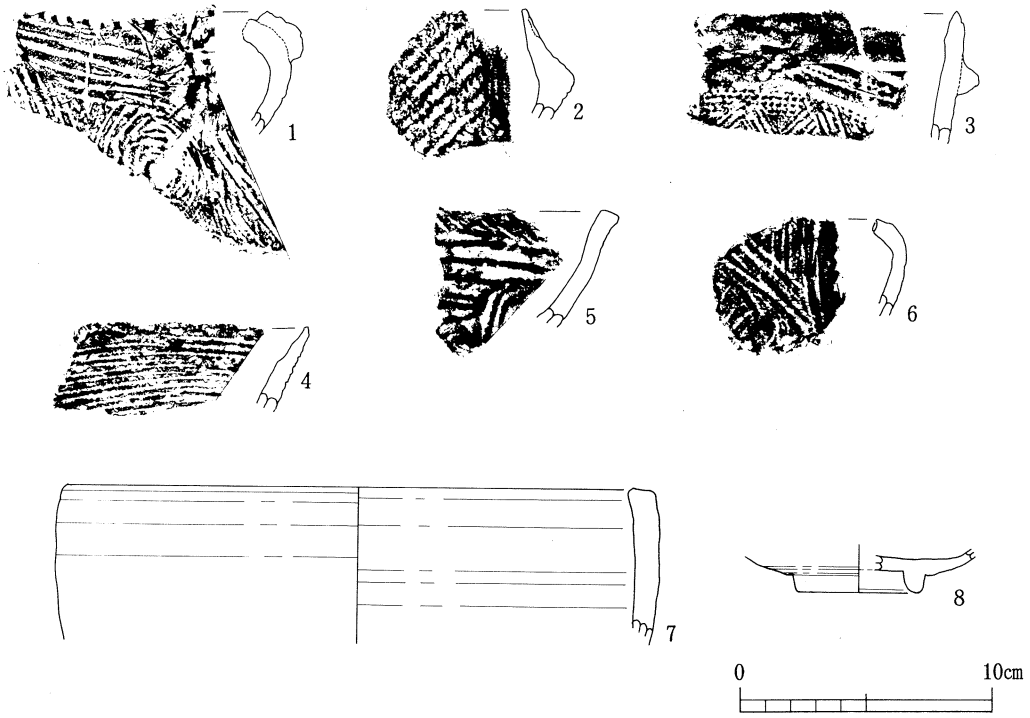
本遺跡内に幾条に縦横に走っている（第１図参照)。水路や道路として用いられ、集落、住居の境界の役割を持っていたと見られる。

iii　出土した遺物

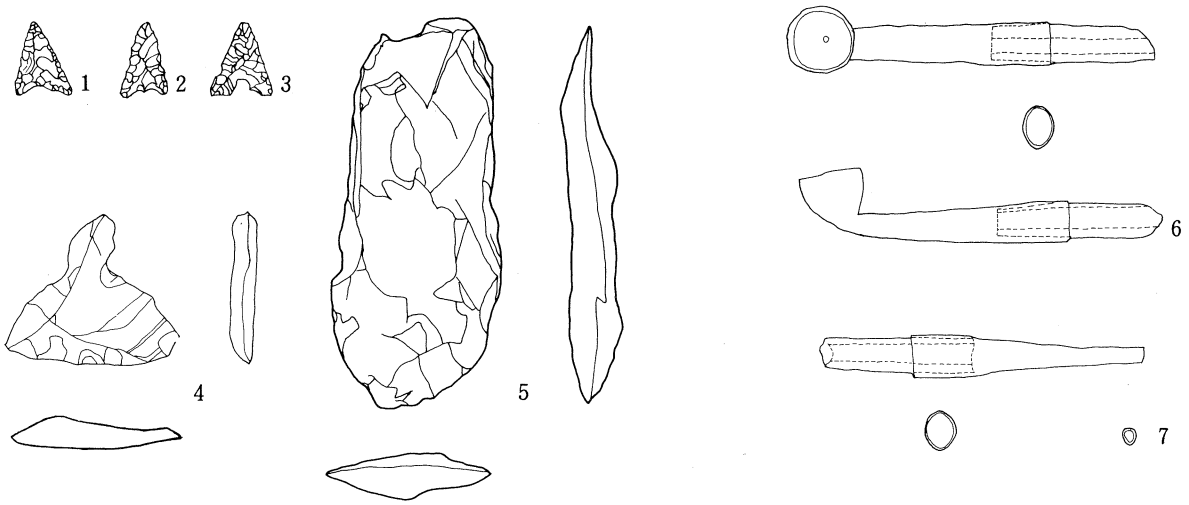
出土した遺物は、１号住居址から石鏃１個（第10図）１号土壙から５枚・２号土壙から５枚・３号土壙から６枚（第11図）の寛永通宝が出土し、２号土壙からキセル２本（第10図）が出土した。遺構外からは、縄文時代前期後葉の土器、石鏃、石斧、中世の内耳土器、近世の陶磁器（第９図）などが出土した。



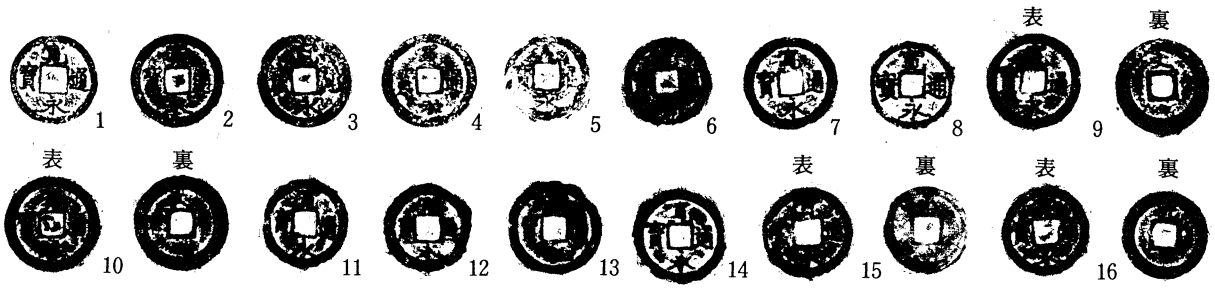
第８図　１号井戸実測図（1／40）



第９図　遺構外出土土器実測図（縄文－１～６、中世－７、近世－８）（1／3）



第10図　１号住・土壙・遺構外出土遺物実測図（1／2）
（１号住－１、土壙－６・７、遺構外－２～５）

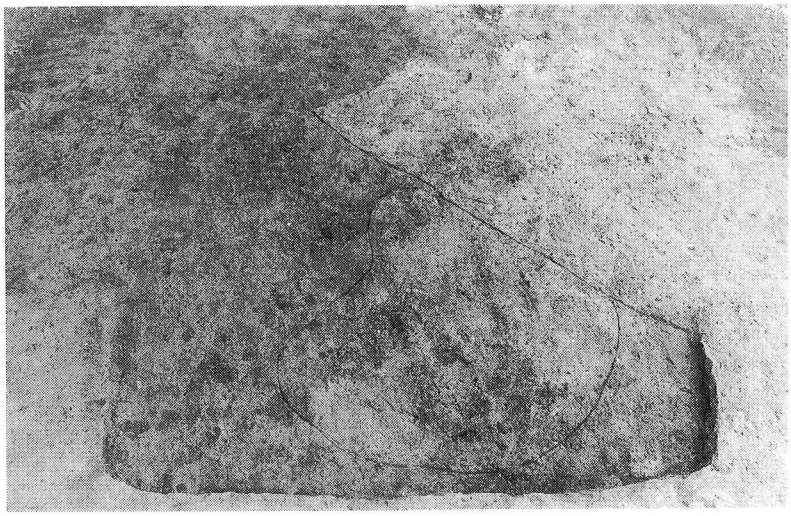


第11図　土 壙 出 土 銭 拓 影（1／2）
（ＳＫ１－１～５、ＳＫ２－６～10、ＳＫ３－11～16）

図　　版

藤林寺跡　図版１

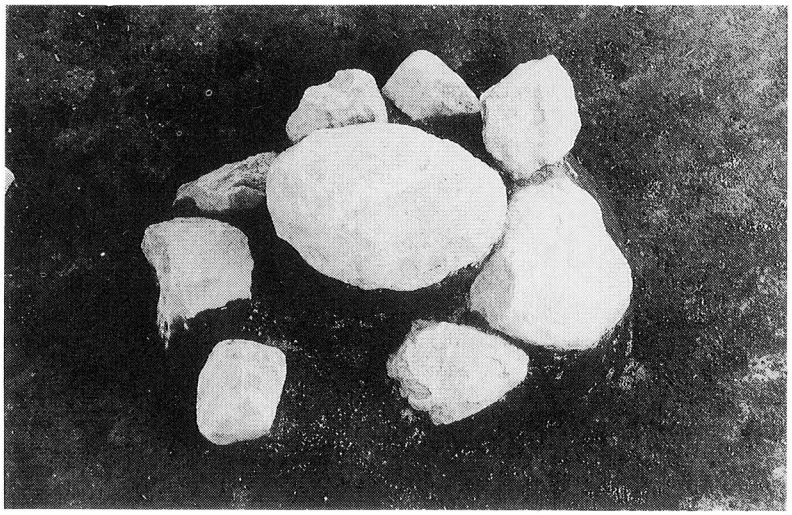
遺構全景（南側より）



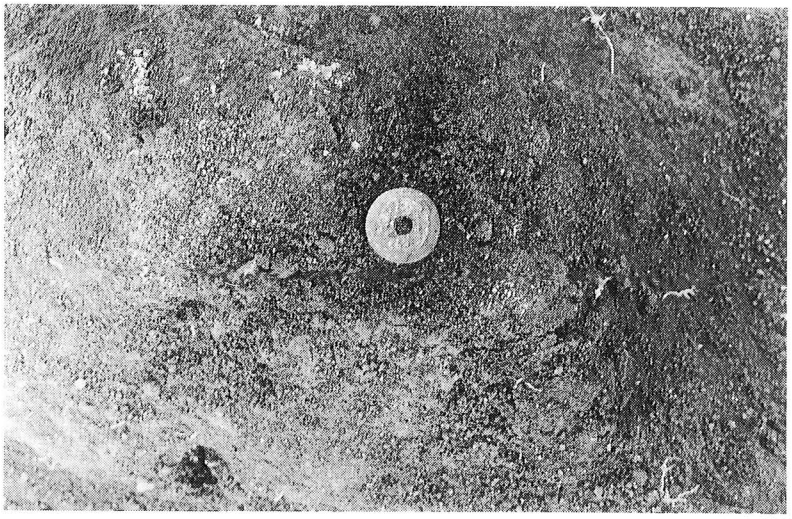
４ 号 住 居 址

配 石 遺 構

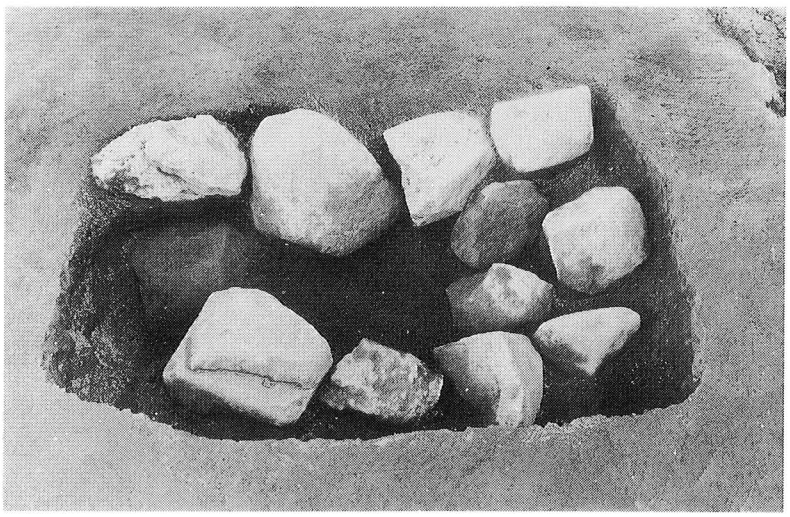
藤林寺跡　図版２



１　号　土　壙

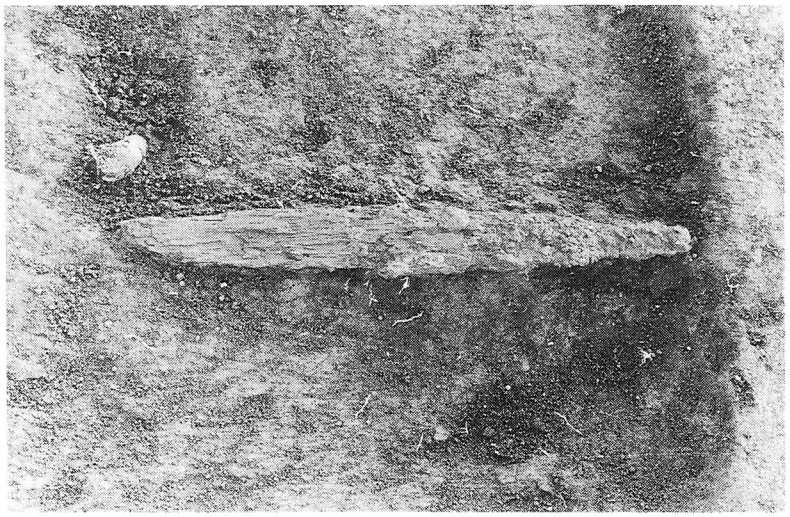


２号土壙（銭出土）

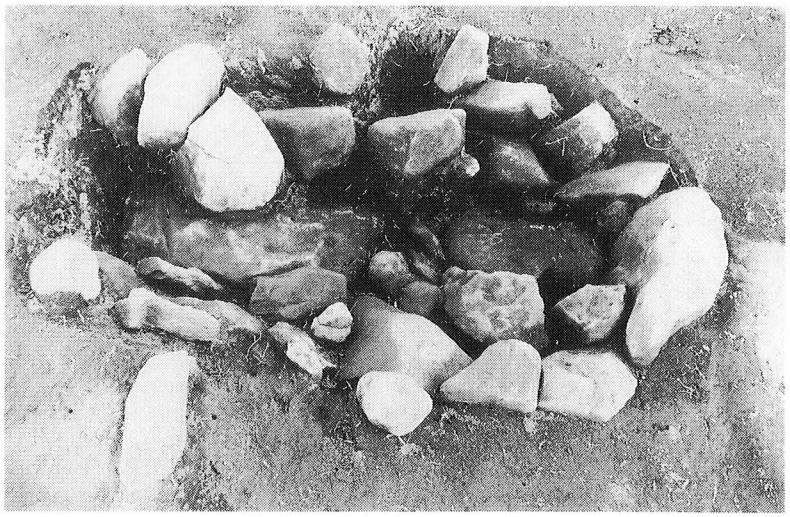


３　号　土　壙

藤林寺跡　図版３

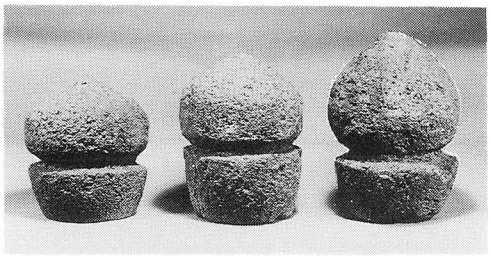


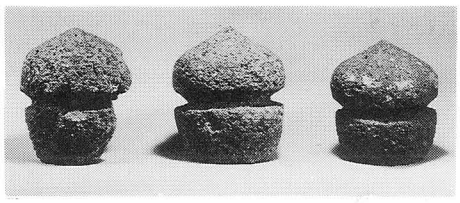
10号土壙（短刀出土）

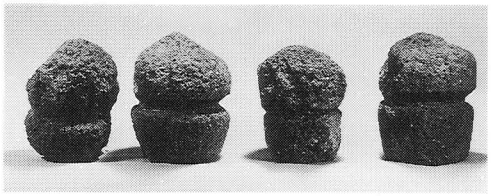


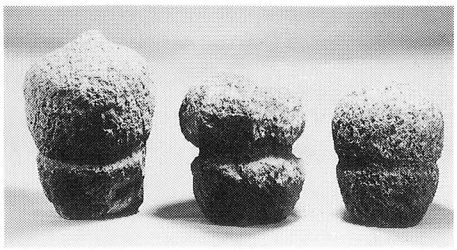
12　号　土　壙

藤林寺跡　図版 4

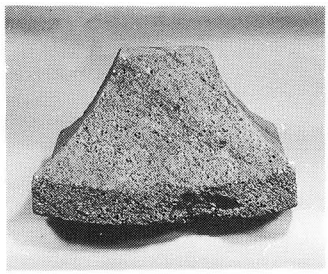


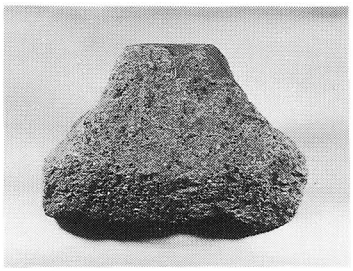


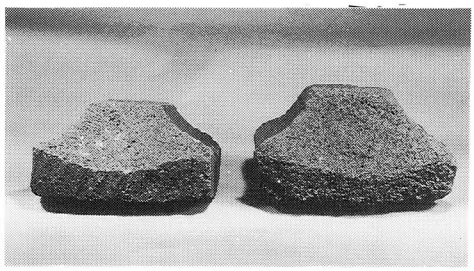


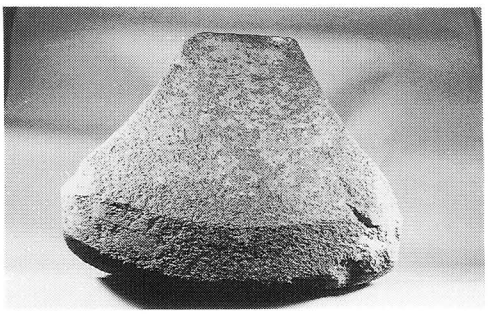


空　風　輪

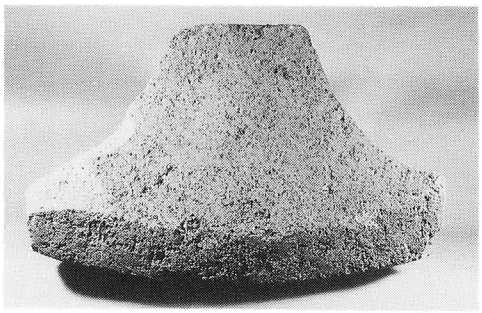


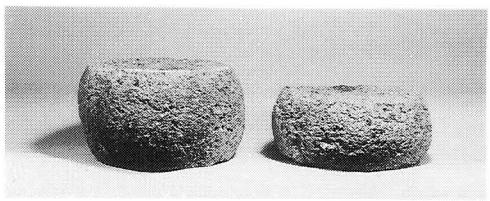


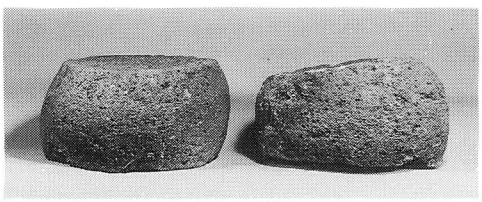


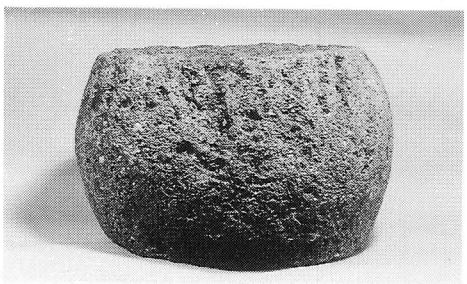


火　輪

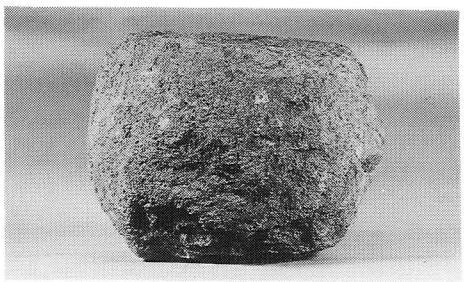






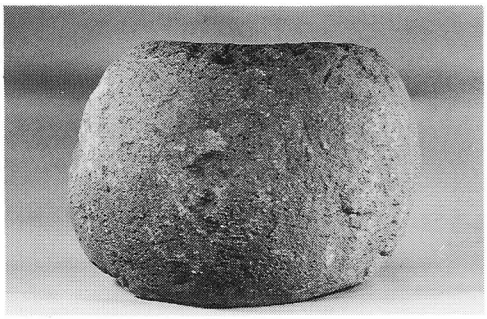


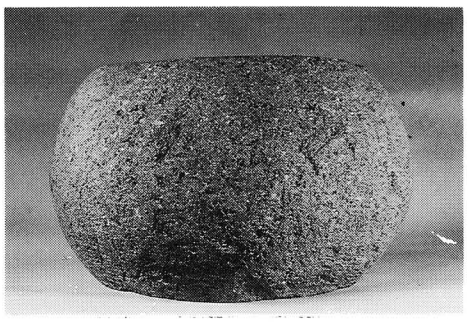
水　輪

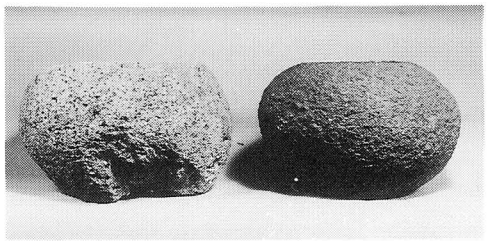


五　輪　塔

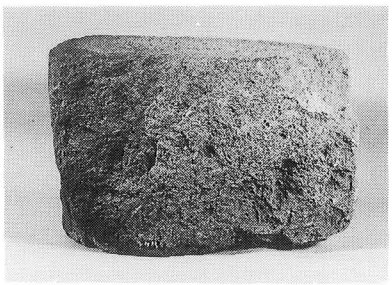
藤林寺跡　図版5

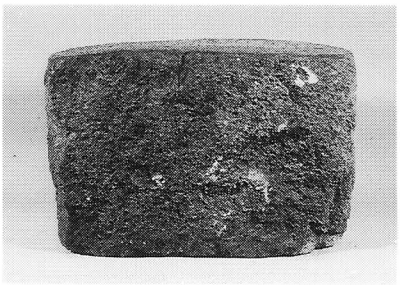


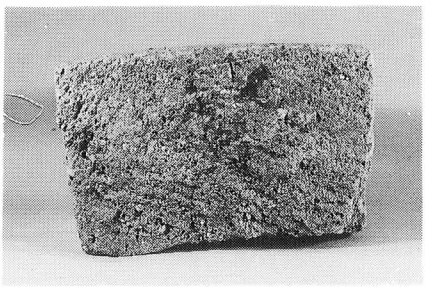


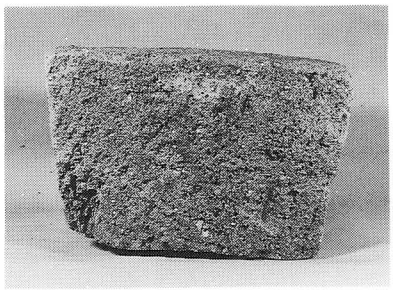


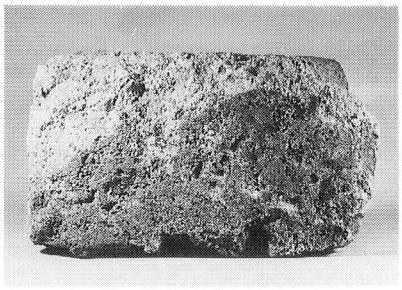
水　　輪

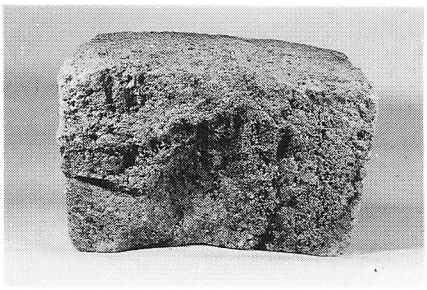




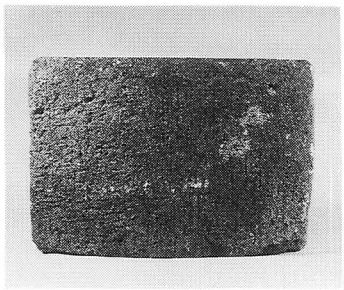




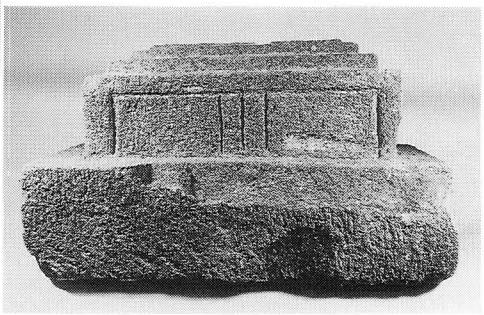


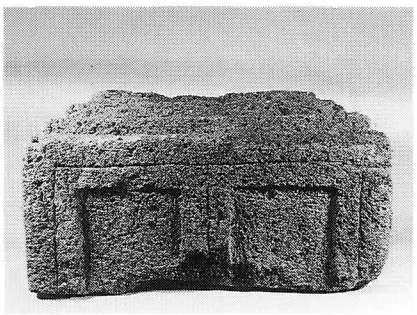


五　　輪　　塔



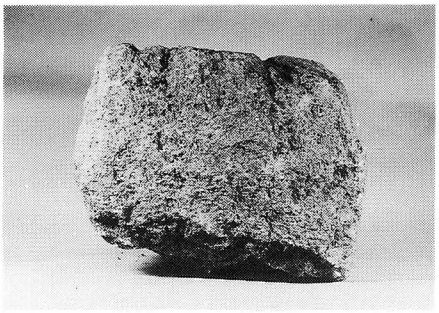
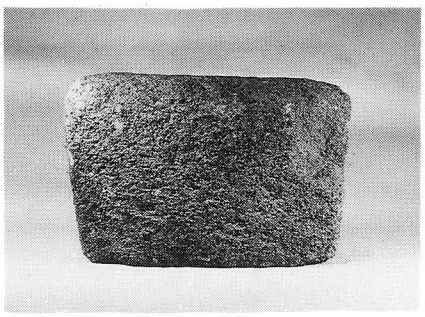
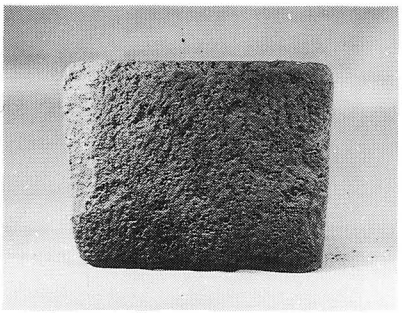
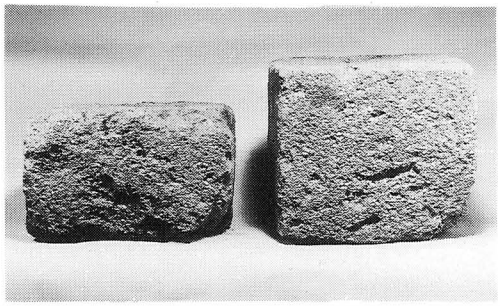
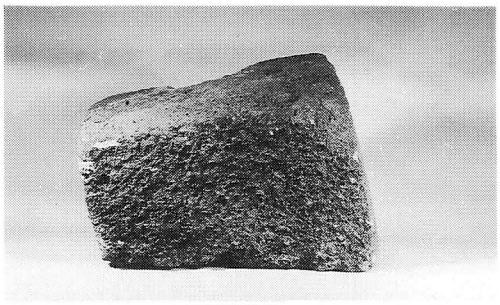
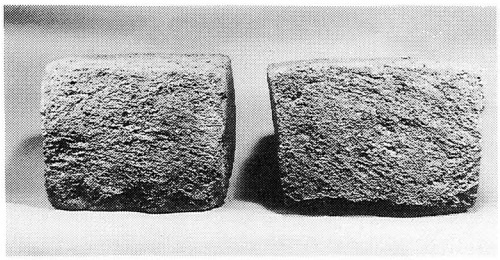
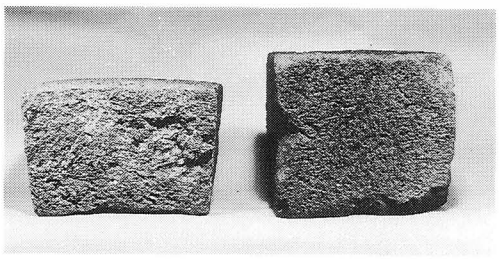
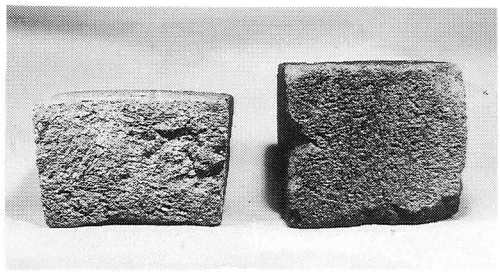
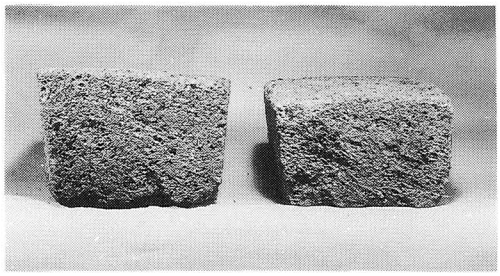
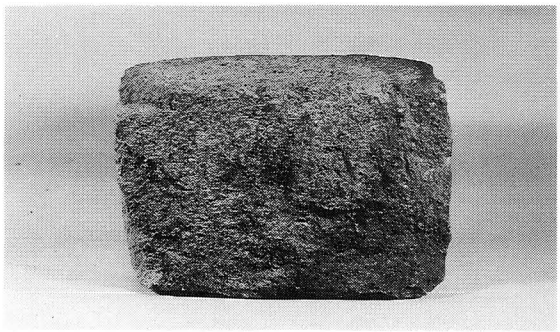
地　　輪



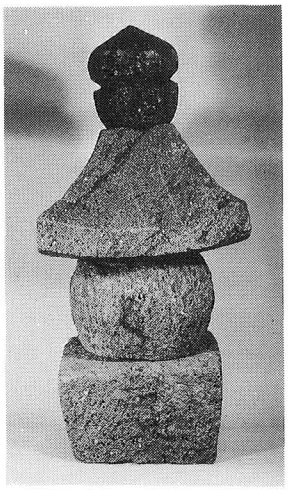


石　塔　の　基　壇

藤林寺跡　図版６

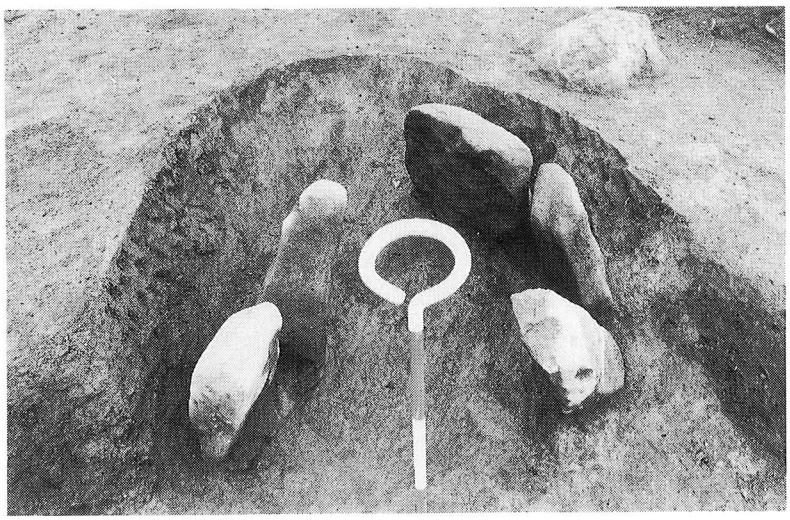
地　　輪



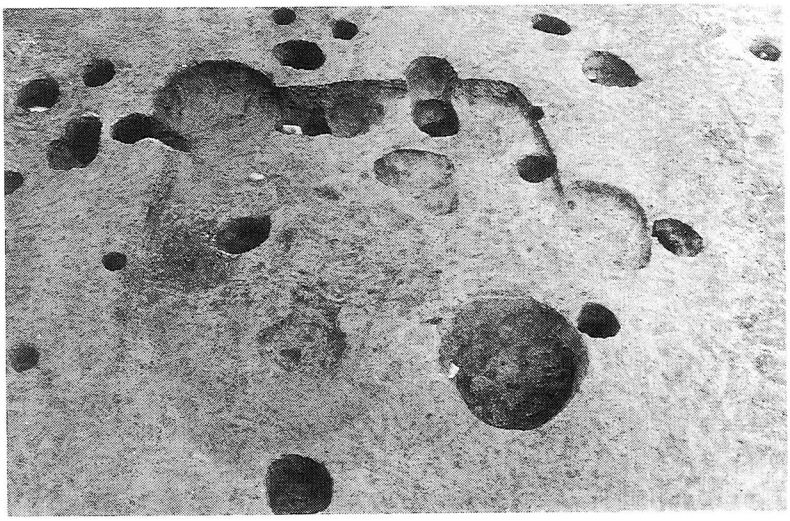
復元した五輪塔

八 ッ 牛　図版１

１ 号 住 居 址

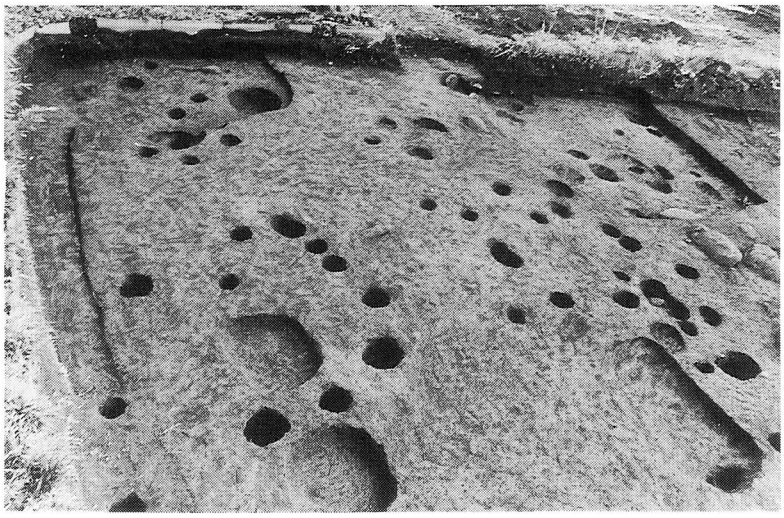


１号住居址カマド

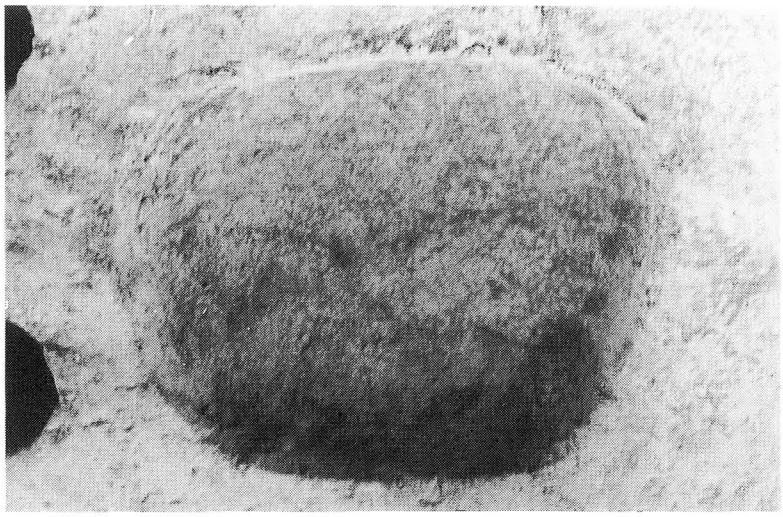


２ 号 住 居 址

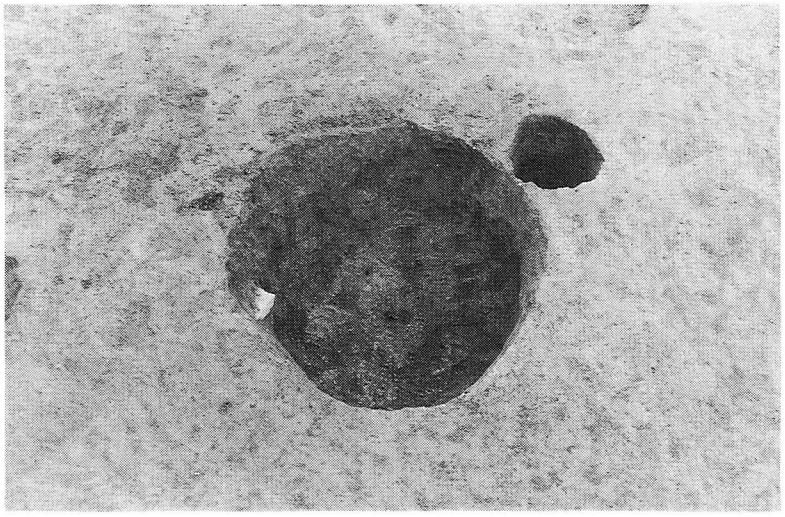
八 ッ 牛　図版２



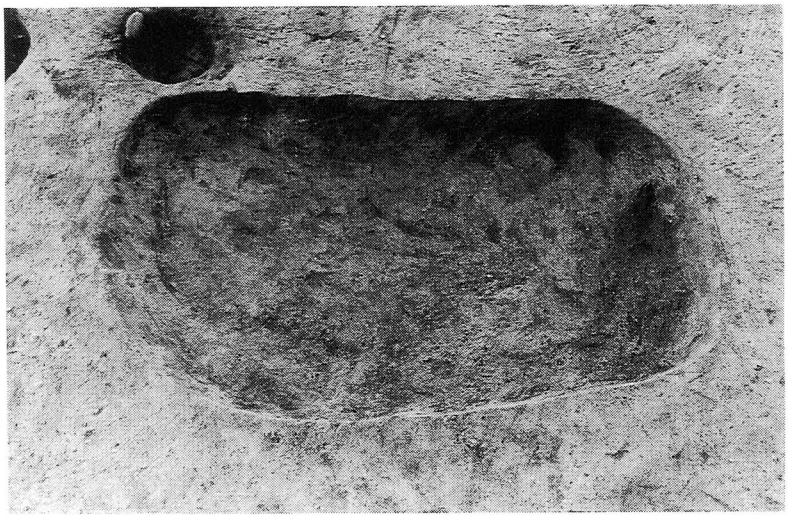
掘建柱建物址群（西より）



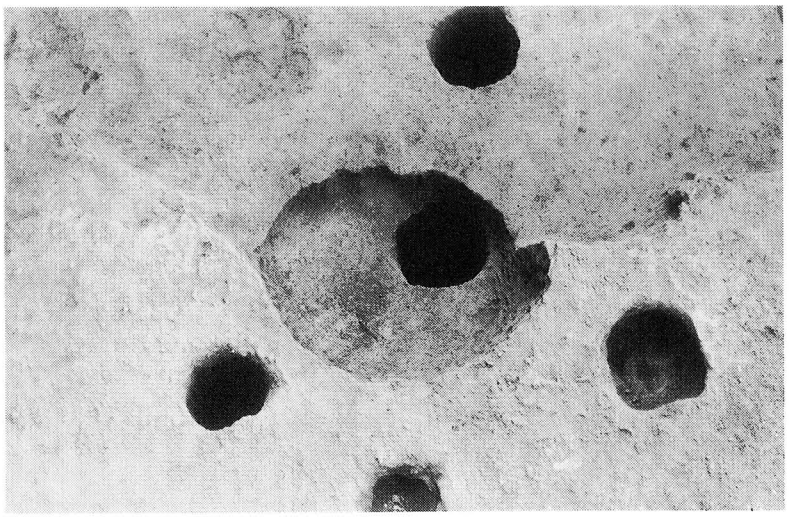
１　号　土　壙



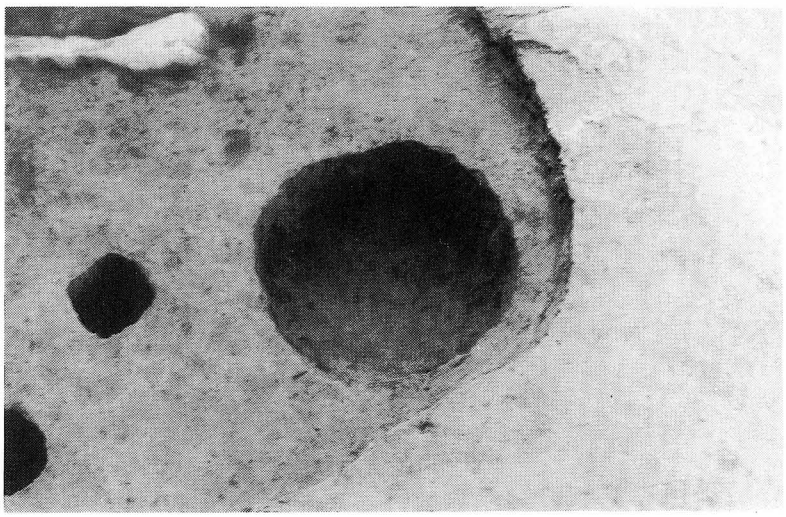
３　号　土　壙



4　号　土　壙

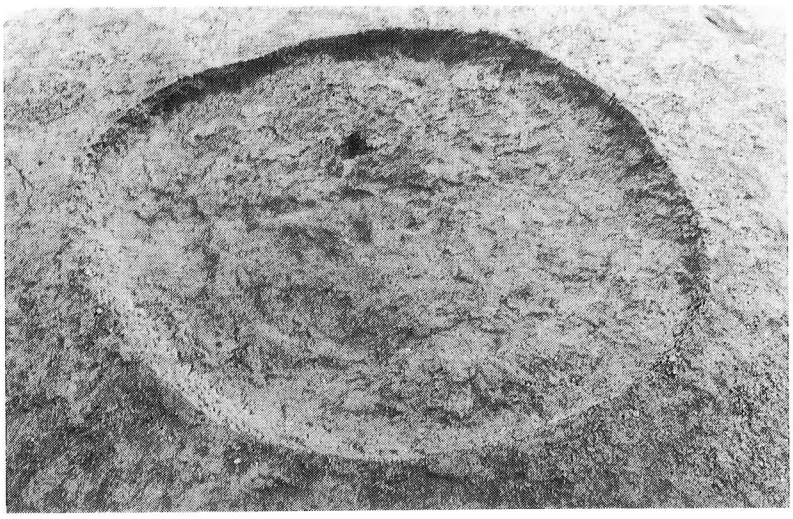


5　号　土　壙

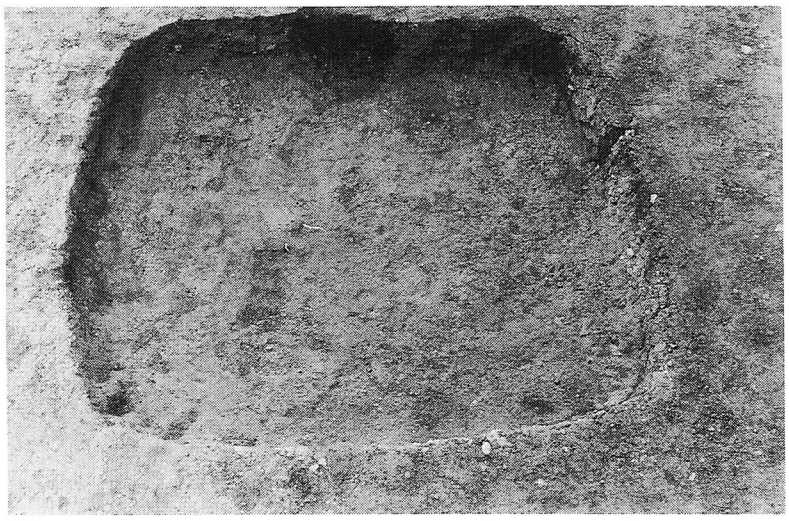


6　号　土　壙

7 号 土 壙

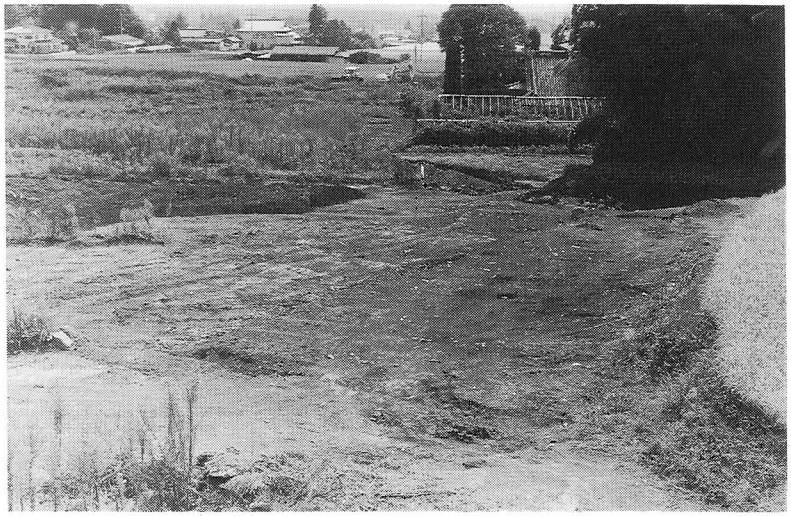


8 号 土 壙



9 号 土 壙

持 井 北　図版1

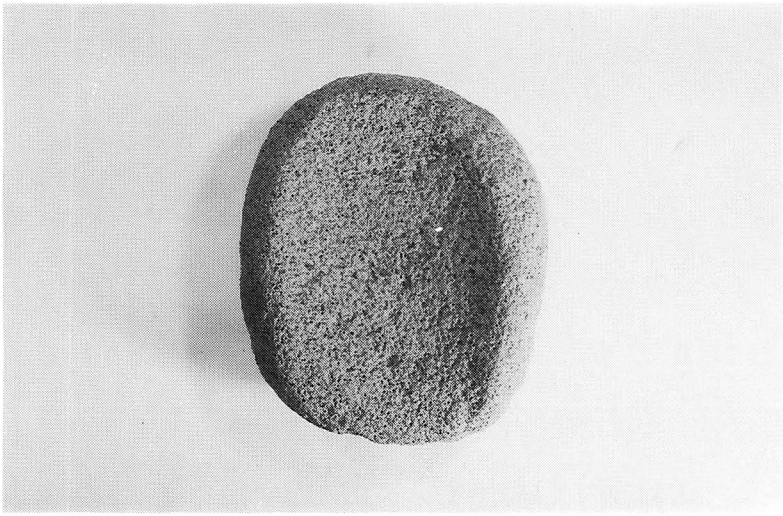


遺跡近景（北側より）

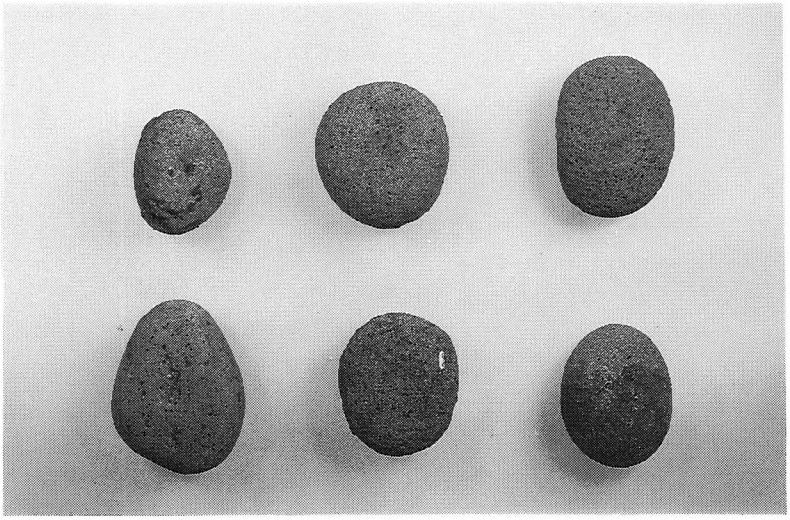
土 層 断 面 図

1　号　土　壙

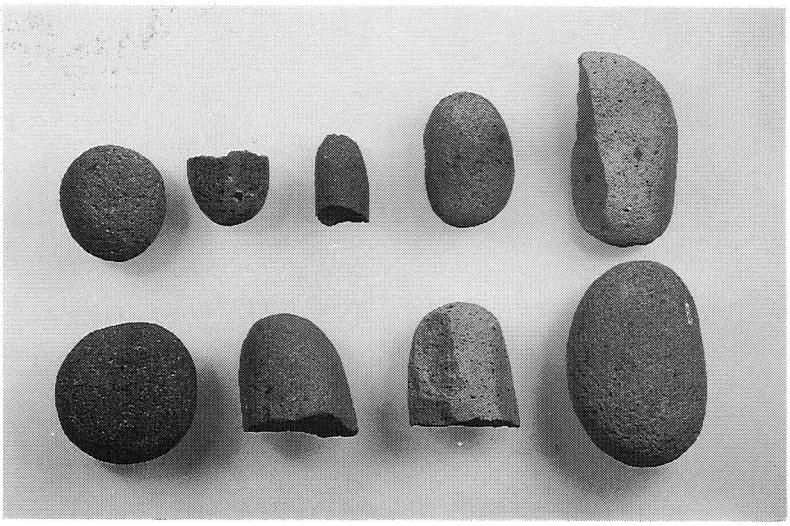
持 井 北　図版2



石　　皿



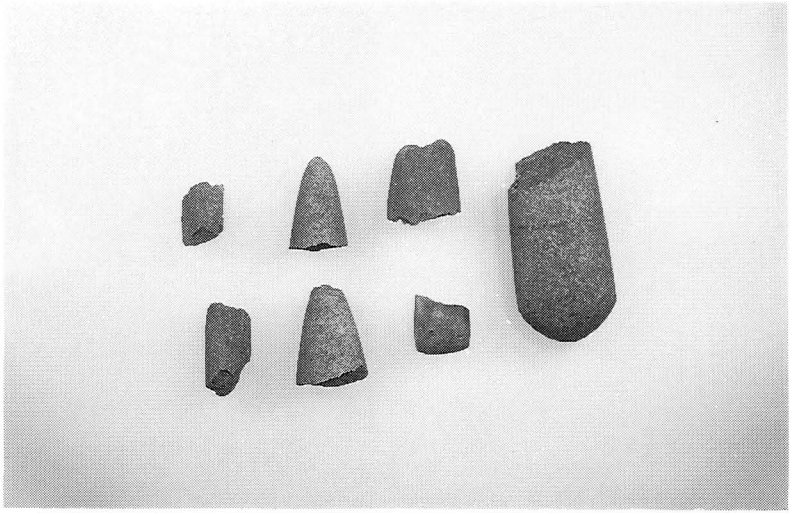
すり石、凹石



すり石、凹石

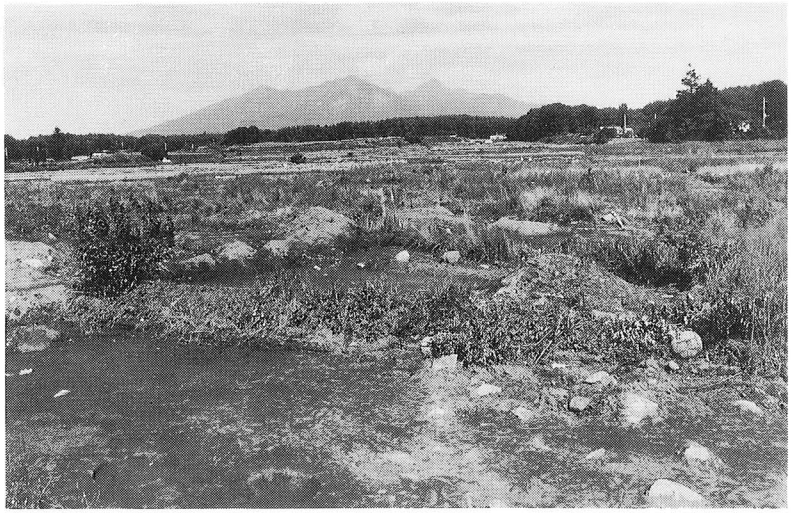
持井北　図版3

すり石、凹石



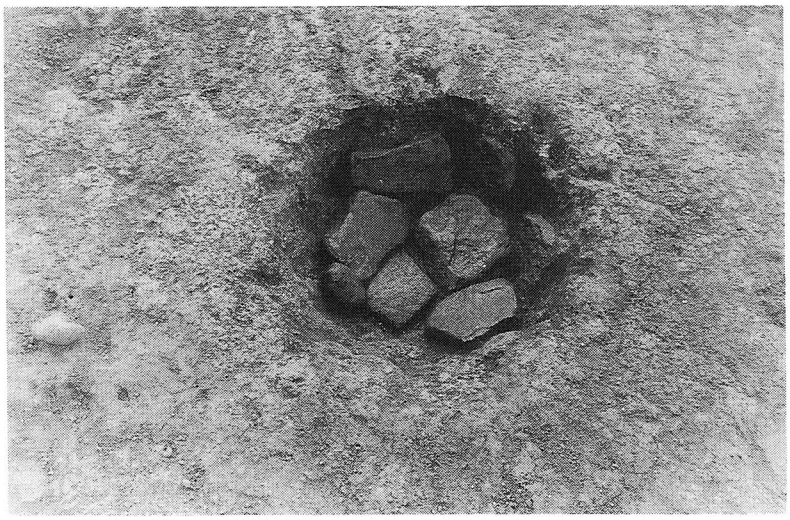
石　　斧

八ッ牛北　図版１



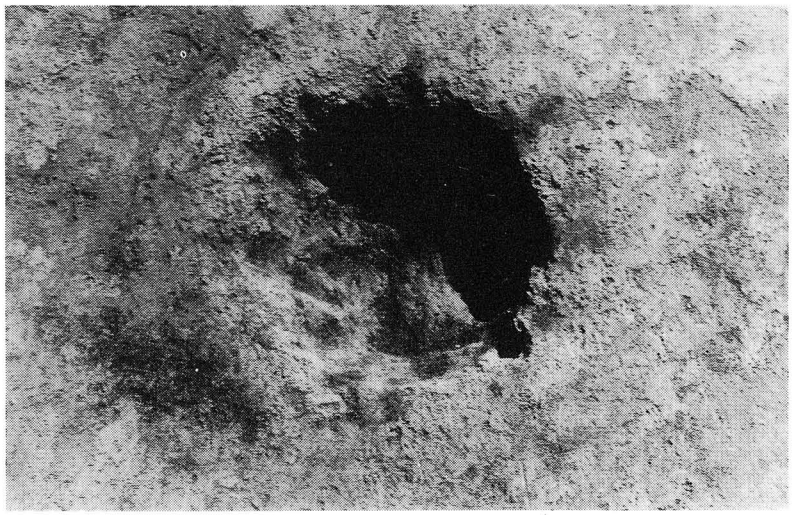
遺跡全景（南側より）

遺跡近景（南側より）

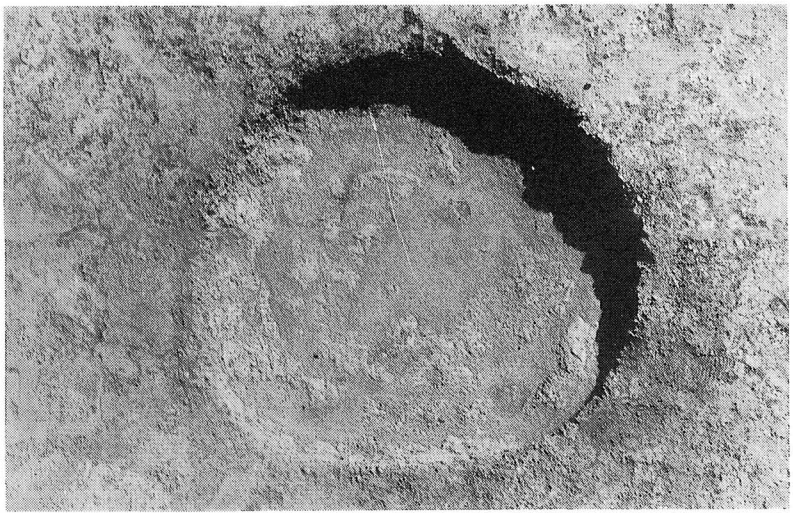


１　号　土　壙

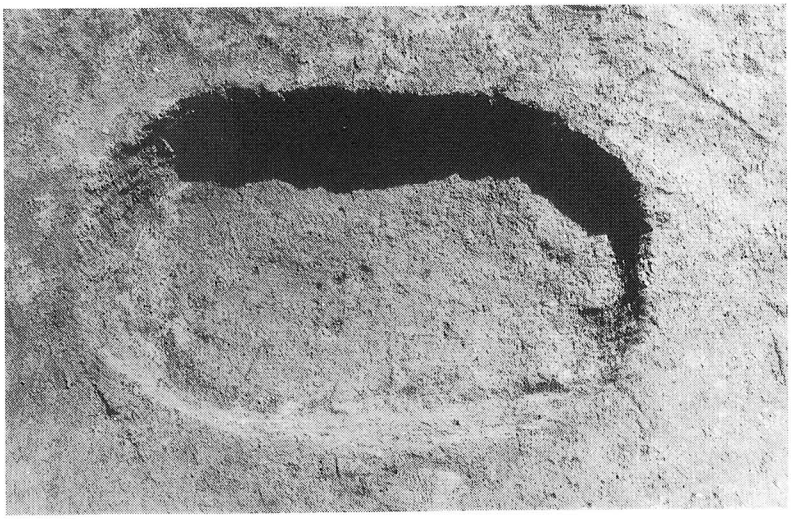
八ッ牛北　図版２



２　号　土　壙

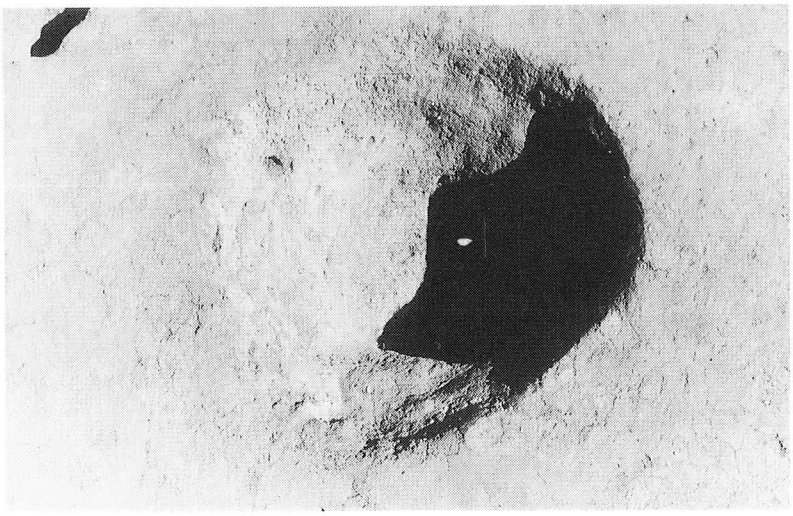


３　号　土　壙

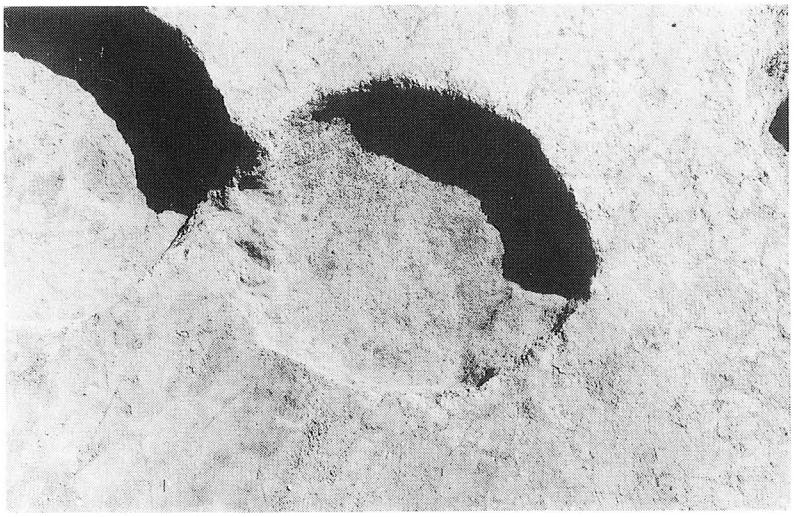


４　号　土　壙

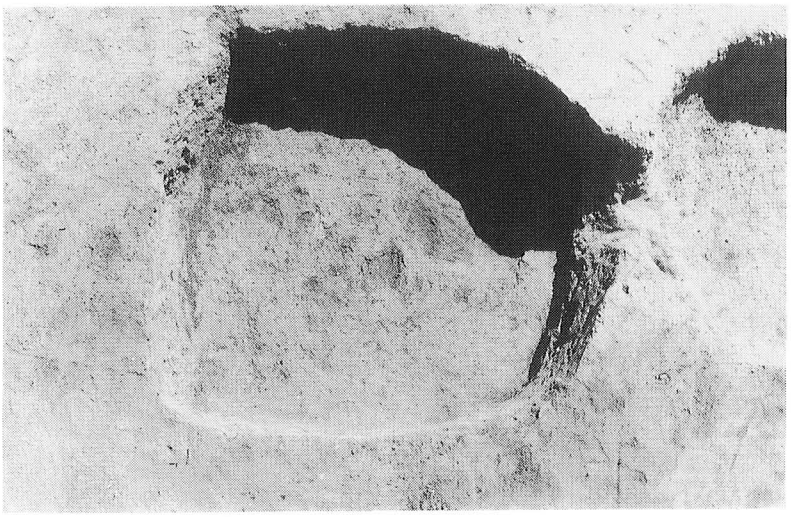
八ッ牛北　図版３



５　号　土　壙



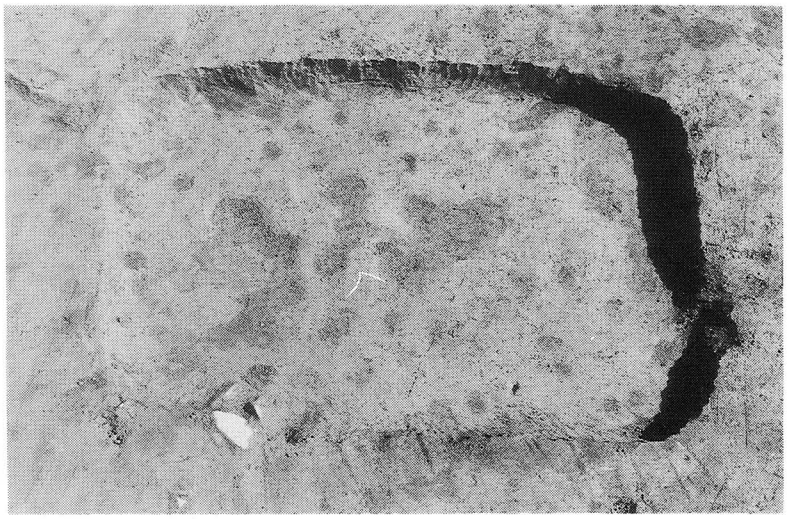
６　号　土　壙



７　号　土　壙

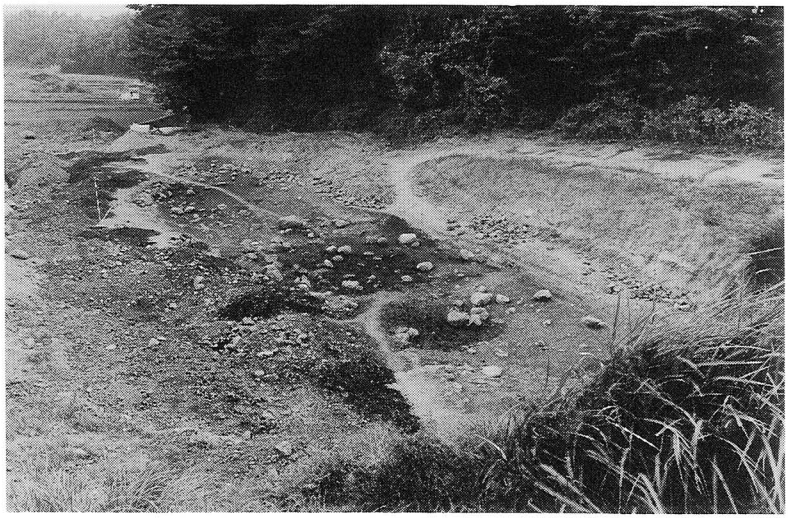
８　号　土　壙

９　号　土　壙



10　号　土　壙

下 風 呂　図版１

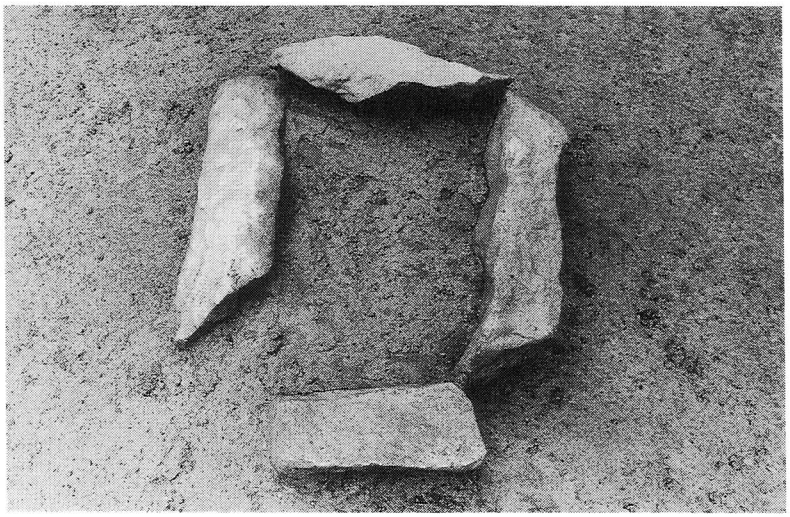


遺跡近景（北側より）

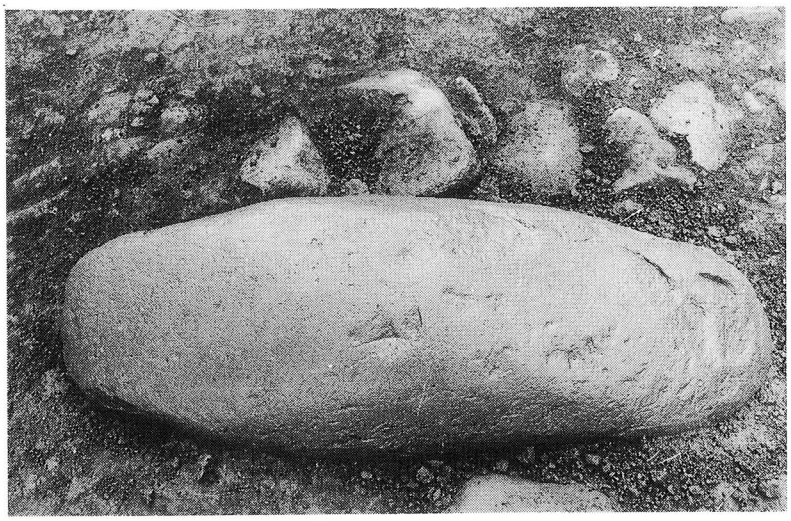
１ 号 住 居 址

１号住居址炉

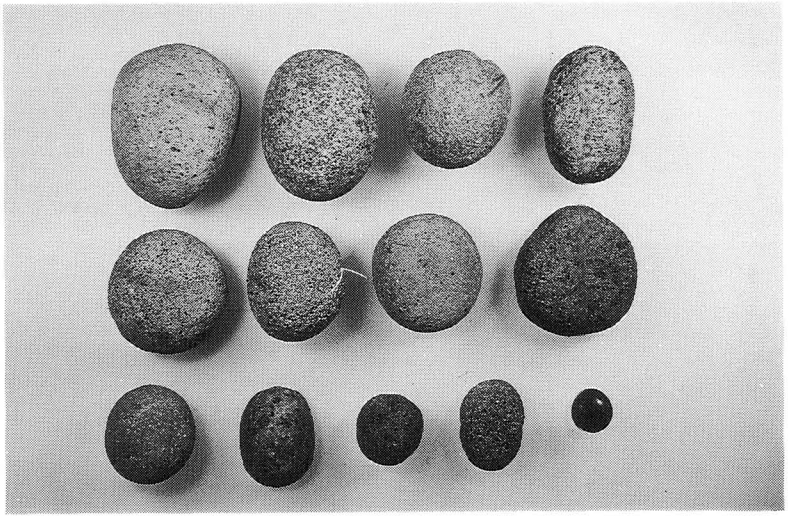
下 風 呂　図版２



２号住居址炉

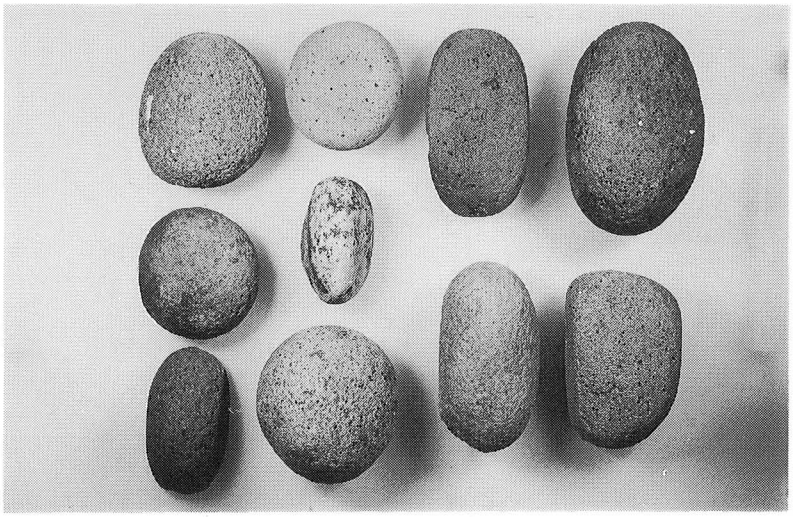


石　　棒

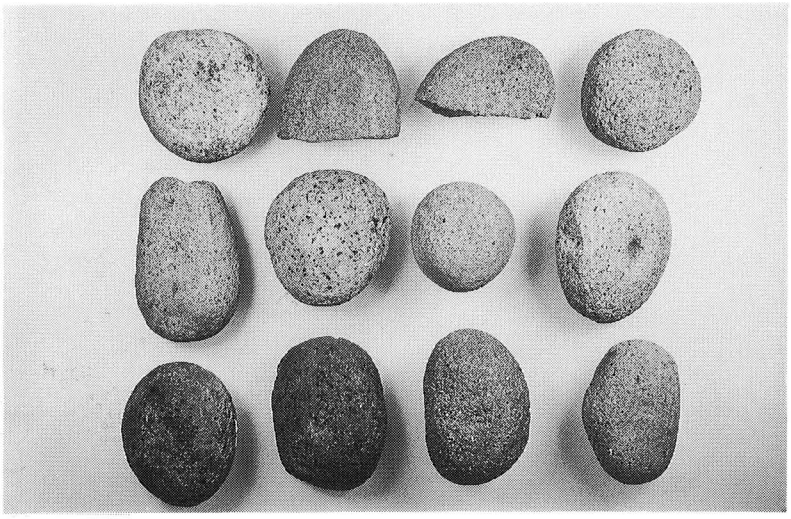


すり石、凹石

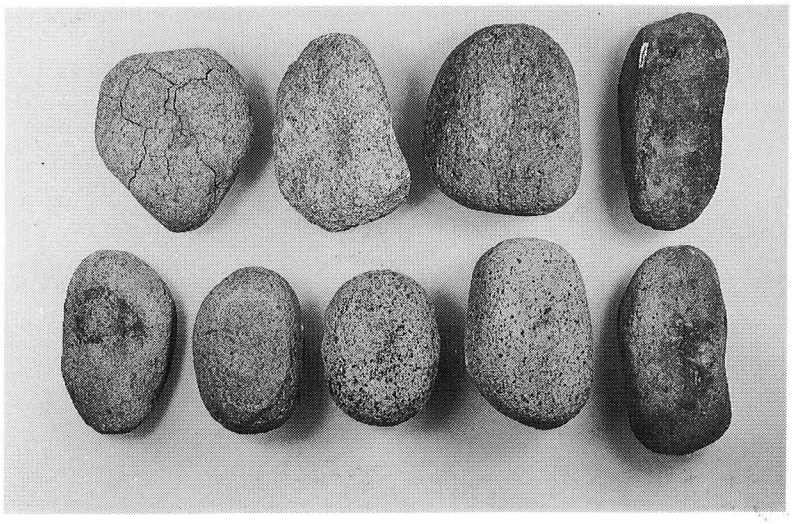
下 風 呂　図版3



すり石、凹石



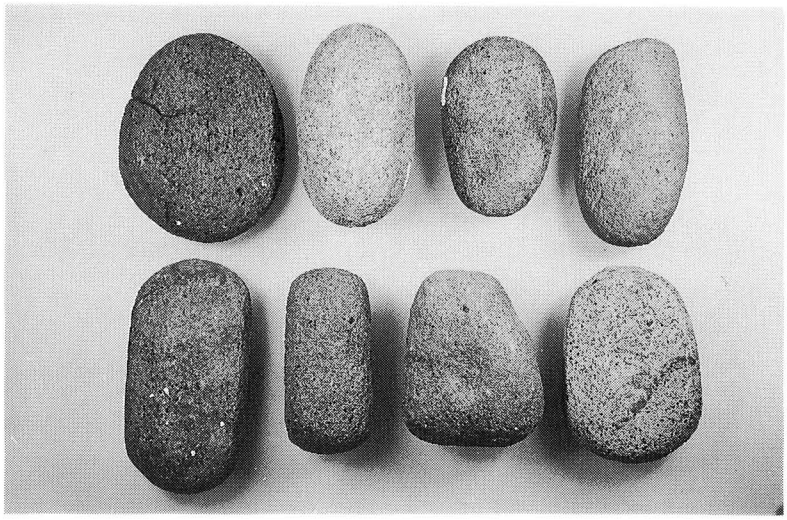
すり石、凹石



すり石、凹石

下 風 呂　図版4

すり石、凹石

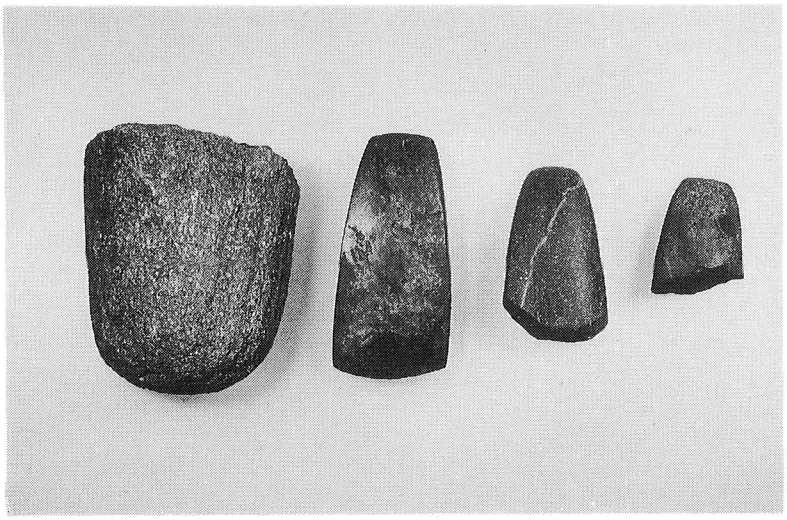


すり石、凹石

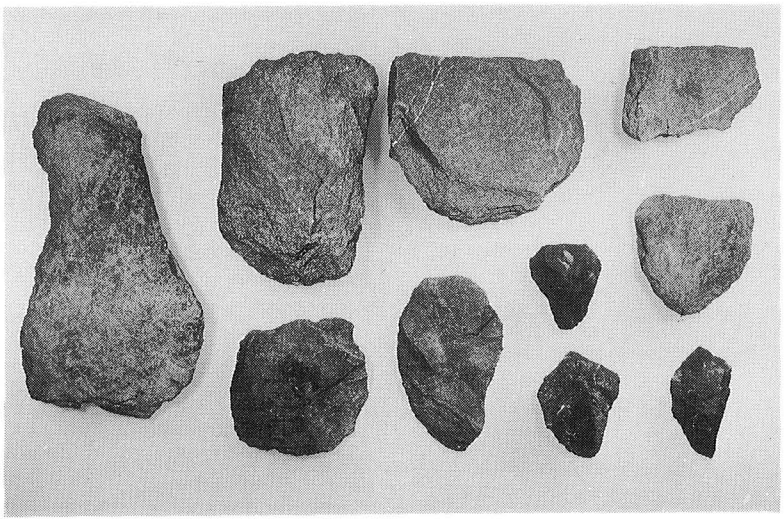
すり石、凹石

下風呂　図版5

石　　棒

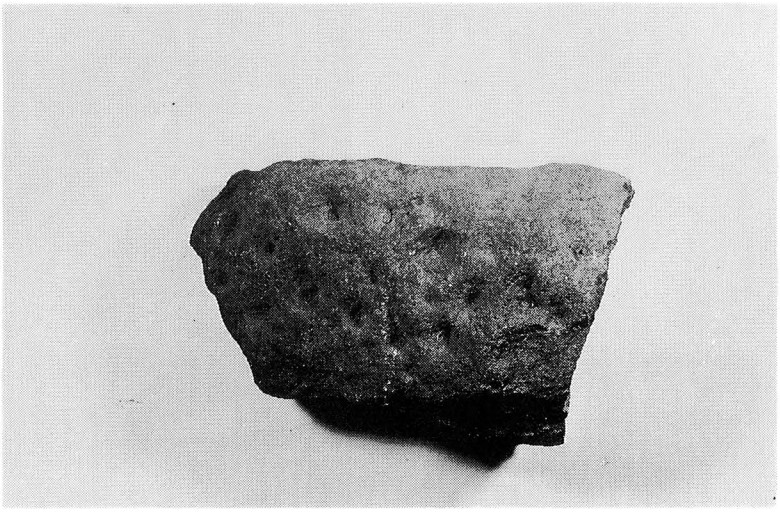


磨製石斧

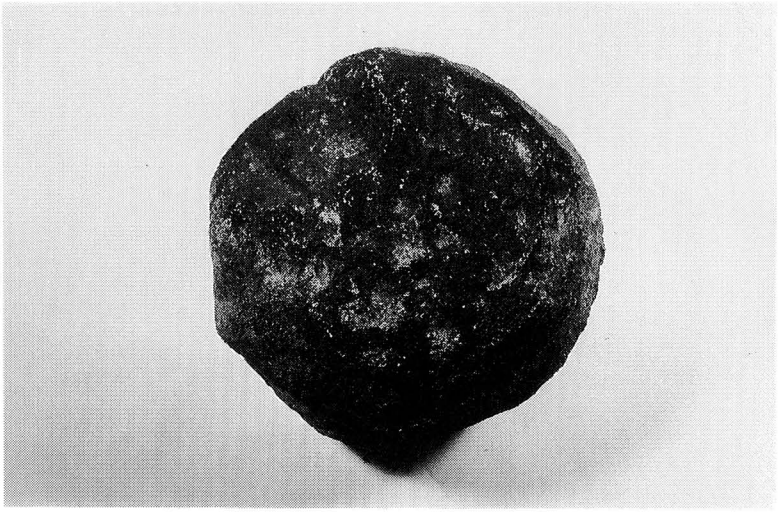


打製石器

下風呂　図版6



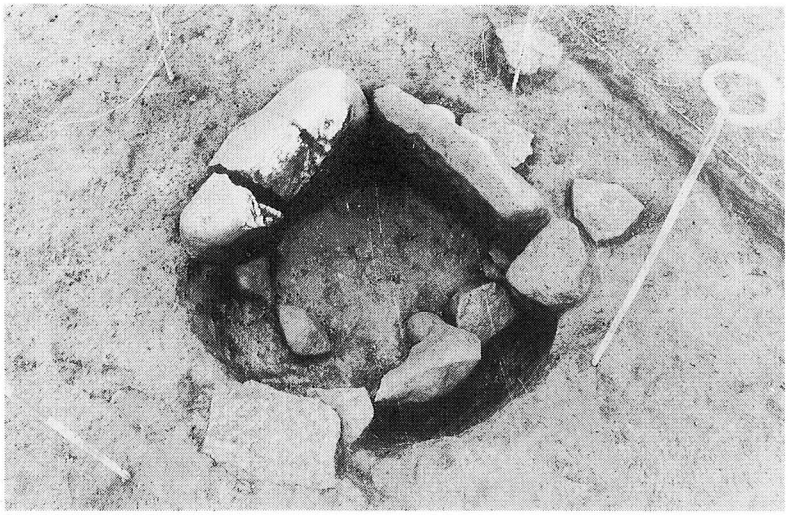
蜂　巣　石



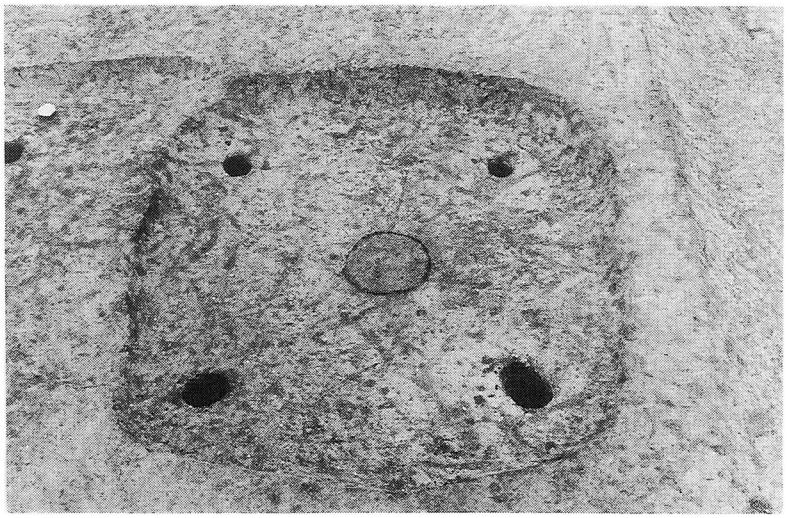
蜂　巣　石

米　田　図版１

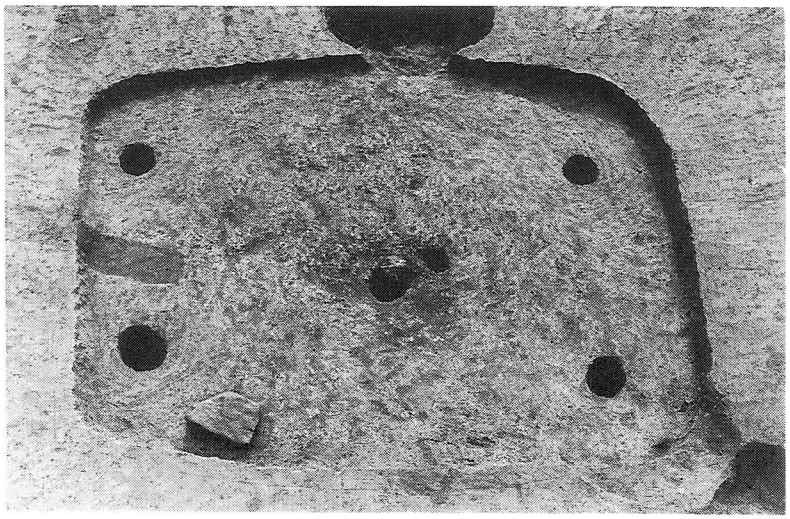
遺跡全景（北側より）



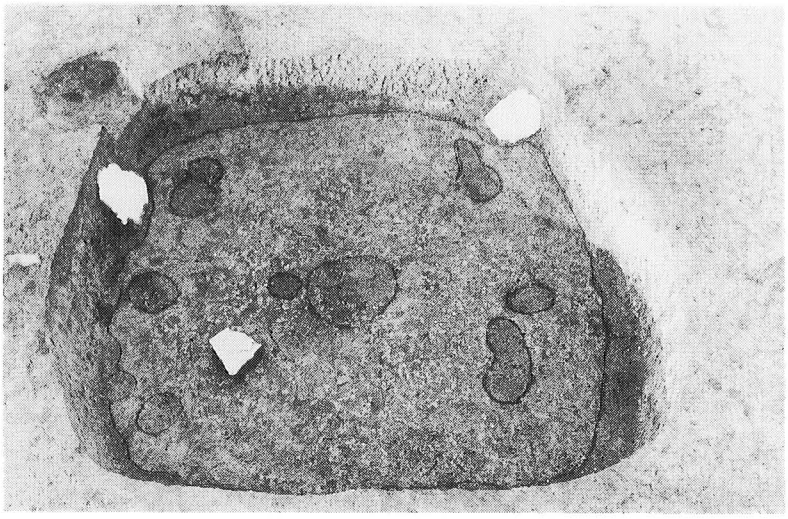
１号住居址炉



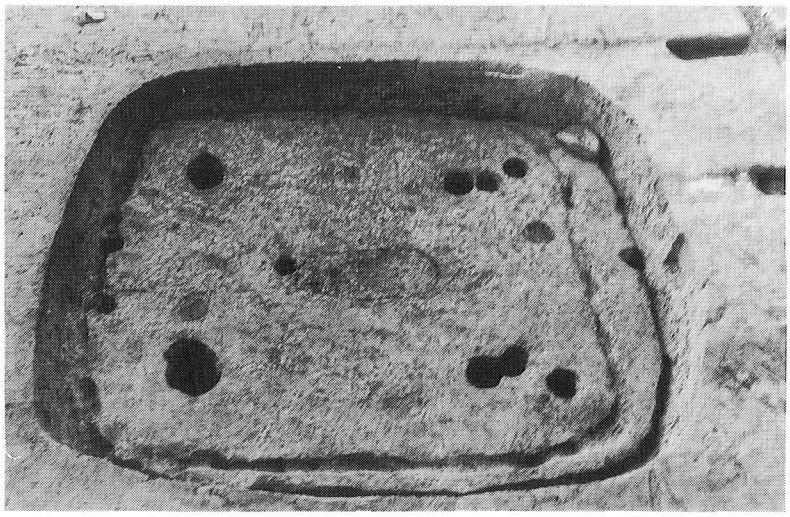
３号住居址



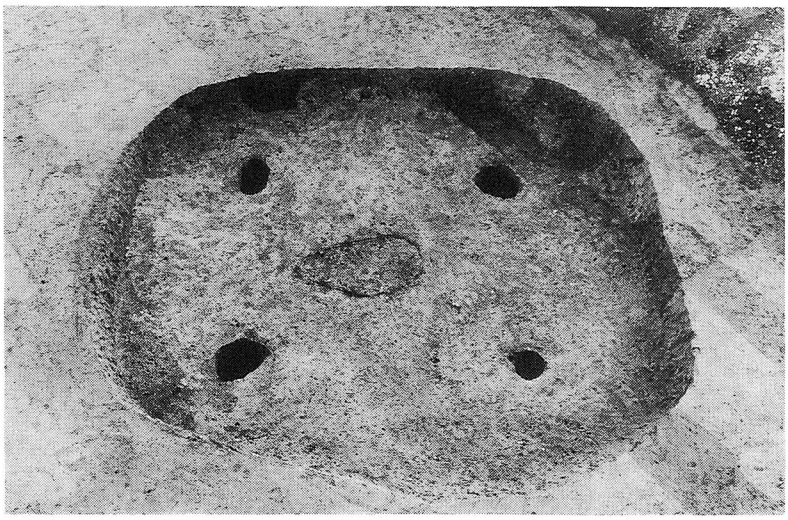
4 号 住 居 址



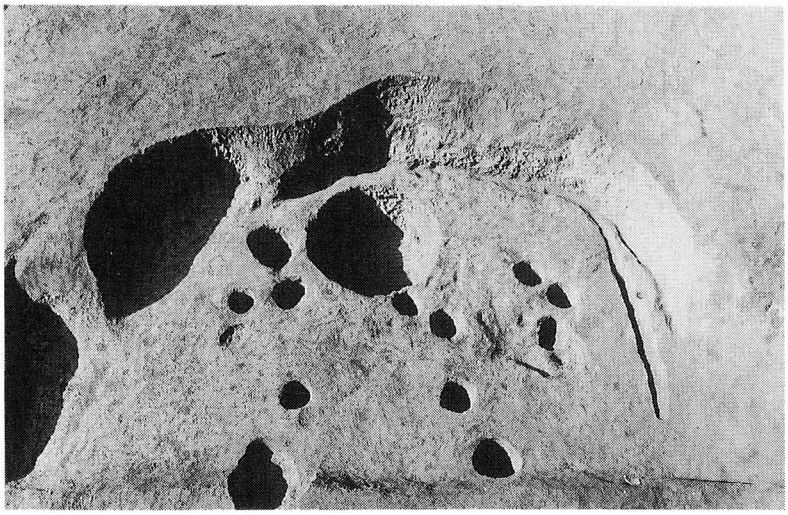
5 号 住 居 址



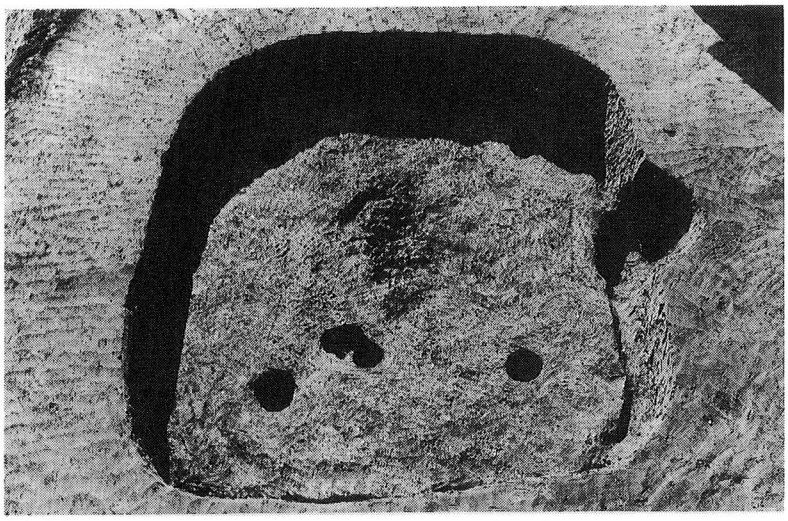
6 号 住 居 址



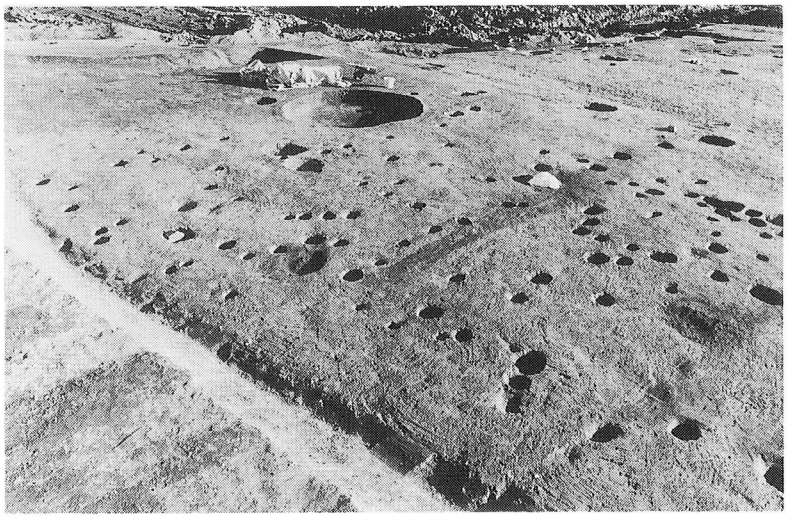
7 号 住 居 址



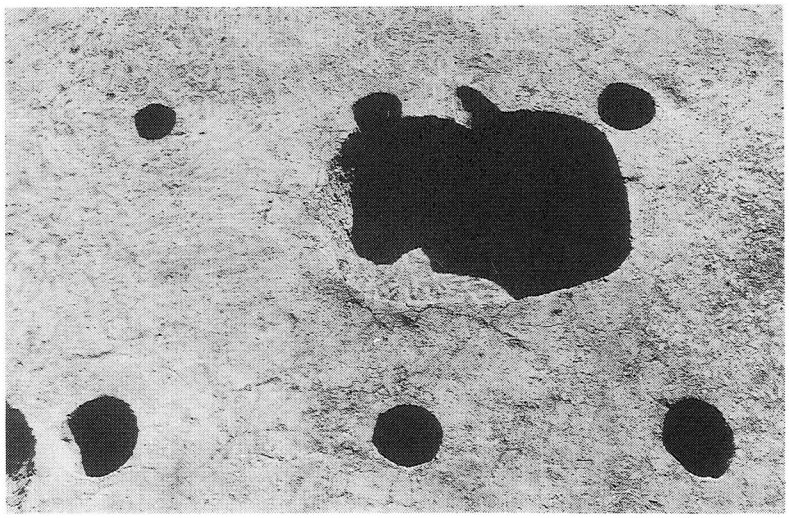
8 号 住 居 址



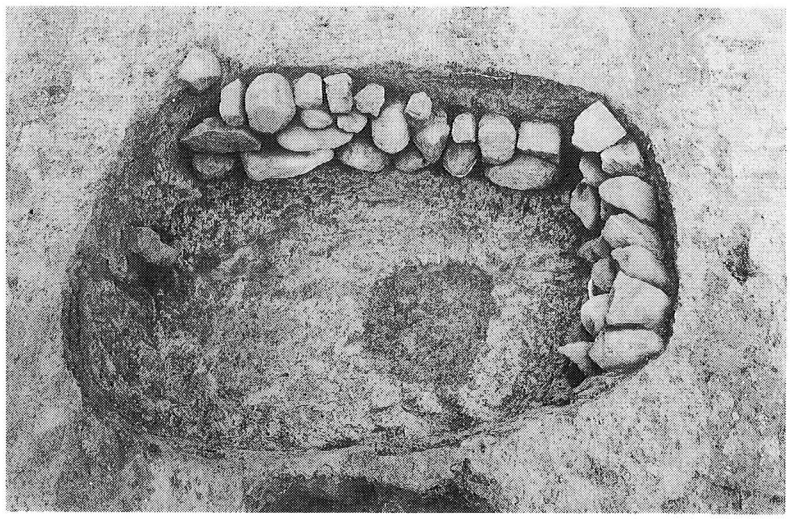
11 号 住 居 址



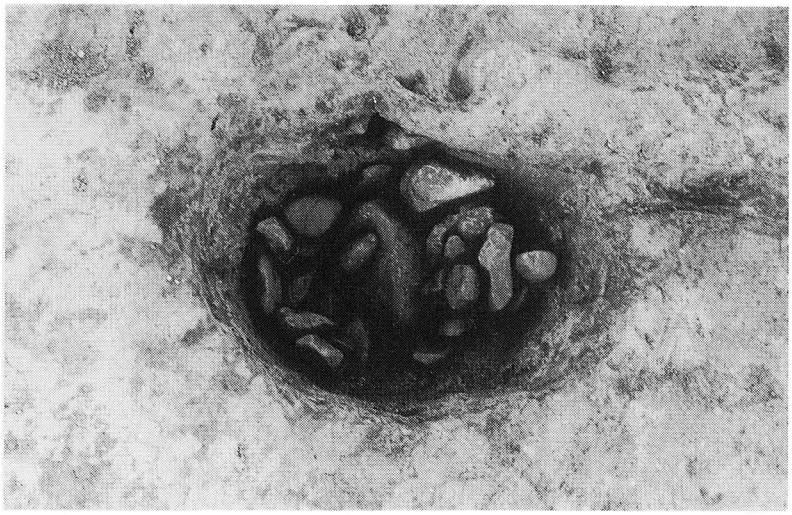
掘建柱建物址群



１号掘建柱建物址

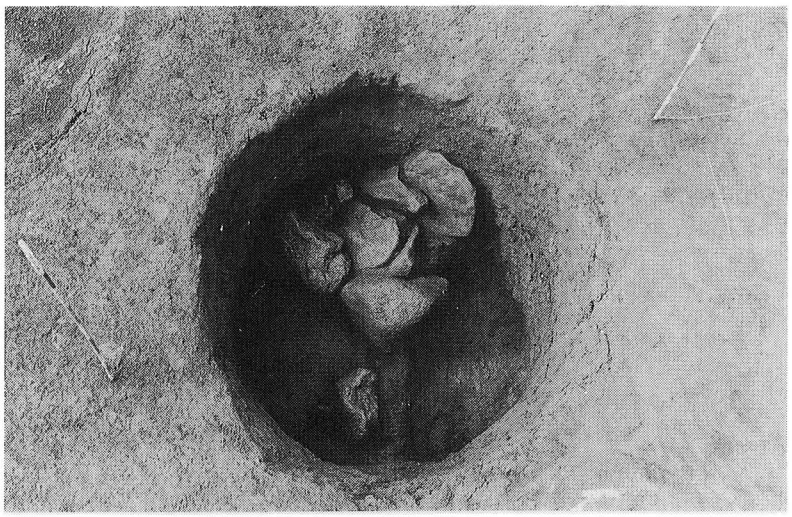


15　号　土　壙

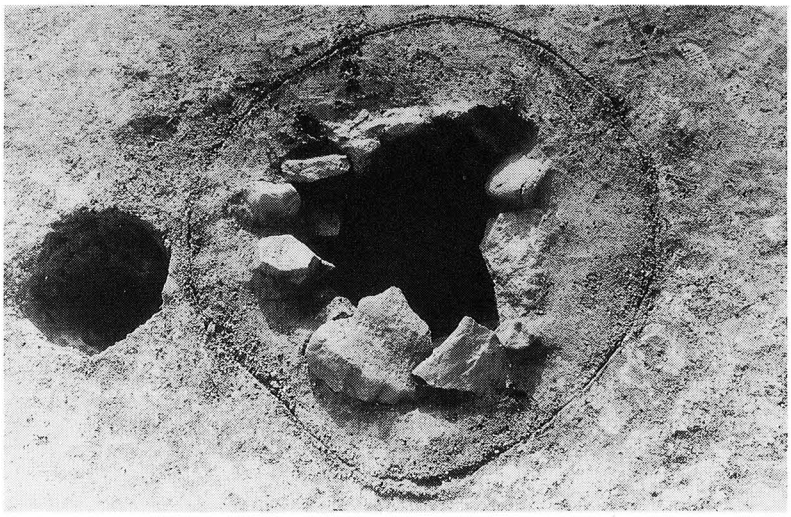


38 号 土 壙

2 号集石土壙

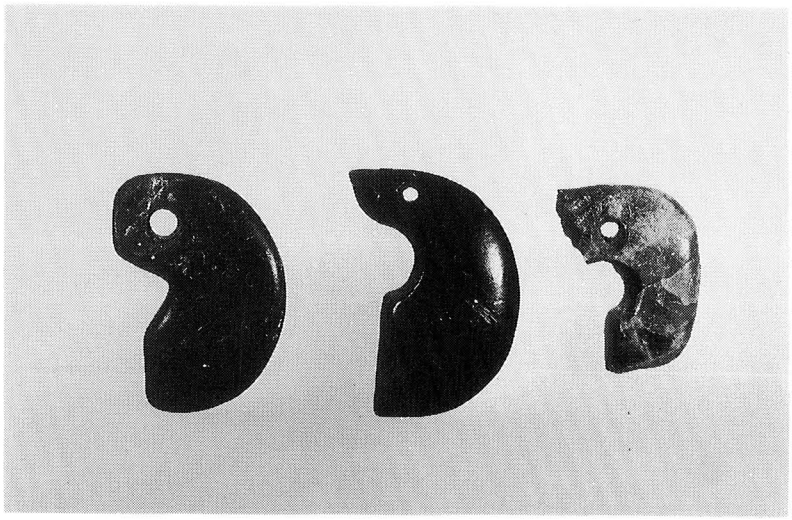


1 号 井 戸



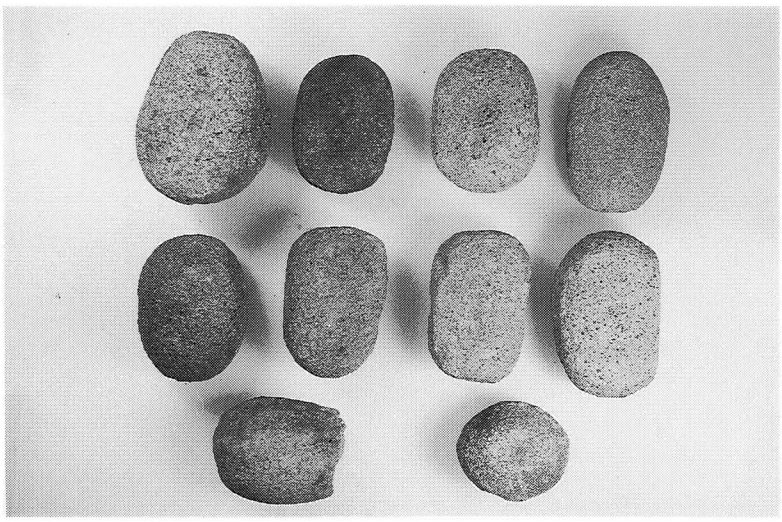
2 号 井 戸

陶　　器

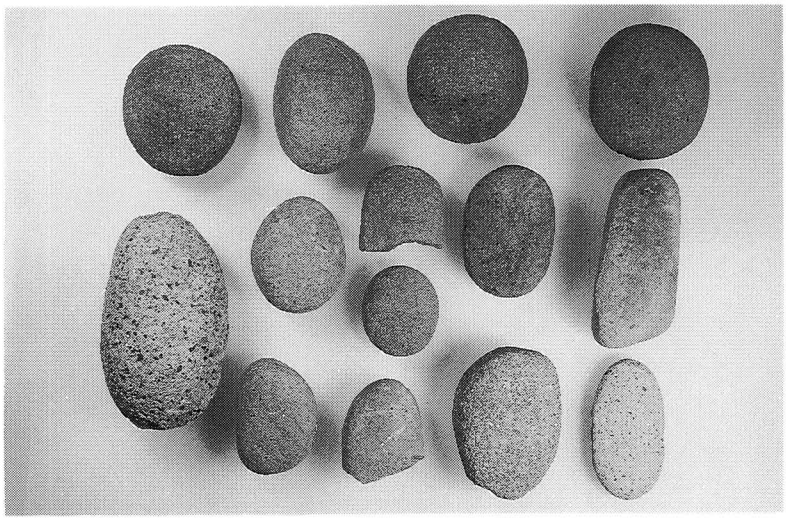


玦 状 耳 飾 り

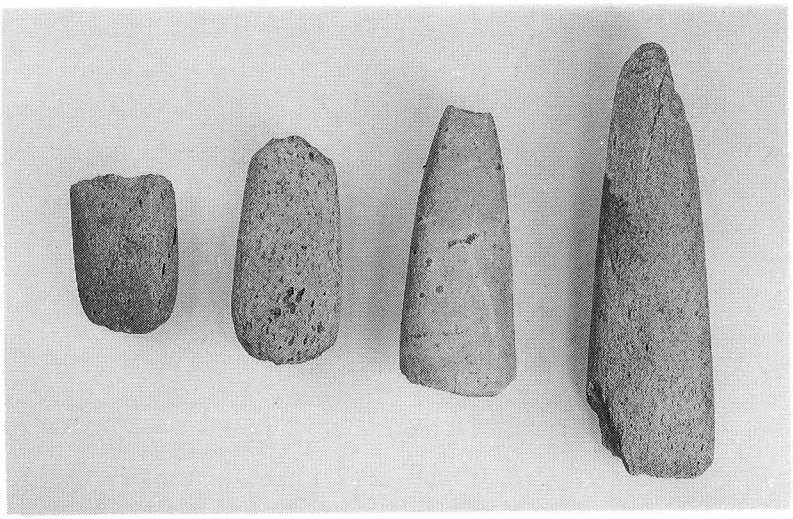
小型定型磨製石斧



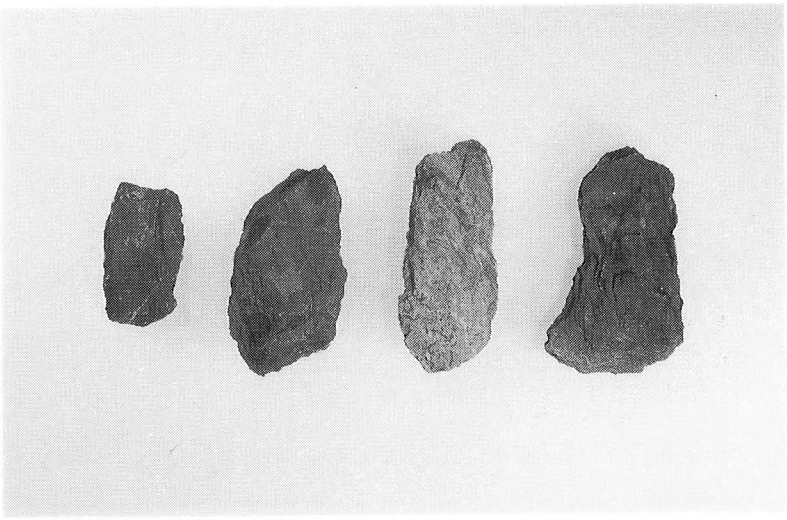
すり石、凹石



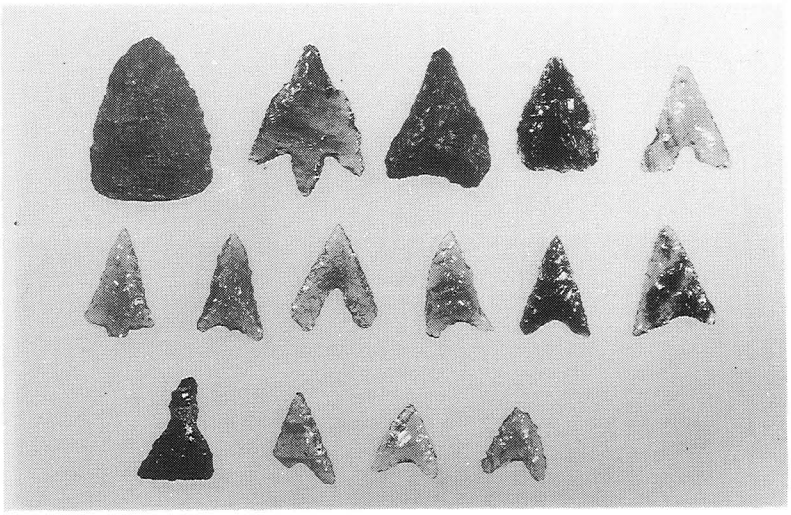
すり石、凹石



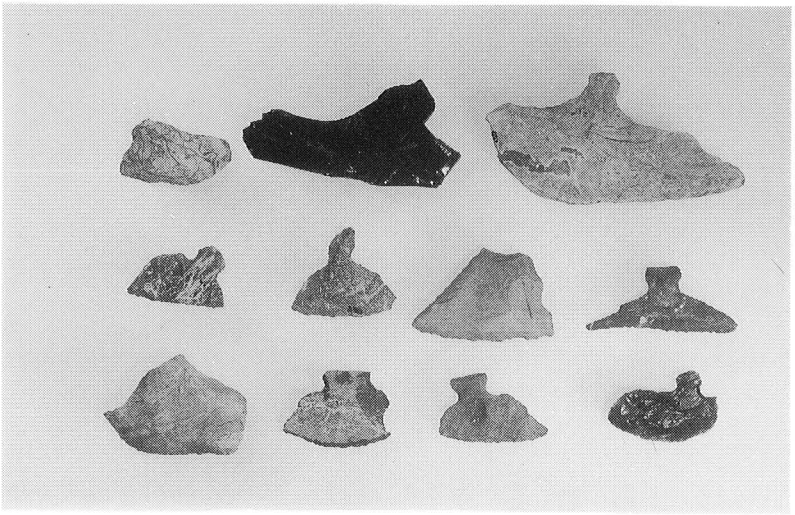
磨製石斧



打製石斧



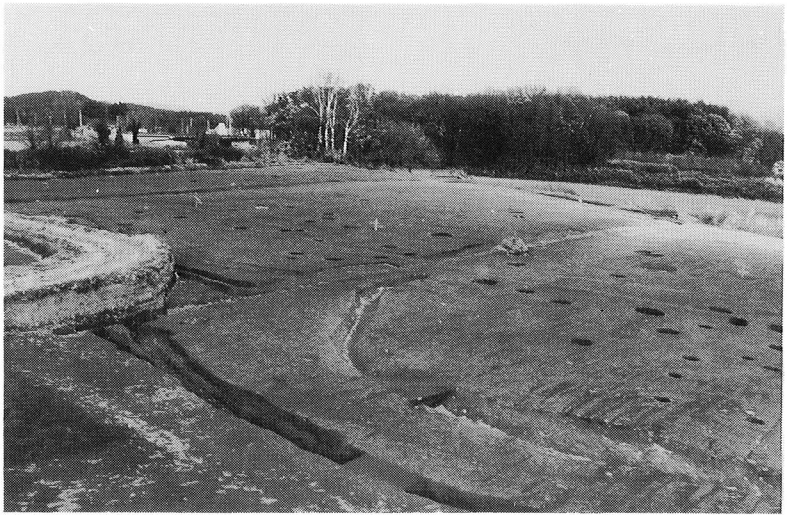
石　　鏃



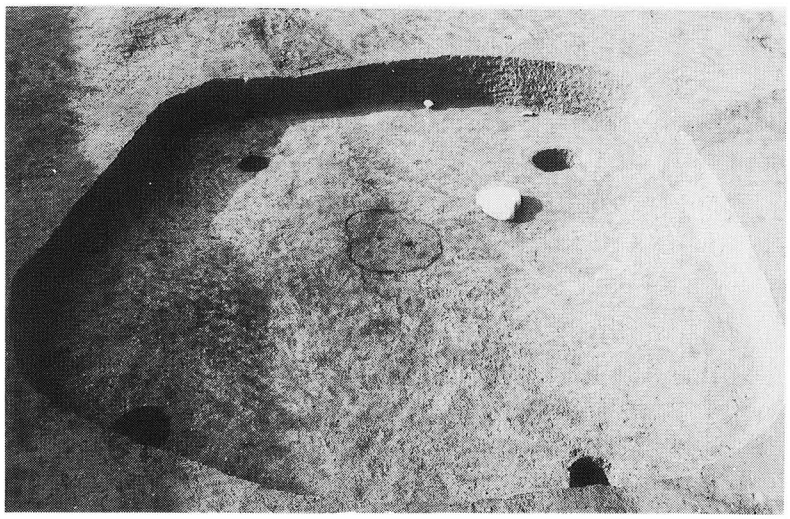
石　　匙

米田北　図版1

遺跡近景（南側より）

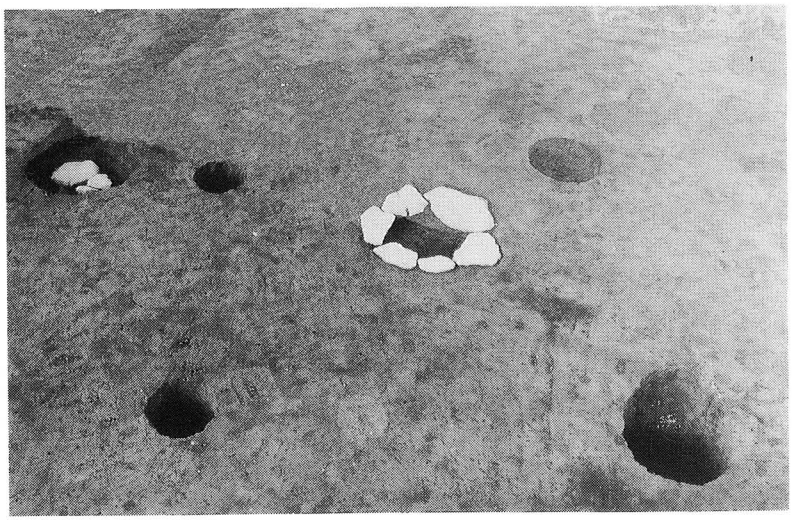


遺跡近景（南西側より）

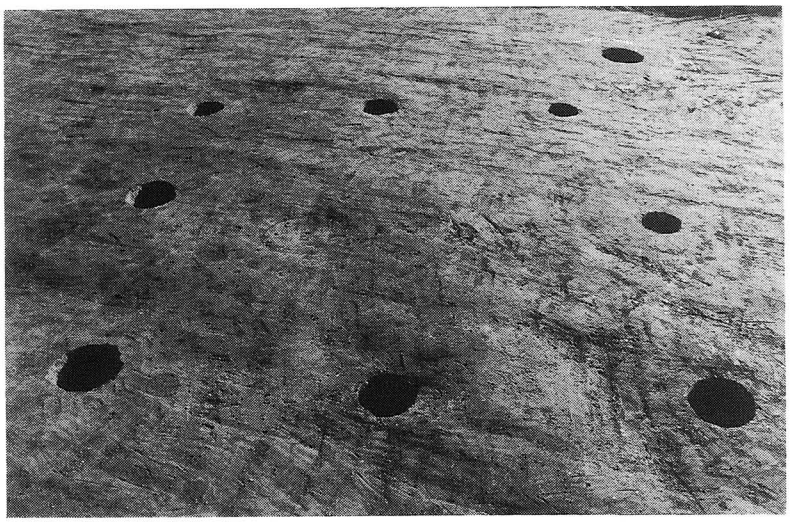


1 号 住 居 址

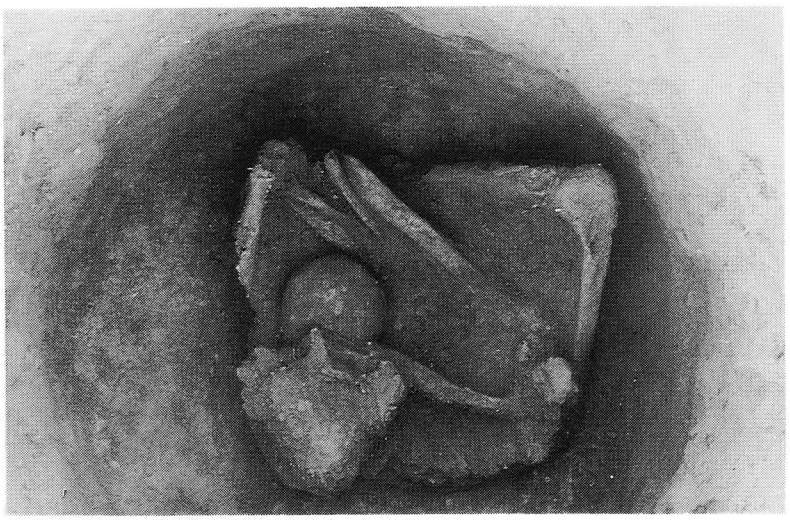
米田北　図版2



2号住居址

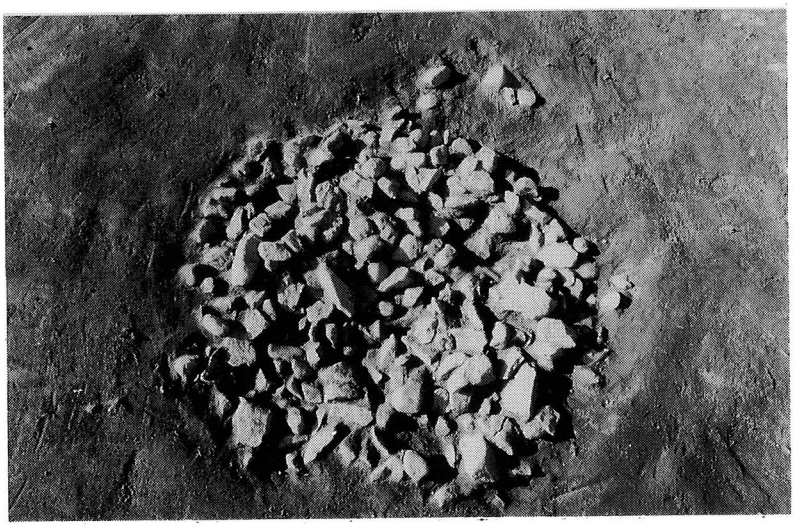


1号掘建柱建物址

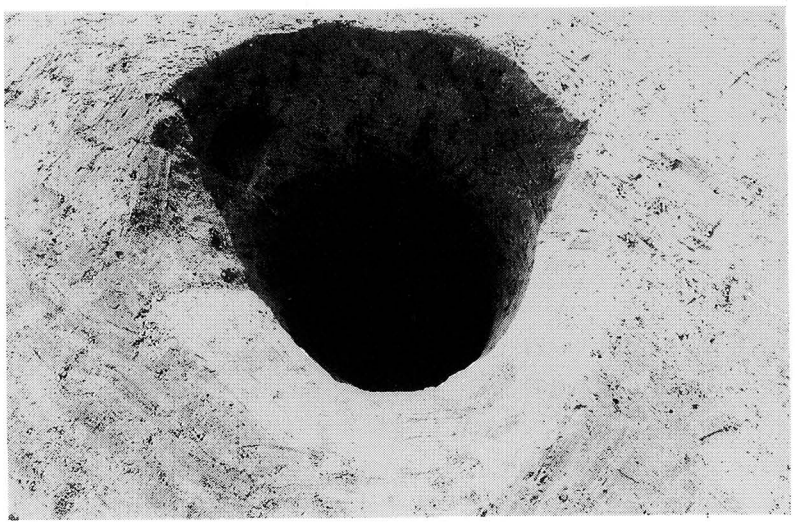


2号土壙

米田北　図版3



8　号　土　壙



1　号　井　戸

溝

報　告　書　概　要

ふりがな	とうりんじあといせき、やつじいせき、もちいきたいせき、やつじきたいせき、しもふろいせき、よねだいせき、よねだきたいせき、けんえいほじょうせいびじぎょうにともなうまいぞうぶんかざいはっくつちょうさほうこくしょ
書　名	藤林寺跡遺跡、八ッ牛遺跡、持井北遺跡、八ッ牛北遺跡、下風呂遺跡、米田遺跡、米田北遺跡、県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	高根町埋蔵文化財
シリーズ番号	第９集
編者名	雨宮正樹
発行者	高根町教育委員会
所在地	〒408 山梨県北巨摩郡高根町村山北割3261番地　TEL 0551－47－3111
印刷所	アートプリント社　〒407 山梨県韮崎市本町一丁目17番30号　TEL 0551－22－0840
発行年月日	平成９（西暦1997）年３月31日
ふりがな	とうりんじあといせき
所収遺跡	藤林寺跡遺跡
所在地	山梨県北巨摩郡高根町村山北割字当町3490番地 ほか
位置	北緯 35° 50′ 10″　東経 138° 24′ 42″
調査期間	昭和63年９月10日～昭和63年12月25日
調査面積	4,000 ㎡
調査原因	県営ほ場整備事業
主な時代	縄文中期、平安時代、中世
主な遺構	縄文中期住居址１軒、平安時代住居址３軒、掘建柱建物址１棟、中世土壙13基、集石配石遺構
主な遺物	平安時代土師器、中世五輪塔
特殊遺物	小型石棒、鉄製品（短刀、鎌）、土製紡錘車、北宋銭、近世キセル
ふりがな	やつじいせき
所収遺跡	八ッ牛遺跡
所在地	山梨県北巨摩郡高根町村山北割字八ッ牛3116番地 ほか
位置	北緯 35° 50′ 20″　東経 138° 24′ 55″
調査期間	平成元年11月１日～平成元年12月20日
調査面積	2,000 ㎡
調査原因	県営ほ場整備事業
主な時代	平安時代、中世
主な遺構	平安時代住居址３軒、掘建柱建物址群、時期不明土壙９基
主な遺物	平安時代土師器・内黒土器、灰袖土器、中世羽釜・内耳土器・砌石
ふりがな	もちいきたいせき
所収遺跡	持井北遺跡
所在地	山梨県北巨摩郡高根町村山北割字持井3754番地 ほか
位置	北緯 35° 50′ 25″　東経 138° 24′ 45″
調査期間	平成２年９月１日～平成２年９月11日
調査面積	1,000 ㎡
調査原因	県営ほ場整備事業
主な時代	縄文時代前期
主な遺構	土壙１基
主な遺物	縄文時代前期後葉土器（諸磯式土器）、石鏃、石匙、磨製石斧

ふりがな	やつじきたいせき
所収遺跡	八ッ牛北遺跡
所在地	山梨県北巨摩郡高根町村山北割字八ッ牛2977番地 ほか
位置	北緯 35° 50′ 30″　東経 138° 24′ 55″
調査期間	平成2年9月12日～平成2年9月30日
調査面積	1,500㎡
調査原因	県営ほ場整備事業
主な時代	平安時代
主な遺構	平安時代住居址1軒、土壙10基
主な遺物	平安時代土師器・内黒土器、須恵器・灰袖土器
ふりがな	しもふろいせき
所収遺跡	下風呂遺跡
所在地	山梨県北巨摩郡高根町村山東割字下風呂92番地 ほか
位置	北緯 35° 49′ 45″　東経 138° 24′ 50″
調査期間	平成2年7月20日～平成2年8月31日
調査面積	1,000㎡
調査原因	県営ほ場整備事業
主な時代	縄文時代中期・後期
主な遺構	縄文時代後期住居址2軒
主な遺物	縄文時代中期最終末～後期中葉土器、土偶、石鏃、石匙
ふりがな	よねだいせき
所収遺跡	米田遺跡
所在地	山梨県北巨摩郡高根町村山北割字米田4007番地 ほか
位置	北緯 35° 50′ 30″　東経 138° 24′ 45″
調査期間	平成4年9月1日～平成4年11月20日
調査面積	5,000㎡
調査原因	県営ほ場整備事業
主な時代	縄文時代前期・中期、中世、近世
主な遺構	縄文時代前期住居址10軒、縄文時代中期住居址1軒、縄文時代土壙5基、中世以降土壙45基、近世井戸2基・溝2条、掘建柱建物址1棟
主な遺物	縄文時代中期土器、石鏃、石匙、打製・磨製石斧、中世内耳土器、玦状耳飾
特殊遺構	集石配石遺構3基
ふりがな	よねだきたいせき
所収遺跡	米田北遺跡
所在地	山梨県北巨摩郡高根町村山北割字米田4010番地 ほか
位置	北緯 35° 50′ 40″　東経 138° 24′ 45″
調査期間	平成5年8月1日～平成5年12月20日
調査面積	8,000㎡
調査原因	県営ほ場整備事業
主な時代	縄文時代前期・中期、中世、近世
主な遺構	縄文時代前期後葉住居址1軒、縄文時代中期住居址1軒、掘建柱建物址1棟、集石土壙1基、土壙墓1基、時期不明土壙11基、近世井戸1基・溝10条
主な遺物	縄文時代前期後葉土器、石斧、中世内耳土器、近世陶磁器、銭（寛永通宝）、キセル

高根町埋蔵文化財　第９集
平成９年３月19日　印　刷
平成９年３月31日　発　行

藤林寺跡遺跡
八ッ牛遺跡
持井北遺跡
八ッ牛北遺跡
下風呂遺跡
米田遺跡
米田北遺跡

発行所　高根町教育委員会
印刷所　アートプリント社